

大正十五年  
昭和一元年度

直轄工事年報

內務省土木局

誤		正					
三二二	二四八	二二四	一五六	三四	二四	一二	頁
表			表	表		表	行
二	五	一二	二	一二	一一	六	
四七二、六二四	述ベシ	一〇厘	至 七五〇分一	▲一〇二、九八二	米五。	〇・三三〇	正
四七二、六三四	述ベシ	六厘	至 七〇分一	▲一〇、九八二	米、五	〇三三〇	誤

大正十五年年度直轄工事年報目次  
昭和元年

總論

第一 治水事業……………一<sub>α</sub>

第二 港灣改良事業……………五

第三 復舊事業……………七

第四 大正十五年年度施行工事……………七  
昭和元年

第一章 河川改良工事

第一 利根川改修工事……………一三

第二 信濃川改修工事……………三五

第三 吉野川改修工事……………四三

第四 高梁川改修工事……………四八

第五 渡良瀬川改修工事(利根川支川)……………五三

目次

目次

第 六	北上川改修工事	六一
第 七	荒川改修工事	六七
第 八	阿賀野川改修工事	八一
第 九	最上川改修工事	八九
第一〇	雄物川改修工事	九六
第一一	江合、鳴瀬兩川改修工事	一〇二
第一二	淀川改修増補工事	一〇七
第一三	千曲川改修工事(信濃川上流)	一一六
第一四	加古川改修工事	一二二
第一五	岩木川改修工事	一二八
第一六	神通川改修工事	一三三
第一七	多摩川改修工事	一四四
第一八	阿賀川及阿武隈川改修工事	一四八

第一九	太田川改修工事	一五四
第二〇	富士川改修工事	一五九
第二一	圓山川改修工事	一六七
第二二	木曾川上流改修工事	一七三
第二三	斐伊川改修工事	一八二
第二四	信濃川上流改修工事(中越平野)	一八七
第二五	筑後川改修工事	一九二
第二六	天龍川改修工事	一九六
第二七	千代川改修工事	二〇〇
第二八	蘆田川改修工事	二〇四
第二九	紀ノ川改修工事	二〇八
第三〇	綠川改修工事	二一二
第三一	鬼怒川改修工事(利根川支川)	二一五

第三二	北川改修工事	二二一
第三三	旭川改修工事	二二六
第二章	河川附屬物及水路維持工事	二二八
第一	木曾川附屬物及水路維持工事	二二九
第二	淀川附屬物及水路維持工事	二三二
第三	利根、渡良瀬兩川維持工事	二三五
第三章	砂防工事	
第一	淀川流域砂防工事	二四三
第二	富士川流域砂防工事	二四六
第三	桂川流域砂防工事(淀川支川)	二五〇
第四	大谷川流域砂防工事(利根川支川鬼怒川小支)	二五二
第五	千曲川流域砂防工事(信濃川上流)	二五五
第六	神通川流域砂防工事	二五七

第七 常願寺川流域砂防工事……………二五九

第四章 港灣改良工事

第一 關門海峽改良工事……………二六一

第二 鹽釜港修築工事……………二六六

第三 神戶港修築工事……………二七一

第四 橫濱港修築工事……………二九一

第五 門司港修築工事……………三〇三

第六 長崎港修築工事……………三〇八

第七 清水港修築工事……………三一二

第八 下關港修築工事……………三一九

第九 敦賀港修築工事……………三二四

第一〇 高松港修築工事……………三二九

第一一 境港修築工事……………三三七

目次

第一二	今治港修築工事	三四一
第一三	鹿兒島港修築工事	三四九
第一四	小松島港修築工事	三五三
第一五	伏木港修築工事	三六〇
第五章	復舊工事	
第一	相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事	三六五
第二	利根、渡良瀬兩川水害復舊工事	三七六

口繪寫眞版(四面)

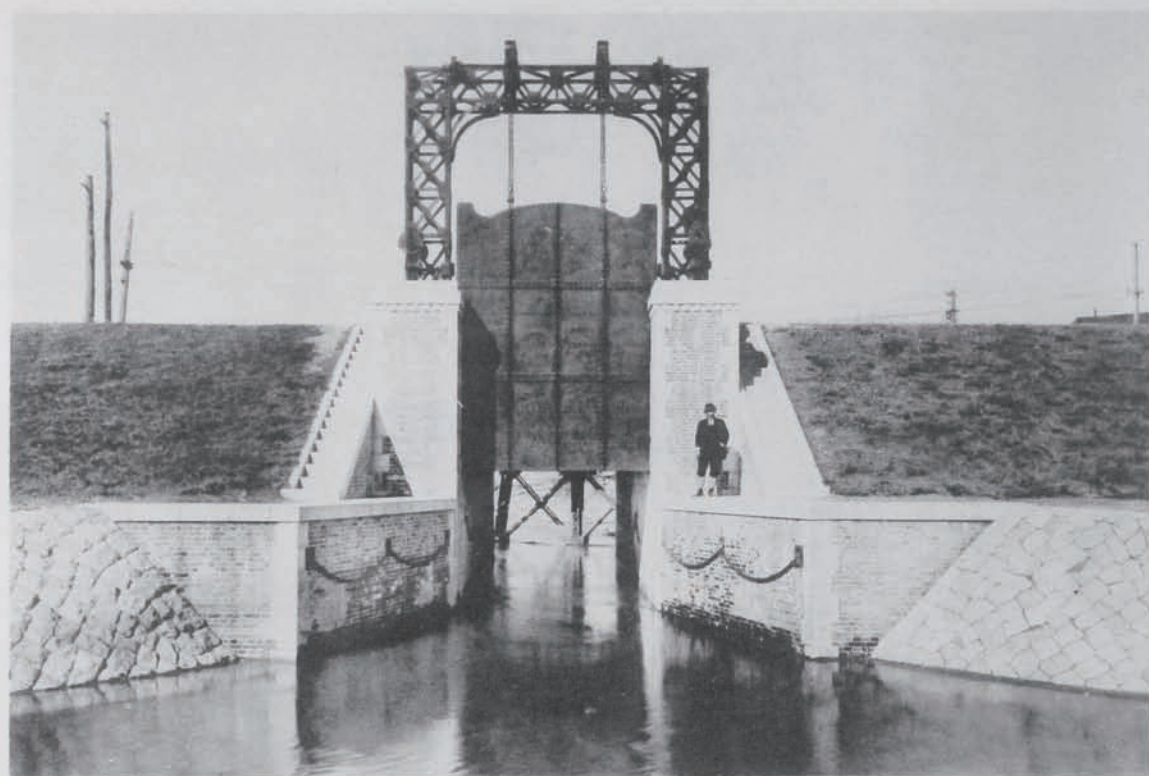
淀川改修増補工事平戸樋門、富士川改修工事岩本築堤、富士川流域御勅使川筋砂防工事蘆安堰堤、横濱港修築工事造函船渠内

附録 平面圖(別冊六十八葉)

直轄河川港灣一覽圖 利根川(六葉) 信濃川 吉野川 高梁川  
 (二葉) 渡良瀬川 北上川 荒川(二葉) 阿賀野川 最上川 雄



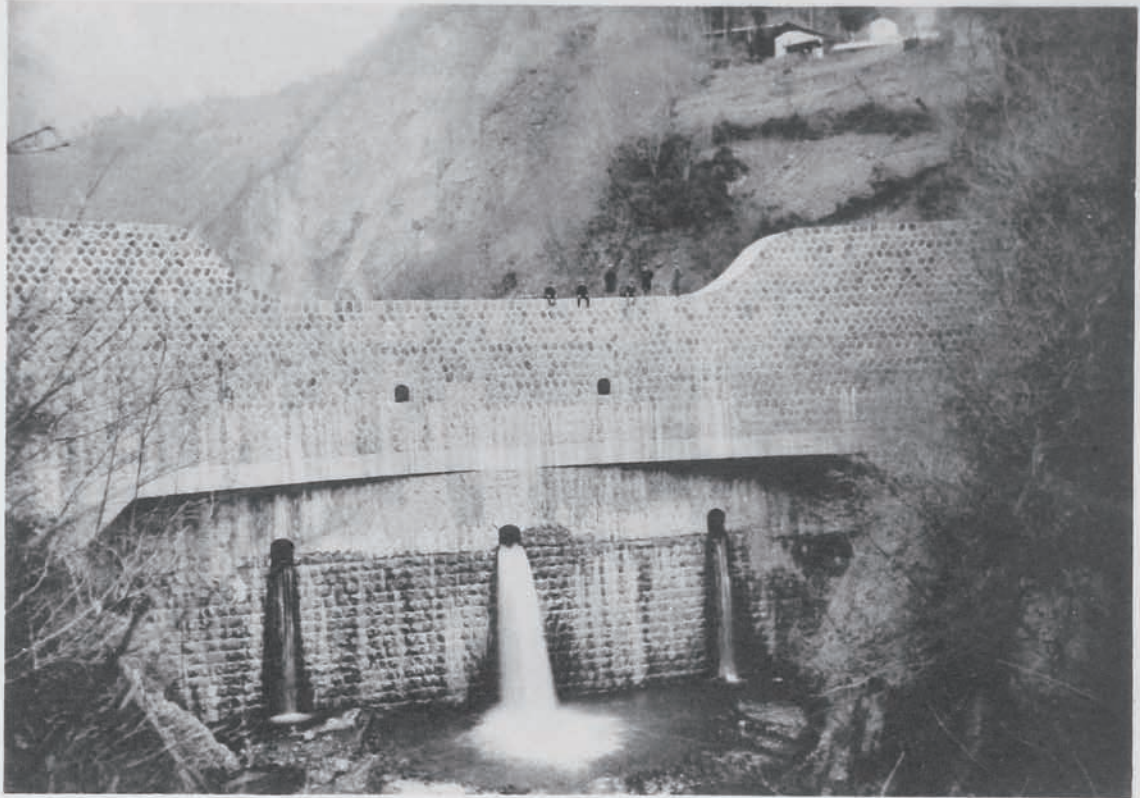
物川 江合、鳴瀬兩川 淀川改修增補 千曲川(三葉) 加古川  
 岩木川 神通川 多摩川 阿賀川及阿武隈川(三葉) 太田川  
 富士川(二葉) 圓山川 木曾川上流 斐伊川 信濃川上流 筑  
 後川 天龍川 千代川 蘆田川 紀ノ川 綠川 鬼怒川(三葉)  
 北川 旭川  
 關門海峽 鹽釜港 神戶港 橫濱港 門司港 長崎港 清水  
 港 下關港 敦賀港 高松港 境港 今治港 鹿兒島港 小  
 松島港 伏木港  
 (以下竣功圖) 庄川 九頭龍川(二葉) 遠賀川 新潟港



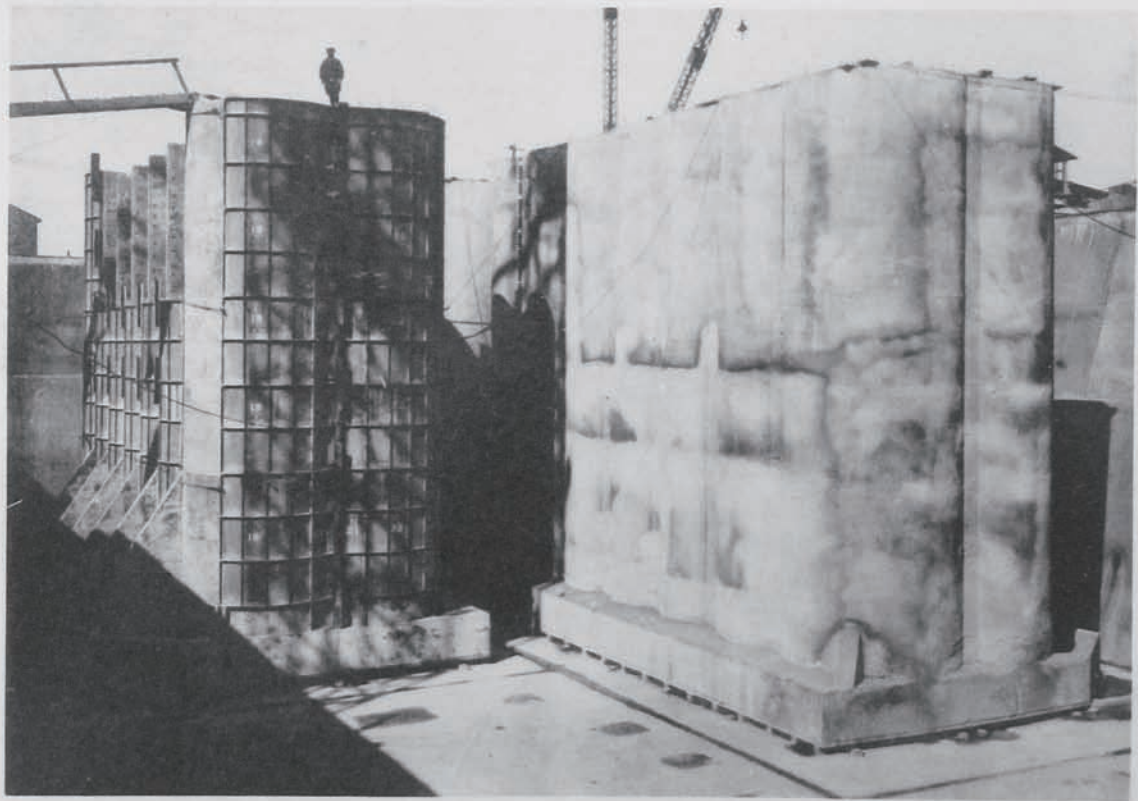
(先地村内堀郡伊紀府都京) 門樋戸平事工補増修改川淀  
造土凝混筋鐵・九米四高・六米三間徑



(先地木岩字村松岩郡士富縣岡靜) 堤築本岩事工修改川士富  
五米一高直法表・割二法裏・米八踏馬  
ク付取=盤地來在テ=割五十二下以リ下テ=割六



堤堰安蘆事工防砂筋川使勅御域流川土富  
 (先地村安蘆郡摩巨中縣梨山)  
 工施ヲ置嵩ノ米一十ニ更ヲシセ功竣度年七正大



内渠船函造事工築修港濱横  
 (函 米 十)

大正十五年  
昭和元年  
年度直轄工事年報

總論

第一 治水事業

我國ハ古來水害多ク其損失價額モ年々數千萬圓ノ多キニ達スルヲ以テ政府ハ夙ニ治水ノ必要ヲ認メ河川ノ修築改良ニ努力セルコト久シ而シテ政府ガ始テ直轄工事ヲ施行シタル河川ハ淀川ニシテ其起工ハ實ニ明治七年五月ニ在リ次テ同八年六月利根川ノ工事ニ著手シ翌九年十一月ニハ信濃川ノ工事ヲ起シ同十一年三月ニハ木曾川、同十五年六月ニハ北上川、同年七月ニハ阿賀野川、同十六年八月ニハ富士川、同年十一月ニハ庄川、同十七年四月ニハ阿武隈川、同年七月ニハ最上川及筑後川、同年八月ニハ吉野川、同十八年三月ニハ大井川、同年六月ニハ天龍川ノ工事ヲ實施スルニ至リシガ是等十四河川ノ工事ハ專ラ低水工事及砂防工事ヲ施行シタリシモノニシテ明治十九年ニ至リ始テ淀川以外ノ河川ニ高水工事ヲモ併セ行フコトトシ夫々工事ヲ進行セシメタリ其後同二十九年四月ニ至リ法律第七十一號ヲ以テ河川法ヲ公布セラレタル結果、同法ニ依リ淀、筑後ノ兩川ニハ同年六月ヨリ高水防禦工事ヲ實施スル事トナリ續テ同三十年四月ニハ庄川、九頭龍川、同年九月ニハ利根川第一期工事、同三十九年四月ニハ遠賀川、同四十年四月ニハ淀川下流、吉野川、高梁川、信濃川分水工事、同四十一年一月ニハ利根川第二期工事、同四十二年四月ニハ同川第三期工事、同四十三年四月ニハ利根川支川渡良瀬川ノ改修工事ヲ施行スルニ至レリ然ルニ明治四十

三年ニ於テ全國各地方大水害ノ爲メ未曾有ノ悲慘事ヲ現出セルニ依リ政府ハ臨時治水調査會ヲ設ケ根本的治水ノ計畫ヲ樹立スル事トナリ同會ニ於テ決議シタル計畫豫算ヲ第三十七回帝國議會ニ提出シテ協賛ヲ得同四十四年度ヨリ該計畫通リ事業ヲ遂行スルニ至レリ右計畫ハ河川改修ト砂防トノ二工事トシ河川ノ改修ハ河川法ニ依リ國ノ直轄事業トシテ改修ヲ爲スベキ河川ヲ六十五河川ト定メ之ガ施工時期ヲ二期ニ區別シ改修ノ利益ヲ可成的全國各地ニ均霑セシメントスルモノナリ其河川名即チ左ノ如シ

第一期河川

- 利根川
- 信濃川
- 木曾川
- 淀川
- 九頭龍川
- 吉野川
- 庄川
- 高梁川
- 遠賀川
- 北上川
- 雄物川
- 荒川
- 阿賀野川
- 富士川
- 最上川
- 神通川
- 岩木川
- 加古川
- 綠川
- 斐伊川

(以上二十河川)

第二期河川

- 天龍川
- 阿武隈川
- 筑後川
- 那珂川
- 庄内川
- 中川
- 手取川
- 矢作川
- 大和川
- 吉井川
- 馬淵川
- 紀ノ川
- 大淀川
- 由良川
- 多摩川
- 關川
- 米代川
- 鳴瀬川
- 久慈川
- 菊池川
- 郷川
- 旭川
- 渡川
- 蘆田川
- 川内川
- 相坂川
- 千代川
- 鶴見川
- 大野川
- 球磨川
- 相模川
- 肱川
- 矢部川
- 狩野川
- 圓山川
- 肝屬川
- 太田川(静岡)
- 豊川
- 白川
- 大分川

酒匂川 鈴鹿川 太田川(廣島) 名取川 仁淀川  
 (以上四十五河川)

右ノ内第一期河川ハ大正十七年度迄ニ全部ヲ竣功セシメ第二期河川ハ第一期河川ノ工事期間内ニ調査ヲ行ヒ第一期河川改修工事ノ竣功ヲ俟テ改修ニ著手シ得ベキ準備ヲ爲スコトトシ又砂防工事ハ河川改修ノ計畫ニ伴ヒ直轄河川ノ流域ニ對シテハ國自ラ之ヲ施行スルヲ原則トシ地方行政廳ニ於テ施行スルモノニ對シテハ國庫ヨリ相當ノ補助ヲ與フルコトトセリ

以上ノ計畫ニ依リ明治四十四年度以降著々事業ノ進捗ニ努メタルモ大正二年度ニ至リ財政上ノ都合ニ依リ一部繰延ベノ不得止ニ至リタル爲メ第一期事業全體ノ完成年限ヲ一箇年度延長シ同十八年度迄ニ全部完成ノ事ニ變更シタルモ大正十年度ニ至リ第一期河川中既ニ竣功セルモノ三河川ト竣功ニ近ヅケルモノ數河川ニシテ未著手ノモノハ斐伊綠ノ二河川ニ過ギザリシ(後兩川トモ着工)ト一面ニハ河狀ノ變態、産業ノ推移等治水計畫上更ニ調査ヲ必要トシタルヲ以テ第二臨時治水調査會ニ於テ慎重審議ノ結果既ニ國ニ於テ施行中ノ河川竝ニ砂防工事ノ外ニ前記第二期河川其他ヨリ改修河川ヲ選定シ大正十一年度以降二十箇年度内ニ施工スルヲ適當ナリト認メ之レガ決定ヲ見タルモノ即チ左記河川是ナリ

- 鬼 怒 川(利根川支川) 小 具 川(利根川支川) 信濃川上流(新潟縣下) 犀 川(信濃川支川)
- 野 洲 川(淀川支川) 木 津 川(淀川支川) 北上川上流 雄物川上流
- 最上川上流 天 龍 川 阿武隈川 筑 後 川
- 那 珂 川 庄 内 川 手 取 川 矢 作 川
- 大 和 川 吉 井 川 馬 淵 川 紀 ノ 川

總 論

大淀川	由良川	關川	米代川
久慈川	旭川	渡川	蘆田川
川内川	千代川	鶴見川	大野川
相模川	肱川	狩野川	肝屬川
豐川	白川	大分川	酒匂川
鈴鹿川	太田川(廣島)	名取川	仁淀川
新宮川	安倍川	菊川	大井川
北川	常願寺川	小矢部川	黒部川
天神川	日野川	佐波川	那賀川
土器川	(以上五十七河川)		

右ノ内帝國議會ニ於テ改修スベキ繼續事業トシテ協賛ヲ經タルモノハ天龍紀ノ信濃上流筑後千代蘆田鬼怒北旭ノ九河川ナリトス

斯ノ如ク政府ハ銳意河川改修工事ニ努力セリト雖モ其改修區域ハ利害ノ關係極メテ重大ナル部分ノミナルヲ以テ其上流又ハ支派川改修ノ如キハ自然之ヲ關係地方ノ經營ニ委ネザルベカラズ又第二期河川ノ改修ハ第一期河川工事ノ竣功後ニ非ザレバ著手スル能ハザルノ狀況ナルモ比年洪水頻リニ臻リ損害甚大ナルヲ以テ政府ハ益河川改修速成ノ緊要ナルヲ認メ關係府縣ニ於テ根本的改修計畫ノ調査ヲ了シ工事ニ著手スルニ於テハ國庫財政ノ都合ニ依リ相當補助ヲ與ヘ且場合ニ依リ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ事業ヲ直接施行スルノ方針ヲ決定シ河川改良費トシテ大正六年度ヨリ江合鳴

瀬兩川改修費中へ國庫ヨリ二分ノ一ヲ補助シ大正七年度ヨリ多摩川、信濃川上流、千曲川ノ改修工事ニモ亦工費ノ半額ヲ補助シ且其事業ヲ直接施行スルコトトナリ尙翌八年度ヨリハ太田川、阿賀川、阿武隈川ノ改修工事、同九年度ヨリハ圓山川ノ改修工事ニ對シ孰レモ半額ノ補助ヲ與へ且其工事ヲ全部直接施行スル事トナリシガ以上七河川トモ大正十二年度ヨリ他ノ河川ト共ニ直轄施行ノコトトナレリ又淀川改修工事ハ大正六年九月三十日及同年十月一日ノ大洪水ニ鑑ミ更ニ増補工事ヲ施行スルノ必要ヲ認メ大正七年度以降河川法第八條ニ依リ該工事ヲ直轄施行スルニ至レリ

第一期河川中既ニ完成ヲ告ゲタルモノハ淀川及同川下流、利根川第一期、木曾川下流、庄川、九頭龍川ノ幹川及支川足羽川、日野川、遠賀川、高梁川、渡良瀬川ノ七河川流域ニシテ工事中ノモノハ淀川改修増補、利根川第二期及第三期(江戸川、中川ヲ含ム)、信濃川及同上流(新潟縣下)千曲川、木曾川上流、北上川、阿賀野川、富士川、最上川、筑後川、吉野川、高梁川、荒川上下流、雄物川、加古川、江合、鳴瀬兩川、岩木川、神通川、多摩川、阿賀、阿武隈兩川、太田川(静岡)、圓山川、斐伊川、紀ノ川、千代川、蘆田川、綠川、利根川支川鬼怒川、天龍川、北川、旭川ノ二十九河川流域ナリ又砂防工事ノ竣功シタルハ吉野川及淀川支川野洲川ニシテ實施中ノモノハ淀川上流、同川支川桂川、利根川支川大谷川、信濃川上流千曲川、富士川、神通川、常願寺川ノ六河川流域ナリトス

## 第一 港灣改良事業

港灣改良工事ニ關シテハ明治初年以來或ハ直轄工事ヲ起シ或ハ國庫補助ヲ與へ之ガ助成ニ努力シタリシガ時運ノ急進ト共ニ港灣問題ハ益々重要ヲ加ヘタレバ明治三十三年六月勅令第二百六十二號ヲ以テ港灣調査會ヲ設ケ港灣ニ關スル重要事項ヲ審議セシメタリシモ同會ハ同三十六年ニ至リ各種ノ調査會



廢止ト共ニ一時廢絶シ其後同三十九年六月ニ至リ再ビ内務省ニ港灣調査會ヲ設置シ更ニ同四十年六月勅令第二百四十三號ヲ以テ港灣調査會官制ヲ定メラレ同會ニ於テ本邦ノ港灣ヲ三種ニ分チ第一ハ國ニ於テ修築スルモノ、第二ハ地方起工ノモノニ對シ國庫ヨリ相當補助ヲ與フルモノ、第三ハ地方ノ獨力經營ニ委ヌベキモノトニ區別シ即チ明治四十年十月同調査會ニ於テ第一種港灣トシテハ横濱、神戸、關門海峽(下關、門司)、敦賀ノ五港ヲ選定シ第二種港灣トシテハ東京、伊勢灣内ノ一港、大阪、鹿兒島、長崎、境、新瀉、船川、土崎ヲ含ム、青森、仙臺灣内ノ一港、其後伊勢灣内ノ一港トシテハ四日市港、仙臺灣内ノ一港トシテハ鹽釜港ヲ選定ス)ノ十港ト定メ又大正八年七月名古屋港ヲ同九年十月清水、那覇ノ兩港ヲ同十年六月若松、高松、今治、小松島、伏木、伊萬里ノ六港ヲ加ヘ二十四港(昭和二年十月小名濱、細島、大分、浦戶、宮古、七尾、尾道、博多ノ八港ヲ選定シ三十二港トナル)トセリ而シテ右ノ諸港灣中敦賀港ハ明治四十二年七月起工シ大正三年三月竣功セシモ其後第二期修築工事ヲ行フノ必要ヲ認メ更ニ同十一年度ヨリ起工ス又關門海峽改良工事ハ明治四十三年度ニ於テ起工シ又横濱港維持工事、神戸港防波堤築造工事、同港修築工事、門司港修築工事ハ大正八年度ヨリ起工シ、下關港ハ同十年度ヨリ起工セシガ其内横濱港維持工事、神戸港防波堤築造工事ハ同十年度ヨリ各修築工事ニ包含セラレ何レモ目下工事實施中ナリ又鹽釜港修築工事ハ工費二分ノ一ヲ補助セラレ同三年度ヨリ起工シ又新瀉港修築工事ハ同三分ノ一ヲ補助セラレ同六年度ヨリ起工シ同十四年度ニ於テ竣功ス又長崎港修築工事ハ工費二分ノ一ヲ補助セラレ同九年度ヨリ起工シ又清水港修築工事モ同率ノ補助ニ依リ同十年度ヨリ起工シ又高松港修築工事、境港修築工事ハ是亦工費二分ノ一ヲ補助セラレ同十一年度ヨリ起工シ今治港ハ今治市施工ノ後ヲ承ケ同十二年度ヨリ工費二分ノ一ヲ補助セラレテ續工シ鹿兒島及小松島ノ兩港モ同年度ヨリ起工シ伏木港ハ同十三年度ヨリ同一ノ補助率ニ依リ起工シ

夫々工事實施中ナリ而シテ右補助港灣ノ工事ハ何レモ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行セルモノナリ其外四日市港ハ明治四十三年度ヨリ、船川港ハ同四十四年度ヨリ、青森港ハ大正三年度ヨリ、那覇港ハ同十一年度ヨリ何レモ工費二分ノ一ノ補助ヲ受ケ其府縣ニ於テ工事實施中ニ係レリ

### 第三 復舊事業

大正十二年九月一日關東地方ニ於ケル稀有ノ大震災ノ爲メ直轄事業其他ノ被リタル損害ハ多大ナルモノニシテ之レガ焦眉ノ急ト爲シ河川復舊工事トシテハ利根川及渡良瀬川、荒川、多摩川、富士川ノ五河川流域ニ對シ大正十二年度及同十三年度ノ兩年度ニ於テ應急施行シ又砂防復舊工事トシテハ相模川及酒匂川、早川、花水川、多摩川ノ五河川流域ニ對シ同十三年度以降十箇年度ノ繼續工事トシテ施工スルモノニシテ既ニ河川工事ハ豫定ノ如ク之ヲ完了シタリ尙橫濱港ニ對シテハ同十二年度以降三箇年度施行ニ係リ其費額ハ從來ノ橫濱港修築費ノ第三期工事ト共ニ橫濱港復舊及修築費トシテ施行スルモノニシテ其復舊工事ハ同十四年度ヲ以テ完了シタルガ故ニ震災復舊事業トシテハ砂防工事ヲ剩スノミトナレリ又大正十四年八月中旬ニ於ケル近來稀有ノ出水ニ因リ利根川本流筋、派川、江戸川及支川、渡良瀬川ノ被害ニ對シ大正十四、十五ノ兩年度ニ於テ工費豫算五十九萬圓ヲ要シ之レガ復舊工事ヲ施行スルコトトナル

### 第四 大正十五年年度施行工事 昭和元年年度

本年度ニ於テ直轄工事ヲ施行シタルハ河川改良三十三、河川附屬物及水路維持三、砂防七、港灣改良十五、復舊二、合計六十工事ニシテ何レモ本省直轄ノ下ニ東京、橫濱、仙臺、新潟、名古屋、大阪、神戸、下關ノ八土木出張所

ニ於テ工事施行ノ任ニ當レリ而シテ是等ノ總工費豫算ハ河川改良工事費四億二千五百三十萬一千五百五圓、河川附屬物及水路維持工事費八百八十六萬九百圓、砂防工事費六百五十七萬二千三十八圓、港灣改良工事費一億四百四十四萬二千六百九十三圓、復舊工事費五百十四萬圓、合計五億五千三十一萬六千六百八十六圓ニシテ起工以來本年度迄ノ竣功額ヲ累算スレバ三億一千七百二十五萬一千五百五十九圓ニ達シ其内本年度ノ竣功ニ屬スルモノ二千四百七十六萬四千圓ナリトス而シテ本年度末竣功歩合ハ河川改良工事費ハ其總工費ノ五割八分九厘ニ當リ河川附屬物及水路維持工事費ハ同三割一分二厘、砂防工事費ハ同四割六分八厘、港灣改良工事費ハ同五割六分七厘、復舊工事費ハ同三割三分ニシテ各工事ヲ通ジタル竣功歩合ハ五割七分七厘ニ當レリ

今以上ノ工事費ヲ各工事ニ區別シ更ニ其工事ノ著手順ニ依リ列記スレバ左表ノ如シ但シ前年報ニ比シ差違アルハ工事費豫算ヲ改訂セルモノアルト、竣功セルモノヲ除キ新規著手ノ分ヲ加ヘタルト、誤レルヲ正シタルモノ等アルニ因ル又表中「<sup>△</sup>」ハ直營斫出石材及砂利採集使用價額、「<sup>△</sup>」ハ製作品又ハ評價品價額、「<sup>□</sup>」ハ管理者負擔額、「<sup>◎</sup>」ハ縣負擔額、「<sup>▲</sup>」ハ捨土出願者負擔額、「<sup>○</sup>」ハ無償品使用見積額、「<sup>■</sup>」ハ寄附物品評價額、「<sup>\*</sup>」ハ保管轉換品價額、「<sup>\*</sup>」ハ鐵道省依託工事費ヲ示ス

工 事 名	工 費 豫 算	竣 功			殘 高	竣 功 歩 合
		前年度迄竣功高	本年度竣功高	合 計		
利根川改修工事(東京)	六三、四〇三、一一七 円	▲◎□△× 五九、〇 一三、一 七九、二六二、三二 五、一五七、四四六 六五〇、二八三、三 六六六、七九五、八 〇〇、二〇二、八四	▲◎□△× 一、六五八、一七 二、九二二、七 九六、二八〇、八 二、八〇八、七 五	▲◎□△× 六〇、六八四、五 二、五二二、七 一、九一五、三 四、五〇五、六 〇、六六九、三 五〇、二五五、五	二、七、一八、五五二 円	〇、九五七 割分厘

河川改良工事

信濃川改修工事(新潟)	吉野川改修工事(大阪)	高梁川改修工事(大阪)	渡良瀬川改修工事(東京) (利根川支川)	北上川改修工事(仙臺)	荒川改修工事(東京)	阿賀野川改修工事(新潟)	最上川改修工事(新潟)	雄物川改修工事(仙臺)	江合、鳴瀬兩川改修工事(仙臺)	淀川改修増補工事(大阪)	千曲川改修工事(新潟) (信濃川上流)	加古川改修工事(大阪)	岩木川改修工事(仙臺)	神通川改修工事(新潟)	多摩川改修工事(東京)	阿賀川及阿武隈川改修工事(仙臺)	太田川改修工事(名古屋)	富士川改修工事(東京)
二、三、五四一、九〇五	一、二〇一、一六、二八五	七、九二六、〇八七	一、二、四〇〇、〇〇〇	一、三、三三二、〇〇〇	五、三一、四四、〇〇〇	一、二、〇〇〇、〇〇〇	一、五、〇〇〇、〇〇〇	一、一、七〇〇、〇〇〇	一、〇、二〇四、〇〇〇	一、一、〇一三、〇五一	一、一、〇一四、〇〇〇	七、八五〇、〇〇〇	一、〇、四〇〇、〇〇〇	九、二一一、五〇〇	七、七六二、〇〇〇	一、三、九二八、一一〇	四、八四三、〇〇〇	一、二、〇〇〇、〇〇〇
□△	△△	○	○△□△	△□△	△□△	■	■	■	■□□	■□□	■□□	■□△	■□△	○	○	○□	□△	□△
二二、九九五、四二九	一一、三八七、七八七	七、七六九、四七一	一〇、九九一、九一二	一〇、七三三、七四五	三六、八五三、六〇四	一、六八七、一六〇	九、六一五、四四四	一、六八七、一六〇	一、六八七、一六〇	一、六八七、一六〇	五、九〇四、三六二	四、一四〇、三八六	四、三三六、七三一	三、九六八、九〇二	五、〇二二、五五四	五、三七七、三六〇	二、四四四、〇一九	三、五八一、七七八
四五四、八一九	二一九、三〇九	四六、二二七	三七八、四二一	五三二、一七一	一、六九六、四九七	四九四、四一三	一、〇三三、三二〇	四九四、四一三	一、〇三三、三二〇	一、〇三三、三二〇	四六七、四五八	二五一、四四五	三九七、六九四	四七、一六三八	二六二、三四一	五四一、四三二	三三六、二九二	六一二、八五一
二、三、四五〇、二四八	一、一、六〇七、〇九六	七、八一五、六九七	一、一、三七〇、三三三	一、一、二六六、九一六	三、八、五五〇、一〇一	一、〇、六四七、七六四	一、〇、六四七、七六四	一、〇、六四七、七六四	一、〇、六四七、七六四	一、〇、六四七、七六四	六、三七一、八二〇	四、三九一、八三一	四、七三四、四二五	四、四四〇、五四〇	五、二八四、八九五	五、九一八、七九二	二、七八〇、三一	四、一九四、六二九
九一、六五七	四〇九、一八九	一一〇、三九〇	二九、六六七	二、〇五五、〇八四	一、四、五九三、八九九	二、一八一、五七三	一〇、六四七、七六四	二、一八一、五七三	二、一八一、五七三	二、一八一、五七三	五、七三二、一八〇	三、四五八、一六九	五、六六五、五七五	四、七七、一九六〇	二、四七七、一〇五	八、〇〇九、三一八	二、〇六二、六八九	七、八〇五、三七一
〇・九九六	〇・九六六	〇・九八六	一・〇〇〇	〇・八四六	〇・七二五	〇・七八八	〇・四七〇	〇・二一四	〇・二一四	〇・二一四	〇・五二七	〇・五五九	〇・四五五	〇・四八三	〇・六九八	〇・四二五	〇・五七四	〇・三五〇

總論

河川水路及物屬附川河		河川改良工事		工費豫算		竣功高		殘高		竣功	
事	名	工	費	前年度	本年度	合	計	殘	高	步	竣
小	圓山川改修工事(大阪)	五、九一、〇〇〇	二、四四一、六五〇	二、四四一、六五〇	二、五八、五九〇	二、七〇〇、二四〇	二、七〇〇、二四〇	三、二一〇、七五一	〇、四五七	〇、四五七	〇、四五七
	木曾川上流改修工事(名古屋)	二〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇六、四三二	四、〇六、四三二	六、五〇、四四四	四、七五六、八七六	四、七五六、八七六	一五、二四三、一二四	〇、二三八	〇、二三八	〇、二三八
	斐伊川改修工事(大阪)	六、二〇〇、〇〇〇	三六一、七一八	三六一、七一八	三九四、五一五	七五六、二二三	七五六、二二三	五、四四三、七六七	〇、一一二	〇、一一二	〇、一一二
	信濃川上流改修工事(新潟)	六、六〇〇、〇〇〇	一七八、一四七	一七八、一四七	五六四、二八三	七四二、四二三	七四二、四二三	五、八五七、五七七	〇、一一二	〇、一一二	〇、一一二
	筑後川改修工事(下關)	一、三二〇、〇〇〇	八三二、五三八	八三二、五三八	六三三、三六三	一、四六五、九〇一	一、四六五、九〇一	九、八五四、〇九九	〇、二二九	〇、二二九	〇、二二九
	天龍川改修工事(名古屋)	六、六〇〇、〇〇〇	三五、一八九	三五、一八九	四一四、一〇六	四四七、二九五	四四七、二九五	六、一五二、七〇五	〇、〇六八	〇、〇六八	〇、〇六八
	千代川改修工事(大阪)	五、六六〇、〇〇〇	二九六、九八三	二九六、九八三	四七八、二九九	七七五、二八二	七七五、二八二	四、八八四、七一八	〇、一三七	〇、一三七	〇、一三七
	蘆田川改修工事(下關)	五、六六〇、〇〇〇	二五八、七一九	二五八、七一九	四八七、〇五九	七四五、七七八	七四五、七七八	四、九一四、二二二	〇、一三二	〇、一三二	〇、一三二
	紀ノ川改修工事(大阪)	四、七二〇、〇〇〇	七五、八一三	七五、八一三	三六〇、三四二	四三六、一五四	四三六、一五四	四、二八三、八四六	〇、〇九二	〇、〇九二	〇、〇九二
	綠川改修工事(下關)	四、〇〇〇、〇〇〇	五、九七八	五、九七八	八、四一〇	一四、三八八	一四、三八八	三、九八五、六一二	〇、〇〇四	〇、〇〇四	〇、〇〇四
	鬼怒川改修工事(東京)	一四、五〇〇、〇〇〇	二、三、九九九	二、三、九九九	一、四四四	一、四四四	一、四四四	一四、四七六、〇〇一	〇、〇〇二	〇、〇〇二	〇、〇〇二
	北川改修工事(名古屋)	二、三六〇、〇〇〇	一、四四四	一、四四四	一、四四四	一、四四四	一、四四四	二、三五八、五五六	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一
	旭川改修工事(大阪)	八、〇〇〇、〇〇〇	六、〇七四	六、〇七四	六、〇七四	六、〇七四	六、〇七四	七、九九三、九二六	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一
小	計(三三二)	四二五、三〇一、〇五五	二三四、七三〇、二七八	二三四、七三〇、二七八	一五、七三八、九一〇	二五〇、四六九、一八八	二五〇、四六九、一八八	一七四、八三一、八六七	〇、五八九	〇、五八九	〇、五八九
	木曾川附屬物及水路維持工事(名古屋)	一、六九八、〇〇〇	八四八、二五六	八四八、二五六	六〇、八八九	九〇九、一四五	九〇九、一四五	七、八八、八五五	〇、五三五	〇、五三五	〇、五三五
	淀川附屬物及水路維持工事(大阪)	一、二八八、一〇〇	四七四、〇八〇	四七四、〇八〇	七二、〇六四	五四六、一四四	五四六、一四四	七、四一、九五六	〇、四二四	〇、四二四	〇、四二四
	利根、渡良瀬兩川維持工事(東京)	五、八七四、八〇〇	八六六、一三三	八六六、一三三	四四、二九九	一、三〇八、三三二	一、三〇八、三三二	四、五六六、四六八	〇、二二三	〇、二二三	〇、二二三
小	計(三二)	八、八六〇、九〇〇	二、一八八、四六九	二、一八八、四六九	五七五、一五二	二、七六三、六二一	二、七六三、六二一	六、〇九七、二七九	〇、三二二	〇、三二二	〇、三二二

砂防工事

淀川流域砂防工事(大阪)	六九〇、〇〇〇	五七六、二四六	三〇、一六七	六〇六、四一三	〇・八七九
富士川流域砂防工事(東京)	一、四〇一、〇〇〇	一、〇五七、一八一	五二、七七〇	一、〇九九、九五二	〇・七九二
桂川流域砂防工事(大阪)	九六、〇〇〇	六〇、一七四	五、八一〇	六五、九八四	〇・六八七
大谷川流域砂防工事(東京)	六六四、五〇〇	三九三、〇九二	三五九、六六六	四二九、〇五八	〇・六四六
千曲川流域砂防工事(新潟)	七五六、六〇〇	四八二、八五四	四四、八八七	五二七、七四一	〇・六九八
神通川流域砂防工事(新潟)	二二七、九三八	一七八、三五二	一八、六一八	一九六、九六九	〇・八六四
常願寺川流域砂防工事(新潟)	二、七三六、〇〇〇	—	一三六、三七二	一九六、九六九	〇・〇五〇

小計(七)

六、五七二、〇三八	二、七四七、八九八	三二四、五九〇	三、〇七二、四八八	三、四九九、五五〇	〇・四六八
-----------	-----------	---------	-----------	-----------	-------

港灣改良工事

關門海峽改良工事(下關)	一三、一一二、〇一一	一、四五二、六六〇	四七五、九七二	一、九二八、六三二	〇・九一〇
鹽釜港修築工事(仙臺)	五、一五二、八一四	三、三一一、七七八	二九七、八〇二	三、六一一、五八〇	〇・七〇一
神戸港修築工事(神戸)	三五、一六八、六〇一	一九〇、六一、二二四	一、八三〇、五五五	二〇、八九一、七七九	〇・五九四
横濱港修築工事(横濱)	一四、一九七、一五五	二、七三六、六四〇	五七五、五二二	三、三一三、一六二	〇・三九四
門司港修築工事(下關)	四、九三三、三三〇	三、五七六、五二一	二六七、四二六	三、八四六、六四二	〇・七七九
長崎港修築工事(下關)	二、三二七、二〇〇	三、七三九、五二一	一七八、五一八	三、七二二、九九	〇・九三七
清水港修築工事(横濱)	五、七〇二、一〇〇	二、〇〇二、〇六九	一七〇、九一八	一、八〇〇、五八七	〇・七八五
下關港修築工事(下關)	三、三六三、七一七	一、〇〇三、六七三	七四〇、一三八	四、四七五、四三六	〇・五六〇
敦賀港修築工事(名古屋)	三、一九〇、〇〇〇	一、六〇三、七二七	二八〇、一三三	一、八八三、八六〇	〇・三三三
高松港修築工事(神戸)	二、〇六六、〇七五	六五五、三五二	四〇五、九八三	一、〇六二、八四〇	〇・七七四
境港修築工事(大阪)	一、六九〇、一〇〇	一、二九六、一九七	三〇二、八一七	一、五九九、〇一四	〇・五二四
今治港修築工事(神戸)	二、八一七、〇〇〇	五九三、四五四	二九二、八八四	八八六、三三三	〇・一九二
鹿兒島港修築工事(下關)	二、八〇五、六〇〇	一、九一、一五	四〇、一〇五	五三九、一四四	〇・一五七

總論

工	事	工費豫算		竣功高		合計	殘高	竣功歩合
		前年度迄竣功高	本年度竣功高	前年度迄竣功高	本年度竣功高			
港良	小松島港修築工事(神戸)	三、二四六、〇〇〇	一六八、五八七	×	三三〇、二〇八	二、九一五、七九二	〇・二〇二	
		四、六六九、〇〇〇	一二六、七八三	×	三七、一一三	四、〇三四、一五二		〇・一三六
灣工	伏木港修築工事(新潟)	一〇四、四四二、六九三	五、九〇七、五二八	七、三四三、七五七	五九、二五一、二八五	四五、一九一、四〇八	〇・五六七	
		計(一五)	六三八、二二四	四六八、〇四九	一、一〇六、二七三	三、四四三、七二七		〇・二四三
改事	相模川外四箇川流域(東京)	四、五五〇、〇〇〇	六三九、一二二	三〇九、五八二	五八八、七〇四	一、二九六	一・〇〇〇	
		五九〇、〇〇〇	九一七、三四六	七七七、六三一	一、六九四、九七七	三、四四五、〇三三		〇・三三〇
復舊	利根渡良瀬兩川水害(東京)	五、一四〇、〇〇〇	二九二、四九一、五一九	二四、七六〇、〇四〇	三一七、二五一、五五九	二二三三、〇六五、一二七	〇・五七七	
		計(一一)	二九二、四九一、五一九	二四、七六〇、〇四〇	三一七、二五一、五五九	二二三三、〇六五、一二七		〇・五七七
總	計(六〇)	五五〇、三一六、六八六	二九二、四九一、五一九	二四、七六〇、〇四〇	三一七、二五一、五五九	二二三三、〇六五、一二七	〇・五七七	

# 第一章 河川改良工事

## 第一 利根川改修工事

(東京土木出張所)

### 緒言

本工事ハ明治三十三年度ヨリ昭和四年度ニ至ル三十箇年度繼續事業トシテ總工費六千三百四十萬三千百十七圓四十八錢五厘ヲ以テ群馬縣佐波郡芝根村以下千葉縣海上郡銚子町海口ニ至ル二百粁及派川江戸川竝ニ中川ノ改修工事ヲ施行スルモノトス

本工事ハ當初工費五百八十一萬四千二百二十六圓四十八錢五厘ヲ以テ第一期工事トシテ下流部タル千葉縣佐原町以下海ニ至ル間ヲ及五十一萬六千圓ヲ以テ埼玉縣妻沼町以下海ニ至ル間ト江戸川流頭附近ノ低水工事トヲ明治三十三年度ニ著手シ同四十二年度ニ於テ第一期工事ハ一旦竣功低水工事ハ大正十一年度ニ竣功シタリシガ先是八百二十一萬四千七百七十五圓ヲ以テ第二期工事トシテ茨城縣取手町以下佐原町間ヲ同四十年年度ニ著手シ續テ七百八十一萬一千九百十六圓ヲ以テ第三期工事トシテ其上流芝根村以下取手町間ヲ同四十二年度ヨリ著手シタリ然ルニ適々同四十三年ノ夏季ニ至リ稀有ノ出水ニ遭遇セシヲ以テ第一期第二期及第三期ノ既定計畫ニ擴張ヲ加ヘ増工事ヲ施スノ必要起レルト派川江戸川ヲ改修スルノ得策ナルヲ認メタルニ依リ工費一千三百二十萬圓ヲ追加(工費合計三千五百五十五萬六千八百十七圓四十八錢五厘)シ大正八年度ヲ以テ竣功期限トシ工事實施中ノ處其後精確ナル調査ノ結果再ビ既定工費ニ増額ノ必要ヲ生ジタルト江戸川改修工事ノ爲メ同支川庄内古川ノ流路ヲ遮斷スルコト、ナ



タルヲ以テ之ヲ中川ニ注流セリメ(庄内古川ハ中川ノ附帶工事トシテ管理者ニ代リ國ニ於テ施行ス)且中川ノ改修工事ヲ施行センガ爲メ同五年度以降工費七百三十八萬五千三百十五圓ヲ追加(工費合計四千二百九十四萬二千三百三十二圓四十八錢五厘)シ施工年限ヲ四箇年度延長シ同十二年度迄ニ竣功セシムルコト、ナリ引續キ施行中ノ處同三年度以來歐洲戰亂ノ餘波ヲ受ケ諸物價及勞銀ノ昂騰著シク爲メニ工費ニ不足ヲ生ジタルト第三期中川及低水工事ニ於ケル一部追加改修ノ必要ニ因ル工費トヲ合シ二千七百六萬八千二百圓ノ増額方ヲ要求セシ處同十一年度以降ノ低水工事ハ利根、渡良瀬兩川維持工事ニ包含セラル、コト、ナリタルヲ以テ右低水工費ヲ控除シタル二千四十六萬九百八十五圓ヲ増額セラレ竣功期限ヲ昭和二年度トシ前記ノ如ク總工費六千三百四十萬三千七百四十八錢五厘ヲ以テ施行スル計畫ナリシガ其後更ニ施行年限ヲ二箇年度延長シ同四年度迄ニ施行スルコト、ナレリ

### 河狀並計畫大要

利根川ハ流域面積一萬五千七百六十二平方料ニシテ一府六縣ニ互リ流路總延長四千四百二料五(内幹川三百二十二料)航路延長八百五十二料(内幹川二百七十四料)ニ及ビ特ニ派川タル江戸川ヲ經テ沿川各地ト帝都トノ聯絡ヲ有ス灌漑區域十一萬七千六百七十七ヘクタール(内幹川三萬三百十六ヘクタール)水害區域十三萬七千七十五ヘクタール(内幹川十二萬一千九十四ヘクタール)ニ上レリ

從來本川ノ最大洪水ハ約十年ニ一回ト稱セラレシガ近時著シク其度數ヲ遞加シ明治二十三年、同二十九年、同三十一年、同三十五年、同三十九年、同四十年、同四十三年、大正三年等大水害頻ニ臻リ以上八箇年ヲ平均スルモ實ニ三千四百七十八萬四千二百九十五圓ノ損害ヲ被レルノ狀況ニシテ最近非常ニ水害ヲ輕減セ

リト雖モ尙大正五年、同八年、同九年、同十一年、同十四年以上五箇年ノ平均水害損失價額ハ五百十三萬四千五百三十四圓ノ多キニ達ス而シテ是等ハ農作物及堤防等ノ損害ノミヲ算出シタルモノニシテ其間接ノ被害タル交通、商業、衛生等數字ニ計上シ得ベカラザルモノニ至リテハ殆ンド測知スベカラザルモノアリ若シ夫レ權現堂ヨリ上流右岸堤ノ破壊ヲ見ンカ洪水帝都ヲ襲フニ至ルヲ以テ本川ノ水災關係ハ古來最モ重大視セラレタルモノナリ蓋シ洪水ノ原因種々アルベシト雖モ河狀不良ニシテ堤塘薄弱流積不足加フルニ漸次河床ノ埋沒ヲ來タシタルニ起因スルナラン因テ本計畫ニ於テハ本川ノ流量ヲ左ノ如ク定メ之ヲ快疏スルノ河積ヲ保タシメ以テ洪水ヲ防禦セントスルニアリ

芝根村以下江戸川分流點ニ至ル

五、五七〇（支川渡良瀬川ノ流量ハ同川計畫ニ述ブルガ）  
（如ク利根川最高水位ニ影響ナキモノトス）

江戸川へ分流

二、二三〇

江戸川へ分流以下鬼怒川合流點ニ至ル

三、三四〇

鬼怒川合流點以下海ニ至ル

四、三一〇（鬼怒川洪水量ノ内利根川最大高水流量ニ影響スルモノヲ毎秒九百七十四立方米トス）

本川ノ堤防ハ右ノ流量ヲ標準トセル水位以上一米五乃至一米八ノ高サヲ保タシムルモノナリ元來毎秒五千五百七十立方米ノ水量ハ本川ニ於テ五年乃至十年毎ニ襲來スル最大高水ヲ標準トセルモノナレドモ明治四十三年ノ洪水ノ如キハ毎秒六千九百六十立方米ニ及ベルガ故ニ如斯場合ニ處スルガ爲メ前記ノ流量ヲ標準トセル水位以上尙〇米九ノ増水ヲ見ルモノトシテ築堤ハ〇米六乃至〇米九ノ餘裕ヲ存セシムルコト、セリ

今各區ニ就キ改修計畫ヲ述ブレバ第三期改修區域ニ屬セル上流芝根村字沼ノ上以下妻沼町間ハ急流部ニシテ高水勾配五百分ノ一乃至一千五百分ノ一、妻沼町以下境町間ハ緩流部ニシテ二千二百分ノ一乃至

三千三百分ノ一境町以下取手町間ハ鈍流部ニシテ五千五百分ノ一乃至一萬分ノ一ヲ有セシムルコト、セリ而シテ幅員ニ於テハ前記沼ノ上以下永樂村字赤岩ニ至ル間ハ利根川高原部ヨリ初メテ平地ニ出デタル部分ニシテ所謂汎濫部ニ屬シ其河幅ハ廣大ニシテ砂礫ノ沈澱多ク洪水毎ニ流路ヲ變ジ舊堤ハ斷續不同且河狀最モ險惡ノ部分タリ故ニ本改修計畫ニ於テハ大略現川ヲ中心トシテ五百四十五米ノ河道ヲ設ケ法線内ハ掘鑿ヲ施シ所要ノ斷面ヲ與ヘ尙兩岸ニ三百六十四米ノ堤外地ヲ存セシメ游水區域トシテ危險性ノ河川ニ備ヘタリ然レドモ島村附近竝ニ尾島町字前小屋附近ハ屈曲甚ク流路モ數派ニ岐レ所謂亂流區域ナルヲ以テ在來ノ河身ニ關セズ計畫法線ヲ定メ不規則ヲ匡正シ禍根ヲ斷ツコト、セリ又中瀬村及明戸村大字石塚竝ニ秦村附近ハ所謂論所堤ヲ控ヘ數百年來水論絶ユルコトナキ箇所ナルヲ以テ何レモ新堤ヲ築造シテ水害ノ根源ヲ絶ツコトトシ其結果福川吐口ニハ逆水樋門ヲ設置スルコト、セリ

又烏川ハ殆ンド幹川ニ直角ヲ爲シ合流スルガ爲メ幹川ノ水流ハ八丁河原ニ衝突シ次デ八斗島ヲ襲フノミナラズ烏川ハ幹川ノ爲メ流路ヲ支ヘラル、ヲ以テ幹川ノ流身ヲ左方ニ轉ズル様法線ヲ選定シ赤岩以下福田村字三ツ堀間ハ五百四十五米ノ河幅ヲ標準トシ法線ヲ規定セルモ此區間ハ河狀比較的良好ナルヲ以テ大體現川ニ依リ幅員ノ足ラザル部分ハ之ヲ擴張シ河積ノ足ラザル部分ハ掘鑿ヲ行ヒ河幅ニ餘地アル部分ハ舊態ニ委ネ可及的河積ニ餘裕ヲ與フル計畫ヲ採レリ其結果左岸富永村、梅島村、千江田村、新郷村、中田、靜村、字塚崎、長須村、中川村、字莚打、右岸井泉村、村君村、大越村、關宿町、川間村等、各地先ハ何レモ引堤ヲ爲スコト、セリ又派川權現堂川ハ分派點ニ於テ締切リ專ラ赤堀川ヲ擴張シテ本川ト爲シタリ

福田村字木ノ崎地先ハ中利根川中著名ナル狹窄部ニシテ河幅僅ニ百二十三米六、河狀大屈曲ヲ成セルヲ

以テ直路ヲ開鑿スルコト、セリ  
前記三ツ堀以下取手町間ハ宛然游水地ノ如ク兩岸遠ク一千六百三十米乃至三千二百七十米ヲ隔テ、丘陵ニ依リ圍繞セラレ勾配極メテ緩ナルヲ以テ高水法線ヲ八百十八米ト定メ新堤ハ可成舊堤ヲ擴築シ游水地ノ働キヲ減殺セザル方針ヲ採レリ又鬼怒川ハ幹川ニ直角ヲ爲シテ合流シ幹川ノ洪水ヲ支ヘ其排除ヲ阻ムコト大ナルヲ以テ吐口ヲ引下ゲ逆水ノ影響ヲ減少セシムルコト、セリ而シテ堤塘高ハ計畫高水位上川俣鐵橋上流ハ一米八、其下流ハ一米五ト爲シ馬踏七米三、表裏二割法トシ川裏ニハ馬踏ヨリ一米八ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ設ケ其レ以下三割法ト爲シ川裏ハ馬踏ヨリ四米五下リテ相當前小段ヲ設クルコト、セリ

第二期改修區域ニ屬スル取手町以下佐原町ニ至ル間ハ河幅五百四十五米ヲ標準トシテ河道ヲ規定セルモ布佐、布川兩岸狹窄部ノ如キハ河幅ノ擴張ヲ許サザルニ依リ此部分ハ土砂ヲ浚深シテ河積ヲ補フコト、シ取手町字片町、井野村字小堀間、生板村大字藤藏川岸ヨリ長戸川合流點ニ至ル間及滑河町地先竝金江津村十餘島村間、東大戸村川尻ヨリ同村飯島ニ至ル各箇所ハ孰レモ新川ヲ開鑿シテ河道ヲ改メ流心ヲ匡正シ派川將監川ハ締切リテ廢川ト爲シ長戸川ト本川トノ合流點ニハ水門ヲ設ケ印旛沼ヘノ逆流ヲ遮斷シ霞ヶ浦沿岸ノ汎濫ヲ防止スル爲メ横利根川合流口ニ閘門ヲ設置スル等ノ計畫ナリシガ明治四十三年八月ノ洪水ハ遙ニ二十九年第一期第二期共同年ノ出水ニ基キ流量毎秒三千七百五十立方米トシテ計畫シタルモノノ水位ヲ超ヘタルヲ以テ既定計畫ヲ變更シ且追加スル必要ヲ生ジ洪水流量ハ之ヲ毎秒四千三百十立方米ト爲スノ可ナルヲ確メタリ然レドモ既ニ施行中ノ築堤ハ動カシ難キモノアリ高水波ノ推移上既定河幅ハ之ヲ變更スルノ不得策ナルヲ認メ上流ヨリ豐住村迄ハ計畫高水位ヲ更ニ〇米九ヲ高メ

其レヨリ漸次減少セシメ下流佐原町附近ニ至リ從來ノ計畫高水位ニ合セシメ築堤ハ之ヲ擴大シ下流第二期改修部内ハ約〇米三ノ嵩置ヲ施行スルコト、セリ又當初計畫ニ於テハ在來ノ堤塘ニシテ二十九年程度ノ出水ニ耐ユベキモノト認メタル所ハ其加工ヲ除キタレドモ追加計畫ニ於テハ之ヲ編入セリ即チ左岸取手町ヨリ金江津村ニ至ル間右岸我孫子町ヨリ木下町ニ至ル間及佐原町ヨリ津宮村ニ至ル間はナリ要スルニ取手町以下小文間村ノ一部ヲ除キ總テ堤塘ヲ擴築又ハ新築連續セシメ遺ス所無カラシム又橋村、椎柴村間ハ第一期改修區域ノ下流ニ位スレドモ改良河川ニ伴フ河潮兩水ノ關係及大出水等ノ影響ニ依リ水路ニ淺所ヲ生ジタルヲ以テ此部分ヲ浚渫シ佐原町地先小野川口ニハ水門ヲ設ケ逆水ヲ防止スルコト、セリ

支川小貝川ハ當初其合流點ニ逆水門ヲ築設スルノ計畫ナリシガ其後調査ノ結果之ヲ廢止シ上流相馬町常磐線鐵道橋以下約七軒八ヲ改修スルコト、シ内上流半部ハ縣ノ施行ニ委ネ下流半部ハ國ニ於テ施行スルコト、ナレリ然シテ幹川堤塘ハ其高ヲ計畫高水位以上一米五ト爲シ馬踏五米五、表裏共二割法ニシテ川表ハ馬踏ヨリ二米、川裏ハ一米八ヲ下リテ各三米六ノ小段ヲ設ク但シ川裏小段以下ハ三割法ト爲シ尙法先ハ約三米六ノ餘地ヲ存セシメタリ小貝川堤塘ハ表小段及川裏ノ餘地ヲ廢シタル外幹川堤塘ト同形トス

江戸川ハ茨城縣猿島郡五霞村山王地先ヨリ開鑿シテ新川ヲ通ジ利根本川ヨリ分流セシメ其流頭ニハ床固工ヲ施シ洪水ノ注入積ヲ規定シ尙低水路ニ開閉自在ノ洗堰ヲ設ケ其低水量ニ節制ヲ加フルト同時ニ高水量ノ一部ニモ亦節制ヲ加フルノ具タラシム蓋シ江戸川ノ最大高水量ハ每秒二千二百三十立方米ナルヲ以テ其大部ヲ高水敷ヨリ放流セシメ殘餘ヲ低水路ニ據ラシムルコト、シ高水敷ニ於ケル流量ノ如

何ニ依リ低水路ヨリスルモノヲ加減シ得ベカラシム低水時ニ於テ節制ヲ加フルノ要ハ本流利根川ト江  
戸川トノ間ニ存セル既往水位ノ關係ヲ改修後ニ於テモ尙保有セシメントスルニ外ナラズ又低水路ニハ  
閘門ヲ設ケ水運ノ便ニ資スルモノトス

江戸川河道ノ現狀ハ甚シキ迂曲無ク大體良好ナルヲ以テ流末ヲ除ク他ノ部分ハ全ク現川ニ沿ヒ或ハ左  
岸ニ或ハ右岸ニ河幅ヲ擴張スルコト、シ堤防ハ多ク舊堤ヲ利用シテ之ヲ増築シ又川床ヲ掘鑿シテ所要  
ノ河積ヲ與フルモノトス而シテ本川ノ低水路ハ利根沿岸ヨリ帝都ニ通ズル航路トシテ船舶ノ往來頗ル  
頻繁ナルヲ以テ可成從來ノ低水路ニ觸ル、ヲ避ケ堤外地高水敷ノ掘鑿モ亦低水位以上〇米九ニ止ムル  
モノトシ以テ所要ノ河幅ヲ定メタリ如斯ニシテ流頭ヨリ下流行徳迄ハ全然現川ニ沿ヒ改修ヲ加フルモ  
行徳以下ハ流路迂回スルヲ以テ稍直線ニ新川ヲ開鑿シテ海ニ注ガシム而シテ行徳ニ於ケル現川遮斷口  
ニハ閘門ヲ設ケ既往航通ノ便ヲ保タシメ又洗堰ヲ設ケテ航行灌溉ニ必要ナル水量ヲ通ズルモノトス  
河幅ハ流頭以下川間村字金野井迄ハ二百五十四米五、同所以下野田町迄ハ二百三十六米三、以下海口ニ至  
ル迄ハ四百米トス又堤高ハ計畫高水位以上一米五ト爲シ馬踏ハ五米五、表法ハ右岸二割五分、左岸二割ニ  
シテ川裏ハ馬踏ヨリ一米五ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ設ケ小段迄ヲ二割夫レ以下ヲ三割法トス  
中川改修區域ハ埼玉縣松伏領村下赤岩以下東京府奥戸村上平井迄延長二十三軒五、地勢平坦ナルヲ以テ  
利根川本流其他ノ洪水ノ餘波ヲ被ラザル限リ本川自身ニ水害ヲ起スコト無シト雖モ庄内古川外三惡水  
路ノ併合ニ依リ改修ノ必要ヲ生ジタルモノニシテ是等ノ流量ヲ新ニ増加スルモ現在ノ高水位ヲ昂メズ  
且沿岸ノ排水ニ惡影響ヲ與ヘザルコトヲ目的トス因テ現河底ヲ浚渫スルコト流心ニ於テ〇米九乃至一  
米五トシテ河積ヲ補充スルコト、シ只吉川町竝潮止村地先ハ甚シク屈曲セルヲ以テ直通ニ開鑿シテ新

ニ河道ヲ設クルコト、ス河幅ハ元荒川合流點迄ヲ百一米八トシ其下流ヲ百四十五米四トセリ而シテ築堤ハ前記吉川町及潮止村新水路ノ兩岸ニ新設スル外ハ二三箇所ノ移堤又ハ増築ニ止メ其他ハ大體舊堤ヲ其儘利用スルコト、セリ

庄内古川ハ江戸川右岸地方ノ諸惡水ヲ集メタル河川ナルガ江戸川改修ニ伴ヒ之ニ接觸セル十軒二餘ノ附替ヲ要スルニ至レルモノナレドモ同川ニ竝行施設スルヨリハ寧ロ近距離ノ中川ニ合流セシムル方水利上竝ニ工費節約上得策ナルヲ認メ且其上流權現堂川ニ注グ羽生領(島川)及島中領、五霞村惡水ノ三惡水路ノ改修ヲ要スルモノアルヲ以テ中川改修ノ附帶工事ト爲シ管理者ニ代リ國ニ於テ施行スルコト、セリ

## 施工狀況

第一期工事ハ既ニ竣功セルヲ以テ茲ニハ目下施工中ノ第二期第三期江戸川及中川ニ於ケル工事ノ概要ヲ記述スベシ

第二期改修工事ニ於テハ第一期工事ニ使用シタル諸機械ヲ其儘充用シ得ルノ便宜ヲ有セルヲ以テ幸ニ施工準備ニ幾多ノ日子ヲ要セザリシガ土地買収ニ在テハ明治四十年七月以降佐原、安食、滑河、木下、取手、河原代ノ各町村ニ收用事務所ヲ設ケ大正三年度迄前後九箇年度ヲ費シ殆ンド全部買収スルコトヲ得タリ其後少許ノ追加買収ヲ爲シ其總面積約一千四百八十四町九畝步餘此買収金額百五十九萬二千二百九十五圓、地上物件移轉料五十萬五千六百五十圓ナリトス而シテ工事施行ニ關シテハ明治四十二年一月佐原町及安食町ニ工營所ヲ設置シ滑河町ノ上流ハ安食、同所以下ハ佐原ニテ分擔セシガ大正二年四月兩所ヲ

合併シ安食町ニ改修事務所ヲ置キ全區域ヲ管セシム其後年ト共ニ功程益々進捗セシガ同六年度以降漸次戰時ノ好景況ニ伴ヒ物價ノ昂騰ト勞力不足トニ依リ大ニ其功程ヲ妨ゲラレ又同十二年度ニ於テハ九月一日ニ於ケル大震災ニ因ル被害アリ更ニ同十四年八月中旬ニ於ケル稀有ノ出水ニ因ル被害等相踵ギ是等復舊工事ノ爲メ改修工事ノ進捗ヲ阻碍セラレタルハ遺憾トスル所ナリ而シテ起工以來本年度迄ノ竣功高ハ築堤土運搬利用土ヲ含ム一千八百七十六萬七千四百六十七立方米、浚渫土量利用土ヲ含ム三千八十八萬七千二百六十六立方米、護岸及水制延長二萬七千六百七十七米、特種工事三箇所、附帶工事ノ直轄施行六十二箇所、管理者施行十二箇所ナリトス

本年度ニ於テハ取手町以下若松村ニ至ル約七十九軒ノ間ニ取手、安食、佐原ノ三工場ヲ置キ其下ニ數箇所ノ見張所ヲ設ケ築堤二箇所土量四萬三千七百九十五立方米、浚渫四箇所土量十一萬六千四百二十九立方米、護岸及水制六箇所延長一千七百八十六米、附帶工事八樋一箇所ヲ施工シ工費合計十二萬三千六百五十六圓ヲ支出シ外ニ附帶工事管理者施工ニ係ル十角水路工事ニ對シ國庫補助金二萬一千七百二十圓ヲ支出セリ今各方面ニ於ケル施工ノ概況ヲ述ブレバ

取手新水路附近長二千米ニ互ル新低水路開鑿工事ハ大正五年度ニ其附近兩岸ノ築堤工事ハ同十二年度迄ニ何レモ竣成シ中峠人力掘鑿ハ約九割ノ功程ヲ見ルニ至リ又新水路ニ沿ヒ施設スベキ取手青山竝ニ下流相野谷ノ各水制ハ本年度内全部竣成シ湖北水制ハ七割以上ノ竣功ヲ告ゲ永年亂流ナリシ河道ハ漸次改善ノ域ニ進ミツ、アリ

支川小貝川ニ於テハ前年度迄ニ於テ各種工事全部竣成シ剩ス處ナキニ至レリ  
木下附近ニ於テハ布佐、布川狹窄部ノ切取擴張工事及低水路ノ機械浚渫工竝ニ兩岸築堤工事ハ同十二年



度迄ニ竣成シ護岸水制工亦大約其施工ヲ了リ前年度ヨリ續工セル竹袋護岸ハ約四割ヲ竣成セリ

安食附近ニ於ケル新川開鑿工事及印旛水門等ノ主要工事ハ曩ニ竣成シ右岸長戸川締切ヲ含メル安食築

堤其他兩岸築堤ハ何レモ完成ヲ告ゲ本年度著手セル右岸布鎌人力掘鑿竝ニ源清田村宇十里地先低水路

浚渫工事ハ共ニ約八割ノ工程ヲ了リ前年度ヨリ續工セル右岸安食水制ハ全部竣成セリ又一時休工中ナ

リシ左岸田川水制竝ニ本年度著手セル十里水制ハ前者ハ八割後者ハ其三割ヲ竣功シ前年度迄ニ約六割

ノ進捗ヲ見タル十里護岸ハ工事上ノ都合ニ依リ休工シ十角塚樋ハ本年九月ニ至リ全部竣功セリ

小見川附近ニ於テハ既ニ第一期工事ニ於テ竣成セル堤塘ニ嵩置ヲ施工スル追加工事ニシテ右岸小見川

森山、大倉、左岸芝崎、豊浦、佐津、大倉ノ各築堤ハ何レモ竣成シ前年度ヨリ續工セル右岸大倉、豊浦及本年度著

手ノ笹川亦年度内ニ竣成シ剩ス處ナキニ至レリ

第三期改修ハ明治四十二年度ニ施行準備ヲ爲シ同四十三年度ニ田中村ニ、同四十四年度ニ稻戸井村ニ各

工營所ヲ設置シ土地買収ニ關係ナキ箇所ヨリ浚渫工ヲ開始セリ而シテ土地買収ハ同年一月以降取手、木

間ヶ瀬、栗橋、赤岩及境ニ各收用事務所ヲ置キ大正五年度迄約六箇年ヲ費シ大部分ノ買収ヲ了シ其後少許

ノ追加買収ヲ爲シ其總面積三千五百二十三町七段步、此買収金額三百七十萬九千二百三十三圓、地上物件

移轉料百三十八萬四千六百十八圓ヲ支出セリ

本區域ハ計畫掘鑿土量三千三百五萬八千立方米、築堤土量一千五百五十八萬二千立方米ノ大土工ナルヲ

以テ銳意機械ノ整備ヲ圖リ掘鑿機十六臺、機關車十七臺、浚渫船大小七隻、木造工業船二百十四隻、三十瓦軌

條約十五軒、十五瓦軌條五十三軒、六瓦軌條八十五軒、三立方米積土運車七百六十六臺、〇六立方米積トロ二

千三百三十八臺、其他附屬諸機械ヲ備ヘ大正元年度ヨリ全工區ヲ三分シ尾島、栗橋、田中ニ各工區事務所ヲ

設置シ専心功ヲ急ギタル結果六年度末ニ於テ略ホ成功ニ近ヅキタルヲ以テ同七年五月三區ヲ合併シ粟橋町ニ第三期改修事務所ヲ置キ殘工事全部ヲ統轄スルコト、セリ斯クテ同十年年度ニ於テ殆ンド完成シ其後ハ護岸水制ヲ主トシ整理掘鑿堤防補修等ニ努メシガ同十二年九月一日ニ於ケル大震災ニ依ル被害竝ニ同十四年八月ニ於ケル兩度ノ大出水ニ因ル被害等相踵ギ改修工事ノ進捗ヲ阻碍セラレタルハ遺憾トスル所ナリ而シテ本年度迄ノ竣功累計ハ築堤土量二千八百一十一萬一千二百二十三立方米利用土ヲ含ム、浚渫土量四千六百九萬三千九百四十八立方米、利用土ヲ含ム、護岸及水制延長十萬八千七百四米、特種工事四箇所、附帶工事ノ直轄施行六十八箇所、同管理者施行五箇所ナリトス、十二年度一月一日ニ於ケル大震災ニ本年度ハ沼ノ上、取手間百三籽ノ間ニ沼ノ上、男沼、千江田、栗橋、木間ヶ瀬、田中ノ六工場ヲ置キ其下ニ若干ノ見張所ヲ設ケ主要工事權現堂川ノ締切其他特種工事ヲ合セテ五箇所ヲ施工シ工費四萬三千七百九十七圓ヲ支出セリ今各方面ニ於ケル其概況ヲ述ベンニ沼ノ上、赤岩間ハ掘鑿築堤及附帶工事ハ凡テ竣功シ護岸水制ハ水衝リ強キ箇所及常水路ノ新堤ニ接近セル所ハ悉ク施工ヲ了リ其延長正ニ全河岸ノ七割九分ニ當レリト雖モ利根川ノ急流部ナルヲ以テ沼ノ上、山王堂、八斗島、仁手、長沼、前河原、新地、中瀬、大館、間々田、小島、古海、赤岩等ノ各地先ハ流水常ニ護岸ニ激衝シ脚部危險ナルヲ以テ更ニ根固メ及床固ヲ増補スルノ必要アルベシ

赤岩、境間ニ於テハ前年度著手セル主要工事權現堂川締切工事ヲ續工シ水止工事完成以來土運搬ニ全力ヲ注ギ年度内築立芝付等殆ンド竣功シ殘ルハ僅カニ補修的工事ノミトナレリ又堤防前小段ニ施工セル石張、沈床、護岸竝ニ權現堂川ノ舟航及灌溉用水ノ爲メ同川ヲ横切リテ施設スベキ堰堤工ハ共ニ年度内竣功セリ其他本區域ニ於ケル諸工事ハ凡テ竣成シ千江田、井泉、村君等ノ引堤箇所モ水制ノ施工ニ依テ深掘

ノ跡ヲ絶テ永年亂流セル大越地先モ又大ニ改善セラル、ニ至レリ  
境、取手間ニ於テハ前年度迄ノ施工ニ依リ猿島以下目吹迄及鬼怒川ノ兩岸等水流激衝ノ箇所ハ悉ク防禦  
セラレ又關宿、猿島、川間、旭、福田ノ引堤箇所及鬼怒川合流口等ハ床固水制ヲ施行シ深掘ニ備フルト共ニ水  
路ノ匡正ニ努メタリ

派川江戸川改修ハ大正二年四月松戸町及野田町ニ各土地收用事務所ヲ置キ調査ヲ進メ翌三年七月買收  
協議ヲ開始シ良好ノ成績ヲ以テ同四年三月迄ニ殆ンド全部ノ買收ヲ終リ同月限り事務所ヲ閉鎖セリ而  
シテ其後本所ニ於テ處理シタル少許ノ追加買收ヲ加フルトキハ其總面積約一千七十六町五段歩トナリ  
其買收金額二百九萬一千六百十二圓竝ニ地上物件移轉料百十九萬六千九百三十四圓ヲ支出セリ

工事施工ニ關シテハ同三年十二月野田町ニ改修事務所ヲ設置シ同年度ニ於テハ築堤及掘鑿ノ幾分ヲ施  
工シタルニ過ギザリシガ同四年度以降漸次工程ヲ進メ本年度迄ニ築堤土量一千五百五十三萬一千四百  
九十一立方米(利用土ヲ含ム)浚渫土量一千五百四十五萬七十四立方米、護岸及水制延長四萬百六十四米、五  
特種工事三箇所、附帶工事ノ直轄施行三十四箇所ヲ施行セシガ其間同十二年九月一日ニ於ケル大震災及  
同十四年八月ニ於ケル大出水等ニ因ル被害ノ爲メ工事ノ進捗ヲ阻碍セラレシハ遺憾ナリ

本年度ニ於テハ江戸川筋關宿町及逆川筋五霞村以下海ニ至ル延長約五十九軒ノ間ニ山王、關宿、野田、流山、  
松戸、市川ノ六工場、内山王、流山、兩工場ハ十月限り廢止ヲ置キ其下ニ數箇所ノ見張所ヲ設ケ各工事ヲ施工  
セリ其竣功高ハ機械掘鑿四箇所、同深浚二箇所、人力掘鑿九箇所、計十五箇所、土量百三萬六千五百九十八立  
方米、築堤十箇所、土量八十二萬八千五百四十四立方米(利用土ヲ含ム)ニシテ護岸及水制ハ前年度ヨリ續工  
ノモノ二箇所及新ニ著手セルモノ四箇所、計六箇所其延長一千四百五十五米ヲ竣成シ又特種工事ノ關宿

開門、關宿洗堰ノ二工事ハ大正七年十一月著手以來年ヲ閱スルコト八箇年度ニ及ビ漸ク本年度ニ至リ完  
成シ之ニ關聯セル關宿高水路床固、中島築立、同護岸及假締切除却等ノ諸工事ヲ施工シ九月一日ヲ以テ通  
水セシムルニ至レリ

附帶工事ハ前年度ヨリ繰越ニ係ル新田用水路樋管改築及堰柵新設ノ一箇所ニシテ九步通り竣功セリ

本年度ニ於テ支出セル工費ハ七十萬一千三百九十一圓ニシテ外ニ管理者施工ニ係ル京成電氣軌道變更  
工事及江戸川橋及葛飾橋ノ二橋改築ニ對シ十五萬五千圓ノ國庫補助ヲ爲セリ

中川改修ハ大正五年度創業直ニ測量調査等ノ施工準備ニ著手シ翌六年度ヨリ土地買收ニ關係ナキ部分  
ヨリ工事ヲ開始セリ而シテ土地買收ハ同年九月新宿町ニ收用事務所ヲ置キ買收調査ヲ爲シ同九年度迄  
ニ其大部分ヲ買收シ同十一年度ニ至リテ完了セリ其總面積約百三町一段步此買收金額四十八萬四千八  
百十一圓、地上物件移轉料十三萬三千六百二十四圓ヲ支出セリ

本工事ハ當初江戸川改修事務所々管ノ下ニ施工セシガ同八年十一月分立シテ府下龜青村ニ改修事務所  
ヲ設置シ銳意施工ニ努メ起工以來築堤土量(利用土ヲ含ム)三十萬二千四百四十六立方米、浚渫土量四百三十  
一萬二千八百十五立方米ヲ竣成セリ

本年度ニ於テハ増林村以下本田村ニ至ル二十五軒七ノ間ニ吉川、龜有ノ二工場ヲ置キ前年度ニ引續キ浚  
渫船四隻ヲ以テ本田、龜有、水元、彦成及吉川ノ各町村地先ノ低水敷ヲ浚渫シ土量二十二萬七千八百四十六  
立方米ヲ舉ゲ彦成、本田、水元ノ三箇所ハ年度内ニ竣功セリ築堤ハ潮止新水路ノ呑口ニ於ケル舊川締切箇  
所ヲ前年度ニ續工シテ之ヲ竣功セシメ護岸工ハ庄内古川合流口ニ於ケルモノ一箇所ヲ前年度ニ續工シ  
是亦年度内ニ竣成セリ

本川筋ニ於ケル附帶工事ハ京成電車橋ノ橋脚補強工事ヲ剩スノミトナリ其他ハ全部竣成セリ

本年度ノ功程ハ浚渫土量二十二萬七千八百四十六立方米工費五萬五千七百六十六圓外ニ府縣及捨土出願者提供材料及勞力二萬七千七百四十七圓築堤工費一千七百六十圓護岸及水制延長二百六十米此工費五百六十七圓合計五萬八千九十三圓ナリトス

庄内古川外三惡水路附替工事ハ中川改修附帶工事ノ一ナレドモ其實中川改修促進ノ因ヲ爲シ且工事ノ規模大ナルヲ以テ其施工ニ相當準備ヲ要シ大正六年度ニ於テ幸松村ニ土地收用事務所ヲ設ケ所要土地ノ買收(管理者負擔)ヲ爲シ工事ハ翌七年度ヨリ著手セリ本年度ニ於テハ前年度ニ引續キ幸松、島川ノ二工場ヲ置キ吉田村上字和田地先權現堂堤防以下豊野、川邊及南櫻井各村地先庄内古川現水路ニ於テ人カヲ以テ土量四萬六千立方米、松伏領、旭及金杉ノ各村地先新水路ニ於テ同七萬二千立方米ヲ掘鑿シ尙數箇所ニ施設セル假締切ヲ除却セリ又築堤ハ前年度ニ引續キ吉田村新水路ノ兩岸ニ施工シ雜工事ハ樋管一、橋梁一、水路附替一ニシテ内橋梁及水路附替工事ハ竣成セリ

權現堂川及島川筋ニ於テハ權現堂川ガ年度内締切完成(三期及江戸川改修施工)セルヲ以テ十二月以降直ニ全川ニ互リ工事ヲ開始シ權現堂川筋ニ於テ土量十九萬八千立方米、島川筋ニ於テ同四萬七千立方米ヲ掘鑿シ雜工事ハ水路掘鑿及水路橋ヲ施工シ後者ハ年度内ニ竣功セリ

本年度ノ功程ハ掘鑿土量三十六萬二千六百七十二立方米此工費五萬六千四百十四圓、築堤土量五千四百二十四立方米此工費一千七百三十六圓、橋梁其他ノ雜工事五箇所、工費六千三十圓、合計工費五萬八千三百八十圓ナリトス

石材斫出事業ハ本改修工事ニ使用スル石材ヲ直營斫出スル事業ニシテ大正五年度迄ハ概ネ銚子及岩舟

産ヲ購入使用セシモ兩地トモ採石規模狹少ナルト運搬能力不充分ノ爲メ動モスレバ納期ヲ遅延シ到底  
所要ニ應スルコト能ハザルヲ以テ同年度ニ於テ栃木縣下都賀郡小野寺村ニ岩舟工場ヲ設ケ其裏山ヨリ  
石材ヲ斫出シ専用軌道ニ依リ之ヲ藤岡町赤麻沼沿岸ニ搬出シ夫レヨリ舟運ニ依リ渡良瀬川及利根川筋  
川俣以下ノ所要地ニ供給スルノ方針ヲ以テ設備ヲ整へ翌六年度ヨリ斫出ヲ開始シタリシガ舟運ノ關係  
上同十年度ヨリ搬出地ヲ石川沼沿岸ニ變更シ續行シ來リ本年度ハ水害復舊用ヲ併セ一萬一千二百二十立  
方米ヲ配送セリ而シテ起工以來ノ總數量ハ二十八萬三千三立方米トナレリ

砂利採集事業ハ是亦本改修工事ニ使用スル砂利ヲ直營採集スル事業ニシテ生産地ノ關係上便宜渡良瀬  
川改修事務所ニ於テ擔當スルコト、シ同七年九月事業ヲ開始シ當初ハ地方採集者ヲシテ請負ハシメシ  
モ到底需要ヲ充タシ難キ狀況ニ鑑ミ同九年度ニ於テ其經營方法ヲ擴張シ思川筋穗積村地先砂利洲ヨリ  
直營採集シ輕便軌道ニ依リ五噸機關車ヲ以テ同村乙女河岸迄陸送シ之レヨリ舟運ニテ所要工區ニ配送  
スルノ計畫ヲ定メ續行シ來リシガ同十二年度ヨリ更ニ高座口迄延長シ渴水期ニ於ケル船積場トシ本年  
度ハ一千五百立方米ヲ配送セリ而シテ開始以來ノ總採集量ハ九萬五千三百一十一立方米トナレリ

本改修工事用諸機械器具ノ製作及修理ハ當初佐原、明戸、栗橋、取手、野田、松戸、龜有ノ七工場ヲ置キ之ニ當ラ  
シメシガ事業ノ竣成ニ伴ヒ漸次閉鎖シ現在ニテハ野田、龜有ノ二工場ヲシテ擔當セシメタル外渡良瀬川  
改修事務所々屬古河機械工場合同修理ヲ爲サシメ年度末ニ於テ精算スヲシテ之ニ當ラシメタリ

本年度利根川改修工事總竣功高ハ百六十五萬八千七百七十七圓ニシテ起工以來ノ累計ハ六千六十八萬四  
千五百六十五圓トナリ之ヲ總工費豫算六千三百四十萬三千百十七圓ニ比較スルトキハ九割六分弱ノ竣  
功トナレリ左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ表中「\*」ハ利用土坪、「x」ハ直營斫出石材及砂利採集使用價額、「△」ハ製

作品使用價額「○」ハ管理者負擔額「△」ハ府縣及捨土出願者提供材料及勞力「◎」ハ縣負擔額「◇」ハ評價品使用價額ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	23,807.655	6,496.903	185.388	351.722	24,661.540	6,848.625	0.97
浚渫	105,453.468	11,760.963	1,380.873	373.777	106,834.281	12,134.740	0.97
護岸及水制	173.017	7.535	3.788	93.745	176.805	101.490	0.87
工事	1.0	4.198	3.0	32.686	4.0	36.884	0.84
費用	53.107	8.699	19.788	19.788	72.895	28.487	0.84
用費	66,335	11,734.301	53.107	8.699	66,388.412	11,743.000	1.00
地障	1.0	2,052.988	1.0	84.575	2.0	2,137.563	0.86
附工	1.0	2,491.122	1.0	31.424	2.0	2,522.546	0.86
直轄施行	1.0	2,491.122	1.0	31.424	2.0	2,522.546	0.86
帶費	4.0	638.986	2.0	176.720	6.0	815.706	0.86
管理者施行	4.0	638.986	2.0	176.720	6.0	815.706	0.86
材料採集費	1.0	1,050.821	1.0	28.087	2.0	1,078.908	0.86
船舶及機械費	1.0	12,713.006	1.0	22,335.733	2.0	35,048.739	0.86
測量費	1.0	954.652	1.0	2,233.573	2.0	3,188.225	0.86
營繕費	1.0	188.847	1.0	5,395	2.0	5,583.847	0.86
雜費	1.0	681.580	1.0	1,944	2.0	2,625.580	0.86
亡失毀損其他	1.0	4,572.622	1.0	197,050	2.0	201,622.622	0.86
合計	282,000	117,343	2,000	40,000	284,000	157,343	0.86

更ニ本表ノ竣工額ヲ各改修別ニ示セバ左表ノ如シ

第一期改修及低水工事

種別		數量	金額	竣功歩合	種別	數量	金額	竣功歩合									
本工事費 築堤 浚渫 特種工事 障害物除却	築堤	三、二一四、七〇六 六九二、四二二	五、一六、一二六	一〇〇	船舶及機械費 測量費 營業費 雜費 低水工事費(諸費共)		二、八七一、七二二 三〇、〇九二 一〇六、二六八 二五四、五四六 六八八、七八五										
	浚渫	二一、四八五、七一五	一、三〇、二〇三	一〇〇						六〇、六八四、五〇六 二五、二三七、一六六 一九、二六三、八七五 一、九一五、五〇五 四、五〇五、五五五							
	特種工事	箇所	二〇、四四六	一〇〇													
	障害物除却	立方米	一〇、一六四	一〇〇													
	地費	一段	二、二五〇	一〇〇													
附工事 直轄施行 管理施行	箇所	四、四六一	四、八七四 一、九六九	一〇〇													
帶費	五	四二、六四八	二〇〇	總計				六、五一九、一五一 一、九六九	一〇〇								
總計	▲○◎□△×	▲○◎□△×	▲○◎□△×	▲○◎□△×	▲○◎□△×	▲○◎□△×	▲○◎□△×	▲○◎□△×									
總計	▲○◎□△×	▲○◎□△×	▲○◎□△×	▲○◎□△×	▲○◎□△×	▲○◎□△×	▲○◎□△×	▲○◎□△×									



第二期改修

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	*	二、九四九、五四四	*	二〇、九六三	*	二、九七〇、三〇七	一〇〇
本工	*	二、二二八、三三三	*	四一、九三一	*	二、二七〇、三〇四	〇・九九
工費	*	八九二、六八一	*	四一、〇〇九	*	九三三、九二九	〇・九九
護岸及水制	〃	一、〇三六、七〇一	〃	五、二四八	〃	一、〇四一、九四九	〇・九九
特種工事	〃	三一九、二六〇	〃	四〇〇、〇〇九	〃	七一九、二六九	〇・九九
障害物除却	〃	三、六五五	〃	〃	〃	三、六五五	〇・九九
用地	〃	二〇、九七七、九四五	〃	〃	〃	二〇、九七七、九四五	〇・九九
附工	〃	四二四、五五一	〃	九五一、一四	〃	五二五、六五五	〇・九九
直轄施行	〃	三九九、二二五	〃	二〇、二七	〃	四一九、二五二	〇・九九
帶費	〃	七二、〇四〇	〃	二、七二〇	〃	七四、七六〇	〇・九九
材料採集	〃	五四、三九三	〃	〃	〃	五四、三九三	〇・九九
船舶及機械	〃	二、四二六、一四七	〃	九、七九三	〃	二、四三五、九四〇	〇・九九
測量	〃	三五七、五八九	〃	三五七	〃	三五七、九四六	〇・九九
營繕	〃	六二、一一〇	〃	一、〇九九	〃	六三、二〇九	〇・九九
雜費	〃	八五、七一八	〃	七九	〃	八五、七九七	〇・九九
亡失毀損其他	〃	一、二五〇、八〇七	〃	二、一〇九	〃	一、二七二、九一六	〇・九九
共濟組合給與金	〃	九	〃	〃	〃	九	〇・九九
退職手当當	〃	五、四五八	〃	一、二五一	〃	六、七〇九	〇・九九
總計	〃	三、五一二	〃	一、二五一	〃	三、五一二	〇・九九
總計	〃	一、三、三八三、四四四	〃	一、七、八、〇〇七	〃	一、三、五、六、二、一五一	〇・九九
總計	〃	三、四、九、二、二五九	〃	二、〇、三、〇、七、七	〃	三、六、五、二、二、五	〇・九九

# 第三期改修

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	※ 二五、〇五〇、八二四	△× 一、三五五、一三五	※ 一四六、七六〇	△× 三七、六三七	※ 二五、〇六〇、二九九	△× 一、三八八、七七二	〇・九九
浚渫	※ 四、一五九、二三五	△× 四、一五九、二三五	※ 一四一、〇七四	△× 一、一五二	※ 四、一五九、二三五	△× 四、一五九、二三五	〇・九九
護岸及水制	※ 一〇八、四一七	△× 二、二六〇、八一三	※ 二八七	△× 一、一五二	※ 一〇八、四一七	△× 二、二六〇、八一三	〇・九九
工事	※ 一〇八、四一七	△× 二、二六〇、八一三	※ 二八七	△× 一、一五二	※ 一〇八、四一七	△× 二、二六〇、八一三	〇・九九
費	※ 一〇八、四一七	△× 二、二六〇、八一三	※ 二八七	△× 一、一五二	※ 一〇八、四一七	△× 二、二六〇、八一三	〇・九九
特種工事	未竣工 一三所	△× 二一九、二二四	竣工 一三所	五、〇〇八	未竣工 一三所	△× 二一九、二二四	一・〇〇
障害物除却	二五、七二九	二、七九四			二五、七二九	二、七九四	一・〇〇
用地	三五、二二七	五、〇九三、八五一			三五、二二七	五、〇九三、八五一	
附工	竣工 六箇所	二二六、八六一	竣工 六箇所	二二六、八六一	竣工 六箇所	二二六、八六一	
直轄施行	竣工 六箇所	二一九、九三〇	竣工 六箇所	二一九、九三〇	竣工 六箇所	二一九、九三〇	
帶費	竣工 六箇所	七二、一六〇	竣工 六箇所	七二、一六〇	竣工 六箇所	七二、一六〇	
材料採集費	○□△×	五五六、二〇一			○□△×	五五六、二〇一	
船舶及機械費	△	三、五七五、六七一	△	一一、八八三	△	三、五七五、六七一	
測量費	△	九七、五四八	△	七七	△	九七、五四八	
營繕費	△	五二、三九二	△	二、三七四	△	五二、三九二	
雜費	△	一八九、五九七	△	二、一九四	△	一八九、五九七	
亡失毀損其他	×	一、三九一、二三九	×	一四、三〇〇	×	一、三九一、二三九	
共濟組合給與金		四六七		六八九		四六七	
		二、五四三		六八九		二、五四三	

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	11,289.94	1,653,740.00	1,663,334.00	291,362.00	13,953.28	1,945,102.00	〇・九〇
浚深	14,413.47	2,900,497.00	1,036,598.00	276,080.00	15,450.04	3,176,577.00	〇・九〇
護岸及水制	38,709.00	962,095.00	1,455.00	27,599.00	40,164.00	1,020,294.00	〇・七〇
特種工事	21.00	199,161.00	2.00	19,375.00	23.00	218,536.00	〇・八〇
用地費	10,765.00	3,288,546.00			10,765.00	3,288,546.00	
附工	3箇所	300,377.00	1箇所	1,380.00	3箇所	301,757.00	
直轄施行	2箇所	19,466.00	1箇所	1,803.00	3箇所	21,269.00	
帶費	2箇所	440,765.00	1箇所	1,550.00	3箇所	442,315.00	
材料採集費		440,227.00		28,087.00		468,314.00	
船舶及機械費		423,323.00		179,661.00		602,984.00	
總計		6,918,669.00		1,506,000.00		8,424,669.00	

江戸川改修

# 中川改修

種 別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合 計		竣 功 步 合
	數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額	
築堤	※ 二、一六、二七六 二、八五、八七〇 四、〇八四、九六九	二六、五五八 一、一七〇、八二八 七五、二三五	※ 二、二七、八四六 二六〇米	一、七六〇 二五五、七六六 二七、七四七 五六七	二、八五、二七六 二、八五、八七〇 四、三一二、八一五	二八、三一八 一、〇二六、五九四 一〇三、九八二	一、〇〇 〇、九五
濬渫	1,100m 1段	四、二六〇	260m	五六七	1,100m 1段	四、八二七	一、〇〇
工事費		一、〇五二、四八五 一、〇五二、四八五 四七、六九二 二五、〇六二	未竣工	七三、二五八 九三、一七七	二、〇五二、四八五 二、〇五二、四八五 四七、六九二 二五、〇六二	一、一、二五、七四三 一、一、二五、七四三 五、六九二 二、〇六二	〇、九一
費用		六、一八、四三五		五六七		六、一八、四三五	
用地費		二、〇五二、四八五 二、〇五二、四八五 四七、六九二 二五、〇六二		七三、二五八 九三、一七七	二、〇五二、四八五 二、〇五二、四八五 四七、六九二 二五、〇六二	一、一、二五、七四三 一、一、二五、七四三 五、六九二 二、〇六二	
附工		九七九、三六〇 七六、一九二〇		四二、二二六 四、二三六		一、〇、二二五 八〇、四二五	
帶費		一、一、三三三				一、一、三三三	
船舶及機械費							

測 量 費	營 繕 費	雜 費	亡 失 毀 損 其 他 費	共 濟 組 合 給 與 金	退 職 手 當	總 計
三七、四八八 七二八	二五〇、三七六 三三六	一、三〇四、五六一	八二	二五、八二五	一、三六五	一五、六六五、二一一 四三三、三三一 一、四一、四七一 四一、四一、四七一 二五、八二五 一、三六五
一、六七四	七、七五二	一、三六、三五二	八、六三〇			一、一、〇〇、三九九 二、〇八、七〇〇、三四九 一、九、〇八三、九六六 一五、九九八
三九、一六二 七二二	二五八、一一八	一、四四〇、九一一				一六、八六五、五六〇 一六、八六五、五六〇 二〇、四二〇、二六六 一、四九、九三七 一六、四二、三五五
〇、九一						〇、九一

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
測量費		△		二四八		七、〇一三 七九	
營業繕費		四九、六二一		一、九一九		五一、五四〇	
雜費		三七、四六九		二五、二九〇		三九、六、七五九	
共濟組合給與金		一〇、七六五		二、八四〇		一三、六〇五	
退職手当當		九七四				九七四	
總計		▲〇◎□△ 四、三〇二 四七九 七九二 五、一〇六 二二〇 三五六 二八六 五九二 七九三		▲〇◎□△ 二〇三、八八四 九三、二七三 二七、七四七		▲〇◎□△ 四、五〇六 五九三 〇九二 一五〇 九二〇 八八六 二九二 一、五〇六 七三六 七三〇 七	〇九七

## 第二 信濃川改修工事

(新潟土木出張所)

### 緒言

本川ハ航路改良及洪水防禦ノ目的ヲ以テ河身工事ハ新潟縣長岡市以下新潟市ニ至ル約七十九軒ヲ工費百九十二萬五千餘圓、砂防工事ハ本川上流長野縣犀曲兩川流域ニ於テ十一萬餘圓、合計二百三萬五千餘圓ヲ以テ明治九年度ヨリ同三十八年度ニ至ル二十九箇年度間ニ於テ一旦施行ヲ了シタルモ尙治水ノ要アルニ依リ更ニ同四十年年度ヨリ大正九年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ工費豫算一千三百萬圓(内新潟縣負擔額三百四十九萬三千圓)ヲ以テ起工セシガ時局ノ影響ト再度ノ地ニ因リ豫算ニ不足ヲ生ジ大正八年度ヨリ同十二年度迄五箇年度間ニ於テ一千十四萬一千九百五圓(内新潟縣負擔額二百五十三萬六千圓)ノ増額ヲ受クルト共ニ施工期間ヲ同十四年度迄繰延ベラレシガ大正十二年九月一日ノ關東大震災ニ依リ更ニ一箇年度ヲ延長セラレタリ然ルニ同十三年十一月前回地ニ箇所ニ於テ第三回ノ地ニ突發シ之ヲ除去スベク更ニ同十四年四月四十萬圓(内新潟縣負擔額十萬圓)ノ追加増額ノ認可ヲ受ケ總工費豫算二千三百五十四萬一千九百五圓(内新潟縣負擔額六百十二萬九千圓)ヲ以テ大正十五年度ニ完成ノ豫定ナリシガ工事ノ都合ニ依リ施行年限ヲ更ニ一箇年度ヲ延長シ昭和二年度ニ竣功セシムルコト、ナレリ本工事ハ左岸新潟縣三島郡與板町、右岸同縣南蒲原郡中之島村以下三島郡寺泊町海岸ニ至ル新水路ノ開鑿竝ニ新潟市信濃川河口ノ改修工事ヲ施行シ洪水ノ汎濫及河口ノ埋塞ヲ防禦セントスルニ在リ

## 河狀竝計畫大要

本川ハ流域面積一萬二千二百六十二平方糎ヲ有シ長野、群馬、新潟ノ三縣ニ互リ幹川流路延長三百六十九糎、航路延長六百九十九糎(内幹川百八十三糎)灌溉面積七萬六千二百二十一ヘクタール(内幹川一萬二千三百三ヘクタール)水害區域六萬二千九百三ヘクタール(内幹川一萬九千八百七十七ヘクタール)ニシテ廣大ナル越後平野ヲ貫流スルヲ以テ灌溉ノ利甚ダ大ナリト雖モ水災亦實ニ甚シキモノアリ彼ノ明治二十九年ノ出水ノ如キハ各所ニ破堤ヲ見、沿岸平野一帶ハ水底ニ葬ラレ被害住民ハ爾來數年間立ツ能ハザルノ疲弊ニ陥リシ事アリ尙本川沿岸ハ惡水停滯ノ害ヲ被ルコト亦大ニシテ明治三十八年ノ如キ格別ノ出水無カリシ場合ニ於テスラ其損害莫大ニシテ中、西南ノ三浦原郡ニ於ケル冠水面積ハ田三萬一千八百四十ヘクタール、畑九千四百六十ヘクタールニ達シ其損害高四百三十六萬四千四百八十六圓ニ及ベリ又信濃川全川ノ大正元年乃至同十年ノ水害損失價額平均年額ハ百八十二萬三千二百八十三圓ニシテ其内大正二年ハ四百三十三萬三千百圓、同三年ハ五百七十二萬七千七百三十三圓、同六年ハ三百四十八萬五千七百九十圓ナリトス

上述ノ如ク惡水ノ被害ニ至テハ殆ンド毎歲脱ガレズ其損害亦實ニ揣ルベカラザルヲ以テ是等ノ除害工事トシテ本工事ヲ計畫セルモノニシテ本川中流部ノ最モ北海ニ接近セル箇所即チ大河津ヨリ寺泊ニ至ル間ニ延長十糎餘ノ一大新水路ヲ開鑿シ本川ノ最大流量毎秒五千五百六十五立方米ノ全部ヲ新川ニ導キ之ヲ北海ニ放流シ大河津以下本流筋五十五糎ニ互ル沿岸一帶ノ水災ヲ根絶セシムルニ在リ而シテ大河津舊川分派口ニハ洗堰ヲ設ケテ航通及灌溉ニ必要ナル平水量ヲ送り且同所ニ閘門ヲ設置シテ航行ノ

便ヲ保タシム其洗堰以下ノ本川水位ハ常ニ低水ニ保タル、結果沿岸破堤ノ害無キハ勿論惡水ノ停滯モ亦改善セラレ從テ本流及支流ノ修堤費ヲ輕減セラルベシ素ヨリ洗堰以下ニモ支川ノ合流スルモノ無キニアラザルモ是等ノ水量ハ本流ニ比スレバ僅少ナルガ故ニ本川ノ流量ヲ絶チタル後ハ何等ノ危懼損失等無ク流下スルヲ得ベク尙從來洪水毎ニ惱メル河口新潟港埋塞ノ患害モ亦改修後ハ大ニ減少スルヲ得ベシ大河津ニ於ケル新川ハ起點十四ヘクタール杭ノ位置ニ於テ堰堤ヲ築キ其高ヲ本川既往ノ流出狀態ニ於テ洗堰以下ニ約每秒四百十七立方米ヲ通ズベキ水位ヲ標準トシテ之ヲ規定シ(高水敷川床以上約一米二)河幅七百二十七米ノ内高水敷ノ部河幅五百四十五米ハ固定堰トシ出水ノ際ハ越流セシメ低水敷幅百八十二米ハ可動堰トシ出水ノ際ハ取拂ヒ得ベカラシム而シテ新川ハ海岸ニ近ヅクニ從ヒ落差ヲ有スルヲ以テ同所以下ハ漏斗形ニ河幅ヲ縮メ海口ニ至リ二百十八米ト爲シ水面勾配ヲ上流ニ於テ二千分ノ一中流ヲ八百分ノ一下流ヲ五百分ノ一トシ堰堤ヨリ上流舊川ヲ利用シ改修ヲ加フル部分ハ三千八百三十六分ノ一ト爲ス而シテ同所ノ河幅ハ舊川ニ準ジ之ヲ定メタリ新川ノ築堤ハ掘鑿土ノ利用上其體積ヲ大ニシ馬踏十四米五兩法二割トシ最高水位以上一米五ノ餘裕ヲ與ヘシメ同水位以上〇米六ノ點迄石張護岸工ヲ施行スルコト、セリ

新潟港ノ改良モ亦河口ノ整理トシテ本計畫ノ一部ニ屬ス本計畫ニ於テハ大河津以下本川ノ高水流量ヲ遮斷セル結果河口ニハ甚シキ濁水ノ流下ヲ見ルコトナク從テ既往ニ比シ埋塞少カルベキヲ以テ河口ニ充分ノ水深ヲ與フルコト、シ幅員百八十二米、水深低水面以下七米六ニ浚濬ヲ加フル計畫ヲ立テタリ又河口ニ於テ左岸舊突堤ヲ増築シ以テ防波防砂及導水ノ目的ニ供セントス

増築突堤ノ總延長ハ一千五百十七米ニシテ之ヲ三箇ノ區間ト頭部トニ分ツ地元ニ近キ區間ハ多少其構



造ヲ異ニセルモ大體一箇ノ重量〇噸五乃至五噸ノ天然石ヲ以テ舊突堤ヲ基礎トシテ上幅九米一、兩側一割五分法ニ高サ低水面ニ達スル山形ヲ造リ其上ニ幅七米三、高三米六ノ混凝土直壁ヲ築造シ更ニ其海側ニ於テハ一箇ノ重量二十五噸及十四噸ノ混凝土塊ヲ投入シテ其全部ヲ包被シ河側ニ於テハ十四噸塊ヲ以テ其一部ヲ包被スルヲ以テ規定ノ斷面トセリ

右ノ外河口工事トシテ突堤根元ヨリ上流一千百八十二米ノ左岸ヲ保護スル爲メ沈床根杭及石張ヲ以テ護岸工ヲ施シ尙西突堤尖端ニ燈臺ヲ新設スルモノトス

## 施工狀況

本工事ハ明治四十年度ノ創業ニシテ起工以來三回ノ地ニト時局ノ影響ニ因ル諸物價ノ暴騰トニ基キ材料勞力ノ供給不如意且手戻工事ノ爲メ不尠支障ヲ招キタリシモ銳意工事ノ進捗ニ努メ掘鑿、築堤、浚渫、護岸、閘門、洗堰、堰堤、突堤、燈臺ノ諸工事ヲ實施セリ本年度モ亦掘鑿、浚渫ニカヲ注ギ浚渫船五隻ト人力トヲ用ヒ工事ノ進捗ニ努メ掘鑿土量二十萬二千九百三十三立方厘米、浚渫土量六十一萬二千八百六十七立方厘米ヲ處理セリ今其施工ノ概要ヲ左ニ記述スベシ

掘鑿工事ハ本年度モ亦主トシテ第三回地ニ箇所ニカヲ注ギ人力掘鑿、出水時ノ搔キ流シ、自然流下ノ三工法ヲ以テ除却ニ努メ土量二十萬二千九百三十三立方厘米ヲ處理セリ

浚渫工事ハ河口ニ於テ、ポンプ式、浚渫船浦賀丸、大坂丸、阿賀丸ノ三隻竝ニ、バケツト式、浚渫船榛名號第五號ノ二隻ヲ使用セルモ浦賀丸ハ七月十二日以降最上川改修事務所ニ貸與シ酒田港ニ廻航セリ又第五號船ハ七月一日伏木港修築事務所ニ所屬換へ伏木港ニ廻航セシ結果年度内ニ於テ僅ニ土量六十萬一千百一

立方米ヲ浚深セリ又上流ナル閘門洗堰前後ハ洪水毎ニ土砂沈滯シ航行及通水ニ支障ヲ來スヲ以テ前年度ニ引續キ「ブリストマン」式浚深船ヲ使用シ一方閘門前面ノ挾隘箇所ハ人力ニ依リ鋤犁ヲ用ヒ搔キ上ゲ作業ヲ爲シ前者ハ六千七百三十一立方米、後者ハ五千三十五立方米、合計一萬一千七百六十六立方米ノ浚深ヲ了セリ

本年度ニ於テハ河口濬筋ノ水深ハ前年度ヨリ引續キ良好ニシテ四月ノ雪解出水期ニ際シテモ五米ヲ示シ其後浚深ノ結果九月二十七日以降年度末迄五米二ノ水深ヲ維持セリ

締切堤防工事ハ大正十二年度迄ニ殆ンド竣功セシモ築設當時本堤中央部前面ニ存セル砂洲爾後漸次流失シ流身ニ變化ヲ來タシ堤防護岸一部ノ基礎洗掘セラル、虞アルヲ以テ割石ヲ投入シテ之ガ安全ヲ期シタリ

護岸工事ハ前年度ヨリ引續キ固定堰下流左岸低水路ニ實施シタリシガ本年度ニ入り其對岸ナル既設護岸工ノ下流高水敷著シク缺壞セラレタルヲ以テ八月ヨリ護岸ヲ二百九十米延長築設ニ着手セリ又渡部橋下流既設床固工左右兩岸ハ激流ノ爲メ侵蝕セラレ漸次擴大ノ虞アリシニ依リ十二月ニ至リ兩岸延長百十五米ノ護岸工ニ着手シ何レモ年度内ニ竣成セリ

堰堤工事ハ前年度ト同様自在堰下流川床異動ノ防止ヲ圖リ捨石二千百四十立方米ヲ投入シ其安全ニ努メタリシモ水勢激甚ノ爲メ動モスレバ捨石ノ流去セラル、ヲ虞レ鐵線蛇籠五百本竝ニ本堰下流幅百八十米ニ對シ既設沈床ヲ距ル二十二米四ノ箇所ニ一格間二米一ノ木工沈床ヲ二通り總數百七十格間ヲ沈置シ何レモ年度内ニ竣功セリ又固定堰下流捨石モ同堰溢流ノ水勢ニ因リ漸次洗掘サレ既設混凝土沈床ニ影響スベキ兆アルニ依リ九百二十八立方米ノ捨石ヲ投入セリ

河口ニ於ケル西突堤工事ハ前年度迄ニ竣功セルモ冬季荒波ノ爲メ捨石ノ沈下移動スルモノ多ク其被害ハ遂ニ直壁ニ及ビ其儘放置セバ突堤破壊ノ危険アルヲ以テ頭部及ビ海側ニ捨石ヲ増補シ且直壁ト海側捨石トノ間隙ニ場所詰混凝土ヲ填充スルコト、シ「ゴライアス」機關車「タイタン」ヲ使用シ捨石一千百九十七立方米及場所詰混凝土百八十立方米ヲ施工セリ

又元付堤ニ接續スル砂濱ノ缺壞ヲ防止センガ爲メ施工セル砂留工ハ前年度ノ冬季間ニ石材沈下シ杭木折レ其被害延長全體ノ約半バニ及ビタルニ因リ更ニ割石三百八十四立方米ヲ投ジ之レガ保護ヲ計リシ爲メ冬季ニ於ケル海岸ノ缺壞ハ防止シ得タルモ本工事ハ沈下破壊著シク殆ンド原形ヲ認メザルニ至レリ

東突堤ハ大正十四年一月一先ヅ竣功シタルモ同年三月末ニ至ル冬季間ニ屢々激浪ニ因リ其先端百七十  
三米ニ互リ破壊セラレ石材散在スルニ至リシヲ以テ之レヲ修理スルコト、シ從前ノ如キ單ナル割石積  
ニテハ再ビ破壊セラル、惧レアルヲ以テ其強度ヲ増サンガ爲メ先端九十米ノ間ハ外部ニ七噸混凝土塊  
ヲ一段若クハ二段ニ置キ其内部ニ割石ヲ填充シ殘部八十三米ノ間ハ割石張リトシ尙ホ先端ヨリ延長百  
二十米間ハ更ニ其上部ニ場所詰混凝土ヲ被覆シ割石ヲ保護スルコト、シ方塊積六百立方米、割石積一千  
五百二十立方米、場所詰混凝土九十八立方米ヲ竣功セシメタリ

分水路口西側ニ於ケル防砂堤工事ハ前年度ヨリ引續キ石材ノ採取ニ努メ本年度ニ於テ二千四百二十立  
方米ヲ採取シ海岸迄凡ソ五十米ノ間ハ「ドコーガイール」ヲ用キ夫ヨリ起重機ニ依リ工業船ニ積込ミ河口  
機械工場ヨリ借受ケタル發動機船ニテ現場ヘ運搬築設スルモノニシテ十一月ニ至リ竣功セリ

採石工事ハ以上諸工事ニ要スル石材ヲ全部野積海岸ヨリ採取シ人力ニ依リ凡ソ一千三百米迄運搬ノ上

直チニ五合積土運車ニ積込ミ機關車ニテ需用現場ヘ配給ス年内ニ採取セシ量ハ一萬四百八十八立方メートル又突堤工事ニ使用ノ割石ハ佐渡郡水津村ヨリ採取シ曳船ヲ以テ運搬セリ其量一千七百立方メートル此外混凝土用砂利ハ阿賀野川ヨリ採取シ川舟ニ依リ新潟迄運搬ス機械工場ハ本年度モ亦渡部河口ノ兩工場ニ於テ專ラ土工器械船舶等ノ修理ヲ爲セリ

附帶工事ハ新潟縣自營ニ係ル郷本川改修工事アレドモ目下工事中ニシテ竣功スルニ至ラズ

本年度ニ於ケル本川竣功額ハ四十五萬四千八百十九圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ二千三百四十五萬二百四十八圓ナリ之ヲ總工費二千三百五十四萬一千九百五圓ニ比スレバ九割九分六厘ノ竣功ナリ其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功額		合計		竣功割合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿	二八、八七三、八〇四 <sup>立方米</sup>	八、一二五、一二六四	二〇、二九三、九三三 <sup>立方米</sup>	七三、二五〇	二八、〇七六、七三七 <sup>立方米</sup>	八、一九八、三七六	—
浚深	八、一八〇、〇〇七	五六七、七八四	六一、二八六、七	七五、二七〇	八、七九二、八七四	六四三、〇五四	—
築堤	—	七八六、九一二	—	五三四	—	七八七、四四六	—
舊堤取拂	—	一一七、三九三	—	—	—	一一七、三九三	—
護岸及水制	—	一五四、〇一六	—	一四、七三三	—	一六八、七四九	—
床固	—	一〇、九五〇	—	—	—	一〇、九五〇	—
閘門	—	二〇八、四三七	—	—	—	二〇八、四三七	—
洗堰	—	—	—	—	—	—	—
防砂堤	—	—	—	—	—	—	—
防波堤	—	—	—	—	—	—	—
本工事	—	一、五六三、四三三	—	一三、四七二	—	一、五七六、九〇五	—
其他	—	—	—	一七、七四七	—	一七、七四七	—
合計	—	二、八四五	—	—	—	二、八四五	—

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功額		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
魚梯		一、三三一一		一、三三一一		一、三三一一	一〇〇
突堤		九五二、〇四八		四八、五九三		一、〇〇〇、六四一	一〇〇
燈臺		一四、一三九				一四、一三九	一〇〇
探石		三四五、九九七		一四、七二一		三六〇、七一八	
運搬		九八、九六六		八、三九一		一〇七、三五七	
自在堰及洗堰運轉		一三、九六八		四、三六九		一八、三三七	
用地費		九三〇、一四七		一五八		九三〇、三〇五	
附帶工事費		七七、九六三				七七、九六三	
船舶及機械費		六、二一八、一六三		八四、五五一		六、三〇二、七一四	
雜費		二、〇九四、七九七		九九、〇三〇		二、一九三、八二七	
退職手当當		五、〇三四				五、〇三四	
總計		二、二九九五、四二九		四五四、八一九		二、三四五〇、二四八	〇、九九

### 第三 吉野川改修工事

(大阪土木出張所)

#### 緒言

本改修工事ハ工費豫算八百萬圓(内徳島縣負擔二百七萬五千圓)ヲ以テ明治四十年年度以降十五箇年度繼續事業トシテ施行シ大正十年ヲ以テ竣功ノ豫定ナリシモ歐洲大戰ノ影響ト追加工事トノ爲メ四箇年度ヲ延期セラレ工費モ亦數回ノ増額アリテ總額一千二百一萬六千二百八十五圓トナリ次デ大正十二年九月關東大震火災ノ不幸アルヤ經費緊縮ノ餘波ヲ受ケテ更ニ一箇年度ノ繰延ヲ爲シ十五年度ニ於テ竣功ノ豫定ナリシモ護岸補修及新堤手入等殘工事完了ノ爲メ猶ホ引續キ明年年度モ施行スルコト、ナレリ

#### 河狀竝計畫大要

本川ハ徳島、高知及愛媛、香川ノ四縣下ニ互ル一大河川ニシテ流域面積三千六百五十平方糎ヲ有シ流路延長一千四百糎(内幹川二百四十糎)航路延長二百四十糎(内幹川百十糎)灌溉面積百三十九平方糎、水害區域二百三十平方糎(内幹川九十八平方糎)ナリトス

河口ヨリ大凡四十一糎ノ地點ナル徳島縣阿波郡林村字西林ハ本川ノ山間部ヨリ平地部ニ移ル處ニシテ同所以上ハ平地無キニ非ラザルモ小區域ニ屬シ水災ノ及ブ範圍亦大ナラザルモ西林以下ハ海口ニ至ル迄平地次第ニ擴張展開シ本川ハ其中間ヲ貫流シ沿岸ハ霞堤若シクハ無堤ノ狀況ナルヲ以テ一朝高水ニ際會センカ上記ノ平野一面ニ洪水汎濫シ非常ノ損害ヲ被ルヲ例トス加之本川ノ流量ハ非常ノ巨量ニ上

リ水勢モ亦急ナルヲ以テ損害ノ及ブ處一層甚シキモノアリ就中麻植郡川島町大字川島附近ニ在テハ對岸ニ善入寺島アリ之ヲ擁シテ本川ヲ兩分シ然モ同島面積四平方糎九ハ頭部ニ水勢ヲ殺グノ堤防アルモ下方ニ堤防無キヲ以テ高水ノ際ハ同島ヲ中心トシテ兩川合同シ茲ニ一大游水部ヲ形成スルガ故ニ同所ノ被害ハ特ニ著シキモノアリ又下流名西郡藍畑村大字第十以下ハ廣大ナル平野ヲ控ヘナガラ河川ハ殆ンド自然ノ狀態ニ放置セラレ適々堤防無キニ非ラザルモ水勢衝突部ニ限ルヲ以テ洪水ハ各所ヨリ浸入シ平野ノ全部ハ浸水ヲ見ルノ狀態ニシテ最近十箇年間ノ水害損失價額平均年額九十四萬四千四百九圓内大正元年二百六十八萬九千五百五十三圓同四年百七萬七千四百一圓ナリ本計畫ハ高水防禦ヲ目的トシテ改修ヲ行フモノニシテ先ヅ河狀最モ不良且水災ノ及ブ範圍ノ廣大ナル第十以下ニ一大改良ヲ加ヘントスルモノナリ即チ別宮川ヲ以テ放水路ト爲スノ案ヲ立テ第十ニ於テ本流ヲ遮斷シ同所以下海口ニ至ル迄十四軒ニ互リ別宮川筋ニ對シ新ニ法線ヲ定メ屈曲ヲ匡正シ河幅ヲ規定ス河幅ハ起點ニ於テ之ヲ七百二十米トシ海口ニ至リテ一千二百七十米ニ擴張スレドモ尙此河幅ニテ規定ノ流量ヲ流下スルニ不足ノ斷面ハ河身ニ竣濶及掘鑿ヲ加ヘ以テ最大流量每秒一萬四千立方米ヲ快疏スルノ河積ヲ具備セシムルモノナリ而シテ別宮川ニ改良ヲ加ヘテ放水路ト爲セシ所以ハ同川ハ第十以下稍直線ニ海ニ通ジ勾配急ナルヲ以テ現狀ニ在リテモ廣濶ナル河幅ヲ有シ河床低ク河積大ナルニ反シ本流ハ迂曲ヲ極メ勾配緩ナルヲ以テ漸次埋沒ヲ來シ河狀不良ナルヲ以テ事實上ノ本流タル別宮川ニ依リテ高水ヲ疏通セシムルヲ適當ト認メタレバナリ然レドモ同川ハ第十堰ノ低水位ヲ絶ツアリテ航行ハ從來本流ニ依リシヲ以テ改修計畫ニ於テモ此點ニ關シテハ既往ノ慣行ヲ保存セシムルコト、セリ但シ現在ノ分流口ハ河床高ク低水ニ於テ淺游ヲ感ジ且航行ニ不便ナルヲ以テ少シク上流ニ之ヲ附換ヘ取入口ニ水門ヲ設ケ洪水時ニ

ハ之ヲ閉鎖スルモノトス併シ全然洪水ヲ遮斷シ低水ノミヲ通ズルトキハ下流ニ於テ鹹水ノ害ヲ醸ス惧レ無キニ非ラザルヲ以テ洪水時ニ於テモ毎秒二百八十立方米以内ノ水量ヲ流下シ其患害ヲ防グコト、セリ

第十ヨリ上流ハ大體ニ於テ現状ニ委ネ舊堤ニハ一齊ニ嵩置ヲ行フモノトス而シテ其霞堤ノ部分ハ地方ノ狀況ニ鑑ミ適宜締切ル事アルベシ又上流水災ノ中心地タル善入寺島ハ之ヲ買收シテ河川敷ニ編入シ障害物ヲ取拂ヒテ游水地ノ作用ヲ完全ナラシメ沿岸竝ニ下流ノ水災ヲ輕減スルノ策ヲ採レリ

第十堰ヨリ上流阿波郡林村大字西林ニ至ル區間ハ當初ノ計畫ニ依レバ左岸柿島村、右岸川島町以下ハ在來ノ堤防ニ對シ擴築ヲ施スコト、ナリ居タルモ無堤地ニ對シテハ上流西林ノ市街裏洪水漲溢部ニ築堤スルノ外何等ノ計畫ナカリシテ以テ洪水ニ際シテハ依然汎濫ニ委スルノ外無キ狀態ナルノミナラズ下流改修部トノ權衡上ニ於テモ相當區間ニ堤防ヲ新設スルト同時ニ右支川田川ノ改修ヲ行フコト最モ緊要ナルヲ認メタルニ依リ之レガ計畫ヲ立テ追加工事トシテ施行スルコト、爲セリ

本川ノ堤防ハ第十以下ハ馬踏ヲ七米三トシ高水位以上二米七ノ高ヲ保タシメ表裏ノ法ヲ三割トシ川裏法ニハ中腹ニ幅一米八ノ小假ヲ設ケ第十ヨリ上流ハ馬踏ヲ五米五トシ高水位以上一米八ノ高ヲ保タシメ兩法ヲ二割トシ川裏法ニハ幅一米八ノ小段ヲ設ク

徳島市ヨリ新町川ヲ經テ新川タル別宮川ニ出デ更ニ榎瀬江古川ヲ經テ板野郡撫養町ニ通ズル航路ハ現狀ヲ維持シ尙洪水ノ際別宮川ヨリ上記兩川ニ對スル浸水ヲ防グ爲メ新堤ノ兩川ヲ横斷スル所ニ水門ヲ設置ス



## 施工狀況

本年度施行ノ主ナルモノハ築堤浚深ノ前年度殘工事ト護岸及舊護岸補修工事ニシテ其他特種工事トシテ第十樋門看守詰所竝ニ新町川樋門外三箇所ニ附屬小屋建設等ヲ施工ス

築堤ハ前年度ヨリノ繼續工事ニシテ本年度ノ初メニ於テ竣功シ是レヲ以テ區域内全築堤ヲ完了ス尙ホ既成堤防ノ内大正十四年九月十八日ノ高水位ノ實況ニ鑑ミ川島山瀬西林ノ各堤高ノ餘裕不足セル箇所ニ對シ嵩置工事ヲ施工セリ

浚深ハ前年度ヨリ引續キ第十運河ニ施行シ略ボ既定ノ功程ヲ舉ゲタルニ依リ本年度ヲ以テ終了ス

護岸工ハ前年度ヨリ繰越ノ新居護岸外九箇所夫々竣功シ本年度著工ノ主ナル護岸ハ川島護岸追補鶴島護岸(第二、第三共)貞方第五、第六護岸、西林第三護岸伊澤第二護岸、上助任第二護岸、東林護岸、其他八箇所ノ内貞方、西林、伊澤等九箇所ヲ竣功ス川島護岸追補ハ川島築堤嵩置ノ結果石張ノ高サヲモ隨ツテ積上ゲノ必要ヲ生ゼシモノナリ東林護岸ハ洪水ニ際シ耕地ハ浸水甚シキニ依リ其水勢ノ衝ニ當ル部分ニ於テ水勢ヲ緩和スル目的ヲ以テ石張堰堤ヲ設クルモノトシ目下準備中ナリ其他ノ護岸ハ洪水毎ニ浸蝕又ハ深掘セラレ崩潰ノ懼レアル箇所ヲ補強ノ目的ヲ以テ施工中ナリ

本年度ハ稀ナル出水ノ少ナキ年ニテ最大洪水ハ七月七日ノ佐野塚量水標ニテ最高水位四米八ニシテ工事上及其他ニ被害ヲ及ボセシ事モナク順調ニ施工シ得タリ

本年度竣功額二十一萬九千三百九圓、起工以來本年度迄ノ累計ハ一千六百七十萬七千九十六圓ニシテ總豫算一千二百一萬六千二百八十五圓ノ約九割七分ニ當レリ其内譯左表ノ如シ但シ「\*」ハ貫土々量ニシテ「□」

「管理者負擔額」ハ無代價品見積價額

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	四、二七八、六九八 六、三五二、七五八	一、六七一、五三二 八、〇四七	一、七七一 四、九六三	二、〇、八三八	四、二九六、三九八 六、三五二、七五八	一、六九二、三二七 八、〇四七	一・〇〇
掘鑿	九、五八七、七九九	九二一、〇九九	四、九六三	二、一七五	九、五九二、七六二	九二二、二七四	一・〇〇
工事	一、七九四、七八〇	二三五、二一四	四、六〇〇米	一、一〇、五五五	一、七九四、七八〇	二三五、二一四	一・〇〇
護岸及水制	三、八、五七〇米	八八一、八〇三	一箇所	三〇、五五	四三、一七一	九九二、三一七	〇・九五
費用	一、一〇三、三〇二	三、七一九	一箇所	一、一〇、三六七	一、一〇三、三〇二	三、七一九	〇・九五
用地	一、一、四六七段	三、二八七、六八二	〇・三三	二、九〇六	一、一、四六七、三	三、二九〇、五八八	一・〇〇
附帶工事	二箇所	二〇八、三二二	一箇所	二、二四、五七三	二、二四、五七三	二〇八、三二二	一・〇〇
船舶及機械	〇	二、一九七、〇九五	〇	二七、四七八	〇	二、二四、五七三	一・〇〇
雜費	〇	八八一、七三九	〇	四三〇、三〇	〇	九二四、七六九	一・〇〇
總計	〇	一、一、三八七、七八七 一、五〇、九〇九 一、六〇、九〇九	〇	二、一九、三〇九 三、一六	〇	一、一、六〇七、〇九六 一、五〇、九〇九 一、七二、二二五	〇・九七

## 第四 高梁川改修工事

(大阪土木出張所)

### 緒言

本工事ハ明治四十年年度ノ創業ニ屬シ大正六年度ニ至ル十一箇年度繼續事業トシテ左岸岡山縣吉備郡總社町字湛井右岸同縣同郡秦村以下海口ニ至ル間ヲ改修スルモノニシテ總工費豫算四百七十八萬三千三百七十圓(内岡山縣負擔百三十七萬一千圓)ヲ以テ工事ニ着手シタリシガ大正五年八月一川主義ヲ採リ一部改修計畫ヲ變更シタル結果吉備郡川邊村地内小田川落口ニ導流堤ヲ築造シ都窪郡中洲村地内ニ山腹ノ切取ヲ必要トスルニ至リタルノ外同年十一月高梁川東西用水組合工事ヲ附帶工事トシテ認可セラルルヤ其一部ハ本省直轄施工トナリシト其外築堤護岸ノ追加施設ヲ必要トスルニ至リタル等ノ爲メ當初豫定ノ工費年限ニテ竣功困難トナリシニ加ヘ偶同六年以來歐洲大戰ノ響増ヲ受ケ物價勞銀漸次昇騰セシヲ以テ同八年四月豫算六十五萬圓ヲ増額セラレタルガ其後物價騰貴ノ爲メ尙多額ノ不足ヲ告グル見込ヲ以テ同十年四月豫算増額施工年度ヲ延長シ現在總豫算七百九十二萬六千八十七圓(内岡山縣負擔二十五萬七千圓)トナリ大正十三年度竣功ノ豫定ナリシモ更ニ大正十二年九月ノ關東大震火災ノ結果一箇年度ヲ繰延ベ大正十四年度末竣功ノ豫定ナリシガ尙少許ノ増工事及附帶工事ヲ施行スルコト、ナリ二年度ノ繰延ベヲ行ヒ昭和二年度竣功ノコト、ナレリ

### 河狀並計畫大要

本川ハ廣島及岡山ノ兩縣ニ亙リ流域面積二千四百八十平方糎有シ流路延長一千百八十糎(内幹川百十糎)航路延長百六十糎(内幹川八十糎)灌溉面積百六十三平方糎、水害區域二百二平方糎ナリ而シテ本川ノ水源地方ハ酸化花崗岩質ノ禿山多キヲ以テ豪雨ノ際ハ土砂一時ニ流下シ流量モ亦甚大ニシテ流路爲メニ埋塞シ諸所破堤ヲ見、沿岸ニ浸水スルコト頗ル多シ彼ノ明治二十六年ノ水害ノ如キハ堤防護岸ノ破損縣費復築費ノミニテモ七十萬圓ニ上リ作物其他ノ諸損耗四百七十萬圓ニ達シ其後同三十二年ニ於テモ亦總額百八十五萬餘圓ノ水害ヲ見タルコトアリ

本改修計畫ニ左記最大高水流量ヲ快疏スルニ足ルノ河積ヲ保タシメ以テ高水ノ防禦ニ備ヘントス  
本流分派點以上

六、四〇〇毎秒立方米

小田川

一、三九〇

分派後ノ本流

六、九六〇

本川ハ河口ヨリ約十二糎ノ地點吉備郡川邊村字南山ニ於テ小田川ヲ合流シ又直ニ山ヲ擁シテ二派ニ分流ス分流後ハ平地最モ多ク其水害ノ及ブ所モ亦甚大ナルニ依リ此部分ノ改修ハ最モ重要ノモノナリトス而シテ分派後ノ河川ニ對シテハ一川主義ヲ採リ西派ハ分流口ニ於テ之ヲ遮斷シ古地以下酒津迄東派ニ依リ酒津以下ハ西派ニ導クコト、セリ堤防ハ努メテ舊堤ヲ利用シ必要ニ應ジテ河幅ヲ擴張シ以テ上記ノ最大高水流量ヲ快疏スルニ足ラシム幅員ハ上流部約五百四十五米、河口一千二百七十米トス支川小田川ニ對シテハ導流堤ヲ築造シ幹川トノ合流點ヲ引下ゲ平水位ノ低下ヲ計ルモノトス小田川合流口ヨリ上流ハ在來ノ儘ニテ相當河積ヲ有スルヲ以テ之ニ依リテ改修ヲ加フルコトトシ舊堤ヲ擴張シ又迂曲甚シキ部分ハ之ヲ矯正シ約五百四十米以上ノ河幅ヲ保タシムルモノトス

堤防ハ馬踏七米二(東派締切堤ハ九米一)川裏法二割五分、川表二割ニシテ川表ニ在リテハ中腹以下張石護岸ヲ施工ス

## 施工狀況

本工事ハ明治四十年年度創業以來本年度迄二十箇年度ノ星霜ヲ經タリ此間施工ノ狀況ニ依リ自ラ之レヲ四期ニ區分スルコトヲ得ベシ則チ

### 第一期

自明治四十三年度

實施上ノ調査期

### 第二期

自明治四十四年度

築堤工事期

### 第三期

自大正九年度

直營附帶工事施工期

### 第四期

自大正十五年度

改修完了期

第一期ハ實施設計資料トシテ專ラ測量調査ニ從事セシニ過ギザルモ第二期ニ至リ本川改修ノ主要工事タル堤防築造ニ着手シ之ガ使用土砂ハ主トシテ河敷内ニ堆積セル土砂ヲ用ヒ概シテ下流ヨリ工ヲ起シ順次上流ニ及ボスコト、セリ堤腹石張竝ニ堤脚護岸ニ用ヒタル石材ハ一部分ヲ購入セシニ止マリ其大部ハ中洲村地内新川敷トナルベキ山嶽掘鑿ヨリ生産セルモノ又ハ工事場附近ヨリ直營採石ニ依リテ得タルモノナレバ極メテ安價ニ且豊富ニ花崗石ヲ使用シ得タルハ他ニ其類例ヲ見ザル所ナリトス本期間末ヲ以テ堤防工事ハ凡ソ九分通りノ成功ヲ告ゲタリ而シテ本川改修ノ主眼タルベキ東派締切工事ハ大正五年十一月附帶工事トシテ認可セラレタル高梁川東西用水組合工事ノ内本省ニ於テ直營施工スルコト、ナリタル數多ノ特種工事ト密接ナル關係ヲ有シ且至難ナル大工事タルノミナラズ其施工箇

所ハ僅々四料ノ範圍内ニ數多ノ建設工事點在シ彼是相關連シテ之レガ施工ニハ定マレル順序アルベキヲ以テ後日ニ讓ルコト、セリ

本改修工事ニ於テ使用スル勞働者ハ主トシテ土着ノ農民ナルヲ以テ從テ勞力ノ供給ハ一年ヲ通ジテ一定セス農ノ繁閑ニ伴ハレテ消長アリト雖モ起工以來概ネ出役人夫ニ不足ヲ訴フルコトナカリシモ歐洲大戰以來勞銀漸騰シテ人夫減少著シキヲ以テ大正六年以來數回ニ互リテ之ヲ増額セシモ元來賃格ヲ以テ直ニ民間營利事業ト人夫職工ノ爭奪ヲ爲スハ到底堪へ得ザル所ナレバ常ニ彼ニ比シ多少低位ニ在リシ爲メ十分ナル人夫數ヲ得ルコト能ハズ殊ニ大正八年度ニ於テハ勞銀ノ昂騰愈甚シク已ムヲ得ズ臨機増額又ハ勤務獎勵法ヲ設ケテ出役ヲ促シタリシモ尙常ニ不足勝ナリシヲ以テ十分ナル工程ノ進捗ヲ見ル能ハザリキ

第三期ニ於テハ酒津以下新川敷内ニ於ケル舊堤取拂山地掘鑿等通水ノ準備ヲ爲スト共ニ專ラ直營附帶工事ノ進捗ニ努力セリ偶々大正九年度初期ヨリ世上ノ景氣ハ急轉シ民業頓ニ衰へ特ニ地方的副業タル花菴賃業甚シク不振ノ状態トナリ出役人夫漸次増加スルニ至リタルヲ以テ一氣呵成ノ方針ヲ採リ銳意事業ノ速成ヲ期シ本期間ノ終リニ於テハ直營附帶工事ハ勿論東派締切堤竝ニ新川敷内掘鑿工事等著シク進捗シ將ニ完成ノ域ニ達セントスルニ至レリ第四期ニ於テハ小田川尻竝ニ乙島導流堤、東高梁川締切堤、山腹切取堤外地掘鑿、各所護岸水制工及附帶工事タル高梁川東西用水組合委託工事ヲ竣功シ僅カニ附帶工事中乙島用水路附換工事ヲ殘シ他ハ全部完了スルニ至レリ

本期間中本年度ニ於テ竣功セルハ下秦水制手入、小田川導流堤増補、乙島導流堤手入及附帶工事ノ東西用水組合委託ノ貯水池、上下堤防増補ノ殘工事ニシテ本年九月ヲ以テ是等全部完了セシメタリ

本年度ノ竣功高ヲ記スレバ護岸百十九米、手入石張工費三千七百九十八圓、其他ヲ合セ四萬六千二百二十七圓ナリトス其工事竣功表左表ノ如シ但シ「※」ハ貫土々量「〇」ハ無代價品見積價額ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩竣功合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	五、六〇一、四〇七 <small>立方米</small> 八、二一六	一、七〇三、七七一 一六、七六四			五、六〇一、四〇七 <small>立方米</small> 八、二一六	一、七〇三、七七一 一六、七六四	一〇〇〇
掘濶	二、三四一、二六九	六九六、三一〇			二、三四一、二六九	六九六、三一〇	一〇〇〇
工事費	四六、九八四	六、三七七			四六、九八四	六、三七七	一〇〇〇
護岸及水制	二四、二六一 <small>米</small>	一、〇〇一、九九一 六八六	一一九 <small>米</small>	三、七九八	二四、三八〇 <small>米</small>	一、〇〇五、七八九 六八六	一〇〇〇
用地	四、六一八 <small>段</small>	一、五二二、二八〇			四、六一八 <small>段</small>	一、五二二、二八〇	一〇〇〇
附帶工事費		一、八〇五、七八九 四六一		三、二七四		一、八四〇、〇六三 四六一	〇・九〇
船舶及機械費		六五八、九五〇		一六七		六五九、一二七	
雜費		三八四、〇〇二		七、九八八		三九一、九九〇	
總計		七、七六九、四七〇 一七、九一一	四六、二二七		七、八一五、六九七 一七、九一一		〇・九九

## 第五 渡良瀬川改修工事

(東京土木出張所)

### 緒言

本工事ハ明治四十三年度ノ創業ニシテ總工費七百五十萬圓ヲ以テ大正八年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ起工セシガ同四年度末ニ至リ第三十七議會ノ協賛ヲ經テ施行年限ヲ二箇年度延長シ年度割ヲ變更シ同五年度以降實施シ來リシガ偶同七年度ニ至リ時局ノ影響ヲ受ケ物價竝ニ勞銀ノ昂騰ヲ來シタルヲ以テ工費八十萬圓ヲ増額シ施行年限ヲ三箇年度延長セシガ爾後物價竝ニ勞銀ノ昂騰益々高潮ヲ來シ既定工費ニテハ到底之ヲ支辨シ難キニ至リシヲ以テ同十年度以降四回ニ互リ更ニ三百十萬圓ヲ増額シ總工費ヲ一千百四十萬圓トセリ然ルニ同十一年度末ニ至リ事業繰延ト共ニ施行年限ヲ一箇年度延長シ同十四年度末ニ於テ更ニ一箇年度ヲ延長シ昭和元年度迄ニ施行スルコト、ナレリ

其區域ハ幹川筋ニ在リテハ左岸栃木縣足利郡毛野村、右岸同縣同郡梁田村以下利根川合流口ニ至ル間、支川旗川ハ右岸同縣同郡富田村、左岸同縣同郡吾妻村以下、支川秋山川ハ左右岸同縣安蘇郡植野村以下、支川思川ハ左右岸同縣下都賀郡穗積村以下支川巴波川ハ左岸同縣下都賀郡寒川村、右岸同縣同郡部屋村以下各渡良瀬川合流口ニ至ル間ナリトス

### 河狀並計畫大要

渡良瀬川ハ源ヲ栃木縣足尾大嶽山ニ發シ足尾、大間々ノ兩町ヲ通ジ下流桐生市ニ至リ桐生川ヲ合セ足利



市以下袋旗、矢場、秋山等ノ支川ヲ合セ藤岡町、海老瀬村ヲ經テ古河町ニ至リ更ニ思川ヲ合シ茨城縣猿島郡新郷村大字中田地先ニ於テ利根川ニ注グ其全流域ハ栃木、群馬、埼玉、茨城ノ四縣ニ互リ面積三千六百八十六平方糎、流路延長八百二十九糎ニシテ(内幹川百六糎)航路延長幹支川ヲ合セテ百三十七糎、灌溉面積一萬九千五百ヘクタール、水害區域四萬五千五百ヘクタールナリ而シテ足利市以下ハ平地部ニ屬スレドモ其上流ハ霞堤又ハ無堤ノ箇所多ク高水毎ニ浸水ヲ免レズ其堤塘アル部分ト雖ドモ甚ダ纖弱ナルト河積狹少ナルガ爲メ一朝洪水ニ際會セバ溢流、崩壞各所ニ起リ頻年水災ヲ釀サバルナク殊ニ下流思川合流部附近一帶ハ利根川ノ逆流ヲ受ケ利根、渡良瀬、思、巴波、各川ノ高水赤麻沼ヲ中心トシテ停滯シ附近一帶ノ平地ヲ水底ニ浸シ堤塘各所ニ破壞シ堤内ノ耕地數萬ヘクタールヲ舉ゲテ泥海ニ化スルニ至ル加之其洪水期間長期ニ互レル爲メ其慘害ノ程度揣リ難キ者アリ今既往大出水ニ於ケル實際ノ被害高ヲ示セバ左表ノ如クニシテ尠クトモ百六十萬圓ヲ下ラザルナリ

明治二十九年	同	三十一年	同	三十五年	同	三十九年
1,611,000 圓		1,150,000 圓		1,840,000 圓		1,650,000 圓

本改修計畫ハ主トシテ高水防禦ヲ目的トシ傍ラ關係地方ノ水利改善ヲ企畫セリ其計畫ニ採用シタル流量ハ本川ニ在テハ毎秒時二千五百立方糎、支川思川ニ在テハ同一千七百立方糎ナリトス毛野村以下藤岡町ニ至ル延長二十糎ノ現川ハ河身迂曲狹隘且兩岸堤外地ニハ土砂洪積シ到底前記ノ流量ヲ疏通スルノ河積ヲ有セズ堤塘亦薄弱ニシテ而カモ各支川ノ流末ハ無堤ノ儘ニ開放セラレ出水毎ニ汎濫、溢流セルヲ以テ改修法線ヲ規定シ河幅ヲ起點ニ於テ百八十二米トシ漸次擴張シテ四百十八米ニ達

セシメ無堤部ニハ堤塘ヲ築設シテ汎濫ヲ防止シ河身ヲ掘鑿シテ適當ニ河積ヲ與ヘ以テ高水ノ疏通ヲ計リ兩岸堤塘ヲ擴築又ハ新設シテ其安全ヲ期シ藤岡町以下ハ迂曲セル現川ヲ廢シ同町高地ノ狹窄部ニ於テ上下二米四ノ落差ヲ有セル箇所ヲ開鑿シテ敷幅百六十四米ノ新川ヲ通ジテ直ニ赤麻沼ヲ中心トセル游水地ニ流下セシムル事トセリ

赤麻沼ハ之ヲ擴張シテ其游水作用ヲ大ナラシムル爲メ舊谷中輪中竝ニ思巴波ノ兩流末ニ於ケル低地部ノ舊堤ヲ撤去シテ游水地域ニ編入シ其周圍ニハ堅牢ナル堤塘ヲ築設シ廣袤三千五百ヘクタールノ面積ヲ包容シ以テ沼ノ最高水位(堀口標五米九四)ニ於テ約一億六千六百九十五萬八千九百立方米ノ水量ヲ收容スルヲ得セシメ利根渡良瀬及思巴波ノ兩支川ノ合同流量ヲ緩和シテ每秒五千五百七十立方米ニ低減スルノ作用ヲ爲サシムル事トセリ之レ蓋シ渡良瀬思等ノ各支川ハ利根川ニ比シ水源近ク其最高水位ハ利根ノ水位未ダ高カラザル間ニ赤麻沼ニ注ギ夫レヨリ利根ニ流下シ後利根ノ高水ハ徐々ニ増嵩シテ赤麻沼ニ逆流シ其偉大ナル自然ノ作用ニ依リテ利根渡良瀬合流點以下ノ流量ヲ輕減セルノ状態ナルヲ以テ此水利關係ニ鑑ミ渡良瀬思兩川ノ高水疏通ヲ速カナラシムルト共ニ赤麻沼ヲ擴張シ以テ其自然ノ調節作用ヲ從來ニ比シ倍々顯著ナラシメ以テ利根ノ流量ヲ緩和シ三川合同流量ヲシテ前記ノ程度ニ止メントスルニ在リ

思川ハ右岸穗積村附近ノ開放部ニ新タニ堤塘ヲ築設シテ汎濫ヲ防止シ其下流間々田町以下法線ヲ規定シテ改修ヲ加ヘ野木村高座口地先以下新水路ヲ開鑿シ巴波川亦部屋村以下新川ヲ開鑿シテ直路赤麻沼ニ導クコト、セリ

古河町以下利根川合流口ニ至ル間ノ渡良瀬川ハ迂曲屈折セルヲ以テ新タニ河幅五百四十五米ヲ有セル

道路新川ヲ開鑿スルコト、セリ之レ破堤防禦ノ外游水地ノ效果ヲ一層有効ナラシメントスルニ在リ  
渡良瀬川及思川ノ堤塘ハ上流部ハ共ニ馬踏ヲ五米五、内外法ヲ二割トシ高水位以上一米五ノ高サヲ保タ  
シメ堤裏ニハ適宜小段ヲ設ケ藤岡以下游水地周圍堤ハ馬踏七米三、外法ヲ三割、内法ヲ二割トシ表裏ニ小  
段ヲ設ケ古河町以下利根川合流口ニ至ル間ノ堤塘ハ馬踏七米三、内法ヲ三割、外法ヲ二割トシ堤裏ニ小段  
ヲ設ケ游水地周圍堤ト共ニ堤高高水位以上一米八ノ高サヲ有セシムルコト、セリ

## 施工狀況

本工事ハ明治四十三年度創業ト共ニ直ニ施工準備ニ着手シ翌四十四年度ヨリ土地買收調査ヲ開始シ以  
後大正五年度ニ至ル六箇年度ヲ經テ殆ンド所要土地ノ買收ヲ了レリ其施工ハ同元年度ニ於テ先ヅ古河  
町以下新川ノ開鑿工事ニ著手シ逐次游水地周圍堤ノ築設及藤岡新川ノ開鑿竝ニ思、巴波ノ新川附替工事  
等主トシテ下流部ニ於ケル諸工事ノ速成ヲ圖リ同五年度ニ至リ古河町以下ノ新川竝ニ高座口以下ニ於  
ケル新思川ヲ貫通シ更ニ同七年度ニ至リ部屋村以下新巴波川竝ニ藤岡新川ノ開鑿ヲ了リ各之レガ疏通  
ヲ見、茲ニ藤岡以下游水地周圍堤及下流部ニ於ケル各重要工事ハ竣功セシヲ以テ其後ハ主トシテ藤岡上  
流竝ニ思川筋高座口ヨリ上流部ニ於ケル諸工事ヲ速進セシメ下流部ノ殘工事及游水地方面ハ同十一年  
度迄ニ於テ殆ンド之ヲ完成セリ

本川上流部ハ同八年度ニ於テ旗川左岸ノ論所開放部竝ニ右岸矢場川流末部ヲ閉塞シ同九年度ニ於テ野  
堀才川ノ二樋門ヲ同十年度ニ於テ尾名出流ノ二樋門竝ニ之ニ接續セル旗川右岸新堤ヲ築設シ同十二年  
度ニ於テ秋山川ヲ附替へ舊川流未開放部ニハ越名樋門ヲ設ケテ之ヲ閉塞シ更ニ同十三年度ニ於テハ支

川袋川ノ逆水門樋及其接續堤塘ノ施工ト共ニ開放部ヲ閉塞シ茲ニ從來無堤ナリシ各支川流末部ハ全部閉塞ヲ了リ本川河身ノ掘鑿兩岸堤塘ノ築設及護岸水制ノ施工等概ネ前年度迄ニ竣成シ整理掘鑿及修補工事ハ年度内ニ於テ全部竣成セシメタリ

思川筋上流部ハ兩岸舊堤ヲ擴築スルト共ニ無堤部ニ新堤ヲ築設シテ溢流汎濫ヲ防止シ主要屈曲部ニハ護岸工ヲ施行シ鹽澤地先逆水門樋ハ同十三年度ニ竣功セルヲ以テ禍根ハ茲ニ一掃セラル、ニ至レリ本改修事務所ハ茨城縣猿島縣古河町ニ設置シ其下ニ工場及數多ノ派出所ヲ置キ各工事ヲ擔當セシメシガ諸工事ノ終了ニ伴ヒ其數減少シ本年度ニ於テハ船津川古河乙女ノ三工場トセリ又改修事務所隣地ニ古河機械工場ヲ置キ本工用諸機械器具ノ製作及修理ニ當ラシメ傍ラ利根川改修工用竝ニ岩舟石材斫出用ニ屬スルモノ、修理及製作ヲ兼行セシメ更ニ砂利採集事業ノ爲メ思川筋乙女地先ニ思川工場ヲ置キ之レガ經營ニ當ラシメタリ

以下少シク本年度内施工ノ狀況ヲ述ベンニ

藤岡新川以下流水地周圍堤及其下流利根川合流口ニ至ル間竝ニ巴波川方面ハ既ニ竣成シ同十二年度以降別途維持費ニ依リ修補工事ヲ開始セル區域ニシテ改修工事トシテハ整理工ニ屬スル巴波川筋ニ於ケル機械浚渫藤岡新川左岸高水敷ノ整理掘鑿竝ニ同川低水路護岸及野木村野渡地先流水地内低水路護岸ノ各修補工等ニシテ是等ハ年度内ニ全部竣功セシメタリ

思川上流部ノ各種工事ハ前年度迄ニ全部竣成セシモ尙右岸間々田村栗宮地先ハ激流ノ爲メ護岸ノ一部崩壞セシヲ以テ杭柵工ヲ施工シ生井村網戸地先屈曲部護岸ハ數次ノ出水ニ基礎沈床缺損シタルヲ以テ修補ヲ加ヘ高座口以下ニ於テハ新川高水敷ノ整理掘鑿ヲ施工シタル外同左岸低水路杭柵護岸ニ修補ヲ

施工シ年度内ニ於テ全部竣成セシメタリ

本川筋上流部ノ主要工事ハ前年度迄ニ全部竣成シ剩スハ堤塘及護岸水制ノ修補竝ニ整理掘鑿等ノミトナレルヲ以テ專ラ之レガ完成ニ努メ上流岩井及勸農以下袋川茂木野田久野渡瀬中船渡下船津川正儀内ノ各地先堤塘ヲ修補シ高橋上野田大川端山王西岡ノ各地先ハ堤敷概ネ砂質ヲ含メルヲ以テ堤内法先杭打工ヲ施行シ全部竣成セシメ右岸大島村左岸植野村植野竝ニ芝原地先高水敷ニ於テ整理掘鑿ヲ施工セリ又左岸界村高山地先ハ一大屈曲部ヲ形成シ且地層ハ硬質粘土ニ富ミ流勢抑壓シテ對岸西岡地先ノ堤塘ニ激突シ危險ナルヲ以テ之ヲ掘鑿シ該突出部中間ニ直路新川ヲ貫通セシメ本流ヲ之ニ導キ河狀ヲ矯正セリ其他支川秋山川下流部兩岸堤塘ノ修補及伊保内竝ニ榎戸地先低水路護岸ノ一部ニ杭柵工ヲ施工シ菊澤川下流部左岸堤塘ノ一部沈下等ヲ修補シ全部竣成セシメタリ

本工事ノ内護岸ノ工法ハ下流部ハ主トシテ基礎沈床法石張工又ハ法留杭打工ニ據リ上流部ハ附近ノ產出物利用ニ努メ鐵線蛇籠或ハ鐵筋混凝土工ヲ併用シ割石ニ代フルニ採集玉石ヲ以テシ其他鐵筋混凝土又ハ古枕木及古軌條ヲ利用シテ水制工用杵材ノ一部ニ供シ古枕木ハ基礎固又ハ柵杭材ニ資スル等利用ヲ講ゼルモノ多シ

本年度竣功高ハ三十七萬八千四百二十一圓ニシテ起工以來ノ累計ハ一千百三十七萬三百三十三圓トナリ總工費豫算一千百四十萬圓ニ對シ僅ニ二萬九千六百六十七圓ヲ剩シ全工事ノ竣功ヲ見ルニ至レリ顧レバ明治四十三年度創業以來年ヲ閱ミスルコト十七箇年其間數度ノ洪水或ハ大震災等ニヨリ甚大ナル被害ヲ受ケ工事進捗上影響セシコト不尠ト雖ドモ終ニ本年度末ニ於テ完成セシメタリ蓋シ改修ノ效果タルヤ獨リ本川ノ高水防禦ヲ全フセシノミナラズ大ニ利根ノ流量ヲ緩和シ復タ往年ノ慘害ヲ見ザル

ニ至レリ之レガ爲メ住民其堵ニ安ンジ從來低濕不毛地トシテ或ハ汎濫地域トシテ放棄シ又ハ脅威ヲ受ケシ原野又ハ沿岸ハ改修ノ跡ヲ追テ生地ト化シ現ニ新更地トシテ算セラル、モノ四千七百ヘクタール(堤塘敷又ハ河川敷地等トシテ買収シタル部分ヲ差引ケルモノ)ニ及ビ地方開發上資スル處極メテ大ナルベシ若シ夫レ交通ノ便ニ至テハ向古河地先ヨリ海老瀬方面ニ連亘セル游水地堤塘ハ縣道ニ兼用セラレ自働車馬車ノ駛走ヲ縱ニシ往時ニ於ケル古河、藤岡兩町間ノ街道ニ比シ轉々憾慨惜ク能ハザル所ニシテ是等交通上將亦産業上國家ニ裨益スル所亦改修工費ノ比ニ非ラザルベシ

左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ表中「△」印ハ製作品價額、「○」印ハ管理者負擔、「□」印ハ評價品價額、「▲」印ハ捨土出願者其他ニ依ル提供價額ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功割合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	1,044,000.00 <small>立方米</small>	1,130,146.74	185,483.00 <small>立方米</small>	95,742.00	1,229,483.00 <small>立方米</small>	1,229,483.00	100%
浚渫	15,518.49 <small>箇所</small>	2,588,402.00	164,179.00 <small>箇所</small>	43,738.00	15,682,678.00 <small>箇所</small>	2,632,140.00	100%
護岸及水制	124.00 <small>箇所</small>	2,697.00	33.00 <small>箇所</small>	170.00	157.00 <small>箇所</small>	2,867.00	100%
特種工事	3.00	1,227,453.00	0.00	115,236.58	3.00	1,342,689.58	100%
用地費	0.00	1,349,008.00	0.00	58.00	0.00	1,349,066.00	100%
附工直轄施行	30.00	2,769,321.00	0.00	0.00	30.00	2,769,321.00	100%
帶費管理者施行	10.00	296,101.00	0.00	0.00	10.00	296,101.00	100%
船舶及機械費	0.00	30,529.00	0.00	0.00	0.00	30,529.00	100%
合計	1,184,134.00	11,738,676.74	185,662.00	500,000.00	1,369,796.00	12,238,676.74	100%

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
測量費		△		△		△	劃分
營業繕費		△		△		△	
雜費		八四、七六五		五、一六六		八九、九三一	
共濟組合給與金		八五九、二二四		五二、六四五		九一、八五九	
退職手当當		八、二二一		二、三〇〇		一〇、五二一	
總計		三、七二四		三、七二四		三、七二四	
	○▲□△	一〇、九九一 二、八九二 三、五七〇 四、七七八	○▲□△	三七八、四二一 二、四七〇	○▲□△	一一、三七〇 二、七五〇 三、八六八	一〇〇

## 第六 北上川改修工事

(仙臺土木出張所)

### 緒言

本川筋ニ於テ曩ニ航路改良ノ目的ノ下ニ岩手縣盛岡市ヨリ宮城縣牡鹿郡石卷港ニ至ル百九十六軒間ヲ工費百二十三萬五千六百五十六圓五十三錢九厘ヲ以テ明治十三年度ヨリ同三十五年度ニ至ル二十三年度間ニ互リテ低水工事ヲ施行シ一旦結了ヲ告ゲタリシガ其後洪水防禦工事トシテ同四十四年度ヨリ大正十一年度ニ至ル十二箇年度繼續工費八百萬圓ヲ以テ左岸宮城縣登米郡錦織村右岸同縣同郡上沼村以下海ニ至ル五十八軒九間ヲ更ニ改修スルコト、シ施行中偶々歐洲大戰亂以後物價騰貴ニ由リ工費二百六十二萬二千圓ヲ増シ合計一千六十二萬二千圓ト爲シ竣功年度ヲ二箇年度繰延べ大正十三年度竣功ノコト、ナリシモ此増額セラレシ大正八年度末期ヨリ更ニ急激ニ勞銀物價ノ昇騰ヲ現ハシ大戰亂ノ終熄後モ著シキ低落ヲ呈セザルニ一方大正九年度ニハ北上川筋二回ノ大洪水アリテ其後全川結氷莫大ナル氷雪ノ流下稀有ノ大雪霖雨等年毎ニ特異ノ天禍ニ襲ハレシ爲メ春秋兩季農繁期以外ノ期間ニ連月工事休止ノ厄ニ罹リ工程ハ豫想ノ半バニ過ギザルノ悲境ニ陥レリ大正十二年度ノミハ上半期ノ稀有ノ霖雨帝都震災ノ一時的工事材料ノ缺乏ニ惱ミタル外ハ下半期ニ於テ天候順調ニ經過シタリシモ過去四箇年度間ノ連續的工事ノ澁滞ハ到底一昨年度即チ最終年度ノ一箇年度ヲ以テ挽回スベクモ非ラザレバ工費ヲ更ニ二百七十萬圓増額シ竣功年度ヲ六箇年度延長シテ昭和五年度迄トセリ斯クテ總工費豫算額ハ一千三百三十二萬二千圓トナレリ



## 河狀並計畫大要

本川ノ流域ハ宮城、岩手ノ兩縣ニ互リ其面積一萬七百十四平方糎ヲ有スル大河川ニシテ流路延長三千七百七十九糎(内幹川二百四十五糎)灌漑面積七百十平方糎、水害區域五百二十五平方糎(内幹川二百十九平方糎)航路延長六百三糎(内幹川二百三十三糎)ナリトス而シテ本川ノ航路ハ北上運河、東名運河、貞山運河等ニ依リ阿武隈川ニ連絡ヲ有スルヲ以テ古來航行ノ便盛ニシテ東北地方ノ一大運輸機關タリ現今鐵道ノ便開ケ稍々不況ヲ呈セシガ如キモ水運ヲ利トスル貨物モ亦少ナカラズ河道ハ幹川、狐禪寺、米谷、和淵等ノ如キ狹隘部アリ狐禪寺ノ狹隘部ハ山間部ニ屬スルヲ以テ破堤無シト雖モ上流部ニ一大湖水ヲ現出シテ沿岸ノ水災ヲ釀シ米谷、和淵ノ狹隘部ハ上流ノ水位ヲ高メ破堤ノ因ヲ爲ス而シテ米谷ノ右岸ニシテ破堤セシカ南方廣大ナル平野ニ瀾漫シ直チニ支川、迫川ノ堤防ヲ突キ沿岸ニ浸水スルノミナラズ逆流シテ其慘害ヲ逞フス又和淵右岸堤ノ破堤ヲ見シカ是亦遠ク南方ニ波及シ且石卷町ヲ襲フニ至ル明治八年以降被害數百平方糎以上ニ達シタルモノ數フルニ遑アラズ尙ホ本川沿岸ハ高水直接ノ結果タル惡水ノ災害モ亦甚ダ多ク其區域登米、本吉、桃生、牡鹿、遠田、栗原ノ六郡ニ達シ就中迫川及江合川沿岸ヲ主ナル被害トス今最近十箇年(大正元年乃至大正十年)ノ水害高ヲ見ルニ一箇年平均二百十七萬五千七百二十五圓ノ多額ニ登リ例令ハ大正二年ノ如キハ損害額八百八十一萬一千三百四十九圓ニ上レリ以テ本川沿岸ノ水害甚ダシキヲトスルニ足ラン

本川改修ノ目的ハ高水防禦ヲ主トシ傍ラ航路ヲ修正シ併セテ惡水排除ノ便ヲ圖ラントスルニアリ而シテ改修計畫ニ採用セル最大流量ハ北上川本流每秒五千五百七十立方糎、迫川同一千二百八十立方糎、江合

川同七百立方米ナリトス

計畫ノ主トスル所ハ本吉郡柳津町ニ於テ本川ヲ締切リ同所以下之ヲ合戦ヶ谷ニ附替ヘ飯野川町地先ニ於テ追波川ニ合セシメ以下追波川ニ改修ヲ加ヘ以テ之ヲ本流タラシメントスルニアリ斯クスルトキハ柳津町以下舊川沿岸ニ於ケル廣大ナル平野ノ浸水ヲ根絶シ又舊川ニ合流スル迫及江合兩川ノ高水流下ヲ急速ナラシメ同川沿岸ノ水災ヲ輕減スルト同時ニ惡水排除ヲ快クスルノミナラズ航路ノ改良ヲ見ル等各種ノ利益ヲ得ベケレバナリ

柳津町以下新川ニハ最大流量五千五百七十立方米ノ内四千七百三十立方米ヲ通ズルノ河積ヲ保タシムルモノトシ新川河幅ハ柳津町ニ於テ四百四十五米四分トシ合戦ヶ谷ニ於テ二百九十米九分乃至四百四十五米四分トス合戦ヶ谷新川部ノ兩岸山麓ニ接スル所ハ築堤ヲ要セザレドモ平地部ニハ築堤ヲ爲シ中央ニ百九米一分乃至百四十五米四分ノ開鑿ヲ施シテ流積ヲ與フ飯野川町地先ニ於テハ新川殆ンド直角ニ廻轉シ追波川ヲ利用シテ東方ニ向フ同所以下ノ河幅ハ四百五十四米五分乃至七百二十七米二分ニシテ築堤ヲ施シ浚渫ヲ行ヒ所要ノ河積ヲ與フルモノトス而シテ追波川右岸二俣村地先ニハ延長五千四百五十四米ノ運河ヲ設ケ其下流端ニ舊川ト航路ノ連絡ヲ保ツ爲メ閘門ヲ設置ス

柳津町舊川分派口ニハ閘門ヲ設ケ以テ既往航行ノ便ヲ失ハザラシメ又洗堰ヲ設ケテ平水量(百三十立方米)ヲ送り以テ航路ヲ便ニシ且高水時ニハ本川最大流量五千五百七十立方米ノ内八百四十立方米ヲ分疏ス

柳津以下石卷ニ至ル舊川筋ハ航路ヲ維持スル爲メ浚渫又ハ低水工事ヲ行ヒ流末石卷ニハ突堤ヲ築キ浚渫ヲ施シテ濬筋ヲ設ケ航行ノ便ニ供セントス

柳津町ヨリ上流國境改修起點迄ハ日根牛ノ如キ狹隘部ニ限り引堤ヲ爲シ河幅ノ擴張ヲ爲スノ外河狀ヲ  
現狀ニ委ネ舊堤ヲ増築スルニ止メタリ

築堤ハ馬踏七米三分乃至十四米六分ニシテ表裏トモ二割法トシ高水位以上一米二分乃至一米五分ノ高  
ヲ有セシメ水勢ノ衝突スル部分ハ場所ニ依リ三割法ト爲シ且張石護岸ヲ施工ス

## 施工狀況

前年度ヨリ引續キ天候良好ニシテ特ニ本年度ニ入りテハ出役人夫潤澤ナルヲ得各工事ノ進捗著シカリ  
シガ例年ノ春秋農繁季ニ於ケル外本年度ハ夏秋ノ候降雨打續キシ爲メ休業日數意外ニ多ク且又冬季嚴  
寒ノ際ハコンクリート工ヲ休止セル等ニ由リテ工程ヲ阻碍セラレタリキ

浚渫工ハ本年度初メヨリ追波川筋下流部ヨリ舊堤撤去ヲ開始セシタメ稍々活況ヲ呈セリ

掘鑿工ハ前年度同様ニシテ特記スベキモノ無シ

排水路工事モ前年度ニ引續キ施工シタルニ過ギザルモ皿貝川ノ開鑿ハ本年度ニ於テ全川ニ互リ概略竣  
功スルヲ得タリ

築堤工ノ内新川筋竝ニ追波川筋上端ニテハ前年度同様施工中止ノ儘ナルモ右岸大森、福地間ハ前年度ニ  
引續キ施工シ其下流大川村横川地内ノ築堤工事ハ本年度ニ於テ再始セリ右岸流末釜谷地内築堤工事ハ  
本年度ニ於テ全部ノ竣功ヲ見タルモ對岸十三濱村追波地内ノ分ハ又モ次年度ニ繰越トナレリ

嵩置工事ハ前年度ニ於テ全部竣功シ爾後何等異狀無キモ柳津、登米兩町其他人家ニ接セル箇所ニ櫻樹ヲ  
植付ケアルヲ發見シ之ガ除去ヲ通牒セリ

洗堰閘門工事ノ内鵜波洗堰ハ將來高水ノ一部ヲ溢流セシムルノ必要生ジタルガ爲メ本體ノ一部ヲ改造スルコト、ナリ本年度ヨリ其準備工事ヲ施行セリ

脇谷洗堰閘門ハ前年度ニ引續キ施工シ累計約三分ノ一ノ竣功ヲ見、福地閘門モ同様ニシテ約二分ノ一竣功セリ

水門工事ノ内月濱水門ハ前年度ニ引續キ施工セシガ本年度内ニ大部分竣功スルヲ得タリ  
前年度ニ着手セシ床固工新川可動堰ノ建設工事ハ諸材料ノ蒐集順調ニ進捗シ既定計畫ノ内約二分ノ一丈ケ竣功セリ

北上川河口突堤ハ前年度同様既設部分ノ補修ヲ施工セシニ過ギズ航路ノ状態ハ年度内増水ノ著シキモノ無ク波浪モ亦大ナルモノ無カリシ爲メ稀有ノ良好状態ヲ呈シ出入船舶ノ噸數漸次増大シ遂ニ四百噸級貨物船ノ寄航ヲ見ルニ至レリ

本年度工費ハ竣功額五十三萬二千七百七十一圓、起工以來ノ累計額一千二百二十六萬六千九百十六圓ニシテ總豫算一千三百三十二萬二千圓ニ對シ八分五厘ノ竣功ニ當ル而シテ前年度迄及本年度ノ竣功高ヲ示セバ次表ノ如シ但シ前年度迄竣功高中船舶機械費ニハ大正十二年度迄千住機械工場へ委託製作セル機械類ノ竣功額二萬一千三百六十圓ヲ含ム

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘	立方米	三、八四八、五七一	立方米	一一一、四九八	立方米	三、九七〇、〇六九	別分
		八五六、八二八		四五、〇四三		九〇一、八七一	〇・七三
費事		一、七二〇、四一九		四八、二七〇		一、七五八、六八九	〇・九八
		七、八五三、二二二		一三七、九六六		七、九九一、一七八	

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	5,881,435	511,554	80,398	18,740	5,961,833	530,294	0.97
堤防	992,058	305,946			992,058	305,946	
堤嵩置	1,269,432	688,459	65,699	15,048	1,335,131	703,507	
排水路		340,532		90,894		431,426	
洗堰及閘門		28,443		138,053		166,496	
床固		48,306		8,011		56,317	
護岸		303,717		7,584		311,301	
突堤		124,732		21		124,753	
水門		1,113,041		7,322		1,120,363	
用地費		43,640		7,322		50,962	
附帶工事補助費		3,257,941		63,692		3,321,633	
船舶及機械費		20,098		1,218		21,316	
測量費		164,795		3,610		168,405	
營業繕費		1,196,595		79,578		1,276,173	
雜失費		1,446				1,446	
共濟組合與金		17,997		5,086		23,083	
退職手当當		256				256	
總計		10,734,745		532,171		11,266,916	0.85

## 第七 荒川改修工事

(東京土木出張所)

### 緒言

本工事ハ分チテ上下流ノ二工事トス即チ下流工事ハ當初明治四十四年度ヨリ大正九年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費一千二百萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ同五年度ニ於テ施行年限ヲ三箇年度延長スルト共ニ總工費ヲ一千五百十萬圓ニ増額シ施行中ノ處同七年度以降時局ノ影響ニ因リ諸物價及勞銀昂騰セシヲ以テ同八年度ニ於テ七十四萬四千圓、同九年度以降ニ於テ時局ニ因ルモノ、外一部追加設計ノ必要ニ依ル工費トヲ合シ五百八十八萬五千圓ヲ増額シ同十年度ニ於テ百四十萬圓、同十二年度ニ於テ六百一萬五千圓ヲ増額シテ總工費ヲ二千九百十四萬四千圓トシ施工年限ヲ三箇年度延長シ昭和元年度迄十六箇年度繼續事業トシテ施行スルコト、ナリシガ財政上ノ都合ニ依リ大正十四年度以降年割額ヲ變更シ施行年限ヲ一箇年度延長シ昭和二年度迄ニ施行スルコト、ナレリ其區域ハ左岸埼玉縣川口町右岸東京府下岩淵町以下海ニ至ル延長二十三軒六ノ間ナリトス

上流工事ハ大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費豫算一千四百萬圓ヲ以テ施行中ノ處是亦時局ノ影響ニ因リ當初ノ豫算ヲ以テ到底遂行シ能ハザルガ故ニ大正十二年度以降ニ於テ工費一千萬圓ヲ増額シ施行年限ヲ五箇年度延長シ昭和七年度迄十五箇年繼續事業トシ總工費二千四百萬圓ヲ以テ施行スルコト、ナリシガ財政上ノ都合ニ依リ大正十四年度以降年割額ヲ變更シ施行年限ヲ更ニ五箇年度延長シ昭和十二年度迄ニ施行スルコト、ナレリ

其區域ハ埼玉縣大里郡武川村以下同縣北足立郡川口町ニ至ル延長六十二軒三及支川入間筋左岸同縣比企郡伊草村右岸同縣入間郡山田村落合橋以下合流點ニ至ル五軒九同支川新河岸川筋同縣北足立郡新倉村地内ノ現在荒川合流點以下東京府北豐島郡岩淵町水門下ニ至ル新水路十一軒一ノ間ナリトス

### 河狀並計畫大要

本川ハ其流域埼玉及東京ノ兩府縣ニ跨リ面積凡三千百平方軒(内支川入間川七百八十平方軒、新河岸川三百四十平方軒)流路延長百八十軒(外入間川九十八軒、新河岸川二十八軒)ヲ有シ關東平野ノ中央ニ當レルヲ以テ其概半タル一千六百平方軒ハ平坦ナル沃野ニシテ本川ニ依リ灌溉スル水田約一萬二千ヘクタールニ達ス而シテ本川ノ出水ハ主トシテ夏季豪雨ニ起因シ其流量頗ル大ニシテ出水急ニ減水緩ナルヲ以テ沿川地方ノ被害ハ年々巨額ニ上リ其上流改修區域ノミヲ舉グルモ水害區域實ニ五萬七千ヘクタールニ達シ無堤地ノ冠水ハ勿論或ハ堤防ヲ破壞シ冠水十數日ニ互ルノミナラズ決水ハ滔々武藏野ノ平野ニ漲リ東京市本所深川ト中川トノ中間ニ流來シ下リ時ニ利根川ノ汎濫ト合シ遂ニ帝都ヲ襲フコトアリ其水災關係ノ重大ナルハ推シテ知ルベキナリ

本川ハ源ヲ甲武信嶽ノ東坂ニ發シ諸所盆地ノ水ヲ集メ東流スルコト約六十軒埼玉縣秩父郡樋口村ニ至リ盆地東嶂ノ斷層谷ニ隨テ漸ク武藏野平野ノ西北隅ニ出ヅ是ヨリ東流約三十軒ニシテ上流改修ノ起點武川村ニ至リ茲ニ兩岸漸ク平夷トナリ廣潤ナル川敷ヲ占有シテ亂流トナリ始メテ兩岸ニ堤塘ヲ見ルベク下リテ久下村附近ニ至レバ堤内ノ耕地却テ河床ヨリ低キ處アリ一朝破堤センカ洪水ハ元荒川筋ノ低地ニ奔流シ埼玉縣過半ノ平野ヲ浸シ餘勢遠ク東京附近ニ達ス吹上村ヲ過グルニ及ビ水流ハ漸ク其勢ヲ

失ヒ低水路ハ茲ニ一定シ幅員六七十米ヲ保ツモ高水敷ハ益々其幅員ヲ擴大シ平方村ニ至ル間廣キハ二千七百米狹キモ尙一公里ヲ下ラズ而シテ低水路ニ沿ヒ別ニ畑園ノ小堤ヲ設ケ小洪水ノ汎濫ヲ防グリ田間宮村以下左岸一帶ハ丘陵起伏シ浸水深ク内ニ及バズト雖ドモ右岸ハ比企郡一帶ノ低地ヲ控ヘ破堤ノ災ヲ被ルコト頻繁ナリ夫レヨリ平方村ニ入り入間川ヲ合シテ後ハ緩流トナリ迂曲益々甚シク低水路ノ幅員ハ九十米ナリト雖モ高水敷ハ愈濶ク一千百米乃至三千三百米ニ達ス是ヨリ以下兩岸共ニ堤防アレドモ右岸新河岸川合流點以下ハ武藏野ノ高臺近ク迫リ岩淵町ニ至ル間ハ概ネ無堤ナリ而シテ前記久下村以下本川ノ堤外地ハ頗ル廣漠トシテ田園開ケ村落散在シ樹林畑園等ヲ繞ラシ僅ニ一條ノ低水路ヲ通ジ恰モ原始的河川ノ状態ニ在ルヲ以テ游水地トシテハ其効頗ル大ナリト雖モ高水ノ疏通ニ關シテハ支障尠ナカラザルナリ

河狀如斯ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ上流部ハ現在堤外游水地ノ大勢ヲ保有セシメ新ニ水路ヲ開鑿シテ流水ノ疏通ヲ計ルト共ニ低水路ノ屈曲ヲ矯正シ下流々量ノ調節ニ努メ下流部亦高水防禦ヲ目的トスレドモ傍ラ水利ノ改善ヲ計リ第一期計畫ニ於テハ利害關係ノ最モ重大ナル川口町鐵道橋以下海ニ至ル二十三軒六ヲ改修セントス

下流改修計畫ノ主眼トスル處ハ川口町以下現川外ニ一大放水路ヲ開鑿シ高水ヲ防禦セントスルニ在リ蓋シ本計畫ニ依ルトキハ帝都ヲシテ洪水ノ範圍外ニ立タシメ又現川(川口町以下)竝ニ其川口ニ於ケル土砂ノ埋塞ヲ輕減シ航路ノ改良ヲ企圖シ得ベキ外沿岸人家櫛比ノ現川ニ改修ヲ加フルノ不利ヲ避ケ得ベケレバナリ

本計畫ニ採用シタル最大流量ハ每秒四千七百七十立方米ニシテ尙非常出水ノ場合ハ每秒五千五百七十立



方米ヲ流下シ得ルモノトシ該流量ノ内八百四十立方米ヲ岩淵町以下ノ現川ニ流下セシメ殘餘ハ新ニ開鑿スル新川ニ放流セシム蓋シ現川ニ於ケル上記流量ハ新ニ築堤ヲ行ハズシテ汎濫ヲ見ルコトナク流下シ得ベキ適量タレバナリ

放水路トシテ開鑿スル新川ハ新荒川ト假稱シ川口町鐵道橋以下現川ノ左側ニ沿ヒ千住町ノ北端ヲ過ギ國有鐵道常磐線及私設東武鐵道線路京成電車軌道ヲ横斷シ奥戸村ノ南端ニ至リ更ニ總武鐵道線ヲ横斷シ之ヨリ一大彎曲ヲ爲シテ中川口ニ注ガシム其河幅ハ起點ヲ四百五十四米河口ヲ五百八十二米トス新荒川ニ依テ横斷セラル、綾瀨川ハ新荒川ノ左側ニ沿ヒ中川ニ落シ中川ハ又新荒川ノ左側ニ沿ヒ海ニ通ゼシム而シテ綾瀨川ヨリ隅田川ニ通ズル般路又平井ニ於ケル舊中川ノ新荒川兩岸堤ニ依リ横斷セラル、箇所及小名木川ヨリ江戸川ヲ經テ利根運河ニ通ズル航路ナル新川(船堀川)ノ新荒川兩岸堤ニ依リ遮斷セラル、處ニハ水門又ハ閘門ヲ設置ス又右岸岩淵町現川分派口ニハ水門ヲ設置シ平時ニハ平水量ヲ通ジ高水時ニハ規定ノ流量以內ヲ通ゼシム又必要ノ場合ハ同所ニ閘門ヲ設ケ如何ナル出水時ニ於テモ既往航行ノ便ヲ保タシメントス分派口以下ノ現川ハ一部附替ヲ要スル所アルモ大體舊態ニ依リ幅員ヲ上流部百九米下流部百四十五米ト規定シ流路ニ修整ヲ加フルノ外上述ノ如ク築堤ヲ行ハズ新荒川ノ堤防ハ掘鑿土ノ處分上其體積ヲ大ニシ右岸堤ハ帝都ヲ防護スル關係上特ニ堅牢ヲ期シ馬踏十四米五外法三割内法二割ト爲シ馬踏ヲ下ルコト一米八ノ處ニ三米六ノ裏小段ヲ附ス堤高ハ計畫高水位以上約二米ヲ保タシメ非常出水時ニ對シテモ尙一米内外ノ餘裕ヲ存セシム左岸堤ハ馬踏十米九ニシテ法及小段堤高等凡テ右岸堤ニ同ジ

綾瀨川堤防ハ馬踏五米五馬踏ヨリ一米八下リニ一米八ノ裏小段ヲ附シ中川堤防ハ馬踏七米三ニシテ小

段ヲ附セズ兩川トモ内外法何レモ二割トス

上流改修ノ計畫流量ハ每秒五千六百立方米ト定メ廣濶ナル游水地ヲ有スル河狀ニ鑑ミ下流ニ至ルニ從ヒ游水地面積ニ約比例シテ漸次遞減シ赤羽鐵橋下ニ至リ每秒四千七百七十立方米トナリ下流改修區域ニ入ルモノトス而シテ計畫高水位ハ既往ノ最大洪水タル明治四十三年及大正三年ノ水位ヲ標準トシテ新河道ニ要スル河積ヲ算定セリ

低水路ハ大體其現狀ヲ存置シ屈曲甚ダシクシテ水流ヲ阻碍シ河岸ノ維持困難ナル所若クハ新高水敷ヲ別ニ選定シタル所ハ新ニ之ヲ開鑿ス其幅員ハ大體現狀ニ法リ入間川合流點ノ上流部ハ五十五米、同下流部ハ七十米乃至九十米ト定メタリ

高水敷ハ大里郡久下村(右岸同郡市田村)以下田間宮村ニ至ル間ハ現低水路ヲ挾デ幅員三百米乃至四百五十米、田間宮村以下平方村ニ至ル間ハ低水路著シク曲折シ其兩岸高キヲ以テ新河道ハ之ヲ左岸高臺沿ヒノ低地ニ移シ四百五十米ト爲シ東吉見村地先ニ於テ新堤ヲ築設スル部分ハ特ニ之ヲ五百五十米ニ擴大セリ入間川合流點(平方村)以下ハ新川敷ノ幅員ヲ五百五十米ト定メ土合村(右岸宗岡村)ニ至ル間ハ大體現低水路ニ隨フト雖モ其間馬宮村附近ニ於テハ屈曲急ニシテ且河岸地高キヲ以テ左岸ノ低地ニ川敷ヲ選定シ土合村以下ニ於テハ低水路ノ屈曲愈々甚ダシク之ニ沿フテ適當ナル川敷ヲ索ムルコト難キヲ以テ堤外地ノ地形ニ從ヒ新ニ川敷ヲ選定シ笹目村以下ハ上流游水地ノ調節ニ依リ流量著シク緩和サレ更ニ游水地ノ必要ナキヲ以テ掘鑿ニ依リ十分ナル河積ヲ與ヘ河幅ヲ一定シテ五百五十米ト爲シ新堤ヲ築キテ川口町(右岸岩淵町)ニ至リ下流改修堤塘ニ接續セシム堤外ノ田圃及濕地ハ新高水敷ノ開鑿ニ依リ排水ヲ良好ニシ浸水ノ機會ト期間トヲ著シク減少セシムベシト雖モ猶溢水ノ流勢ヲ殺ギテ耕宅地ヲ保護シ

流水ヲ河心ニ集注セシメンガ爲メ流勢ノ強弱堤外地ノ廣狹等ヲ參酌シテ横堤ヲ適當ノ間隔ニ築設シ改修ノ效果ヲ全フセントス

支川入間川ニ在リテハ植木村地先ハ新ニ堤塘ニ依リテ圍繞セラレ河積ヲ縮少スルヲ以テ芳野村以下平方村ニ至ル間ハ低水路ヲ挾テ幅員百八十米ノ高水敷ヲ低水位上一米八ニ堀下ゲ疏通力ヲ増大セシム支川新河岸川ハ現在ノ合流口ヲ遮斷シ荒川ノ新堤ニ沿ヒ新タニ新川ヲ開鑿シテ之ヲ導キ下流岩淵町地先岩淵水門下ニ於テ新隅田川(舊川)ニ合流セシメ荒川ノ高水ト全ク絶縁シ逆流ノ患ヲ除キ同沿岸惡水ノ排除ヲ容易ナラシメ併セテ水運ノ便ヲ増進セシム

堤防ハ大部分舊堤ノ擴築ニシテ在來無堤ノ部分及新ニ高水敷ヲ選定セル一部ニハ新堤ヲ築造ス堤形ハ兩者共馬踏七米五(入間川筋ハ六米五)兩法二割五分ニシテ堤頂ハ計畫高水位上美谷本村附近ヨリ上流ハ一米八、同下流ハ二米一タラシメ堤頂ヨリ一米八下リテ川裏ニ幅三米五ノ小段ヲ設ケ小段上法ヲ二割トス横堤ハ馬踏六米乃至七米五、兩法二割ニシテ頂ハ高水位上約一米ト爲シ突端ハ三十分ノ一勾配ヲ以テ高水敷ニ傾斜セシムルモノトス

## 施工狀況

本工事ノ先ヅ下流ヨリ述ベシニ明治四十四年度ニ於テ創業直ニ所要土地ノ買收ヲ開始シ大正二年度ニ至リ一部買收済ノ箇所ヨリ工事ニ著手シ爾來孜孜トシテ其進捗ヲ圖リシモ用地買收未済箇所各所ニ點在セルト改修區域内ニハ常磐、東武、總武ノ三鐵道及京成電氣軌道ノ横過セル在リ且帝都連亘ノ樞要道路無數ナルガ爲メ施工區域ヲ極限セラレ隨所ニ著手シ得ザリシガ其後買收ノ進ムニ隨ヒ漸次工事ノ進捗

ヲ見ルニ至レリ然レドモ尙一部買收不承諾者アル爲メ是等ハ同五年十一月土地收用審査會ノ裁決ヲ求メ同六年五月其決定ヲ受ケ爾來銳意進工中同年十月一日竝ニ翌七年九月廿四日ノ暴風竝海嘯襲來シ船舶及機械ノ毀損又ハ流失ヲ見更ニ同十二年九月一日ニ於ケル大震災等ノ被害アリ事業ノ進捗ヲ阻碍セラレタルコト尠カラザリシモ努メテ豫定ノ進工ヲ圖リ前年度迄ニ築堤土量一千百四十五萬五千二百六立方米、浚渫土量一千九百七十六萬五千六百十四立方米、護岸及水制十一箇所、特種工事六箇所、附帶工事十二箇所ヲ竣功セリ

高水調節ニ關シテハ曩ニ述ベタルガ如ク同十三年九月ノ洪水ニ際シ初メテ岩淵水門ノ調節ニ依リ洪水ヲ新荒川放水路ニ流下セシメ同水門下流舊川ハ勿論上流部ノ水害ヲモ併セ輕減シ得タリ爾後數次ノ出水アリシモ下流荒川、綾瀨、隅田、中川及木下川各水門ノ開閉ト相俟テ舊川筋ノ高水ヲ調節シ荒川改修工事ノ偉大ナル效果ヲ實現セリ目下新荒川ノ浚渫及護岸工事ヲ進メ益々高水ノ疏通ニ努メツ、アリ本工事事務所ハ明治四十四年度創業當時東京府下千住町ニ設置シ其下ニ工場及派出所ヲ置キ工事ノ施工監督ヲ爲サシメシガ現在ニ於テハ岩淵、綾瀨、砂町ノ三工場及六派出所ニテ各工事ヲ分擔セシム又本工事事務所用諸機械器具ノ製作及修理ハ改修事務所隣地ニ千住機械工場ヲ置キ之ニ當ラシメシガ大正七年九月同工場ハ獨立シテ内務省千住機械工場ト改稱シ他川ノ製作及修理ヲ併セ施工スルコト、セリ而シテ同十二年七月再ビ當所ノ所管ニ移リ當初ノ如ク作業スルコト、ナレリ

今本年度施工ノ概況ヲ述ベシニ浚渫工事ハ千住、吾嬭、小松川、船堀第五、砂町第一(以上新荒川)堀切(新綾瀨川)葛西第一、松江(以上新中川)岩淵王子、閩(舊川)ノ九箇所ニシテ鋤簾式唧筒式及プリストマン式各浚渫船ニテ作業シ掘鑿工事ハ川口第四、綾瀨川右岸、新荒川右岸、高水敷整理地均以上新荒川(新川)新中川ノ四箇所ニシ

テ人力ニ依リ各施工シ其土砂ノ半ハ高水敷低所及廢川敷ニ殘餘ハ民有地理立ニ捨土セリ其浚渫竝ニ掘鑿土量九十萬七千二百六十八立方米ニシテ工費十六萬九千九百二十四圓(外ニ捨土出願者提供材料及勞力費十八萬三千六百十九圓)ヲ支出セリ築堤工事ハ川口第一、同第二、吾嬭堤防補修、小名木川以上新荒川ノ四箇所ヲ施工シ延長四百四十二米ヲ完成シ工費一萬三千九百十五圓(外ニ捨土出願者提供材料及勞力費四千四百四十圓)ヲ支出セリ

護岸及水制工事ハ本宿、岩淵、南平柳、假護岸、熊ノ木、綾瀬小路、隅田水路、新荒川、左岸堤端以上新荒川、新中川、左岸堤端、新中川、岩淵水門、下流、左右岸、下村以上舊川ノ十一箇所ヲ施工シ工費十三萬一千七百四十三圓(外ニ捨土出願者提供材料及勞力費三萬九千八百八十四圓)ヲ支出セリ

特種工事ハ小名木川、關門一箇所ニシテ工費一萬百三十七圓(外ニ捨土出願者提供材料及勞力費五千七百四十七圓)ヲ支出セリ附帶工事ハ管理者施工ニ對シ國庫補助ヲ爲シタルモノ十萬四千圓ニシテ内京成電氣軌道變更工事補助四千圓、東京府施工船堀架橋費補助十萬圓ナリトス

上流改修工事ハ大正七年度ヨリ創業シ先ヅ浦和町ニ土地收用事務所ヲ置キ所要土地ノ買收調査ニ著手シ同九年度ニ至リ馬宮村以下川口町ニ至ル改修用地ヲ買收シ同年十月事務所ヲ鴻巣町ニ移シ同十三年度迄ニ馬室村ヨリ下流ノ入間川合流地附近ヲ除キタル用地ヲ買收セリ然ルニ同十三年度以降事業ヲ縮少セラレ同年十一月末日限リ事務所ヲ閉鎖シ其後本年度迄ニ古谷村外二箇所ニ於テ僅ニ九町步ヲ買收セシニ過ギズ其總面積一千五百五十八町步(内高水敷一千二百七十八町步、堤塘敷二百町步、橫堤敷三十九町步、新河岸川敷四十一町步)トナレリ

工事施工ニ付テハ大正九年一月荒川上流改修事務所ヲ古谷村ニ設置シ土地買收濟區域中低水路ノ屈曲

甚シキ所又ハ川敷ノ附替トナルベキ箇所若クハ掘鑿土量ノ比較的の多ク竣功ニ長年月ヲ要スル下流部ヨリ順次上流ニ及ブ方針ヲ以テ同九年度末ヨリ工事ヲ開始シ前年度迄ニ築堤土量七百二十二萬九千立方米、浚渫土量一千百五十五萬二千立方米、護岸及水制二箇所ヲ竣功セリ而シテ本年度ニ於テハ前年度同様人力ニ依ル掘鑿工事ハ急施ヲ要スル箇所ノミニ止メ主トシテ機械掘鑿工事ヲ續工シ浚渫土量百八十五萬八千立方米、築堤土量四十萬八千立方米ヲ施工シ工費合計五十三萬一千七百三十七圓ヲ支出セリ是等諸工事ハ改修事務所ノ下ニ戸田、内間木、馬宮及川田谷ノ四工場ヲ置キ其下ニ十一箇所ノ派出所ヲ設ケ各工事ヲ分擔セシメ改修工事用器具機械ノ製作及修理ハ大正九年十二月戸田村ニ同十年四月古谷村ニ各機械工場ヲ設ケ之ニ當ラシメシガ同年九月兩工場ハ内務省千住機械工場ノ所管ニ移リ後者ハ古谷分工場ト稱シ前者ハ古谷分工場ノ派出所トナリ其後同十一年十月宗岡村ニ派出所十三年三月末日廢止ヲ設ケ夫々作業セシガ同十二年七月ニ至リ再ビ當所ノ所管ニ移リ前記分工場ハ古谷機械工場ト改稱シ戸田村派出所ヲ古谷ノ分工場ト爲シ作業ヲ繼續セリ

今本年度施工ノ概況ヲ述ブレバ川口町ヨリ笹目村ニ至ル間ハ上流改修區域ノ最下流ニ屬シ高水ハ上流游水地ニ於テ緩和セラル、ヲ以テ新高水敷幅ヲ五百五十米ニ限定シテ下流改修ニ接續セシメ高水流量毎秒四千百七十立方米ヲ快流セシム此部分彎曲甚シキ低水路三箇所ニ短縮スル横曾根、戸田、笹目ノ各村地先開鑿工事ハ何レモ大正十三年度迄ニ其功ヲ竣リ從來ノ流路ハ約二分ノ一乃至三分ノ一ニ短縮セラレ高水敷ノ掘鑿ハ横曾根(低水路ヲ含ム)戸田、笹目、岩淵、赤塚、志村、白子ノ各村ニ互リテ之ヲ施工シ其全部又ハ三割乃至九割ヲ竣功セシメ高水ノ疏通頗ル佳良トナレリ築堤ハ右岸浮間、赤塚、左岸横曾根、戸田、笹目ノ五箇所ノ内横曾根ノ大半ハ舊堤ノ擴築ナレドモ他ハ總テ新堤ニシテ何レモ舊堤以上ノ高ニ盛土シ功程

ハ其三割乃至七割ニ及ベリ  
美谷本村ヨリ上流土合村ニ至ル間ハ低水路ノ紆餘屈曲殊ニ甚シク所謂雜丹袋ト稱シ新ニ低水路ノ附替ヲ要スルモノ四箇所内白子村及内間木村大字下内間木地先ハ同十二年度迄ニ竣功シ新倉村及内間木村大字上内間木地先ハ同十三年度ヨリ引續キ開鑿ニ從事シ何レモ低水路ノ掘鑿ヲ了リ流路ハ二分ノ一乃至四分ノ一ニ短縮セリ高水敷掘鑿ノ内白子内間木下内間木及美谷本ハ竣功シ美女木ハ其四割ヲ竣成ス此部分右岸ハ在來無堤ニシテ新倉村ニ於テ新河岸川合流シ一帶ニ洪水ノ汎濫區域ニ屬セルヲ以テ右岸ニハ新堤ヲ築造スルコト、シ白子及内間木築堤ハ既ニ著手シ前者ハ其二割後者ハ五割ヲ竣成セリ大久保村ヨリ上流馬宮村ニ至ル間ハ廣漠タル游水地ヲ控ヘ堤塘ハ左岸大久保村及右岸馬宮村地先ヲ除キ他ハ全部舊堤ノ擴築ニシテ何レモ掘鑿土ヲ利用シ左岸馬宮村地内ニ於テハ一部既ニ新堤高ニ達セリ飯田新田及西遊馬地先ノ新低水路延長四千三百米ノ開鑿工事ハ同十年度ヨリ續工シ本年度ニ至リ竣成シ舊水路ハ其上流部ニ於テ締切リ本年五月ヨリ新水路ヲ通水セシメタリ其結果流路約二千五百米ニ短縮シ流水ノ疏通頗ル良好トナレリ高水敷ノ掘鑿ハ下流左岸大久保村地先ハ大正十三年度ヨリ續工シテ其四割ヲ竣ヘ右岸南畑村及宗岡村地先ニ於テハ約四割ヲ竣功セリ此附近ノ横堤ハ掘鑿土ヲ利用シ第七號乃至第十一號ハ約六割ノ盛土ヲ施工セリ石戸村ヨリ川田谷村ニ至ル間ハ左岸ニ丘陵相連リ其裾ノ突出セルアリ亦谿間ニ多少ノ耕地ヲ抱擁シ所謂山附堤防六箇所アリ其内大石村及川田谷村地先ニ於ケル延長一千五百十米ノ擴築ハ同十二年度來續工シ用惡水路ノ關係部分ヲ除キ他ハ殆ンド盛土ヲ了レリ大石村及川田谷村地先ニ於ケル新低水路延長三千四百九十五米ノ開鑿工事ハ機械ニ依リ同十一年度ヨリ續工シ六割ヲ竣成シ其高水敷及八ツ保村地内ノ高水敷掘鑿ハ人力ニ依リ施工シ前者ハ其九割ヲ後者

二割ヲ竣成セリ

支川新河岸川ハ現在落合地點ナル新倉村地先ヨリ下流岩淵水門下ニ至ル延長一萬一千百米ノ内現川ノ利用部分ヲ除キタル八千八百米ノ新水路開鑿工事ニシテ其幅員川敷六十三米六、低水路九米六、乃至三十米九、水深一米七乃至二米八アリ「ドラグライン」掘鑿機ヲ使用シ同十二年度ヨリ續工シ志村ノ一部及赤塚村地先ノ大部分ヲ施工シ水路延長約二千七百米ヲ竣成セリ  
 本年度竣功高ハ上下流ヲ通シ百六十九萬六千四百九十七圓ニシテ起工以來ノ累計ハ三千八百五十五萬百一圓トナレリ之ヲ總工費豫算五千三百十四萬四千圓ニ比較スルトキハ七割三分ノ竣功ナリトス左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ表中「△」ハ製作品價額「□」ハ管理者負擔額「▲」ハ捨土出願者提供材料並勞力費ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	立方米 一八、六八四、三八五	一、〇八八、六三三 七四、四三七	立方米 四、二四、〇三〇	三〇、一八六 四、一四〇	立方米 一九、一〇八、四一五	一、一八八、八一七 七八、五七七	下流〇〇・九九八
	未竣功 三一、三一七、八六五	六、六七九、五一八 一八三、八八五	未竣功 二、七六五、九九六	六八五、三九〇 一八三、六一九	未竣功 三四、〇八三、八六一	七、三六四、九〇八 一、五九四、五〇八	下流〇〇・九九七
濬渫	立方米 三、三〇八、四〇四	三、七六、四〇四	立方米 八六所	一三一、七四三	立方米 一八所	五〇八、一四七	上流〇〇・五九七
	未竣功 一、一八〇	五、一五、四四五	未竣功 一〇、一三七	三九、八八四	未竣功 一、四二九	九一、四二九	下流〇〇・〇三三
護岸及水制	箇所 一六	二、六七五、四一三	箇所 一	一〇、一三七	箇所 一七	三、六八五、五五〇	下流一〇〇
	未竣功 一六	四四、七五四	未竣功 一	五、七四七	未竣功 一七	四四、一九四	下流一〇〇
特種工事	段 二六、四九二、九	九、九八七、六二二	段 三・五	九二六	段 二六、四九六、四	九、九八八、五四八	下流一〇〇
	未竣功 二六、四九二、九	四六、七五九	未竣功 三・五	五、七四七	未竣功 二六、四九六、四	五二、五〇一	下流一〇〇
用地費	箇所 一二	四九一、〇三三	箇所 一	一〇、一三七	箇所 一二	四九一、〇三三	下流〇・七七
	未竣功 一二	一八〇、七八三	未竣功 一	一〇、一三七	未竣功 一二	一八〇、七八三	下流〇・七七
直轄施行	箇所 一四	四、一〇二、六二二	箇所 一	一〇、一三七	箇所 一五	四、二〇七、四二二	下流一〇〇
	未竣功 一四	四、一〇二、六二二	未竣功 一	一〇、一三七	未竣功 一五	四、二〇七、四二二	下流一〇〇
附費	箇所 一	一八〇、七八三	箇所 一	一〇、一三七	箇所 一	一八〇、七八三	下流〇・七七
	未竣功 一	一八〇、七八三	未竣功 一	一〇、一三七	未竣功 一	一八〇、七八三	下流〇・七七
帶費	箇所 一	一八〇、七八三	箇所 一	一〇、一三七	箇所 一	一八〇、七八三	下流〇・七七
	未竣功 一	一八〇、七八三	未竣功 一	一〇、一三七	未竣功 一	一八〇、七八三	下流〇・七七



種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計
	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費	11,719.47	1,764,571.14	3,934.28	746,943.88	15,653.75
測量費	99.97	1,974.44	8,081.11	1,080,811.11	8,181.08
營業繕費	31.41	1,606.60	22,850.11	2,285,011.11	23,161.52
雜費	354.38	7,645.65	36,331.11	3,633,111.11	3,743,787.14
共濟組合給與金	2,213.59	45,071.81	273,854.54	2,738,545.45	2,965,471.94
亡失高	45,071.81	2,213.59	2,213.59	45,071.81	47,285.40
退職手当當	2,645.11	561.11	2,645.11	561.11	5,290.22
總計	18,724.74	3,031,121.14	24,607.08	6,440,261.11	43,331.82

更ニ前表ノ竣功額ヲ下流ト上流トニ區別スレバ次ノ如シ

下流改修

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計
	數量	金額	數量	金額	
築堤	11,455.20	981,214.24	15,456.11	1,319,150.11	26,911.31
本工	19,765.61	1,328,809.99	9,072.68	699,929.94	28,838.29
合計	31,220.81	2,310,024.23	24,528.79	2,019,080.05	55,749.56
竣功歩合	0.99	0.99	0.97	0.97	0.98

上流改修

本築堤	種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	
	事費							
	護岸及水制	未竣功	三三五、二〇八円	未竣功	一三一、七四三円	未竣功	四六六、九五一円	〇・四五
	特種工事	未竣功	五一、五四八円	未竣功	三九、八八四円	未竣功	九一、四二九円	
	用地費	未竣功	二、六七五、四一三円	竣功	一〇、一三七円	竣功	四八五、五五〇円	一・〇〇
	附工直轄施行	一〇、九一二・二段	四六、七五四円	一	五、七四七円	一〇、九一二・二段	五二、四九一円	一・〇〇
	帶事費	未竣功	五、八六二、四〇三円	未竣功	一〇、〇〇〇円	未竣功	一五、八六二、四〇三円	
	船舶及機械費	未竣功	四、〇九七、七五九円	未竣功	二、五九〇、〇七二円	未竣功	六、六八七、八三一円	
	測量費	未竣功	五、八六〇、五五八円	未竣功	七、六七八八円	未竣功	一三、五三九、一四六円	
	營業繕費	未竣功	一、七六五、五七一円	未竣功	四、一六〇円	未竣功	一、九二六、七二七円	
	雜費	未竣功	六五、一一三三円	未竣功	二二、八五〇円	未竣功	八八、九六三円	
	共濟組合給與金	未竣功	二一八、四六〇円	未竣功	二八、八〇三円	未竣功	二四七、二六三円	
	亡失高	未竣功	七六六、八八八円	未竣功	三、六四六円	未竣功	八〇三、五三四円	
	退職手当當	未竣功	四、〇九円	未竣功	一、二九五円	未竣功	五、三八四円	
	總計	未竣功	二五、七二二、一一二円	未竣功	八八八、七一四円	未竣功	二六、六一〇、八二六円	〇・九一
		未竣功	一、七六〇、七五九円	未竣功	三、五九〇、〇七九円	未竣功	一、九一〇、八三八円	
		未竣功	一八〇、七八三円	未竣功	〇、七九円	未竣功	一八〇、八八二円	
		未竣功	一〇、七三三九三円	未竣功	一、六二七一円	未竣功	一二、三六四四円	
		未竣功	七、三二九、一七九立方米	未竣功	四〇八、五七四立方米	未竣功	七、六三三、七五三立方米	〇・二八

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
工事 浚渫	11,552.251 <small>立方米</small>	3,024,349.4 833,076.6	1,858.728 <small>立方米</small>	515,466.4 一三〇,四一〇,九七九	13,411.0 9,779.9	3,539,815.8 833,076.6	0.56 0.03
費用 護岸及水制	15,581.7 <small>箇所</small>	4,125,219.0 三八六三	3.5 <small>箇所</small>	926.0 一,八〇〇	15,585.2 二	4,126,145.0 五,六六三	0.03
費用 用地							
費用 附帶 (管理工事施行費)							
船舶及機械費		2,858.913 三,一五,八二七		一三四,三五六 二一,三七九		2,993.269 三,三七,二〇六	
測量費		34,851.0		3,921.0		38,772.0	
營業費		135,921.8 八七		7,528.0		143,449.8	
雜費		774,740.0		119,189.0		893,929.0	
共濟組合給與金		24,895.0		8,326.0		33,221.0	
退職手当當		152.0				152.0	
總計		11,131,492.8 三,一五,九一四 八三,〇七六		807,783.3 三二,三七九		11,939,276.1 八三,〇七六	0.50

## 第八 阿賀野川改修工事

(新潟土木出張所)

### 緒言

本川ハ當所航路改良ノ目的ヲ以テ新潟縣東蒲原郡津川町以下海ニ至ル約六十五軒ノ間ヲ工費四萬餘圓ヲ以テ明治十七年七月ヨリ起工シ同十九年ニ至リ一時工事ヲ中止セシモ尙改修ノ要アルガ爲メ大正四年度ヨリ同十二年度ニ至ル九箇年度繼續事業トシテ工費豫算八百萬圓(内新潟縣負擔額二百二十九萬二千圓)ヲ以テ更ニ工ヲ起シタリシガ時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年四月四百萬圓(内新潟縣負擔額百萬圓)ノ増額ヲ受クルト共ニ施工期限ヲ昭和三年度迄繰延ベラレシガ更ニ大正十二年九月一日關東大震災突發ノ爲メ十一月ニ至リ二箇年度ヲ延長シ昭和五年度ニ竣功セシムル豫定トナリ總工費豫算一千二百萬圓ヲ以テ左岸新潟縣中蒲原郡川東村、右岸同縣東蒲原郡下條村以下海ニ至ル約三十五軒間ニ對シ河身ノ改修ヲ施シ以テ洪水ノ患害ヲ除キ一面船楫ノ利便ヲ計ラントスルモノナリ

### 河狀並計畫大要

本川ハ福島及新潟ノ兩縣ニ互リ流域面積八千三百四十四平方軒ヲ有シ流路延長二千八百軒(内幹川百六十九軒)航路延長五百八十五軒(内幹川百四十九軒)灌漑面積四萬ヘクタール(内幹川四千四百四十六ヘクタール)水害區域二萬三千二百五十ヘクタール(内幹川七千五百五十六ヘクタール)ニシテ本川ノ洪水ハ春季融雪ト夏秋ノ低氣壓ニ伴フ暴風雨トニ基因シ上流地方ニ於テ一日ノ雨量百軒以上ニ達スレバ警戒ヲ要ス

ベキ洪水ヲ來タスコト多シ其水災ノ最モ甚シキ部分ハ山間部ヲ出デタル中蒲原郡川東村大字馬下ヨリ海ニ至ル間延長約三十五軒ニシテ地勢平坦西ハ遠ク信濃川沿岸ノ平野ニ連リ我國有數ノ米產地タリ兩岸概ネ堤塘ノ設ケアリト雖モ斷續不同屈曲迂回構造モ亦薄弱ナルヲ以テ洪水ノ際ハ沿川各地ニ浸水セザルコトナク又派川小阿賀野川ハ出水毎ニ多量ノ土砂ヲ信濃川ニ流送シ新潟港ヲ埋塞ス水害損失額ハ大正元年ヨリ同十年ニ至ル十箇年間平均百二十八萬一千四十三圓ニシテ其内大正元年、同二年、同三年、同九年ノ四箇年ハ何レモ百萬圓以上ノ損害ヲ受ケタリ即チ大正元年ハ百五十三萬三千四百七十九圓、同二年ハ五百三十七萬七千四百十五圓、同三年ハ百七十八萬五千四百三圓、同九年ハ百七十五萬七千九百四圓ナリトス

本計畫ハ馬下以下海ニ至ル區間ノ水災ヲ防止スルヲ以テ目的トシ最大流量ヲ毎秒六千九百五十七立方米ト定メ尙非常ノ場合ニ於ケル八百三十五立方米ノ餘裕ヲ有スル河積トセリ而シテ河幅ハ起點附近ヲ四百三十六米トシ三軒九餘ノ下流論瀨附近ヨリ河口ニ至ル間ヲ九百九米ニ擴張セリ改修法線ハ現川ニ沿ヒテ之ヲ定メ中流澤海附近ノ如キ屈曲甚シキ部分ハ之ヲ矯正ス堤防ハ主トシテ舊堤ヲ利用擴張シ其他ハ新堤ヲ築ク又低水敷及高水敷ニハ掘鑿ヲ施シ河積ノ不足ヲ補ヒ尙下流ハ水路ノ新設ヲ行ヒ以テ流積ヲ完備セシム

小阿賀野川ハ滿願寺ニ於テ之ヲ締切り沿岸ノ水災ヲ絶ツト共ニ同川ニ合流スル能代川及其他惡水ノ疏通ヲ便ナラシメ又洪水毎ニ新潟港ニ流送スル土砂ヲ止メ信濃川ノ改修ト相俟テ同港埋塞ノ主因ヲ除カントス而シテ信阿兩川舟運ノ聯絡ニ對シテハ滿願寺内ニ一閘門ヲ設置スルコト、セリ又河口近ク本川ニ合流スル加治川及新井郷川ニ對シテハ當初合流點ニ水門ヲ設ケテ逆水ノ浸入ヲ防止スルノ計畫ナリ

シガ其後新井郷川水害豫防組合ノ出願ニ依リ前記逆水門ニ替フルニ新水路ヲ開鑿シ直接海ニ放流スル  
コトニ變更セリ堤防ハ早出川落口ヨリ下流ハ凡テ馬踏ヲ九米一トシ夫ヨリ上流ハ七米三ト爲シ何レモ  
表裏二割ノ法ヲ附シ高水位以上一米五ノ高ヲ保タシメ水勢激衝ノ箇所ニハ適當ノ護岸ヲ施工スルモノ  
トス

掘鑿ハ左岸論瀨高山ノ堤外地ニ於ケル低水路九百八十二米及左岸巢本村一本杉右岸安田村小浮以下流  
心ニ沿ヘル五百四十五米(平均低水位上〇米九ノ面迄)ニ施工ス其他滿願寺澤海間ニ於ケル直通低水路約  
一千五百二十七米ナリ

浚渫ハ大淵以下ニ之ヲ施行ス其深ハ平均低水面以下一米八乃至二米七幅ハ低面ニ於テ百九米乃至二百  
七十三米トシテ又小阿賀野川筋ニモ現在ノ流心ニ沿ヒ底幅十四米五ノ浚渫ヲ行ヒ深サハ滿願寺ニ設置  
スル閘門ノ底面ヨリ〇米三ヲ増シ基線以下一米一タラシメントス

## 施工狀況

本工事ハ大正四年度創業後直ニ施行準備ニ着手シ翌年度土地買收ヲ開始シ大正六年度ヨリ本年度迄掘  
鑿浚渫築堤護岸水制閘門水門等ノ諸工事ヲ施行シツ、現今ニ至レリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ヨリ  
引キ續キ施工ノ三十箇所(外ニ四箇所休工)新ニ十二箇所及附帶工事六箇所ヲ實施セリ前年度迄ハ幸ニ大  
出水ナク順調ニ工事ヲ進捗シ來リタルモ本年七月下旬數日ノ豪雨ニテ起工以來稀有ノ大洪水トナリ之  
レガ爲メ築堤土砂護岸工其他工用鐵軌枕木土運車等ノ一部ヲ毀損又ハ流亡シ施工上多少ノ手戻リヲ  
受クルニ至リタリト雖モ一局部ノ被害ニ過ギザリシヲ以テ全工事ニ對シテハ何等ノ影響ナク減水後直

チニ工事ヲ繼續シ又本年度ニ於テ小阿賀野川締切ノ爲メ諸般ノ準備ヲ爲シ冬季湯水時ニ於テ豫定ノ通り目的ヲ達スル事ヲ得タリ其概況ハ左ノ如シ

掘鑿工事ハ前年度ヨリ引續キ施行ノ機械掘四箇所新ニ二箇所手掘三箇所新ニ一箇所計十箇所ニシテ機械掘ハ短梯掘鑿機五臺ニシテ掘鑿土砂運搬ニ二十噸機關車五臺ヲ使用シ手掘ノ土砂運搬ハ軌條ヲ配置シ輕運車ニテ人力及馬力ニ依リタル外九匹軌條ヲ敷設シ○七立方米積土運車ヲ連結シ五噸機關車ニテ土砂運搬機械掘ハ土量二十四萬二千七百七十立方米手掘ノ土量ハ十五萬八千四百四十四立方米八計四十萬一千二百四十四立方米八ヲ掘鑿シ機械掘一箇所ヲ竣功セリ

築堤工事ハ前年度ヨリ繼續セル十三箇所新ニ三箇所假設築堤新ニ一箇所計十七箇所ノ處内一箇所ハ堤敷缺潰ノ爲メ二箇所ハ龜田郷用水路ノ關係上工事休止中ナルヲ以テ實施セル工事ハ十四箇所ニシテ其築立ニハ掘鑿土ノ利用ト採土ニ依リ築設シ採土運搬ハ人力及馬力ヲ以テ輕運車ヲ使用シ作業ス而シテ利用土ハ二十七萬九千二百九十八立方米採土二萬一千八百四十一立方米六外ニ假設築堤採土九千立方米計土量三十一萬百三十九立方米六ヲ築立テ三箇所ヲ竣功セリ

護岸及水制工事ハ前年度ヨリ引續キ施行ノ八箇所新ニ五箇所計十三箇所ノ内一箇所ハ工事ノ都合ニ依リ施行休止セルヲ以テ實施セルハ十二箇所ニシテ工法ハ石張、金網、蛇籠、混凝土單床、柴工、沈床、石詰、柳枝工、棒出工、抗出工等ニシテ二箇所ヲ竣功シ十一箇所ヲ翌年度へ繰越セリ右ノ外川倉棒出ノ假護岸工事一箇所ヲ竣功ス

小阿賀閘門工事ハ前年度ヨリ引續キ施行ノ工事ニシテ本年度冬季湯水時ニ於テ小阿賀野川締切ノ爲メ本閘門通水ノ必要上殘工事ノ進捗ヲ謀リ本年十一月、十二月中ハ夜間ノ作業ヲ行ヒ昭和二年一月四日通水

スルニ至リ而シテ本年度ニ於ケル作業ハ前後庭ノ門扉及ストニードト其他機械ノ裝置前庭鐵筋混凝土橋梁ノ架設竝ニ土堰堤二千七百二十四立方米ヲ築立テ帶芝士羽付四百六十三平方米四張芝士羽付四百六十五平方米ヲ仕付ケタル外閘門前ノ假堤及後方水路ノ吐口ニ於ケル小阿賀野川堤防取除キノ爲メ輕運車ヲ使用シ掘鑿土量二萬五千五百五十六立方米一ヲ運搬捨土シ又本工事ニ伴ヒ前年度ヨリ施行ノ舟溜護岸工事ハ混凝土單床工ノ殘四百四十九平方米一ヲ完成シ竣功セリ

水門工事ハ前年度ヨリ引キ續キ施行ノ小阿賀竝ニ通船川水門工事ノ二箇所ニシテ小阿賀水門工事ハ前年度迄ニ本體其他ノ一部ヲ施工シ本工事ノ大體ヲ終了シ本年度ニ於テハ水門前後ノ土砂七千五十立方米ヲ掘鑿運搬シ吞吐ノ兩翼壁混凝土石張二百九十五平方米九及護岸柴工沈床八百一平方米四、石張六百四十七平方米、蛇籠七十七平方米、法留混凝土單床九十九平方米ヲ施行シタル外門扉其他ノ機械ヲ取付ケ通水スルヲ得タリ通船川水門工事ハ前年度迄ニ大體ノ施行ヲ完了シ門扉ノ取付ケニ過ギザリシモ十月ニ至リ漸ク門扉ノ製作成リ昭和二年一月取付ケヲ終了シタル外呑口ニ於ケル護岸不足箇所ニ石張工七十五平方米ヲ施行シ同年二月下旬ヨリ本水門ノ通船ヲ見ルニ至リタルモ何レモ全ク竣功ノ運ビニ至ラズシテ翌年度へ繰越セリ

材料運搬工事ハ前年度ヨリ繼續セル工事ニシテ區内工場ヨリ工場へ石炭二十八萬五千九百十四疋、粗朶二千八百二十束其他小杭帶梢鐵線、繩類等ヲ運搬シ翌年度へ繰越セリ

土地收用ハ幹線ニ在テハ前年度迄ニ大略買收ヲ了シ本年度ニ於テハ未濟ノ一部中蒲原郡川東村、新關村、新津町、横越村、大形村、北蒲原郡濁川村、岡方村、京ヶ瀬村、分田村、安田村地内ノ土地買收及物件移轉料、借地料金額二千三百六十七圓餘、附帶工事ハ龜田鄉用水路工事ニ於テ中蒲原郡横越村兩川村地内ノ土地買收及



物件移轉料三十三圓餘、黑瀬樋管新設工事ニ於テ北蒲原郡京ヶ瀬村地内ノ土地買收及物件移轉料四十二圓餘、下山排水樋門新設工事ニ於テ北蒲原郡松ヶ崎濱村地内ノ土地買收及物件移轉料一千二百二十一圓餘、下山排水機移轉改築工事ニ於テ北蒲原郡松ヶ崎濱村地内ノ土地買收及物件移轉料五十圓餘ヲ支拂ヘリ、龜田郷用水路工事ハ前年度ヨリ引キ續キ施行ノ工事ニシテ本年度ニ於テハ小阿賀野川締切ニ伴ヒ支線小阿賀線ヲ完成セシムル豫定ノ下ニ工事ヲ進メ銳意進捗ヲ謀リタル處七月下旬數日ノ豪雨ニ因ル稀有ノ大洪水ノ爲メ小阿賀線新堤約二十米破堤シ之レニ伴フ全水路ノ被害竝ニ漏水豪雨ニ洗ハレタル被害等ニ依リ其復舊ニ多大ノ手戻リヲ生ジ所期ノ功程ヲ見ル能ハザリシモ極力遂行ノ結果水路ノ掘鑿ハ人力及馬力ニ依リ輕運車ヲ使用シ土量五萬九千十五立方米七ヲ成功シ築堤ハ掘鑿土ヲ利用シ土量一千八百六十二立方米四ヲ築立テ猶ホ護岸工八箇所、橋梁二十一箇所、樋管一箇所、洗堰一箇所ヲ施工シ本年度ヲ經過セリ

新井郷川改修工事ハ前年度ヨリ繼續施行ノ工事ニシテ七月二十九日工事變更總工費四十二萬五千圓トナレリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ニ引キ續キ水路ノ浚渫竝ニ掘鑿築堤護岸工事ヲ施行セリ、浚渫ハ機械掘ニシテ土砂運搬ニハ三立方米積長船ヲ以テス、掘鑿ハ人力ニ依リ小舟及輕運車ヲ使用シ機械掘ハ土量八萬九千三百八立方米、人力掘ハ土量五萬四千二百九十四立方米、計土量十四萬三千六百二立方米ヲ運搬捨土シ築堤ハ掘鑿土ヲ利用シ土量四千五百立方米ヲ築立テ護岸工ハ粗朶羽取工九百八十平方米、柴工沈床二千二百四十四平方米ヲ施行セリ

黑瀬樋管新設工事ハ前年度ヨリ引キ續キ施行ノ工事ニシテ本年度ニ於テハ基礎工ノ殘部及樋體混凝土ヲ行ヒタル外水路掘鑿土量二千二百三十二立方米ヲ運搬捨土シ本工事ノ大體ヲ了シタルモ全ク竣功ニ

至ラズシテ翌年度へ之ヲ繰越セリ

下山排水樋門新設工事ハ前年度冬季ニ至リ着手ノ工事ニシテ僅ニ水路付替ノ掘鑿及護岸工ノ各一部ヲ施行シタルニ過ギザリシモ本年度ニ於テハ開閉機ノ取付ヲ殘シ他ノ全部ヲ完成シ翌年度へ繰越セリ  
 島瀬千唐仁樋管新設工事ハ大正十五年六月二十五日新ニ着手ノ北蒲原郡安田村大字島瀬地内ニ一箇所、大字千唐仁地内ニ一箇所計二箇所ニ施行ノ工事ニシテ島瀬樋管ヨリ着手シ昭和二年二月十二日ヲ以テ竣功シ千唐仁樋管ハ十二月一日ヨリ着手シ昭和二年三月九日迄ニ樋管ノ全部ヲ終了シタルモ融雪季ニ入り増水ノ爲メ吐口へ施行ノ護岸工事ヲ翌年へ繰越スノ已ムナキニ至レリ  
 下山排水機移轉改築工事ハ大正十五年十月十六日新ニ着手ノ工事ニシテ吸水槽竝ニ地形其他基礎工ノ一部ヲ施行シ翌年度へ繰越セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ六十五萬一千七百七十八圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計九百四十五萬二千七百十七圓ナリ之ヲ總工費一千二百萬圓ニ比スレバ七割九分ノ竣功ナリトス其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度		本年度		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿	3,555,988	1,024,025	401,214	122,970	3,957,202	1,146,995	0.71
浚渫	360,000	54,037			360,000	54,037	0.19
築堤	3,429,188	515,704	310,140	47,591	3,739,328	563,295	0.85
護岸及水制		346,921		113,921		460,842	
閘門		273,158		47,222		320,380	
水門		88,102		35,791		123,893	
工事費							
合計							

種別	前年度		本年度		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
運搬		一四、五九一		一、一〇五		一五六九六	四
用地費		二、三五五、五四四		一三四、五五五		二、三五七、九一二	
附帶工事費		五九〇、二二四		二、三六八		七二四、七七九	
船舶及機械費		二、六八九、五七六		六一、七八九		二、七五一、三六五	
雜費		八四八、〇八二		八三、八六六		九三一、九四八	
退職手当當		九七五				九七五	
總計		八、八〇〇、九三九		六五一、一七八		九、四五二、一三七	〇・七九

阿賀野川改修工事の概況  
 本年度は前年度に比し、用地費、附帶工事費、船舶及機械費、雑費、退職手当當の各項目に於いて、前年度に比し、若干の増減を認むるに非ざる。又、運搬費に於いては、本年度に於いては、前年度に比し、若干の増減を認むるに非ざる。又、合計金額に於いては、本年度に於いては、前年度に比し、若干の増減を認むるに非ざる。

## 第九 最上川改修工事

(新潟土木出張所)

### 緒言

本工事ハ曩ニ政府ニ於テ工費七十六萬四千九百八十四圓ヲ以テ專ラ航路ノ改良ヲ目的トシテ明治十七年度ヨリ起工シ同三十六年度ニ至リ之ガ竣功ヲ告ゲタリシガ其後年々水害損失ノ甚大ナルニ鑑ミ更ニ大正六年度ヨリ同十五年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費八百二十萬圓(内山形縣負擔二百十九萬九千圓)ヲ以テ高水防禦ヲ目的トシテ改修工事ヲ施行スルニ至レリ其區域ハ幹川左岸山形縣東田川郡清川村、右岸同縣飽海郡上郷村以下海ニ至ル約三十二軒間、支川赤川ハ左岸同縣東田川郡齋村、右岸同縣同郡廣瀬村以下幹川合流點ニ至ル約二十三軒六間ナリシガ大正十年三月四日支川赤川ノ改修工事計畫ヲ變更シテ最上川ニ注入セシメズ大山川合流點ヨリ高四十五米五ナル西田川郡袖浦村大字濱中地内西山ノ開鑿ニ依ル最捷水路ヲ通ジテ日本海ニ放流スルコト、シ尙同年五月十八日最上川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ山形縣知事稟申ニ係ル酒田港修築工ヲ百五十萬圓ノ追加工費ヲ以テ同十七年度迄ノ繼續事業トシテ併セ行フ事トセリ更ニ物價騰貴ニ依リ總工費ヲ一千五百萬圓ニ増額シ昭和七年度迄ニ工期ヲ延長セルモ偶々關東大震災ノ影響ヲ蒙リ更ニ昭和十一年度迄ニ繰延ベラレ之レニ因リ二十箇年度ノ繼續事業トナレリ

### 河狀並計畫大要

本川ハ奥羽河川中北上川ニ亞グノ大河ニシテ水源ヲ南置賜郡吾妻山ニ發シ殆ト山形縣一圓ヲ環流シ酒田港ニ到リ海ニ注グ其流域面積七千四百三平方糎、流路延長二千三百六十八糎、内幹川二百十六糎、航路延長四百五十九糎、内幹川百九十六糎、水害區域三萬七千二百九十七ヘクタール、内幹川一萬四千四百ヘクタール、灌溉面積五萬七千三百十六ヘクタール、内幹川一千九百五十ヘクタール、ナリトス

元來庄内平野ハ山形縣下第一ノ米產地ナルニ本流域内ノ降水量ハ一箇年二千糎以上ヲ示シ本邦ニ於テモ有數ノ降雨地ニシテ洪水汎濫ノ害亦甚シク其損害價額ハ最近十箇年ノ損失平均年額百四十三萬一千六百圓、大正元年乃至大正十年ニ上リ就中大正二年ニ於ケル五百十五萬四千五百八十八圓、同九年ハ二百四十四萬六十七圓、同十年ハ八百三十五萬三千七百七十圓ニ達スル大損害ヲ見タリ

本川改良ノ計畫ハ高水防禦ヲ目的トスルモ傍ラ水路ノ改善ヲ計ラレトシ工事ヲ水害ノ最モ大ナル範圍ニ局限シ幹川ハ東田川郡清川村以下海ニ至ル間約三十二糎、支川赤川ハ西田川郡鶴岡市附近以下海ニ至ル約十九糎、六ノ間ニ施工スルモノニシテ其計畫最大流量ハ毎秒幹川六千九百五十立方米、赤川一千六百七十立方米ト定メ之ヲ快通セシムルニ遺憾無キヲ期セリ

幹川最上川ハ急流ニシテ河狀極メテ不規律ニ屬シ支川赤川ハ緩流ニシテ兩岸相當ノ堤防アルモ廣狹不同ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ次ノ如ク河幅ヲ一定セリ

清川附近	二五五 <sup>米</sup>	中牧田、落野目間	六三六 <sup>米</sup>
幹川 狩川白ヶ澤間	三六四	京野目以下	七二七
白ヶ澤、中牧田間	四五五	京田川合流點以下	八一八
幹川 菅原橋、横山間	二七三 <sup>米</sup>	支川 赤川	三六四
		横山以下大山川合流點迄	一〇〇
		大山川合流點ヨリ河口(西山開鑿水路)迄兩岸二割法底幅百米	一〇〇

新堤ハ左右兩岸共馬踏六米三、兩法二割トシ其頂天ハ計畫最高水位以上一米五ノ高タラシメ在來ノ堤防

ハ相當増築シ水勢ノ激突著シキ箇所ハ總テ石張ヲ以テ護岸ヲ施スモノトス而シテ三米以上ノ直高ヲ有  
スル築堤ニハ頂天ヨリ三米下リテ幅一米八以上ノ小段ヲ裏法ニ設ケ其以下ヲ二割五分法トシ直高五米  
四五以上ノ場合ニハ頂天ヨリ五米四五下リテ二米七以上ノ小段ヲ兩法ニ設ケ其以下ヲ三割法トス其他  
計畫ノ流量ヲ快通セシムル爲メ或ハ河身ヲ浚渫シ或ハ兩岸ノ掘鑿ヲ行ヒ支川赤川ハ流末黒森地内大屈  
曲箇所ニ於テ西山砂丘ヲ開鑿シ長二千八百米ノ新水路ヲ設ケ全川ヲ日本海へ放流セシメントス其掘鑿  
土量八百五萬立方米底幅百米切割高四十五米五ナリ之レガ爲メニ洪水ノ期間ヲ短縮スルノ效果著シキ  
モノアルベシ

京田川ハ從來最上川赤川兩川出水ノ都度其逆流ト自己ノ出水トノ爲メ沿岸ノ沃野ニ浸水シ汎濫ノ害ヲ  
免レザリシカ赤川分流ノ結果最上川左岸堤防ヲ延長シテ其合流點ヲ下流ニ移スコトヲ得自然該川ノ排  
水ヲ良好ニシ兼テ逆流ノ被害ヲモ輕減スルコトヲ得ベシ殊ニ最上川河口ハ酒田港ト全然分離シテ左岸  
ニ偏移シ右岸堤防ハ酒田町對岸中洲上ニ築キ其先端ニ接續シ長六百四十四米水深九米ノ海中ニ達スル  
突堤(中央)ヲ設ケ突堤(南)ハ其長二百二十七米ニシテ水深四米五ノ海中ニ達セシム酒田港ハ其港口ニ最上  
川突堤(中央)ト相對シテ同ジク水深九米ノ海中ニ達スル突堤(北)ヲ築キ港内ハ低水面以下一米八乃至七米  
六ニ浚渫シ且適當ノ護岸工事ヲ施スモノトス  
附帶工事トシテハ橋梁ノ増設架換水門ノ移動用惡水路ノ改築及樋門工事等ヲ施行シテ惡水ノ排出ヲ良  
好ナラシメ從テ水害ヲ除去シ航行ノ利便ヲ増進スルモノトス

## 施工狀況

本改修工事ハ大正六年度ノ創業ニシテ翌七年度幹川右岸全部ノ土地買収ヲ了シ本年度迄ニ數次ニ互リ幹川左岸ノ一部支川赤川新放水路用地竝ニ鶴岡市附近ノ買収ヲ爲シ其進捗ニ從ヒ諸工事ヲ施工セリ而シテ大正九年度ニ機械工場ヲ設置シ諸機械船舶ノ修理製作ヲ經營ス

本年度ニ於テハ前年度ヨリ繼續ノ二十二箇所ト新ニ着手ノ十箇所トノ三十二箇所及附帶工事一箇所ヲ施工セリ

本年度ハ通ジテ天候不順ニシテ工事ノ進捗思ハシカラザリシモ努メテ作業ヲ爲セシ結果掘鑿土百十萬八千二十八立方米四、浚渫土十八萬四千二百五立方米五、築堤築立土二十九萬五千九百二十六立方米六ヲ竣功セリ又八月中近年稀ナル洪水ノ襲來アリ沿岸各地浸水被害アリシモ飽海郡ニ於テハ南平田村、中平田村、西平田村、鶴渡川原村ニ互リ約一千ヘクタールノ耕地ハ改修新堤ノ爲メ水害ヨリ免レ亦此際最上川河口ハ工事中ノ突堤其効ヲ奏シ水戸口水深五米五トナリ一千噸以上ノ船舶河内ニ碇泊シ大ニ荷役能率ヲ増加セル等改修ノ效果著シキモノアリタリ今本年度施工ノ概要ヲ述ブレバ次ノ如シ

掘鑿工事ハ前年度ヨリ繼續施工ノ四箇所ト新着手ノ一箇所トノ五箇所ニシテ其内主ナルモノハ支川赤川西山開鑿工事トス即チ掘取りニハ掘鑿機三臺及人力ヲ併用シ運搬ニハ二十噸機關車三臺竝ニ人力ニ依リシガ八月洪水ノ損害ニ鑑ミ沿岸地方民ノ之ガ速成ヲ熱望シ赤川普通水利組合ハ五萬圓ノ材料及勞力ヲ提供セシ結果人夫ヲ増員シ進工ニ努メシ結果來年度初期ニ於テ通水ノ見込確立スルニ至レリ次ニ人力掘鑿ハ前記ノ外最上川筋ニテ宮野浦地内及大宮地内ノ二箇所ニシテガソリン機關車ヲ運轉セリ而シテ上記各掘鑿總土量ハ百十萬八千二十八立方米四ニシテ其大部ハ附近官民有地ニ放棄セルモ大宮人力掘鑿ノミハ新堤敷ニ運搬シ築堤土ニ利用セリ其他宮野浦機械掘鑿ヲ新ニ着手セルモ運轉スルニ至ラ

ズ

浚渫工事ハ前年度ヨリ續工ノ二箇所及新ニ着手セル一箇所トノ三箇所ニシテ一箇所ハ酒田港ニ屬スル酒田町新町地内浚渫ニシテ浚渫船最上號ヲ使用シ土砂ハ附近官有地ノ埋立豫定地ニ排出シ年度内ニ竣功セリ他ノ二箇所ハ最上川河口附近ノ底水路ヲ浚渫セルモノニシテ浚渫船最上號及同浦賀丸ヲ使用シ浚渫土砂ハ新堤敷附近底地竝ニ海中ニ運搬放棄セリ本年度内ニ於ケル總浚渫土量十八萬四千二百五立方米五ナリトス

築堤工事ハ前年度ヨリ繼續セル幹川六箇所支川赤川二箇所合計八箇所ニシテ内一箇所ハ工事ノ都合上一時中止セリ築立ニハ掘鑿及浚渫土ヲ利用セルモノト堤内外ノ官民有地ヨリ人力及三噸ガソリン機關車二臺ニ依リ掘鑿運搬スルモノトノ二種ニシテ本年度内ニ二十九萬五千九百二十六立方米六ヲ築立タリ

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續ノモノ荒鍋宮野浦ノ二箇所及ビ新ニ着手ノ第二宮野浦一箇所トノ三箇所ヲ施工セリ工法ハ前二者ニ於テ石張金網蛇籠根固ニ柴工沈床ヲ用ヒ後者ハ石詰柳枝工ニシテ根固ニハ同上單床ヲ用ヒタルモ全部竣功ニ至ラズ翌年度ニ繰越セリ

水制工事ハ前年度ヨリ繼續施工ノ宮野浦一箇所ニシテ之ヲ竣功セリ工法ハ鐵線猪ノ子及柴工沈床ヲ併用セリ

突堤工事ハ三箇所ニシテ前年度ヨリ引續キ施行中ニ在リ本年度ハ作業日數尠ク從來施工ノ假突堤補修工事トシテ捨石及方塊ヲ沈設シ基礎ノ洗掘ヲ防ギ上部ニ場所詰混凝土ヲ施工セリ北突堤ハ殆ド施工セズ中止ノ状態ニ在リ又中央突堤ハ施工箇所ノ水深淺キ爲メ浚渫船浦賀丸ニ依リ基礎ヲ浚渫シ捨石及木



工沈床七組ヲ沈メ延長五十米ノ基礎ヲ施工シ上構ノ一部ニ方塊ノ据付ヲ爲セリ  
 材料採取及製造ハ方塊製造トシテ前年度繼續ノモノ一、新ニ着手ノモノ二ニシテ突堤用方塊ヲ製造セリ  
 本年度ニ於テハ長一米八三、幅一米八三、厚一米五二ノ甲號方塊百五十個、長一米八三、幅二米七三、厚一米五  
 二ノ乙號方塊八十八個ヲ製造シ内甲號方塊六十九個ヲ沈設セリ其他方塊製造用砂利採取二箇所突堤用  
 捨石ノ採取一箇所アリ

障害物除却ハ本年度新ニ着手セルモノニシテ在來ノ導水堤ヲ除却シ船舶ノ出入ニ便ナラシムル目的ニ  
 シテ未竣功ニ屬ス

附帶工事トシテ本年度ニ於テ施工セルモノハ新ニ着手セル島ノ内溝排水樋門一箇所ニシテ基礎本體翼  
 壁等殆ド大部ノ竣功ヲ見タルモ門扉及護岸ノ一部翼壁ノ一部未完成ナリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ五十七萬四千七百十九圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ六百九十五萬三千  
 五百九十一圓ナリ之レヲ總工費豫算額一千五百萬圓ニ比スレバ四割六分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ  
 如シ但シ「」ハ寄附物件評價額

種 別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合 計		竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額	
掘鑿	八、六六一、六八六 <small>立方米</small>	一、四九七、一一六	一、一〇八、〇二八 <small>立方米</small>	一、三三四、二七三	九、七六九、七一一 <small>立方米</small>	一、六三三、三八九	〇、五六
築堤	四〇三、八三五	一〇二、六七六	一八四、二〇六	二二四、三七一	五八八、〇四一	一四三、六八五	〇、一〇
護岸及水制	二、六九五、七四八	二八三、八六八	二九五、九二七	七六、四八二	二、九九一、六七五	三五九、九四四	〇、四一
工 本		九〇、五五四		一七、八一七		一〇八、三六五	
寄附物件評價額				七、七七二		七、七七二	
合 計							

總計	事突堤						
	材料採取及製造	材料運搬	導水堤除却	用地費	附帶工事費	船舶及機械費	雜費
■	五六、四三三	四〇、九六六	六、六四七	九三七、三六六	五四、二五〇	二、四〇七、九八二	九〇一、四二〇
■	一六、〇五四	三三、二四三	七、〇一八	二、八五〇	四、一六八	一〇、二五二	一三四、九二八
■	五七四、七一九	三三、一四三	九六、六三一	九四一、五三四	六四、五〇二	二、五四二、九一〇	九九八、〇五一
■	七二、四八七	七四、二〇九	一三、六六五	二、八五〇	九四一、五三四	六四、五〇二	九九八、〇五一
○	〇、四六						

## 第一〇 雄物川改修工事

(秋田土木出張所)

### 緒言

本工事ハ當初大正六年度ヨリ同十五年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費七百二十萬圓ヲ以テ施工スルモノナリシガ大正十二年度ニ至リ物價騰貴ノ爲メ總豫算工費ヲ一千百七十萬圓(内地方負擔三百四萬七千圓)トシ年限ヲ昭和六年度ニ延長セリ偶々大正十二年九月一日關東大震災突發ニ依リテ更ニ五箇年度ヲ延長シ工事年限ヲ昭和十一年度迄ニ繰延ベタリ

其區域ハ幹川ニ在リテハ左岸秋田縣河邊郡豐岩村(由利郡下濱村ハ大正十五年三月十八日附改修區域ヨリ除外)右岸同縣同郡川添村以下海ニ至ル間延長二十一籽及支川岩見川ニ在リテハ左右岸秋田縣河邊郡豐島村以下雄物川合流點ニ至ル間五籽合計二十六籽ノ間ニ改修ヲ施行スルモノトス

### 河狀並計畫大要

雄物川ハ流域面積四千八百平方籽流路延長一千二百四十五籽(内幹川百四十九籽)航路延長三百三十四籽(内幹川百三十七籽)灌溉面積三萬九百十三ヘクタール(内幹川三千三百三十四ヘクタール)水害區域二萬二千六百九十ヘクタール(内幹川一萬一千五十八ヘクタール)ヲ有ス而シテ其沿岸ハ幹支川共無堤ノ部分多ク偶々一部ニ堤防ヲ見ルモ極メテ不規律ニシテ且河幅一定セズ殊ニ幹川ノ下流部ハ土崎港ニ至ル迄流心不定加之屈曲甚シキヲ以テ洪水ノ際ハ毎々其疎通ヲ妨ゲラレ從テ支川岩見旭ノ如キハ逆流ニ依ル

水害著シク明治二十九年ノ汎濫區域一萬七千八百五十ヘクタールニ及ビ其損失價額實ニ一千三百萬圓ニ達セリ其後明治四十三年ノ被害ノ如キモ亦三百十餘萬圓ニ達シタルノ狀況ナリ

本計畫ハ秋田市及附近平野ノ水害ヲ除去スルヲ以テ主眼トシ併テ河口ヲ改善セントスルモノナリ而シテ計畫高水流量ハ幹川河邊郡川添村以下海ニ至ル間毎秒五千五百六十五立方米支川岩見川ハ豊島村以下幹川合流點ニ至ル間毎秒五百五十六立方米ト定メ之ヲ快疎スルノ河積ヲ有セシムルモノトス而シテ河邊郡新屋町ニ於テハ現水路ヲ全ク締切り同町西方ノ丘陵ヲ横斷シテ直路日本海ニ注グベキ長サ二千米餘ノ一大新水路ヲ開鑿シ水面幅ハ高水時ニ於テ約三百六十四米トシ上流ニ於ケル流路ニ對シテハ堤防ヲ築キ水積ヲ補ヒ屈曲ヲ矯メ水制ヲ設クル等諸般ノ施設ヲ爲スモノトス又締切堤ノ東方秋田市牛島町ニ閘門ヲ設ケ以テ航行ニ便シ之ヨリ以下舊川ハ幅五十五米乃至九十米ヲ限り低水時一米五ノ水深ヲ保ツ程度ニ浚渫ヲ加ヘ舟筏航行ノ用ニ供シ併テ下流幹支川惡水排除ノ便ニ備ヘントス

由利郡下濱村及河邊郡豊岩村字小山ノ一部ハ堤内地一帶高地ニシテ洪水被害少ナク地方民陳情書提出ノ次第モアリ三月十八日附改修區域ヨリ除外ノコトニ決定セラレタリ

土崎港ハ雄物川ノ土砂河口ニ流下シ來リテ堆積スルヲ以テ船舶ノ出入ヲ妨ゲラレ倍々不良ノ状態ニ陥ルノ虞アルヲ以テ差當リ現在出入船舶ノ狀況ニ鑑ミ之ニ適應スル事ニ止ムル事トシ突堤ヲ築キ浚渫ヲ爲シ以テ干潮面下四米五ノ水深ヲ保持セシムルモノトス

支川岩見川ハ其合流點附近ノ河狀不自然ナルガ爲メ一朝洪水ニ際シテハ其慘害ノ怖ルベキモノアルヲ以テ現在ノ流末水路ヲ附替ヘ適當ノ築堤ト掘鑿トヲ施シ以テ洪水ノ防禦ニ備フルモノトス  
本工事施行部ハ前述ノ如ク多クハ無堤地ニ屬シ河幅一定セサルヲ以テ河狀ニ應ジ堤防中心間ノ距離ヲ

左表ノ如ク定メ築堤ヲ以テ幅員ヲ整正セントス

區	間	堤防中心間ノ距離	備考
椿川	ヨリ 4 $\frac{1}{2}$ ニ至ル	三八〇—六〇〇 <sup>米</sup>	
4 $\frac{1}{2}$	ヨリ新川入口	六〇〇	
新	川	三五五	高水敷幅ヲ示ス
支	川	一四五—一八〇	
岩	見		
川			

堤防ハ施工ニ際シ計畫斷面ヲ變更セリ即チ幹支川共馬踏五米五、表法二割トシ天端以下三米五ニ幅九米  
支川岩見川ハ三米五ノ小段ヲ設ケ以下三割法トス裏法ハ上部ヲ二割五分トシ天端以下二米五ニ幅三米  
五ノ小段ヲ設ケ夫ヨリ下部三割トス而シテ法先ノ水中ニ没スルモノハ相當ノ犬走下埋ヲ施ス天端高ハ  
幹川ニ在リテハ計畫高水面ヨリ一米五高トシ支川岩見川ニ在リテハ一米乃至一米五トス而シテ新川下  
流突堤ニ接續スル部分ハ馬踏七米、表法一割五分ニシテ護岸ヲ施シ裏法ハ二割トス

### 施工狀況

本改修工事ハ大正六年度ノ創業ニシテ翌大正七年度ニ於テ一部ノ土地買収ヲ行ヒ大正八年度ヨリ河邊  
郡新屋町地内新川開鑿工事ニ着手シ爾來八箇年度間改修ノ主力ヲ此主要工事ニ傾注セリ本年度ニ至リ  
テハ工事に用諸機械ノ設備漸ク完備充實ノ域ニ達シタリト雖モ年度割工費ノ減少ニ依リ十分ナル活動ヲ  
爲ス能ハザリキ

掘鑿工事ハ新川開鑿工事ニ於テスラ一箇年度ヲ通ジ僅カニ掘鑿機三臺ヲ以テ操業シ各機械トモ線路移轉ノ爲メ大ニ其能率ヲ減殺セラレ土量五十萬七千六百四十一立方米ヲ施工セルノミナリ又同所人力掘取運搬ニ於テハ土量十一萬七千九百五十立方米ヲ施工シ合計本年度六十二萬五千五百九十一立方米起工以來ノ累計七百二十萬六千七百八十九立方米ニシテ新川開鑿計畫土量ニ對シ其五割二分ヲ竣功シタリ其他岩見川第一掘鑿一萬九千七百九十九立方米、四ツ小屋第一掘鑿四千二十八立方米、牛島掘鑿三萬四千三百二十九立方米、石田坂掘鑿六千九百九十九立方米ノ掘鑿土運搬ヲ爲セリ即チ本年度掘鑿合計六十九萬五百六十六立方米ナリ

築堤工事ハ全部掘鑿土利用ニシテ本年度功程ハ仁井田築堤三千二百七十立方米、岩見川右岸第一築堤一萬九千七百九十九立方米、牛島築堤一萬一千九百五十立方米、合計三萬四千九百二十九立方米ノ築立ヲ施工セリ

新川開鑿部ニ於ケル法留工ハ本年度芝付面積一萬二百八十平方米ニシテ累計六萬一千七十二平方米ノ芝張工ヲ施工セリ

本川土崎港口ニ於ケル假突堤ハ辨慶杵ヲ沈下シテ築設スルモノニシテ前年度迄右堤百七十三米六、左堤百二十五米四、合計二百九十九米ヲ施工セリ然ルニ海蟲ノ侵喰ニ依リ杵材損傷セラレ冬期ノ激浪ト春夏ノ出水トニ依リ石杵ノ流サル、モノアリ又捨石ノ周圍ニ散亂セララル、モノヲ生ゼシニ依リ銳意其手直シト捨石ノ補充トヲ爲シ以テ既成部分ノ原形維持ニ努メタリ土崎港上流部ノ水制工ハ沈床ノ上ニ辨慶杵ヲ竝列セルモノニシテ低水路ノ矯正ヲ目的トセリ昨年度ニ於テ大部分ノ沈設ヲ終リ本年度ニ入りテハ割石ノ補充、杵柱立成木ノ整理等ヲ施工セルモノナリ又港口沿岸ニ於テ飛砂ノ港内ニ侵入スルコトヲ

防ぎ併せて其飛砂ノ程度方向ヲ調査センガ爲メニ施工中ナル簀立ハ本年度ハ其生長セル砂丘上ニ更ニ施工セルモノニシテ施工累計ハ設計延長ノ約三分ノ二ニ當レリ次ニ港内浚渫計畫資料ヲ得ンガ爲メニ八箇所ノ地質調査ヲ爲セリ一般ニ水底ハ粗砂ニシテ以下砂利層相交錯シ時ニ粘土層ノ介在スルコトアリ上流程砂利量多キモ下流程粗砂多キヲ以テ浚渫ニハ甚シキ困難ナルベシ

工事用石材ノ本年度採取ハ一千七百四十立方米ニシテ所要地ヘノ運搬量ハ一千四百三十四立方米三ナリ石材採取工場ノ諸設備未ダ完カラザルモ奥羽本線一日市驛側線二哩四十五鎖五十節ハ本年度内大部分ノ工事ヲ終へ明年早々完成ノ豫定ナルヲ以テ追々成績ノ向上見ルベキモノアリト思惟セララル

附帶工事トシテ施工セル右岸仁井田村地先排水路ハ昨年度竣功以來新堤ノ完成ト共ニ附近古川沿岸ハ洪水ノ被害ヲ免レ得タルヲ以テ荒蕪地ヲ開墾スルモノ多ク着々好結果ヲ收メツ、アリ

土地買収ハ工事ノ必要缺クベカラザル箇所ノミヲ買収シ川敷用地トシテ本年度完了セル土地ハ七段九畝十五步此金額七千九百三十五圓餘ナリ

本工事本年度竣功高ハ三十七萬八千五百七十五圓ニシテ起工以來本年度迄ノ竣功高ハ五百四十九萬九千八百四十八圓ナリ即チ總工費豫算額一千百七十萬圓ニ對シ約四割七分ノ竣功ナリトス其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘	七三八一、四六六	一、六八一、〇三九	六九〇、五六六	一、六四一、三四	八、〇七二、〇三二	一、八四五、一七三	〇・五三
築堤	六三三、八七六	三九、七七七	三四、九二九	六、六八五	六六八、八〇五	四六、四六二	〇・三三
	立方米	圓	立方米	圓	立方米	圓	割分

總計	共濟組合給與金	雜費	營繕費	測量費	船舶及機械費	附帶工事費	用地費	費用	突堤	護岸及水制
								三、三〇一		
五、一二一、二七三	九、九〇六	四八四、八一七	九六、六九八	三六、九九五	二、一六八、三三三	六〇、三七七	四五四、〇九八		三〇、二二八	五九、〇〇五
								八		
三七八、五七五	三、四九七	九八、一二〇	三、三三六	三、六三七	八五、一七三		七、九三六		二、六五六	三、四〇一
								三、三〇九		
五、四九九、八四八	一三、四〇三	五八二、九三七	一〇〇、〇三四	四〇、六三二	二、二五三、五〇六	六〇、三七七	四六二、〇三四		三二、八八四	六二、四〇六
〇、四七										



## 第一一 江合、鳴瀬兩川改修工事

(仙臺土木出張所)

### 緒言

本川改修ハ大正六年度ヨリ宮城縣ニ於テ起工シタル事業ニシテ大正十年度ニ至リ明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ内務大臣ニ於テ直接施行スル事トナレリ當初豫算總額五百六十九萬二千圓ノ内縣施行額百三十一萬二千圓ヲ控除シタル殘額四百三十八萬圓ヲ以テ大正十五年度ヲ竣功期限トシ爾來繼續實施中ノ處大正十二年度ニ至リ河川法ニ依ル國ノ直轄工事トナリ同時ニ物價騰貴ニ依ル工費不足額ノ内ニ一百万圓ヲ追加シ事務費ヲ別チ豫算ヲ更正シ工費總額ヲ六百四十七萬四千圓トシ大正十八年度迄ノ繼續事業ト定メタリ超エテ大正十四年度ニ至リ既往ニ於ケル工事施行ノ實績ニ鑑ミ物價騰貴ニ依ル工費不足額三百七十三萬圓ヲ追加シ工費總額ハ一千二十萬四千圓トナリ其竣功年度ハ大正二十四年度ト更定セリ改修區域ハ鳴瀬川ハ宮城縣志田郡高倉村ヨリ河口ニ至ル約五千竪六分間吉田川ハ黒川郡落合村ヨリ小川落口二子屋ヲ經テ鳴瀬川ニ沿ヒ河口ニ至ル約三十一竪四分間江合川ハ栗原郡宮澤村ヨリ下流トシ志田郡荒雄村大字福沼ヨリ新川ヲ開鑿シ鳴瀬川ニ合流セシムルモノニシテ其距離約七竪九分ナリ

### 河狀並計畫大要

鳴瀬川流域ハ江合川流域ニ連リ其面積八百七十九平方竪餘ヲ有ス本川ノ最上流ヲ夕日川ト稱シ源ヲ陸

羽國境宮城縣加美郡小野田村舟ヶ嶽ニ發シ同郡山間一帯ノ溪流ヲ合シテ流下シ保能川、田川、荒川、多田川ノ各支川ヲ容レ田志、遠田兩郡ノ平坦部ヲ貫流シ數多屈曲ノ後桃生郡小野村ヲ經テ同郡野蒜村ニ至リ海ニ注グ幹川ノ流路約九十籽ニ及ブ本川中治水上重要ナル區域ハ加美郡中新田町附近ヨリ海口ニ至ル約五十一籽ノ間ニシテ流心概シテ統一シ流勢亦緩和シ志田郡三本木町附近以下ハ河床ニ粗礫ヲ見ルコト稀ナリ中新田町以下本川ノ右岸ハ山勢稍逼リ耕地大ナラザルモ左岸ハ末流約七籽九分ヲ除キテハ廣大ナル平野ニシテ洪水被害ノ大ナルモ亦此區域ナリトス

吉田川ハ源ヲ黒川郡吉岡町ノ西方北泉岳ニ發シ溪流ヲ集メ流程約三十一籽ニシテ品井沼ニ入ル流域三百八平方籽餘、同郡落合村附近ヨリ下流兩岸ハ概ネ堤防ヲ有シ新舊二個ノ潛穴ヨリ高城川ニ出デ松島灣ニ注グ

江合川ハ北上川ノ一大支川ニシテ宮城縣玉造郡荒雄嶽ニ發源シ鬼首村ヲ過ギ大澤、大谷等ノ支流ヲ加ヘ同郡岩出山町ニ至リ漸ク平地ニ臨ミ鳴瀨川ト相竝ビテ東流シ遠田郡涌谷町ヲ經テ桃生郡前谷地村和淵ニ於テ北上川ニ合ス流路約九十八籽、流域六百三十二平方籽ヲ有ス本川ハ志田郡古川町北方江合橋附近ヨリ上流ハ一般ニ流勢急激ニシテ亂流ノ状態ヲ呈シ諸所ニ砂礫ノ附洲ヲ横タフルモ同所ヨリ下流ハ河狀一變シ勾配大ニ緩ミ流心漸ク統一ス

今各川ノ灌溉面積竝ニ水害面積ヲ調査スルニ灌溉面積ハ鳴瀨川一萬二千ヘクタール、小川上流吉田川ハ七百ヘクタール、江合川ハ七千七百九十ヘクタールニシテ水害區域ハ鳴瀨川ニ於テ一萬四百九十三ヘクタール、吉田川ニ於テ一千二百ヘクタール、江合川ニ於テ五千七百ヘクタールヲ有ス

改修計畫ハ鳴瀨、江合兩川筋ノ高水防禦ノ目的ヲ達シ竝ニ江合川ニ於テ江合橋以下約二十七籽ノ兩岸堤

防ヲ節約スル目的ヲ以テ荒雄村福沼ヨリ一條ノ新川ヲ開鑿シ以テ江合川洪水全部ヲ導キ之ヲ鳴瀬川ニ合流セシメ鳴瀬川ハ河幅ヲ擴張整理スルト同時ニ堤防ヲ堅牢ナラシメ河積不足ノ所ハ掘鑿又ハ浚渫ヲ爲シ著シキ屈曲ハ之ヲ直通セシメ以テ江合、鳴瀬兩川洪水ノ全部ヲ快通セシメ傍ラ吉田川ハ之ヲ鳴瀬川ヨリ分流シ河口近クニ於テ鳴瀬川本流ニ注ガシメ品井沼ノ湛水ニ依ル害ヲ輕減セントシ尙併セテ多田川ノ逆水被害ヲ防グ爲メ現在堤防ノ嵩置ヲ爲スモノナリ

計畫高水流量ハ鳴瀬川毎秒一千五百三十立方、江合川同一千三十立方、吉田川同五百五十七立方ナリ又河幅ハ鳴瀬川百四十五米乃至三百六十三米、新江合川ハ百二十七米、吉田川上流ハ九十一米乃至三百六十三米、下流ハ七十三米乃至八十二米ナリ

築堤ハ其堤頂ヲ最高水位以上一米二分トシ馬踏五米五分、兩法二割トシ尙水流衝激ノ局部ニ對シテハ特ニ護岸工事ヲ施シ其他屈曲部ヲ緩和シ用惡水路ノ改築等ヲ圖ルモノナリ

突堤ハ野蒜築港當時築造セシモノヲ利用増築スルモノニシテ東西兩突堤ニ於テ百八十一米ヲ延長ス

## 施工狀況

本川改修工事ハ大正六年度宮城縣ニ於テ起工シ江合、鳴瀬、吉田ノ三川共上流一部ノ築堤工事江合川ハ舊川部、鳴瀬川ハ支流多田川落合上流部、吉田川ハ粕川村ヨリ上流部ノ築堤ヲ大正九年度迄ニ完成シ大正十年度ニ至リテ内務省ノ直轄事業ニ移セリ爾來計畫調査機械購入等諸般ノ準備ニ幾多ノ時、日ヲ費シ大正十一年十月ニ至リテ漸ク本工事ニ着手ノ運ビトナリ茲ニ鳴瀬川右岸小野村地内ノ山地切取ヲ始メトシ漸次其下流又ハ上流ニ及ボシ以テ現今ニ至レリ

直轄工事ノ本年度未迄ニ施行セシモノハ鳴瀬川ハ下流部ニ於テハ遠田郡小野村ヨリ野蒜運河ニ至ル其距離約三千九百二十七米、中流部ニ於テハ同郡南郷村木間塚以下小川落合ニ至ル約五千六百七十二米、上流部ニ在テハ志田郡敷玉村松ヶ崎以下、梅ノ木東北本線鐵道橋附近ニ至ル約三千四百九十一米ノ各兩岸ノ築堤竝ニ堤外掘鑿工事ナリトス吉田川ハ下流小野村、野蒜村間ノ築堤及掘鑿ヲ施工中ナリ掘鑿機關ハ「スチームシヨベル」二臺ト一立方碼四分ノ一マリオン三十二番型「ドラグライン」エキスカヴェーター二臺、短梯掘鑿機二百坪掘一臺ヲ使用シ二十噸型機關車三臺ヲ配置シテ土砂ノ運搬ヲ掌ラシム其外人力積込小形機關車運搬又ハ人力トロ、馬力トロ運搬、畚擔等ヲ併用シ掘取土砂ヲ利用シテ築堤ヲ完成セシムル方針ヲ以テ工事ヲ進行中ナリ而シテ大正十一年度以來移動土砂ノ累計ハ二百十二萬七千七百二立方米ニシテ其内六十七萬八千四百二立方米ハ本年度ノ施工ニ係ルモノナリ

土地買收ハ工事施行上急ヲ要スル部分ヨリ調査發表ノ方針ニテ進ミ本年度迄ニ累計二百十五町六段歩ノ買收ヲ終へ本年度ニ於テハ四十町歩ノ發表ヲ爲セシガ未承諾者アリシ爲メ結局二十三町六段歩ノ買收未濟地ヲ見ルニ至レリ

本年度ノ竣功額ハ總計四十九萬四千四百十三圓ニシテ本年度迄ノ累計額ハ二百十八萬一千五百七十三圓ナリ之ヲ工費總額一千二十萬四千圓ニ對比スレバ約二割一分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功額		本年度竣功額		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘 工事築堤	立方米 一、四四九、三〇〇	圓 二七三、〇四八	立方米 六七八、四〇二	圓 二〇六、三八六	立方米 二、一二七、七〇二	圓 四七九、四三四	割分 〇・二四
	立方米 一、一三一、五〇四	圓 二八五、四九九	立方米 三九五、三九四	圓 六、六八七	立方米 一、五二六、八九八	圓 二九二、一八六	〇・二一

種別	前年度迄竣功額		本年度竣功額		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
費(護岸)	一、八一八段	五一一、六三七	三三八段	一〇一、五七〇	二、一五六段	六一三、二〇七	一四
用地費				一一			一
附帶工事費				一〇、〇一一		一〇、〇一一	
船舶及機械費		四三二、八七五		一一一、三六一		五五四、二三六	
測量費		五、八五六		四〇一		六、二五七	
營業繕費		二七、五四五		二、三七八		二九、九二三	
雜費		一四五、七四一		四三、四〇一		一八九、一四二	
共濟組合給與金		四、八五九		二、二〇六		七、〇六五	
退職手当當		一〇〇				一〇〇	
總計		一、六八七、一六〇		四九四、四一三		二、一八一、五七三	〇・二二

## 第一二 淀川改修増補工事

(大阪土木出張所)

### 緒言

最初ノ淀川改修工事ハ明治二十九年度ニ起リ同四十四年度ニ於テ工費一千六萬餘圓ヲ以テ滋賀縣瀨田川以下海ニ至ル高水工事ヲ一旦結了シタルモ大正六年十月計畫高水ニ達スル大出水ニ際シ右岸大冠村地先淀川本堤竝ニ改修區域外ナル支川數箇所ニ破堤ヲ生ズルニ至レリ之レガ爲メ直接損害高六百餘萬圓ニ上リ其他交通衛生ノ障害ニ因ル間接ノ影響ハ實ニ計數ヲ以テ揣リ難キモノアリ政府當局ニ於テモ此慘害ニ鑑ミ尙増補工事ヲ行ヒ安全ヲ計ルノ緊急ナルヲ認メ京都府伏見町以下ニ對シ大正七年度以降同十二年度ニ至ル六箇年度間繼續事業トシテ工費五百七十六萬圓、俸給事務費二十一萬圓、合計五百九十七萬圓ノ豫算ヲ以テ高水工事ヲ施行スルコト、ナリシガ其後物價勞銀暴騰ノ爲メ豫算増額一千二百一萬三千五十一圓トナリ施工年限モ亦昭和二年度迄延長セラレタリ

### 河狀竝計畫大要

淀川ハ流域八千二十平方糎ニシテ其内五割弱ハ琵琶湖ノ水域、二割ハ木津川、一割三分ハ桂川、殘餘ノ二割ハ本流沿岸ノ水域ニ屬ス幹川流路ノ延長ハ湖水流出口伏見間三十糎伏見以下海口間四十六糎、合計七十糎ニシテ其滋賀縣ニ屬スル部ヲ瀨田川、京都府ニ屬スル部ヲ宇治川ト稱ヘ京都、大阪、兩府界ナル山崎ニ

於テ宇治、木津、桂ノ三川合流シテ淀川本流トナル

流域内耕宅地ノ總面積ハ約一千九百八十平方糎トス其内沿岸平坦部ハ琵琶湖沿岸三百四十七平方糎、山城平地部百五十九平方糎、攝河平野三百四十七平方糎、合計八百五十三平方糎ニシテ本川改修ト密接ノ利害關係ヲ有スルモノナリ

既往調査ノ結果ニ依レバ洪水ノ最大流量(毎秒)ハ宇治川八百三十五立方米、木津川四千六百五十立方米、桂川一千九百五十立方米、三川合流以下淀川本流五千五百六十立方米トス、低水流量(毎秒)ハ淀川本流平均低水位ニ於テ百九十五立方米餘ニシテ如何ナル渴水時ト雖モ八十三立方米ヲ下ルコトナシ但シ渴水ノ大部分ハ宇治川ヨリ來ルモノニシテ琵琶湖貯水ノ放流ニ依ルモノナリ

今回ノ改修區域ナル伏見以下幹川ノ水面勾配ハ高水低水共ニ概ネ三千分ノ一以下ノ緩流ニシテ舟運上最モ利用サル、區域ナリ増補工事ノ計畫ハ大正六年十月ノ洪水ニ鑑ミ第一、伏見觀月橋以下ニ於ケル堤防ノ餘裕ヲ同年ノ洪水位以上一米二乃至一米五ニ増築スルコト、第二、伏見町ノ浸水ヲ防止スル爲メ新堤ヲ築造スルコト、第三、三川合流附換ヲ爲スコト、第四、橋本下流ニアル中洲ヲ除去スルコトヲ主要ナル工事トス尙前改修ニ於テハ包含セサリシ各支川堤防モ幹川洪水ノ及フ範圍ニ限リ相當補強スルコト、セリ幹川堤防ハ馬踏幅大體五米五、所定洪水位以下〇米六及三米三ノ處ニ各幅三米七ノ裏小段ヲ同上三米ノ處ニ幅九米一ノ表小段ヲ設ケ法勾配ハ表小段以上二割同以下三割裏上部小段以上二割同以下二割五分ヲ標準斷面トシ地形及地質ニ應ジ小段ニ多少ノ變更ヲ爲ス大體ハ外腹付ナルモ地形上之ヲ許サザル區間及屈曲矯正箇所ハ内腹付トス

三川合流以下堤防高ハ所定高水位以上一米五トシ非常特別流量毎秒六千六百八十立方米ヲ疏通シ猶堤

防ニ〇米九一ノ餘裕ヲ保タシメントス而シテ宇治川筋ハ木津川合流點附換ニ依ル水位低下ヲ豫想シ所定高水位以上一米二ニ止ムルモノトス

## 施工狀況

本工事ハ大正七年五月調査測量ヲ開始シ同年末略ボ之ヲ終ヘ同八年二月ヨリ大阪府枚方町ニ事務所ヲ置キ工事ニ着手セリ爾來水防上比較的の不安ナル重要區域ニ對シ先ヅ以テ工ヲ進ムル方針ニテ人員及土功機具ヲ配置シ專ラ築堤、中洲掘鑿及護岸ノ普及ヲ計レリ

本年度迄ノ竣功總高ハ築堤六百七十九萬五千餘立方米此工費二百十四萬二千餘圓、掘鑿四百十八萬餘立方米此工費百二十八萬六千餘圓、護岸及水制延長三萬七千二百餘米此工費百二十一萬六千餘圓、閘門、洗堰及樋門等ノ特種工事五箇所ノ竣功額二十四萬四千餘圓ニシテ其内本年度竣功高ハ築堤七十七萬二千餘立方米此工費二十一萬二千餘圓、掘鑿五十六萬八千餘立方米此工費十六萬六千餘圓、護岸及水制延長四千七百餘米此工費十一萬七千餘圓、特種工事三箇所分支出額八萬九千餘圓ナリ

以上本工事ノ竣功總高ハ計畫ノ全量ニ對シ略ボ八割ニ當ル此外樋門其他ノ附帶工事ノ進捗程度ハ本工事ノ割合ニ及バズ今之ガ施工ノ概況ヲ上流部ヨリ順次述ブレバ次ノ如シ  
伏見、橫大路、向島方面ノ主ナル工事ハ伏見締切新堤竝ニ之ニ伴ヒ必要ヲ生ジタル派川、平戸川、締切樋門、三栖、閘門及洗堰、高瀬川附換、京都市疏水放水路、新設電車橋二箇所、府道橋二箇所ニシテ其他ハ在來築堤ノ嵩置腹付竝ニ伏見及橫大路護岸等ナリ

以上ノ内三栖、閘門及高瀬川築堤竝ニ之レニ關連セル工事ハ目下施行中ナルモ其他ノ築堤及護岸ハ略之



レヲ了セリ築堤ハ凡テ堤外中島機械掘鑿土砂ヲ使用スルモノニシテ本年度ノ運搬土量ハ十九萬六千餘立方米此掘鑿運搬費四萬二千九百餘圓ナリ横大路護岸ハ延長一千九百七十米餘此工費九萬二千餘圓前年度ヨリ着手シ殆ド竣功セリ三栖洗堰ハ所要工費十萬二千圓ニテ本年度竣功シ同開門ハ二十五萬三千圓ノ豫算ニテ大正十五年二月着手シ前後扉室低水面以下ノ混凝土ヲ終レリ高瀬川附換ノ築堤ハ目下極力進工中ニシテ新川横斷ノ府道橋一箇所ハ略竣功シ一箇所ハ橋脚、橋臺ノ混凝土ヲ了シ京阪電車橋ハ築堤土砂運搬線路上ニ假橋ヲ設ケ本橋架設中ナリ疏水放水路工事ハ一小部分ヲ殘シ其他ハ竣功セリ淀御枚方面ニ在テハ前回ノ淀川改修ニ依リ附換サレタル新宇治川堤防ノ嵩置腹付ヲ爲スモノニシテ左岸ハ木津川落合附近迄右岸ハ淀大橋迄何レモ竣功セリ此土量左岸二十八萬二千餘立方米此工費十七萬四千餘圓右岸二十萬六千餘立方米此工費九萬餘圓ヲ要セリ左岸美豆村地先淀大橋下流堤防裏法先惡水路沿石張延長一千六百九十一米此工費一萬三千餘圓ニテ前年度ニ竣功ス右岸淀大橋ヨリ下流ハ三川合流工事ノ掘鑿土砂ヲ利用シ目下築堤中ニシテ之レヲ以テ此方面ノ工事ハ大體完了ノ豫定ナリ

宇治、木津、桂三川合流附換工事ハ宇治川ニ對スル木津川洪水ノ害ヲ緩和スル目的ニシテ現在ノ宇治、桂、隔流堤ノ上半ニ切り取り之レニ宇治川低水路ヲ通ジ殘部下半ヲ現在ノ木津、宇治兩川末端釵先堤防ニ取付クルモノナリ之レニ伴ヒ施行スベキ工事ハ桂川右岸山崎引堤、桂川低水路ノ移動宇治川新低水路ノ掘鑿、宇治、桂脊割堤用惡水路樋門移轉等ノ工事ナリ目下施工中ノモノハ宇治川新低水路中下流部掘鑿、桂川高水敷掘鑿、宇治、桂脊割堤工事ナリ施工順序上最モ急ヲ要スル山崎引堤ハ用地買収ノ調停延引ノ爲メ着手スル能ハズ甚ダ遺憾ナルモ年度末ニ至リ解決シ諸準備整ヘルヲ以テ明年度ニ於テハ著シキ進捗ヲ見ルヲ得ベシ此外八幡町地内淀川本流筋左岸築堤護岸及木津川筋兩岸築堤ハ既ニ完了シ此築堤土量二十七

萬五千餘立方米此工費十三萬六千餘圓、護岸延長一千九百米此工費三萬三千餘圓ナリ

樟葉、牧野、島本、五領方面ノ工事ハ在來堤防ニ對スル嵩置腹付、中島掘鑿及護岸ニシテ起工以來引續キ施工ノ結果大體竣功セリ、殘工事ハ僅カニ府界ニ近キ軌道併用堤防約三百八十米、五領堤防ノ土運搬約二萬立方米及築立芝付、護岸ノ一部仕上ゲ方樋門工事四箇所ノミトナレリ

掘鑿土量ハ樟葉村五十三萬四千餘立方米、牧野村六十三萬一千餘立方米、島本村十七萬三千餘立方米、五領村三十六萬餘立方米、合計百三十七萬四千餘立方米ニ達シ此内機械掘鑿約百萬立方米此工費二十一萬八千餘圓ナリ、該掘鑿土砂ハ大部分築堤ニ使用シ右岸ハ少量ノ不足ヲ生ジ左岸ハ剩餘ヲ生ジタリ、護岸ノ主ナルモノハ上牧護岸延長四百五十五米、前島護岸延長一千七百米、合計二千百五十五米此工費十四萬三千餘圓ヲ要シタリ

牧方、大冠、三箇牧方面ハ水防上重要區域ナルヲ以テ大正八年度着工以來極力築堤土功ノ進捗ヲ計リ表小段上九十糶迄ノ腹付ハ既ニ十年度迄ニ大體終了セリ、大正十年九月ノ出水ニ枚方標最高五米四十四糶ヲ示シ同六年ノ大洪水ニ比シ僅カニ十二糶ノ下位ニシテ馬踏以下一米ニ達スル大出水ナリシモ水防上危險ト認ムル事故ヲ見ズシテ濟ミタリ之レ殆ド前例ナキ事實ニシテ増補腹付工事進捗ノ效果ト認ムルヲ得ヘシ

其後機械掘鑿土砂ヲ利用シ計畫馬踏迄ノ嵩置腹付ヲ施工シ前年度迄ニ大體了シ本年度ニ於テ本支川全部竣功セリ但シ蹉跎村字出口樋門及友呂岐村字木屋樋門箇所ハ枚方以下左岸八樋管合同ノ議目下進行中ノ爲メ擴築未濟ナリ

蹉跎村、友呂岐村、大冠村及三箇牧村地先ノ高水敷又ハ中島ノ掘鑿ハ主トシテ機械ニ依リ大正九年度以降

同十四年度迄ニ完了セリ此掘鑿土量百三十六萬四千餘立方米工費三十八萬七千餘圓ナリ掘鑿土砂ハ凡テ下流方面ニ運搬シ左岸庭窪村及守口町右岸大阪市部江口町大道町豊里町方面ニ於ケル築堤土砂ノ不足ヲ補ヒタリ之レガ爲メ運搬距離遠キハ十料ニ及ビ運搬用機關車ハ常時一線ニ二臺ヲ使用セリ

護岸ハ凡テ大正十二年度迄ニ竣功シ此總延長七千五百餘米工費二十三萬九千餘圓ナリ此内主ナルモノハ左岸枚方護岸延長一千九百十八米工費五萬一千三百餘圓右岸三箇牧護岸延長三千四百二十五米工費十四萬九千餘圓ナリ何レモ幅三米六十四糎乃至四米五十四糎ノ石張ニシテ根固トシテ杭打又ハ粗朶沈床ヲ施工ス

佐太、鳥飼方面モ枚方方面ト同様急速腹付施工ノ必要アルヲ以テ表小段上九十糎高迄ハ大正十一年度迄ニ略全區域ニ互リ施工ヲ終リ其後上流部洪水敷機械掘鑿土砂ヲ使用シ大正十四年度迄ニ小段ト全築堤ヲ完成セリ殘工事ハ右岸樋門二箇所ノ繼足及左岸二樋管工事ノミニシテ後者ハ樋管合同ノ議解決ヲ俟ツテ施行ノ豫定ナリ

築堤土量ハ左岸九箇庄村二十二萬二千餘立方米庭窪村四十四萬餘立方米右岸鳥飼村三十五萬二千餘立方米味生村十萬三千餘立方米中洲掘鑿ハ九箇庄機械及人力掘鑿土量十六萬六千餘立方米工費四萬一千七百餘圓鳥飼機械及人力掘鑿土量十一萬五千餘立方米工費四萬二千餘圓ナリ而シテ掘鑿土砂ハ何レモ大部分下流部築堤箇所ニ運搬セルモノナリ

護岸ハ何レモ大正十二年度迄ニ竣功シ其總延長九千五百七十米工費三十八萬四千餘圓ヲ要セリ何レモ上流部ト同様ノ石張護岸ニシテ之レヲ村別ニ區分スレバ左岸九箇庄村三千三百四十五米工費十萬四千餘圓庭窪村二千四百四十五米工費十四萬一千餘圓右岸鳥飼村三千七百八十米工費十三萬九千餘圓ナリ

守口、大道、豊里方面ハ左岸二樋門、右岸神崎樋門、繼足及同箇所築堤ヲ除ク他ノ工事ハ全部竣功セリ。左岸二樋門ハ上流各樋門ト合同ノ議懸案トナレルヲ以テ其解決ヲ俟ツテ處理シ、神崎樋門ハ來年度施工ノ豫定ナリ。

築堤ノ土量ハ左岸橋寺、赤川間二十六萬五千餘立方米、右岸大道村六萬七千餘立方米、豊里村二十四萬餘立方米ニシテ此方面ハ全川中土砂最モ拂底ノ部ニ屬シ何レモ地先中洲採取土砂ノミニテハ不足セシヲ以テ上下流中洲掘鑿土砂ヲ以テ補充セリ。護岸ノ竣功總延長ハ二千六百七十四米、工費五萬九千七百餘圓、凡テ石張護岸ニシテ大正十四年度迄ニ竣功セリ。

毛馬、赤川、柴島方面ノ築堤ハ大正十三年度ヨリ着手シ本年度ニ至リ全部完了セリ。此總土量左岸毛馬町及赤川町二十二萬八千餘立方米、柴島町十二萬九千餘立方米ニシテ毛馬及赤川ハ地先川中寄洲ヨリ土砂ヲ自辨採取シ、柴島ハ地先高水敷掘鑿土砂ヲ利用セリ。柴島築堤ハ交通頻繁ニシテ沿道人家櫛比シ、馬踏ハ府道併用ナルヲ以テ其嵩置腹付ハ施工上最モ困難セリ。

柴島護岸ハ大正十四年度着手シ同年度ニ於テ殆ド完成セリ。此延長五百五十四米、工費二萬三千餘圓ナリ。以上ノ外毛馬町地先高水敷ノ整理掘鑿土量約六萬立方米ヲ施行セバ此方面ニ於ケル諸工事ノ完結ヲ告グルモノナルモ工事ノ都合上、次年度ニ着手スルノ豫定ナリ。

新淀川方面ニ於ケル左岸築堤ハ大正十四年度着手シ下流傳法町ヨリ上流ニ向ツテ進行シ、本年度末迄ニ十一萬七千八百餘立方米、右岸築堤ハ本年度着手シ下流ニ向ツテ進行シ、二萬七千餘立方米ノ土運搬ヲ終ヘタリ。故ニ全築堤ニ對シ左岸ハ過半、右岸ハ一割餘ノ功程ナリ。

今後起工スベキ主ナル工事ハ長柄護岸九百米、毛馬閘門及洗堰補強、繼足、長柄給水工、長柄運河頭部水制門

等ニシテ昭和二年度ヨリ順次着工ノ豫定ナリ

附帶工事トシテ施行セル工事ノ起工以來本年度未迄ノ竣功工費百十萬五千餘圓（内國庫補助額七十萬三千餘圓）施行場所三十箇所ニシテ總附帶工事費ノ約四割六ニ當ル其内本年度竣功高ハ工費二十一萬七千餘圓（内國庫補助額十七萬九千餘圓）施工場所九箇所ナリ

本年度竣功附帶工事ノ主ナルモノハ芥川伏越樋改築工費十二萬九千餘圓、船橋川伏越樋改築五萬二千餘圓ナリ

目下施工中ノ主ナルモノハ京都府下ニ於テハ京都市疏水放水路工事、新高瀨川筋ヲ横斷スル府道橋、三栖橋、繩手橋、京阪電車橋等ノ新規架設工事、大阪府下ニ於テハ左岸支川船橋川及天野川ヲ横斷スル京阪電車橋桁上ケ工事ナリ、此總工費百零一萬九千餘圓ニシテ何レモ工事ノ過半ヲ出來セルモノナリ

土地買收ノ起工以來本年度迄ノ總支出額ハ百七十五萬一千餘圓ニシテ其内田畑ハ三百三十一町餘、價額百三十九萬九千餘圓、宅地工場敷地ハ二町七段餘、價額八萬三千五百餘圓、雜種地六十七町六段餘、價額十萬六千九百餘圓、地上物件移轉補償等十六萬一千餘圓ニシテ何レモ圓滿ニ各所有者ノ應諾ヲ得タルモノナリ未解決ノモノハ僅少ノ未承諾三件ト其他手續上ノ事故延引數件ヲ殘スノミトナリ

以上ノ内本年度支出額ハ二萬七千餘圓ニシテ主トシテ三川合流山崎引堤用地ナリ

以上工事ノ狀況ヲ綜合スルニ京都府下ニ於テハ伏見觀月橋以下本川筋兩岸ノ築堤、護岸等ヲ大略終了シ目下伏見町三栖閘門及高瀨川關係ノ工事竝ニ三川合流附換關係工事ノ進捗ニ努メツ、アリ

大阪府下ニ於テハ京都府界以下大阪市毛馬町ニ至ル間ノ諸工事ヲ殆ド成功シ目下同町以下兩岸ノ築堤ヲ急ギツ、アリ今後起工スベキ主ナル工事ハ毛馬閘門及洗堰補強繼足工事竝ニ長柄護岸等ナリ

淀川増補工事ノ本年度竣功額ハ百三萬二千三百二十圓ニシテ起工以來ノ累計一千六十四萬七千七百六十四圓ナリ之ヲ總工費(事務費ヲ含マズ)豫算一千八百八十萬四千七百七十七圓ニ比較スレバ九割ノ竣功トナリ尙目下豫算増額稟申中ノ工費二百四十六萬圓ヲ合算シタル一千四百二十六萬四千七百七十七圓ニ比較スルトキハ七割五分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ但シ「」ハ貫土々量「〇」ハ管理者負擔額「□」ハ無償品見積額「」ハ寄附物品評價額

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	三〇五〇、二九三 三九七二、八〇六	一、九二九、五六六 二、三九六、三九六	三、一四、二二九 四、五八、五二九	二、二二、八九一 四、三九、三九三	三、三六四、五三二 三、四三三、三三三	二、一四二、四四七 五、七七八九	〇・八一
掘鑿	三、六一、一五三	一、一〇、二八七	五、六八、八九四	一、六六、一五五	四、一八〇、〇四七	一、二八六、七三三	〇・八一
浚深	四、二四五	一、一八〇	五、三六一	二、七〇七	九、六〇六	三、八八七	一・〇〇
工事費	三、五、二四四	一、〇九八、八四九	一、九六三、八	二、一七、八九八	三、七、二〇七、八	一、二、一、七四七	〇・五六
護岸水制	二	一、三六六	一	二、一一九	三	三、五五七	〇・三五
特種工事	二	一、五四、九七七	一	八、九、七八七	三	二、四四、七八四	〇・三五
用地費	三、九七一	一、七二、三八四	四、四、一	四、四、二〇	四、〇、一、五	一、七五、七八四	〇・九五
附帶工事費補助	二	五、二四、二五二	二	一、七九、四五〇	四	七、〇三、七〇二	〇・三九
船舶及機械費	二	一、九二、一六七	五	三、三、七七九	七	二、三、五、四四六	〇・三九
雜費	二	二、〇七、四五一	一	一、〇二、二、七	三	二、一、〇、九、一六八	〇・三九
總計	〇	九、六一、一五、四四四 一、九二、一、四六七 一、四、八、三六六	〇	一、〇、〇、〇、〇 一、三、三、三、三 一、一、一、一、一	〇	一、〇、〇、〇、〇 一、三、三、三、三 一、一、一、一、一	〇・七五

## 第一三三 千曲川改修工事

(新潟土木出張所)

### 緒言

本川ハ長野縣下ニ於ケル唯一ノ大河ニシテ流域ノ廣大ナルト共ニ其水害モ亦甚大ナルニ依リ改修ノ必要ヲ認メ大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算八百五十萬圓(内長野縣負擔額四百二十五萬圓)ヲ以テ起工セシニ時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年四月三百三十二萬九千圓(長野縣負擔額五十二萬一千五百圓)ノ増額認可ヲ受クルト同時ニ施工期限ヲ昭和六年度迄繰延ベラレシニ大正十二年九月一日關東大震災突發ノ爲メ更ニ五箇年度ヲ延長シ昭和十一年度ニ竣功セシムルノ豫定トナリ總工費豫算一千二百十萬四千圓(内事務費二十七萬五千圓)ヲ以テ幹流ニ在テハ左岸小縣郡城下村、右岸同郡神川村以下下高井郡高丘村ニ至ル五十七軒並ニ其下流下高井郡倭村以下下水内郡太田村ニ至ル十三軒、支流犀川ニ在テハ右岸更級郡共和村以下幹川合流點ニ至ル十軒、此總延長七十九軒ノ間ニ對シ河身ノ改修ヲ爲シ以テ洪水ノ害ヲ防禦セントスルニ在リ

### 河狀並計畫大要

本川ハ流路延長一千五百九十一軒(内幹川二百軒)流域面積七千百十平方軒、平地面積一千三十三平方軒ニシテ灌溉面積五萬百七十ヘクタールナリ而シテ改修區域内ニ於ケル水害區域一萬五千百九十三ヘクタール、水害損失平均年額百十八萬六千七百五十八圓(明治三十九年ヨリ大正九年ニ至ル十五箇年間)ナリトス

本川改修ノ目的ハ主トシテ沿岸地籍ノ洪水防禦ニ在テ被害激甚ナル地方ノ無堤部ニ堤防ヲ築造シ有堤部ニ在テモ亦其構造薄弱ナル箇所ハ之ヲ増築シ以テ堤内地ノ安全ヲ計ラントス即チ改修區域内下高井郡立ケ花橋以下下水内郡秋津村大字蓮ニ至ル狭窄部ヲ除キ河積足ラザル所ハ之ヲ掘鑿シ常ニ汎濫スル箇所ハ堤防ヲ築キ以テ河狀ヲ整理スルト同時ニ舊堤ハ努メテ之ヲ利用シ洪水ノ疏通及惡水ノ排除ニ遺憾無キヲ期セリ

流量ハ主トシテ明治四十三年及大正三年ニ於ケル高水位ニ據リ調査考究ノ末千曲、犀合流點迄ハ兩川共各毎秒二千七百八十三立方米トシ合流點以下ノ幹川ヲ毎秒五千五百六十五立方米ト定メタルモ元來河狀著シク不規則ニシテ且屈曲甚シク霞堤或ハ無堤ノ箇所斷續シ到底河幅ノ整一ヲ期シ難キヲ以テ大體次ノ如ク整理スルモノトス

上田附近	二一八 <sup>米</sup>	犀川合流點以下	九〇九 <sup>米</sup>
鼠附	三六四	飯山	八一八
稻荷山附近	四一八	犀川	五四五
稻荷山附近以下犀川合流點迄	四九一		

築堤ハ馬踏七米二、兩法ヲ各二割トシ其頂天ヲ計畫高水位上一米五トシ成ルベク舊堤ヲ利用ノ上嵩置腹付ヲ施シ尙其安全ヲ期スル爲メ裏法ニ小段ヲ設ク堤高三米六乃至四米五ハ小段幅二米七堤頂以下二米七堤高四米五乃至五米五ハ小段幅四米五堤高五米五以上ハ小段幅七米二トス而シテ築堤ノ總延長ハ百三十九軒、土量ハ五百七十八萬九千九百三十二立方米ナリトス

掘鑿トシテハ本川ハ著シキ箇所無キガ爲メ悉ク人力掘トシ輕運車ニ依リ大部分築堤敷ニ運搬投棄スル



モノニシテ其總土量九十六萬一千百五十四立方米ナリ  
護岸ハ堤腹ニ通常筋芝ヲ施行スト雖モ法面直接河水ニ接觸スル所若クハ其侵害ヲ被ムルノ虞アル箇所  
ニハ石張ヲ施工ス石張ハ大體ニ於テ高水位ニ達セシムルモノナレドモ流勢緩舒タル箇所ニ在テハ其高  
ニ多少ノ斟酌ヲ加フルモノトス又流勢竝ニ河狀ニ照ラシテ木工沈床、金網蛇籠、片棹留等ノ根固工事ヲ施  
行シ或ハ杭柵、聖杵等ノ水制工事ヲ添加スルモノトス  
特種工事ハ支川蛭川、赤野田川、百々川、淺川、篠ノ井川、樽川其他小支流ニハ幅一米八乃至二十一米八ノ水閘  
ヲ設ケ洪水ノ際ニハ門扉ニ依リ逆流ヲ防止スルモノトス其數二十七箇所ヲ算ス  
附帶工事ハ用惡水路ノ水門(幅〇米九乃至五米五ノモノ)六十六箇所ト其他水路及道路橋梁ノ附替等ヲ施  
行スルモノアリ内道路三十五路線、橋梁五箇所ナリトス

## 施工狀況

本工事ハ大正七年ノ創業ニシテ直ニ施工準備ニ著手シ同八年二月ニ入り土地買收ヲ初メ其進捗ニ從ヒ  
曲、犀兩河ノ左右兩岸ニ築堤ヲ主トシ護岸水門竝ニ水制其他ノ諸工事ヲ施行シツ、現今ニ至レリ而シテ  
本年度ニ於テハ前年度ヨリ引續キ施行ノ四十四箇所及新タニ着手セシ十二箇所計五十六箇所ヲ實施シ  
築堤一箇所、護岸一箇所及附帶工事ノ暗渠四箇所、道路付替二箇所計八箇所ノ竣功ヲ見タリ又土地買收ハ  
上流左岸小縣郡川邊村以下更級郡力石右村、岸小縣郡鹽尻村以下埴科郡坂城町ニ至ル延長約二萬米及各  
所ニ於テ少部分ノ買收未済ヲ殘シ殆ンド全線ニ互リ買收ヲ了セリ作業出役者ノ多クハ沿岸住民ニシテ  
農蠶業ノ餘暇ヲ求メテ出役スルモノナレバ夏季ニ勞力ノ不足ヲ告グルヲ以テ冬季農閑期ニ於テ特ニ進

圖リ居レリ今本年度施工ノ概要ヲ述ブレバ次ノ如シ

築堤工事ハ前年度ヨリ繼續施行セル二十四箇所及新タニ著手ノ三箇所計二十七箇所ノ工事ヲ實施シ其内一箇所ヲ竣功セリ而シテ築立ニハ根掘土ヲ利用ノ外舊堤及堤外地ヨリ採土シ運搬ニハ人力又ハ馬力ニ依リ輕運車、策等ヲ使用シ土量三十九萬八百六十四立方米ノ築立ヲ了セリ

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續セル五箇所及新タニ著手ノ二箇所計七箇所ヲ實施シ内一箇所ヲ竣功セリ石張木工沈床竝ニ捨石工等ヲ施設シ延長九百七十二米ヲ竣功セリ

水制工事ハ前年度ヨリ繼續セル一箇所ニシテ殆ンド竣功セシモ河水ノ狀勢ニ鑑ミ一部ニ補足工事ヲ施シ竣功スルニ至ラザリキ

水門工事ハ前年度ヨリ繼續セル篠ノ井川、生仁川及蛭川ノ三箇所ニシテ何レモ掘鑿、埋戻、基礎混凝土本體、擁壁混凝土等ヲ交互ニ實施シ生仁川及蛭川ノ兩水門ハ殆ンド竣功ノ近キニ至レリ而シテ混凝土ハ篠ノ井川ニ在リテハ電動機付「キウブ」式混合機ヲ生仁川ハ手煉トシ蛭川ハ混凝土混合機ヲ使用シタリ又河水ノ滲透地下ノ湧出等ノ排水ニハ石油發動機及電動機ニ依リ渦卷「ポンプ」ヲ使用セリ

採石工事ハ前記諸工事ニ使用スル石材ヲ人力ニ依リ採取使用各地へ荷馬車ヲ以テ運搬配給スルモノナリ前年度ヨリ繼續施行ノ一箇所及新タニ著手ノ一箇所計二箇所ニ於テ實施シ二千七百八立方米ノ石材ヲ斫出シ各使用箇所へ六千四百八十八立方米ヲ搬出セリ

土地買収ハ前年度ヨリ引續キ改修工事區域内ニ屬スル飯山町外十五箇所村内ノ堤敷及堤外地ノ買収竝ニ地上物件ノ移轉ヲ實施ス右ハ何レモ土地收用法ニ依ラズ協議ヲ以テ施行シ支拂金額八萬三千四百四十圓餘ナリトス

機械工場ニ在テハ本川使用ノ諸機械ノ修理製作ニシテ規模大ナルモノハ信濃川河口機械工場ニ依囑シ  
 他ハ現場附近ノ民間鐵工所ニ請負ハシメタリ  
 附帶工事トシテハ前年度ヨリ繼續セル暗渠工事三箇所道路付替三箇所及新タニ着手ノ暗渠工事七箇所  
 計十三箇所ヲ實施シ本年度内ニ於テ道路付替二箇所ヲ竣功セシメタリ  
 本年度ニ於ケル竣功額ハ四十六萬七千四百五十八圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ六百三十七萬一  
 千八百二十圓ナリ之ヲ總工費豫算一千二百十萬四千圓ニ比スレバ五割三分ノ竣功ナリ今其工事竣功表  
 ヲ示セバ左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤門	二、九八〇、九九八 <small>立方米</small>	一、八〇九、〇六〇 <small>円</small>	三九〇、八六四 <small>立方米</small>	一九五、四〇五 <small>円</small>	三、三七一、八六二 <small>立方米</small>	二、〇〇四、四六五 <small>円</small>	〇・五八
水護岸	未竣功	一二八、五六五	未竣功	四七、九三〇	未竣功	一七六、四九五	〇・一一
工事採石	三六四、一〇四	四一六、一三四	一八、九六七	一一、五六六	三三三、〇七一	四二七、七〇〇	〇・二六
費事	五五、二二五	四一、六三一	一一、六三一	六六、八五六	六六、八五六	一、七四六、一五七	
用地	一、六六二、七一四	八三、四四三	八三、四四三	一七、二二三	一、七四六、一五七	一〇六、三五二	
附帶工事	八九、一二九	二一、七〇四	二一、七〇四	五九、五八九	八九、一二九	六〇六、六八九	
船舶及機械	五八四、九八五	七九三、五三九	二一、七〇四	八五三、一一八	五八四、九八五	八五三、一一八	
雜費	七九三、五三九	九〇七	五九、五八九	九〇七	七九三、五三九	九〇七	
退職手当	九〇七				九〇七		

總

計

五、九〇四、三六二

四六七、四五八

六、三七一、八二〇

〇・五三

第一章 河川改良工事 (千曲川改修工事)

## 第一四 加古川改修工事

(大阪土木出張所)

### 緒言

本工事ハ當初大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算四百八十五萬圓ナリシガ物價騰貴ノ爲メ大正十二年四月三百萬圓ヲ増額シ總額七百八十五萬圓ヲ以テ昭和八年度迄延長施行ノ事トナレリ其區域ハ左岸兵庫縣加東郡市場村右岸同縣同郡來住村以下海ニ至ル間ニシテ左岸ハ一六籽六、右岸ハ一七籽二ナリ

### 河狀並計畫大要

加古川ハ流域面積一千八百五十平方籽、流路延長八百四十四籽(内幹川九十二籽)航路延長九十籽(内幹川七十五籽)灌溉面別百十九平方籽(内幹川四十六平方籽)ヲ有スル河川ニシテ一名印南川又氷河ト稱ス源ヲ兵庫縣氷上郡神樂村稻土粟鹿山ニ發ス同郡内ニ在テハ神樂川又佐治川ト稱シ丹波播磨ノ國界ニ至リテ篠山川ト合シ初テ大河トナリ南流シテ多可郡ニ入り幾多ノ河川ヲ合シテ國包ニ至リ加古川ト稱ス夫ヨリ山陽線加古川驛ノ西南ニ於テ東西二派ニ分レ其幹流ハ高砂ト尾上トノ間ニ於テ海ニ入り派流ハ高砂ヲ抱圍シテ荒井村ノ西ニ於テ海ニ注グ由來本川ハ大河ト云フニ非ラザルモ下流部ハ播州ノ沃野ヲ横斷シテ古來灌溉ノ利ト運輸ノ便トニ因リテ流域内文化ノ開發ニ貢獻スル處多ク實ニ中國重要河川ノ一ナリ然レドモ本川ハ地勢上勾配急峻ナルノミナラス比年上流ノ土砂流出シテ漸次河床ヲ高メ一朝洪水ニ際

會セバ河水忽チ漲溢シ沿岸ノ被害甚シク明治四十年ノ水害ノ如キハ浸水田畑百八十一平方軒損失價額百萬六千六百六十六圓ニ上レリト云フ(大正十年ニモ亦百一萬八百二十五圓ノ損害アリ)而シテ是等大洪水ハ凡四年目毎ニ發生シ小水害ニ至リテハ殆ンド枚擧ニ違アラサル状態ナレバ全川ヲ通シテ洪水防禦ノ必要ヲ感ズルコト切ナレドモ上流ハ被害區域比較的狹ク損害ノ程度モ亦尠小ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ先ツ下流水害ノ最モ顯著ナル部分約十七軒七ノ間ヲ限リ改修工事ヲ施スコト、シ左支美囊川合流點附近河積ノ充分ナラザル所ハ河幅ヲ擴メ或ハ河底ヲ掘リ下ゲ又同處以下加古川町ニ至ル間ハ在來ノ堤防中利用シ得ベキモノハ努メテ之ヲ利用スル方針ノ下ニ河狀ヲ整理シ以テ必要ナル河積ヲ與ヘ又無堤ノ箇所ニハ新堤ヲ築造シテ高水流量毎秒四千四百五十立方米ヲ快流セシムルヲ程度トシ尙堤防ハ高水以上堤頂迄ノ餘裕ヲ一米五ト定メタリ

本川ハ加古川町ノ下ニ於テ東西ニ分派スレトモ派川洗川ノ方ハ維持上ノ必要ニ依リ之ヲ締切リテ只平水量ノミヲ通ズルニ止メ幹川ノ方ハ河積充分ナラザルヲ以テ河幅ヲ擴メ尙感潮部ハ河底ヲ浚渫スルコト、ス河口ニ於ケル高砂港ハ從來非常出水ノ場合ニハ必ズ浸水ヲ免カレザリシヲ以テ同町ノ堀川ハ新堤ヲ以テ之ヲ本川ト隔離シ其上端ニハ樋門ヲ設ケ平時ハ通水通船ノ用ニ供シ洪水ノ際ニハ之ヲ閉鎖シ以テ高砂町ヲシテ全然洪水ノ患害ヲ免カレシムルモノトス

河幅ハ在來ノ堤防位置極メテ不整ナレドモ河積不足ノ爲メニ已ムヲ得ザル場合ノ外ハ努メテ之ヲ利用スル方針ノ下ニ法線ヲ定メタルヲ以テ改修計畫ニ於テモ亦河幅ノ廣狹一樣ナラズ即チ改修區域ノ上端(左岸加東郡市場村、右岸同村來住村間)ニ於テハ三百二十七米ニシテ夫レヨリ以下一縮一張シテ左岸加古郡加古川町、右岸印南郡米田村間ニ於テハ四百九米トナリ特ニ加古川町以下ハ從來兩派ニ分流シタル洪

水量ヲ一川ニ合併スルコト、ナリタルガ爲メ勢ヒ廣大ナル河幅ヲ要スルヲ以テ河口(左岸加古郡尾上村、右岸同郡高砂町間)ニ於テ六百二十四米ト定メタリ堤防ハ全川左右岸共馬踏七米二、表二割、裏二割五分トシ堤天ヲ計畫高水位上一米五ノ高ニ在ラシム只洗川締切ノ箇所ニ限り堤裏ニ於テ堤頂ヨリ一米五ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ附シ小段以下ノ法ヲ三割ト爲サントス而シテ是等築堤用土ハ全部掘鑿土ト舊堤土トヲ充用スルノ方針ナリ又堤防法先ハ全川ニ互リ張石ヲ施シ堤天ハ礫ヲ散布シテ路面ヲ形成シ堤腹ニハ適宜張芝若クハ筋芝ヲ施スモノトス左ニ堤防ノ延長及土量等ヲ表示ス

種別	區	域	延	長	土	坪	張	石	張石平均法高	芝	付	地盤上平均高
左岸	海口ヨリ	新		一六、二三〇	九二九、八二〇	二二一、一五〇	七、四	二二九、六六〇	七、四	二二九、六六〇	三、六	三、六
右岸	同			一四、三九〇	一、一〇、七三〇	一一〇、二五〇	七、六	二二三、一四〇	七、六	二二三、一四〇	四、六	四、六
總計				三〇、六二〇	二、〇三、五五〇	二二一、四〇〇	六、五	四六二、八〇〇	四、五	四六二、八〇〇	四、四	四、四

掘鑿土量ハ左岸百七十三萬三千四百三十立方米、右岸百八十八萬四千九百立方米、合計三百六十一萬八千三百三十立方米ニシテ掘鑿運搬ハ主トシテ人力及牛馬力ニ依ラントス而シテ掘鑿土ノ内二百三萬一千五百五十立方米ハ左右岸ノ築堤ニ充用シ殘餘ハ之ヲ捨土處分ニ委スルモノトス  
 浚渫ハ主ニ下流部ニ於テ行フコト、セリ蓋シ洪水ノ疏通ヲシテ良好ナラシムルト同時ニ潮汐ノ昇騰ヲシテ容易ナラシメ將來舢船ヲシテ昇潮ノ際ニハ高砂堀川ヲ通過セズシテ高砂鐵橋附近迄遡航スルノ便ヲ得セシメ又退潮ノ際ニハ之ガ流勢ヲ利用シテ些少タリトモ河底維持ノ作用アラシメントスルニ在リ而シテ浚渫ノ深ハ上端ニ於テ平均低水面以下約〇米九トシ之ヨリ深ヲ増シ零町零間ニ於テ二米二ト爲

シ夫ヨリ中等潮位以下二米四ノ水深線ニ達シテ止ム此土量約百三十二萬二千三百立方米ニシテ内十三萬二千三百立方米ハ人力ニ依リ百十九萬立方米ハ浚渫船ニ依リテ掘リ上ゲ甲ハ堤内ニ捨土シ乙ハ海上ニ投棄スルモノトス

堤腹ニハ總テ堅固ナル張石ヲ施ス計畫ナレドモ更ニ堤法保護ノ爲メ流心ノ彎曲部堤防ノ低水路ニ接近セル處等水勢ノ激突スル箇所ニハ護岸工ヲ施スモノトス其總延長一萬八千八百三十米ナリ

流末二千百八十米間ヲ浚渫スル結果上流河床ノ低下ヲ來タシ既設工作物ニ影響スル處尠カラザルベキヲ慮リ浚渫區域ノ上端適當ノ位置ニ平水路ヲ横斷シ床固堰堤ヲ設ケテ河床ノ低下ヲ防止セントス

現在ノ左岸堤防ハ海口ニ於テ急ニ喇叭狀ヲ成シ爲ニ退潮ノ流勢ヲ殺ギ土砂ノ沈澱ヲ誘致スル傾向アリ因テ本計畫ニ於テハ左岸堤防ヲ延長シテ右岸ノモノト略ボ同長ナラシメ其構造ハ根元四十五米五ハ普通土堤ニシテ夫ヨリ堤端迄二百九十一米ノ間ハ全部張石堤トシ馬踏七米二、兩法二割、堤面ハ高潮面上一米五ト定メ洪水ノ際モ平常ニ於テモ流水ヲシテ成ルベク海中ノ深處ニ射出セシメントス

樋門ノ大ナルモノハ洗川樋門、高砂堀川樋門ノ二シテ甲ハ幅三米六、高三米五、乙ハ幅三米六、高四米二トス附帶工事ノ主ナルモノハ播州鐵道株式會社ノ高砂鐵橋及相生、加古川、都染ノ三人道橋ノ延長若クハ架換其他全區域内兩岸ノ用惡水樋門擴築若クハ改築又ハ同水路ノ附換等ナリトス

## 施工狀況

加古川改修工事ハ大正七年度ノ着工ニシテ七、八兩年度ハ主トシテ準備測量九、十兩年度ハ土地買收及工事ノ一部ヲ施行シ以降專ラ工事ヲ施セリ本年度工事施行區域ハ前年度ニ引續キ右岸加古郡荒井村、印南



郡米田村、東神吉村及平莊村地先ニシテ左岸ハ同郡加古川町、氷丘村及神野村地先ニシテ築堤工事ハ左岸曇川樋門附近ヲ除キ神野村地先以下全部、右岸東神吉村及米田村地先ノ一部ヲ除キ以下全部成功セリ

掘鑿工事ハ二百噸掘、八十三噸掘、梯形掘鑿機各一臺、二十噸機關車一臺、五噸機關車二臺、三立方米積木製土運車百七臺、一立方米積鐵製土運車五十臺、○立方米六積木製土運車七百四臺、○立方米三積鐵製土運車五十臺ヲ使用シ人力及馬力ヲ併用シ左岸上莊村地先一部及神野村地先以下、右岸ハ平莊村及東神吉村地先大半以下海ニ至ル全部ヲ成功セリ

浚渫工ハ前年度同様神戸土木出張所ニ於テ引續キ埋立土砂ノ必要上同所ニ代行セシム

護岸工ハ前年度ト同ジク工費年度割少額ノ爲メ止ムヲ得ザル箇所ノミニ止メタリ即チ左岸ハ神野村及氷丘村地先ニ於テ曇川樋門附近ニ施工シ八幡村中西條以下海ニ至ル全部ヲ成功シ右岸ハ東神吉村伊保米田樋門附近及東神吉村霞堤端ニ施工シ年度割工費不足ノ爲メ荒井村及米田村ノ一部ハ前年度ノ儘着手ニ至ラズ殘サレタリ

斯ノ如クニシテ本年度迄ノ築堤ハ全延長ノ約六割、掘鑿ハ全土量ノ約七割二分、浚渫ハ全土量ノ五割四分、護岸工ハ全延長ノ約四割四分ノ成功ニシテ加古川沿岸加古、印南兩郡大平野ハ洪水ノ憂ナキニ至レリ  
特種工事ノ高砂樋門及洗川樋門ハ竣功シ洗川ハ築堤ト待ツテ完全ニ締切ラレタルヲ以テ右岸ノ惡水排除上大ナル利益アリ

附帶工事ノ本年度ハ左岸ニ於テ氷丘村長管理曇川樋門ハ九割ノ成功、上莊村長管理都染惡水樋管及用水路附換ハ八割ノ成功ニシテ右岸ハ荒井村長管理四ヶ井、二ヶ井ノ堤外用水路付換工事竣功、東神吉村長管理伊保、米田樋門、舛田樋管、樋尻用水路附換、東神吉用水樋管成功シ上部樋門ハ三割ノ成功ナリ即チ左岸ハ

八幡村中西條以下、右岸ハ東神吉村舛田以下ノ附帶工事ハ全部成功セリ  
 本年度竣功高ノ重ナルモノヲ掲グレバ築堤四十三萬三千七百七十七立方米此工費二萬七千五百三十九圓、掘鑿三十一萬二千六百八十二立方米此工費八萬三千八百六十二圓、護岸一千八百十九米此工費四萬六十三圓等ナリ  
 加古川改修本年度竣功高ハ二十五萬一千四百四十五圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ四百三十九萬一千八百三十一圓ナリ之ヲ總工費七百八十五萬圓ニ比較スレバ五割六分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「<sup>○</sup>」ハ利用土量「<sup>□</sup>」ハ管理者負擔額「<sup>■</sup>」ハ無償品見積額「<sup>●</sup>」ハ民間負擔額

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩竣功合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	七六、二八三 * 一六〇〇、〇三六	一四六、一〇四	七二、九 * 四三三、〇七九	二七、五三九	一四九、〇二二 * 一、七〇〇、一一一	一七三、六四三	〇・六〇
掘鑿	二、四四六、四二六	九九六、五二二	三、一〇二、六八二	八三、八六二	五、五四九、一〇八	一、〇八〇、三八四	〇・七二
護岸	四八七、四四九	五九、七七五	一、八一九	四〇、〇六三	四八七、四四九	九五、二八三	〇・五四
特種工事	一三、一二七	三、八三三	一、一〇三	四、〇六三	一四、九四六	四三、三九七	〇・四四
費用	一、四九〇	一一、二九一	〇・〇〇〇	一、七四	一、四九〇	一二、〇三〇	一・〇〇
用地	一箇所	三三、四七七	一箇所	四二、六四〇	二箇所	三六、四一七	〇・六七
附帶工事	一箇所	三、五九〇	一箇所	二六、八七八	二箇所	三〇、四六八	
船舶及機械費		七〇九、八五四		一九、九三〇		七二九、七八四	
雜費		二七二、八六五		三七、二三七		三一〇、一〇二	
總計		四、一四〇、三八六 三、五九〇、〇〇〇 五、七七八六		二五、一四四、四五 二六、三七八		四、三九一、八三一 三〇、四六八 五、七七八五	〇・五六

## 第一五 岩木川改修工事

(仙臺土木出張所)

### 緒言

本工事ハ當初大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費七百萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシモ諸物價昂騰ノ爲メ既定豫算範圍内ニテハ工事ノ遂行不可能ノ爲メ三百四十萬圓ヲ増額セラレ總工費一千四十萬圓トナレリ是レニ伴ヒ繼續年限ハ時局ノ影響ヲ被リ更ニ昭和十一年度迄繰延べラル、ニ至レリ

施行區域ハ左岸中津輕郡新和村大字種市右岸北津輕郡鶴田村大字大性以下十三湖迄此距離四十四軒九及支川十川ニ於テハ右岸北津輕郡梅澤村以下新合流點迄此距離六軒八又支川山田川ニ在リテハ西津輕郡車力村地内田光沼下流約十軒ナリトス

### 河狀並計畫大要

本川ハ水源ヲ秋田縣界ニ發シ流域面積二千六百六十八平方軒、流路延長八百三十七軒(内幹川九十軒)航路延長百六軒(内幹川七十一軒)灌溉面積約二萬四千ヘクタール、水害區域九千二百ヘクタールヲ有シ青森縣西津輕郡、中津輕郡、南津輕郡、北津輕郡ノ四郡ニ跨ル大河ニシテ流末十三湖ト稱スル周圍約二十四軒、面積二千ヘクタールノ湖水ヲ通ジテ一小口ヲ以テ日本海ニ注グ岩木川ハ流路ノ廣狹甚ダ不規則ニシテ其下流部川幅最モ狹キ故ニ出水毎ニ必ズ破堤或ハ溢水ヲ來シ沿岸耕地ニ汎濫スルヲ以テ本計畫ニ於テハ堤

防ノ改築竝ニ河敷ノ掘鑿ヲ爲シ河積ヲ擴張シ以テ洪水量ヲ安全ニ流下セシメ又支川十川ハ流路甚ダ狭ク且迂曲甚シク殆ンド無堤ノ状態ナルヲ以テ出水毎ニ湛水シ殊ニ春季融雪ノ際ノ如キハ沿川一帯ニ湛水數週間ニ互ルコトアリ故ニ十川上流部ノ水量ハ新川延長約三軒三ヲ掘鑿シテ現在ノ合流點ヨリ約十六軒上流ニ於テ岩木川ニ合流セシメ十川下流部ニ對シテハ逆水門ヲ設置シテ岩木川ノ逆流ヲ防グモノトス岩木川海口即チ十三水戸口ハ其閉塞ヲ防ギテ排水ヲ完全ナラシメ十三湖沿岸湛水ノ害ヲ防ガンガ爲メニ突堤ヲ築設セントス又十三湖ニ直接注入セル山田川沿岸ニ就キテハ岩木川擴築ノ結果其破堤及湛水ヨリ來ルベキ水害ハ除去セラレ又十三湖ノ逆水ヨリ生ズル湛水ハ水戸口ノ施工ヲ以テ輕減スル方針ナリシモ尙更ニ調査ノ上直接相當工事ヲ施シ其完成ヲ期スルノ方針ナリ

計畫高水流量ハ十川上流部ヲ毎秒三百三十四立方米、下流部ヲ毎秒百七十七立方米トス岩木川ハ全十川ヲ合シテ後毎秒一千六百七十立方米ト定メ其川幅ハ上流ニ於テ二百十八米トシ漸次廣ゲ下流ニ於テ六百三十六米トス支川十川ハ幅六十四米ト定メ掘鑿土量ハ七百八十四萬三千七百七立方厘米、浚深五百二十三萬五千立方厘米、總計掘上ゲ土量一千三百七萬八千八百立方厘米ニシテ大部分ハ築堤用土ニ使用ス築堤ハ大部分新堤築設ニシテ舊堤増築ハ一小部分ニ過ギズ築堤延長幹川約八萬米、支川十川約一萬三千米、合計九萬三千米ニシテ其構造ハ馬踏五米四五、外法二割、內法ハ二割及二割五分ノ勾配ト爲シ芝附ヲ施シ必要ノ箇所ニ護岸工ヲ施スモノトス

海口突堤ハ大體ニ於テ捨石竝ニ混凝土塊ヲ用ヒ兩岸ヨリ各三百六十米ヲ築造シ先端ニ於テ二百七十米ノ間隔ヲ保タシムルモノトス

附帶工事ノ主ナルモノハ木橋架換七箇所、用水伏越樋二箇所、水門三箇所、其他用水路附換等ナリトス

## 施工狀況

本工事ハ大正七年六月ノ創業ニシテ初年度及八年度ニ於テハ測量其他施行準備ニ取掛リ九、十兩年度ハ一部分ヲ人力ヲ以テ掘鑿シ十一年度以降ニ至リテハ土工用諸機械稍々完備セルヲ以テ人力竝ニ機械ヲ以テ掘鑿セリ掘鑿工事ノ進行ニ伴ヒ其土砂ヲ利用シ築堤工事モ着々進行セシムルコトヲ得タリ當地方ハ冬季十二月ヨリ翌年三月迄ハ嚴寒降雪多量ニシテ工事施行全然不可能ナリ十、十一、四各月亦天候不良ノ爲メ工事殆ンド中止ノ状態ニ在リ五、六、九各月ハ工事ノ進行ヲ計ルニ最モ好時期ナルニモ拘ラズ農繁期ナルガ爲メ勞力供給ノ點ニ於テ満足シ得ズ要スルニ一箇年ヲ通ジテ本工事ノ生命トスル處ハ只七、八兩月アルノミナリ

本年度ニ於テ掘鑿工事ハ人力掘鑿ニテハ〇立方米四積トロヲ以テ人力トロ、馬匹トロ運搬ヲ爲シ地形ニ依リ畚運搬ヲモ施行セリ機械掘鑿ニ在リテハ二臺ノ掘鑿機、三臺ノ機關車三立方米積土運車ヲ運轉シ極力工程ノ進行ニ努メタリ

掘鑿施行ノ區域ハ本川筋北津輕郡五所川原町、中川村、三好村、武田村、西津輕郡柏村、川除村、出精村、稻垣村、車力村ノ各地先ニシテ掘鑿總土量十九萬四千五百十四立方米此工費九萬四千六百七十九圓ニシテ土量ノ大部分ハ此區域ニ於ケル築堤用ニ供シタリ

築堤工事ハ前述ノ如ク掘鑿土ヲ利用シ北津輕郡鶴田村五所川原町、三好村、武田村、西津輕郡柏村、川除村、出精村、稻垣村ノ各地先ニ互リ施工セリ築立土量ハ四十一萬四千六百五十五立方米ニシテ此工費五萬二千五百三圓ナリ竣功延長九千五百五十九米トス

護岸工事ハ北津輕郡鶴田村、榮村、西津輕郡川除村、出精村ノ各地先ニ互リ施行セリ箇所ニ依リ根固工トシテハ沈床、單床又ハ杭柵ヲ施シ法留工トシテハ石張、礫詰又ハ柳枝工ヲ施セリ此竣功延長六百三十五米ニシテ此工費三萬五千七百四十七圓ナリ他ハ次年度へ繰越セリ

突堤工事ハ西津輕郡十三村地先十三湖海口ニ延長八十六米四ニ互リ辯慶杵ヲ沈下据付ケ更ニ捨石ヲ爲シタル假突堤ヲ施セリ、本工事ニ必要ナル石材ハ北津輕郡小泊村大字下前海岸附近ノ轉石ヲ工業船竝ニ十五噸汽船ヲ運轉シ十八立方米積土運船ノ曳船ヲ以テ十三湖水戸口附近へ運搬セリ此工費約一萬六千八百九十九圓強トス當地沿岸ハ荒海ノ爲メ豫定通り竣功不可能ニシテ未竣功ノ儘次年度ニ繰越セリ障害物除却ハ掘鑿竝ニ築堤敷ニ存在セル木根密生セル柳樹其他工事上障害トナルベキモノノ除却ニシテ此工費約一千八百六十二圓ナリ

假設工ハ假護岸ニシテ北津輕郡鶴田村大字大卷地先ニ合掌杵ヲ以テ假水制ヲ出シ流心ヲ河岸ヨリ遠カラシムルモノトス此工費約一千百一圓ナリ

附帶工事ハ北津輕郡鶴田村大字鶴田地内へ鐵筋混凝土造内法高九十糎、内法幅一米二十糎、長十六米九ノ排水樋管一箇所、北津輕郡鶴田村大字強卷地内へ鐵筋混凝土管内徑四十五糎、厚五糎、延長二十一米ノ排水樋管一箇所ヲ新設セリ此工費約三千五百六十九圓、内一千百九十圓ハ管理者負擔トス

土地買收ハ工事上必要ニ迫リ已ムヲ得ザル箇所ノミ買收シ本年度ニ完了セルモノハ地上物件移轉料三萬七千六百四十五圓ナリ

斯クシテ本年度ハ前年度同様事業繰延ニ伴ヒ年度割額不足ノ爲メ總テノ工事竝ニ土地買收ハ手控窮境ヲ以テ終レリ

本工事ノ本年度竣功額ハ三十九萬七千六百九十四圓ニシテ起工以來本年度ノ總竣功額ハ四百七十三萬四千四百二十五圓弱ナリ之ヲ總工費一千四十萬圓ニ比スレバ四割五分五厘強ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿	二、四〇八、五六五 <small>立方米</small>	七七四、七六七 <small>円</small>	一九四、五一四 <small>立方米</small>	九四、六七九 <small>円</small>	二、六〇三、〇七九 <small>立方米</small>	八六九、四四六 <small>円</small>	〇・三二
本築堤	二、二二二、八七四	一三〇、二七五	四一四、六五五	五二、五〇三	二、五三七、五二九	一、八二、七七八	〇・七五
工事突堤		三五五九		一六、八九九		二〇、四五八	
工事護岸		四五、六一四		三五、七四七		八一、三六一	
工事障害物除却		五〇、八九〇		一、八六二		五二、七五二	
費用假設工事		二九、二二六		一、一〇一		三〇、三二七	
用地費	四、三〇九 <small>段</small>	一、四二五、七八二	五 <small>段</small>	三七、六四五	四、三一四 <small>段</small>	一、四六三、四二七	
附帶工事費		五九、九八三		九、七〇〇		六九、六八三	
船舶及機械費		一、二九五、五五二		六一、四七七		一、三五七、〇二九	
測量費		三二、〇〇四		四、五六六		三六、五七〇	
營業繕費		一三九、六七七		一、二、三七四		一五二、〇五一	
雜費		三四二、一一一		六六、〇三四		四〇八、一四五	
共濟組合給與金		七、二九一		三、一〇七		一〇、三九八	
總計		四、三三六、七三一		三九七、六九四		四、七三四、四二五	〇・四六

## 第一六 神通川改修工事

(新潟土木出張所)

### 緒言

本川ハ富山縣下ニ於ケル唯一ノ大河ニシテ源ヲ飛驒國ニ發シ其流域ハ富山岐阜兩縣ニ跨リ富山縣ハ其下流ニ位シ水害甚大ナルニ依リ改修ノ必要ヲ認メ大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算六百五十萬圓(富山縣負擔額百七十六萬三千圓)ヲ以テ起工セシガ其後富山縣知事ノ稟申ニ依リ本川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ之レト同時ニ東岩瀨港修築工事ヲモ施スベク工費五十八萬圓(全部富山縣負擔)ヲ増額シ總工費ヲ七百八萬圓ニ改メ施行スルコト、セリ然ルニ起工以來時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年四月二百十三萬二千五百圓(内富山縣負擔額五十三萬四千圓)ノ増額ヲ受クルト共ニ施行期限ヲモ昭和五年度迄繰延ベラレタルガ更ニ大正十二年九月一日關東大震災突發ノ爲メ止ムナク四箇年度ヲ延長シ昭和九年度ニ竣功セシムル豫定トナリ總工費豫算九百二十一萬二千五百圓ヲ以テ右岸富山縣上新川郡大澤村、左岸婦負郡杉原村以下海ニ至ル約二十二萬二千五百圓ノ間ニ對シ河身ノ改修ヲ施シ洪水ノ被害ヲ除却セントスルモノナリ

### 河狀並計畫大要

本川ハ飛驒北半ノ一部庄川流域ヲ除ケル一帯ノ諸水ヲ聚メテ越中ニ入り富山平野ヲ北流シテ東岩瀨港ニ至リ海ニ注グ其流域面積二千七百七十六平方呎、内飛驒ニ屬スルモノ二千五百平方呎ニ達スレドモ平地



僅ニ百七十平方糎ニ過ギズ流水急湍ニシテ舟筏ヲ通ゼズ越中ニ屬スルモノハ七百七十一平方糎ニシテ其内平地面積二百六十二平方糎ヲ有シ河口ヨリ上流二十七糎笹津ニ至ル迄舟楫ノ便アリ地勢漸ク平坦ニシテ其汎濫面積七千ヘクタールニ達ス水害ノ狀況ハ急流河川ノ特性トシテ大水ノ襲來極メテ迅速且猛烈ニシテ忽チ護岸ヲ覆滅シ瞬ク間ニ堤防ヲ闕壞シ濁流滔々村落市街ニ奔流シ汎濫區域廣カラズト雖モ其向フ所家屋ヲ流失シ人畜ヲ損傷スル等戰慄スベキモノアリ其浸水期間ハ長カラズト雖モ耕土ハ洗滌セララル、ニ非ズンバ砂礫ノ埋沒スル所トナリ其害實ニ甚大ナリ今既往洪水ノ被害高ヲ示セバ大正元年乃至同十年損失平均年額八百四十萬三千八百八十六圓ニシテ此十箇年間中ノ最大水害ハ大正三年ノ九百三十一萬八千四百四十四圓之ニ次グモノハ大正九年ノ三百六十六萬九千三十圓ナリトス本川改修ノ目的ハ洪水防禦ニ在リテ富山市及附近平野ノ水害ヲ除去スルヲ主眼トスルモノ一面東岩瀨港ノ改善ヲ謀ラントスルモノニシテ即チ本川ノ計畫高水量ヲ五千五百六十五立方米ト定メ之ヲ放流セシムルニ足ルノ河積ヲ有セシメ東岩瀨港ニ在テハ本川ヲ附換ヘ全ク港内ヲ分離シ突堤ヲ築キ以テ水深ヲ保チ船舶ノ出入ニ便ナラシメントスルモノナリ

由來本川ハ堤防ノ築設比較的普及スレドモ未ダ統一の施設ニナレルモノ無ク多クハ不規則ナル霞堤ヲ爲シ河積概ネ狹隘ニシテ堤高亦不足シ屢破堤汎濫ノ因ヲ爲セリ故ニ全川ヲ通ジテ河幅ヲ擴メ尙所要ノ掘鑿ヲ行ヒテ專ラ河積ノ増加ヲ圖リ兩岸ニハ鞏固ナル堤防ヲ築キ周到ナル護岸ヲ施シ以テ洪水ノ横溢ヲ防ガントス

河道ノ位置ハ比較的良好ニシテ屈曲部其他疏通上不良ノ箇所ヲ見ザルヲ以テ多クハ現狀ニ準據シ努メテ在來ノ堤防ヲ利用セントス上流起點城生以下成子ニ至ル間流路東西ニ岐ル、所モ之ヲ合一セズ現在

ノ形狀ニ依リ兩岸ニ築堤シ添島以下熊野川落合ニ至ル亂流部ハ河幅已ニ廣濶ナレバ兩岸舊堤ヲ増築スルニ止ムレドモ河道内寄洲ノ著シク發達セル所ニ在ツテハ相當掘鑿ヲ行ヒ之ヲ整理シ富山市附近ノ新舊兩川ノ内舊川ハ平時全ク通水ヲ見ズ且高水ノ疏通ニ對シテモ其利用甚ダ乏シキヲ以テ全ク之ヲ締切リ新川乃チ馳越川ヲ多少擴大シテ全流量ヲ之ニ依リ疏通セシメ舊川ノ落合ハ之ヲ閉鎖シ其惡水ハ本川ニ沿テ水路ヲ造リ下流ニ導キ以テ富山市ノ逆水ニ因ル水害ヲ輕減スルモノトス又河口ニ近ヅクニ從ヒ流積特ニ減少スルニ全ク洪水ノ際流下シタル土砂隨所ニ堆積シ流路ヲ壅塞シ益々圓洲ノ發達ヲ促進シタルガ如シ故ニ要所ニ水制工ヲ配置シ河狀ヲ整理シ且0.18以下河道ヲ西ニ移導シ瀨割堤及突堤ヲ設ケ適當ニ河口ヲ掘鑿シ全ク東岩瀨港ト分離セシメ直ニ海ニ通ゼシム而シテ其連絡ハ水門ニ依ルコト、セリ又東岩瀨港ハ港内ヲ低水位以下四米五ノ水深ニ浚渫シ東突堤ヲ水深九米一迄延長シ堆砂ノ西遷ヲ防ギ新川ノ右岸突堤ト相俟テ水深ノ維持ヲ謀リ以テ船舶ノ出入ニ便ナラシメントス河幅ハ水理上障害ヲ認メザル限リ現狀ニ適應シ施行スルヲ得策ト認メ河岸ノ利用シ得ベキハ努メテ之ヲ利用シ瑣々タル廣狹及局部的小屈曲ノ如キハ之ヲ許スコト、シ兩岸堤防中心間距離ハ凡ソ左ノ標準ニ據リ施行スルコト、セリ

岩木、成子間本川	三二七 <sup>米</sup>	添島、布瀨間	至自	四七三 <sup>米</sup>
同派川	一四五	布瀨、四ツ谷間	至自	四三六
成子、添島間	三六四	四ツ谷、河口間	至自	五〇九
	四〇四		至自	四七三
			至自	五四五

堤防ハ總テ馬踏七米ニ表裏共ニ二割法トシ其高ハ計畫高水位上一米五ノ餘裕ヲ存置ス築堤ハ舊堤ヲ利

用シ一方ヲ増築シ他方ヲ引堤トシ又霞堤ノ喰違箇所ハ一二箇所ヲ除クノ外總テ連絡セシム其用土ハ合計二百十六萬立方メートルシ其延長四萬四千五十一米ニシテ一般ニ掘鑿土ヲ以テ之ニ充當スベキモ其運搬遠距離ニ互ルカ又ハ特ニ良質ノ土砂ヲ要スル場合ニハ他ニ土採場ヲ求メザルベカラズ其土量ヲ三十萬五百二十六立方メートルト概定ス又堤防ノ流水ノ衝ニ當リタル所其他地形上必要ナル箇所ニハ適當ナル小段ノ類ヲ設ケテ之ヲ補強スルモノトス

掘鑿工事トシテハ流積擴大ノ爲メ河幅ノ整理ヲ行フモ猶掘鑿ニ俟ツベキモノ尠カラズ其土量合セテ二百九十八萬七千二百二十八立方メートル(内十六萬二千二百八十四立方メートルハ設計一部變更ノ爲メ増加シタルモノ)ニシテ築堤用土ニ充用スル外尙百十二萬三千九百六十七立方メートルノ剩餘ヲ生ズ是等ハ主トシテ築堤小段ノ成形及卑低地ノ埋立等ニ使用シ更ニ若干民有地ニ投棄ス又河口ニ近キ所ニ在テハ土運車又ハ土運船ニテ海中ニ放棄ス

浚渫工事ハ0.18以下海ニ至ル間ニシテ其低幅ハ二百五十五米ヨリ三百六十四米ニ達シ其深度ハ上流ニ於テ基線以下二米ニ始マリ0.0ニ至ル迄順次ニ同四米八ニ遞下シ以下同深トス其土量ハ約百二十萬二千百四立方メートルナリ其浚渫ニハ自走カツター器付唧筒浚渫船(能力一時間六百十噸)ヲ用ヒ浚渫土ハ總テ海中ニ放棄スルモノトス

護岸工事ハ本計畫中特ニ必要ナルモノニシテ石張及沈床若クハ沈枠等ヨリ成ル即チ築堤ニハ十二軒附近ヨリ上流ハ表法全部ニ同下流ハ計畫高水位以下ノ表面ニ張石シ其法先ハ基礎ヲ深クシ堤外小段ヲ有スル箇所ニ在テハ更ニ法面ヲ二割勾配ニ張石ス又水面以下ノ保護ニ關シテハ富山市ヨリ上流ハ川倉蛇籠、木床沈枠及混凝土單床類ヲ適宜按配シ下流ハ概シテ柴工沈床ヲ用ユルモノトス

水制工事ハ主トシテ下流々路ヲ限定スベキ區域ニ配設シ浚渫ト相俟テ流心ヲ定メ水深ヲ維持セントス  
總テ柴工沈床木工沈床及石張ヲ用ユルモノトス突堤工事中右岸突堤ハ瀨割堤防ノ末端00ニ接續シ其  
長三百十八米ニシテ緩曲線ヲ以テ水深九米一ノ箇所ニ達セシメ本川ヲ流下スル土砂ヲ深水ニ導クト同  
時ニ現在東岩瀨地先突堤ノ延長工事ト共ニ兩々相俟テ港口ノ保護及港内ヘノ土砂浸入ヲ防止セシム又  
左岸突堤ハ延長百四十五米ニシテ單ニ沿岸漂砂ノ東進ヲ防止スルモノナリ

水門工事ハ富山市ヲ貫流スル舊川ト本川トノ落合ニ設置スベキ設計ヲ變更シ水路ヲ設クルヲ良策ト認  
メタルニ依リ之ヲ廢止逆水門ヲ廢シ水路ヲ造リ惡水ヲ下流ニ導キ且之ニ因リテ本川トノ舟運ヲ計リ逆  
水ノ害ヲ輕減シ舊神通廢川地帯ノ利用ニ便ナラシムセリ其他右岸07附近ニ設置スル一箇所ハ本川ト  
東岩瀨港トノ聯絡用ニ供スルモノナリ

附帶工事ハ用惡水樋門惡水路道路及橋梁等改築ヲ要スルモノ多キヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス東  
岩瀨港ハ神通川ノ河口ニ位シ富山市唯一ノ海門ニシテ往時帆船時代ニ在テハ日本海ノ要港トシテ繁榮  
ヲ極メタリシガ時勢ノ變遷ハ汽船海運ノ時代トナリ河口ノ狀況ハ其入港ヲ妨ゲ偶寄港スルモノアルモ  
河口ヲ隔ル七百米乃至八百米ノ沖合ニ碇繫シ貨物ノ揚卸ヲ爲サルベカラズ殊ニ秋冬ノ候ニ際シテハ  
波浪土砂ヲ壓シテ河口ヲ閉塞シ水深漸ク〇米六ニ過ギザルコトアリ明治四十三年河口右岸ニ突堤ヲ増  
築シ對岸草島地内ニ水制工ヲ施シ更ニ左岸ニ突堤ヲ築造スル等河口ノ改良ヲ企圖セリト雖モ規模小ニ  
シテ其效果大ナラズ依然トシテ航路壅塞シ小船ノ出入ニモ不便ヲ來スコト尠カラズ從テ出入貨物ハ益  
減退シ明治四十一二年頃ニ比スレバ其量三分ノ一ニ減ジタリ富山市ヨリノ出入貨物モ亦其價格ニ於テ  
僅ニ十分ノ一ニモ達セザルノ悲境ニ在リ茲ニ於テカ神通川改修ヲ好機トシ本港ヲ修築シ航路壅塞ノ源

ヲ絶チ其利用ノ途ヲ増進シ從來ノ衰運ヲ挽回シ且近キ將來ニ於テ縣内豊富ナル水力電氣事業ノ完成ニ伴フ各種生産業ノ隆起及名富鐵道ノ貫通ニ依リ激増スベキ出入貨物ノ運輸ニ資スル所アラントス是レ本港修築ノ起リタル所以ナリ

曩ニ神通川改修工事ノ計畫ヲ立ツルヤ併テ河口ノ改良ヲ企圖シ東岩瀬港沿岸ニハ特殊ノ護岸工事ヲ施シ其終端ヨリ水深九米一ニ至ル迄突堤ヲ築造シ地先ノ水面ハ之ヲ水深五米二ニ浚深シ河流自然ノ水勢ニ依リ其水深ヲ維持セシメ一千噸内外ノ船舶出入碇繫ニ便セシムルコト、セシモ一般河口ニ見ルガ如ク自然ノ水勢ニ依ル水深ノ維持ハ極メテ困難ニシテ殊ニ本港ノ如キハ日本海ノ漂砂ト神通川ヨリ流下シ來ル土砂トハ港内ニ堆積シ常ニ浚深ヲ施サザレバ到底所要ノ水深ヲ維持スルコト能ハザルナリ故ニ若シ河口ヲ完全ニ港灣トシテ利用セントセバ神通川ト東岩瀬港トヲ全然分離スルヲ以テ得策ナリトス本改修計畫ハ以上ノ理由ニ依リ神通川改修計畫中下流ノ一部ヲ變更シ河道ヲ四方ニ移動セシメ下流現在ノ低水路ノ水面積ヲ本港灣ノ施設ニ提供スルコト、シ港口ハ現在ノ東突堤ヲ約四百九米延長増築シテ東岸ヨリスル漂砂ヲ防ギ之ト相對シテ改修工事ニ於テ築造スベキ右岸突堤(延長三百十八米)ニ依リテ西方ヨリスル漂砂ヲ防ギ内部ノ水面凡ソ十二萬五千六百二十平方米ヲ深四米五ニ浚深シテ一千噸級船舶ノ碇繫及貨物ノ揚卸ニ便ナラシメントス然ルニ最近ニ至リ低水路ノ水面積ノミヲ以テ港灣施設ニ供セントスルハ將來港域擴張ノ要ヲ生ジタル場合不利ナルヲ以テ寧ロ更ニ河道ヲ西方ニ移シテ現左岸堤敷ニ新右岸堤ヲ築造シ河敷全部ヲ港域ニ供スベシトノ議起リ遂ニ大正十四年十二月二十一日再度變更ノ認可ヲ得タリ

## 施工狀況

本工事ハ大正七年七月ノ創業ニ係リ先ヅ河口ニ近ク左岸ニ水制工ヲ施シテ河流ノ不整ヲ修メ次デ土地買收ノ進捗ニ從ヒ逐年下流ヨリ施工シ上流ニ溯リ左岸ニ於テハ草島百塚、神明、鶴坂、熊野、宮川ノ六箇村及富山市右岸ニ於テハ豊田、奥田、堀川、蜷川、新保ノ五箇村及富山市ノ各地先ニ於テ掘鑿、築堤、護岸等ノ諸工事ヲ實施スルニ至リ其區域兩岸各十七軒ニ達セリ

本年度工費年度割額ハ前年度ト同額ニシテ施工區域擴張ノ餘裕無キヲ以テ專ラ前年來施工箇所ノ竣成ニ努メシガ幸ニシテ流末付替箇所ノ掘鑿略完了シ十五年夏舊川締切ヲ敢行シテ之ニ成功シ東岩瀨港ノ浚深ニ着手シ得タリ左ニ其施工ノ概況ヲ述ベン

掘鑿工事ハ前年度以來繼續ノ九箇所ニ施工シ内三箇所ハ年度内ニ竣功セリ本工事ハ主トシテ人力ニ依リ一部機械ヲ使用ス前者ハ○六立方米積及○四二立方米積土運車ヲ使用シ人力若クハ馬力ヲ以テ運搬スルモノニシテ其功程十二萬六千七百八立方米五ナリ尙僅カニ小船運搬ニ依レルモノ其功程三千二百六十五立方米四アリ後者ハ流末草島地内新川低水敷ノ掘鑿ニシテ短梯掘鑿機及二十噸機關車各一臺ヲ使用セリ本年度ノ功程僅カニ七萬九千七百二十四立方米ナルハ本年度ノ上半期ニ於テ機械ニ依ルベキ掘鑿終了シ新川ニ本流ヲ通ジ舊川締切セシヲ以テナリ此等掘鑿總土量二十萬九千六百九十七立方米九ノ内十四萬五千四百四十二立方米九ハ築堤敷ニ投棄シ他ハ一部計畫高水敷ニ相當スル水面ヲ埋立テ一部ハ附近民地ノ埋立ニ供シタリ

浚深工事ハ十五年七月流末本川締切工事竣成シ最初ノ目的タル東岩瀨港トノ分離完全ニ遂行セルヲ以

テ茲ニ港内ノ浚渫工事ヲ開始シ年度内ニ於テ十六萬六千四百立方メートルノ竣功ヲ見タリ即チ主トシテ唧筒式自航浚渫船神通丸(一時間三百六十立方メートル掘)ニ依リ他ハ鋤簾式五號浚渫船(一時間百二十立方メートル掘)四十馬力發動機船及底開式六十立方メートル積土運船二隻ニ依リ土砂ハ總テ港口ノ沖合藍甕ノ深所ニ投棄セリ築堤工事ハ主トシテ盛土ニ掘鑿土ヲ利用シ左岸熊野村下流右岸新保村下流延長二十七軒ノ間ニ於テ十一箇所ニ施工シ内二箇所ハ竣功セリ本年度盛土二十六萬五千九十四立方メートル四ニシテ内五萬四千二百九十六立方メートル四ハ採取土ナリトス

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續ノ二十箇所ト新ニ着手セル三箇所ト計二十三箇所ニ施工シ内八箇所ハ年度内ニ竣功セリ其功程石張三萬三千六百八十平方メートル木工沈床一千百五十五平方メートル柴工沈床八百六十六平方メートル鐵線蛇籠七十八本竹蛇籠百十本川倉六十二個ナリトス是等ノ工事ニ使用スル石栗石及砂利等ハ例年ノ如ク主トシテ本川上流ヨリ一部ハ早月川ヨリ直營採取セリ

突堤工事ノ本年度ハ東突堤ニ全力ヲ注ギ西突堤ハ僅カニ各種捨石ノ直營採取セルノミ東突堤ハ東岩瀬地先ニ施工スルモノニシテ前年ニ引續キ第一區根固沈床七百三十二平方メートル八ヲ沈設シ其上ニ百十三庇以上及三百七十五庇以上ノ捨石ヲ排列シ順次完成シツ、アリ又第二區ニ在リテハ基礎沈床四千二百五十四平方メートルヲ沈設シ其上ニ直ニ百十三庇以上ノ捨石ヲ投下シテ附近土砂ノ移動ヲ防止シ漸次突堤ノ効用ヲ發揮セシメントス

水路工事ハ富山市ヲ貫流セル舊川ト本川トノ落合ニ設置スベキ水門ニ更フルニ本堤ニ沿フテ水路ヲ開鑿シ落合ヨリ約二千二百米下流ニ於テ本川ニ合流セシメ以テ富山市及其近郊ヨリ來ル總テノ流水ヲ一路ニ集メ本川トノ舟運ニ便シ且本川逆流ノ害ヲ輕減スルモノニシテ開鑿工事ハ前年度ノ始メ竣功シ今

ヤ僅ニ築堤ノ一部未竣成ナルノミ

土地買收ハ略完了シ本年度ニ於テハ僅ニ二件ノ買收ヲ爲セリ此面積二畝十七步ナリトス

船舶機械修理製作ハ其程度ノ大ナルモノハ信濃川河口機械工場ニ依託シ其他ハ附近鐵工業者ニ請負ハシム

附帶工事トシテ有澤用水路付替工事ハ大正十四年十月ノ起工ニ係リ昭和二年三月三十日竣功シタルモ未ダ管理者ニ引渡ス運ビニ至ラザリキ

松川及搗屋川改築工事ハ大正十四年七月着手シ同十五年十月二十日竣功シ同年十二月十五日管理者富山市長ヘ引渡ヲ了ヘタリ

草島用水路新設工事ハ管理者草島村長ノ申請ニ依リ同村草島地内用水路ハ改修新堤ノ爲メ遮斷セラルルヲ以テ新堤裏法ニ沿ヒ付替ノ必要ヲ生ジタルモノニシテ大正十五年五月八日工費九百二十七圓(内國庫補助六百十八圓)ヲ以テ直接施行ノ認可ヲ得同年八月九日着手シ十二月一日竣功同月二十日管理者ニ引渡ヲ了シタリ

新切用水路付替工事ハ管理者草島村長ノ申請ニ依リ同村金山新及草島ノ幹川用水路タル新切用水ノ一部ガ百塚村山岸及松ノ木地内ニ於テ改修新堤ノ爲メ遮斷セラル、ヲ以テ本堤裏法ニ沿ヒ付替セントスルモノニシテ昭和二年一月十二日工費二萬六百八十七圓五錢四厘(内國庫補助額一萬三千七百九十一圓)ヲ以テ直接施工ノ認可ヲ得同年一月十七日着手シ目下施行中ナリ

中井川排水樋管新設ハ管理者富山市長ノ申請ニ依リ同市畑中地先ニ於テ中井川排水路ガ新堤ノ爲メ遮斷サル、ヲ以テ此處ニ排水樋管ヲ新設スルモノニシテ昭和二年一月十五日工費五千六百五十五圓二十



九錢五厘内國庫補助額三千七百七十圓ニテ直接施行ノ認可ヲ得同月二十一日着手シ是亦施工中ナリ  
 萩浦橋架換工事ハ府縣道東岩瀨四方線中東岩瀨草島間ニ於テ神通川ニ架セル萩浦橋ガ改修工事ノ結果  
 繼足ノ必要ヲ生ジタルモ現在架橋ノ位置ニ於テハ將來運輸交通ノ關係上適當ノ位置ニ非ラザルト全橋  
 ノ延長頗ル長ク維持上得策ナラザルヲ認メタルニ依リ此機ヲ利シ締切堤ノ上流部千原崎草島間ニ撰定  
 シ架換セントスルモノニシテ富山縣ノ申請ニ依リ大正十五年四月二日總工費三萬六千五百圓ノ内改修  
 工事ノ爲メ必要ヲ生ジタル程度ニ於ケル二萬四千五百圓國庫負擔ノ認可アリ大正十五年四月二十日富  
 山縣ニ於テ施工ニ着手シ同年六月二十八日竣功セリ

有澤橋繼足工事ハ府縣道富山八尾線中神通川ニ架セル有澤橋附近ガ改修工事ノ結果河幅擴大セラレ同  
 橋兩岸共橋梁繼足ノ必要ヲ生ジタルモノニシテ富山縣ノ申請ニ依リ大正十五年九月二十三日工費三萬  
 六千三百三十圓國庫負擔ノ認可アリ縣ニ於テ施工中ナリ  
 本年度ニ於ケル竣功額ハ四十七萬一千六百三十八圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計四百四十四萬五百  
 四十圓ナリ之レヲ總工費九百二十一萬二千五百圓ニ比スレバ四割八分ノ竣功ナリトス其工事竣功表ハ  
 左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘浚築堤	立方米 一、七八三、八一八	円 六九四、七三八	立方米 二〇九、六九八	円 八三、六六二	立方米 一、九九三、五一六	円 七七八、四〇〇	〇・五六
	一、一四九、〇三三	二七六、五五五	一六六、四〇〇	二五、二三一	一、三二七、〇五五	二二一、八五二	〇・七二

總計	退職手当	船舶及機械費	附帶工事費	用地費	費用	運費	雜工	突堤	水陸	護岸水制
	三、九六八、九〇二	四二五	三、四七、五六九	八七五、四四四	二一、一三五	八三〇、〇七三	二、五八六	六、三六七	一一六、七〇五	八五、七七四
四七、一、六三八		四八、八〇〇	四〇、三四三	三、四、八五六	二、〇八三	一、四〇八		八七、〇七四	二、六六三	一〇〇、二二一
四、四四〇、五四〇	四二五	三九六、三六九	九一五、七八七	五五、九八一	八三二、一五六	三、九九四	六、三六七	二〇三、七七九	八八、四三七	九一、七六二
〇、四八								〇、二九	一、〇〇	〇、二七

## 第一七 多摩川改修工事

(東京土木出張所)

本工事ハ當初明治三十年法律第三十七號ニ依リ河川改良費トシテ大正七年度ヨリ同十四年度ニ至ル八箇年度繼續事業トシ工費五百六十萬圓、事務費二十八萬圓、合計五百八十八萬圓ヲ以テ左岸東京府北多摩郡砧村、右岸神奈川縣橋樹郡高津村以下海ニ至ル約二十二軒間ヲ施行スル計畫ナリシガ歐洲大戰以來勞銀及諸物價ノ昂騰ヲ來セル爲メ當初ノ豫算ニテハ到底遂行シ能ハザルヲ以テ同十二年度ニ至リ總工費ヲ七百七十六萬二千圓ニ増額シ施行年限ヲ三箇年度延長シ昭和三年度ニ竣功セシムルコト、爲シ同時ニ改良費ヲ治水費ト爲シ河川法第八條ニ依リ施行スルコト、ナリシガ其後更ニ施行年限ヲ二箇年度延長シ同五年度迄ニ竣功セシムルコト、ナレリ

### 河狀並計畫大要

本川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡神金村笠取山東谷ニ發シ小管、日原ノ溪流ヲ合セ東流青梅ニ至リ右折シテ東南ニ向ヒ更ニ秋、淺ノ二支川ヲ合流シ東京、神奈川ノ兩府縣界ヲ流レ下流東京府荏原郡羽田町ニ至リ海老取、八幡等數條ノ濬ヲ分岐シテ東京灣ニ注グ流路百二十八軒、流域一千六十四方軒ニ過ギザルモ其清流ハ東京市ヲ初メ附近一帶ノ飲料水トシテ上水ノ源ヲ爲ス外沿岸ノ灌溉、下流部ノ船楫等其利便尠シトセズ然レドモ其水路ハ京濱間ヲ貫流スルヲ以テ其利害ハ直接帝都ニ係リ一朝溢水破堤ノ慘ヲ見ンカ其損害

實ニ甚ダシキモノアリ今既往明治四十三年乃至大正八年ニ於ケル水害損失額ヲ算スレバ一箇年平均約五十萬圓ヲ下ラザルノミナラズ交通ノ杜絶衛生其他ニ因ル損害蓋シ計ルベカラザルモノアルベシ改修ノ計畫ハ既往ノ洪水量ヲ參酌シテ定メタル毎秒四千七百七十立方米ノ水量ヲ快疏スベキ河積ヲ有セシムル爲メ從來ノ無堤霞堤等廣狹一樣ナラザルモノヲ河狀ニ應ジ上流三百八十三米、河口五百四十五米ノ間ニ河幅ヲ整正シ其兩岸ニ天端ヲ計畫高水位上一米五トシ馬踏五米五、兩法各二割、川裏ニ一米八下リテ三米ノ小段ヲ附シタル堤防ヲ新設又ハ擴築シテ其高水敷ヲ定メ障害物ヲ除却シテ流水ヲ圓滑ナラシメ尙水積不足ノ箇所ハ掘鑿或ハ浚渫シテ之ヲ補フコト、セリ

低水路ハ下流地方ノ狀勢ニ鑑ミ上流ニ於テハ平均干潮時水深一米五、底幅七十三米トシ漸次増大シテ河口ニ至リ水深三米六、底幅百四十六米ニ達セシメ以下落筋ニ於テハ水深三米六、底幅百九米ヲ保持セシムルコト、セリ

其他若干ノ惡水路樋門竝水路附替等ノ附帶工事及水流急ナル部分ニ施行スベキ護岸工事等ニ在リテハ著大ナルモノナシ

## 施工狀況

本工事ハ大正七年度ニ施工準備トシテ實地調査ニ著手シ同八年四月一日川崎市小向(元橘樹郡御幸村)ニ土地收用事務所ヲ設置シ全部ノ査定ヲ終ヘ翌九年五月二十一日買收ニ著手以來十三年十一月迄ニ計畫ノ九割以上買收済トナレルヲ以テ同月限り事務所ヲ閉鎖シ殘餘ノ分ハ改修事務所ニ於テ處理スルコトトシ本年度迄ニ砧村地内外二三箇所ヲ除ク外殆ンド買收ヲ了レリ其總面積四百十五町五段步餘買收金

額(地上物件移轉料ヲ含ム)二百四十九萬八千八百六十六圓ニシテ計畫買收面積ノ九割五分ニ當レリ本改修事務所ハ大正八年六月同所ニ設置セシガ縣道改修其他ノ都合ニ依リ同十四年十二月川崎市久根崎ニ移轉シ工事ハ同九年度ニ於テ土地買收濟ノ箇所ヨリ先掘鑿工ヲ開始シ次デ浚渫築堤及護岸等漸次工ヲ進メ前年度迄ニ築堤土量二百七萬四千六百九十九立方米、浚渫土量四百八十七萬六千六百六十三立方米、護岸及水制延長五千八十八米ヲ施工シ工費合計百十萬五千二百三十九圓ヲ支出セリ

本年度ニ於テハ左岸東京府側調布村、矢口村、六鄉村、羽田町各地先ニ於テ七箇所、右岸神奈川縣側高津村、中原町、川崎市、六鄉村、羽田町各地先ニ於テ六箇所、計十三箇所ニ互リ人力及機械ニ依リ浚渫(掘鑿ヲ含ム)ヲ施工シ前者ハ土量三十六萬一千七百七十三立方米、後者ハ三十萬六千六百八十五立方米、計六十七萬五千三百九十八立方米ヲ竣成シ工費二萬六千九百五十一圓ヲ支出セル外左岸砧村、玉川村、調布村、矢口村、六鄉村、羽田町ノ各地先ニ於テ六箇所、右岸高津村、川崎市ノ各地先ニ於テ四箇所、計十箇所ニ於テ築堤工事ヲ施工シ土量ハ概ネ浚渫及掘鑿ヨリ生ズルモノヲ利用シ前者ハ十七萬八千百十三立方米、後者ハ八萬六千六百五十三立方米、計二十六萬四千七百六十六立方米ヲ竣成シ工費一萬九百二十一圓ヲ支出セリ上記諸工事に用器具機械ノ製作及修理ハ大正十年四月以降改修事務所内ニ製作場ヲ設ケ之ニ當ラシメシガ漸次事業ノ進捗ニ從ヒ不便トナレルヲ以テ事務所移轉ヲ機トシ同一敷地内(久根崎)ニ獨立工場ヲ設置シ之ニ當ラシメタリ

本川沿岸ハ概ネ低地ニシテ濕潤荒蕪ノ地尠ナカラザリシガ適々當改修工事施工セラル、ヤ浚渫又ハ掘鑿ヨリ生ズル剩餘土ヲ利用シ土地ノ改良ヲ企テ民有地ニ捨土出願スルモノ多キヲ以テ概ネ其希望ヲ容レ捨土運搬ニ要スル材料及勞力等ヲ提供セシメ同九年度以降實施シ來リ本年度末迄ニ土量二百九十九

萬立方米ヲ捨土シ改良セラレタル土地三百三十六ヘクタール餘ニ及ベリ之レガ爲メ沿岸附近ハ工場或ハ住宅地トシテ其面目ヲ一新シ交通機關ノ設備ト相俟テ地方民ノ受益ハ蓋シ尠少ナラザルベシ本改修工事本年度竣功額ハ二十六萬二千三百四十一圓ニシテ起工以來ノ累計五百二十八萬四千八百九十五圓トナレリ之ヲ總工費豫算七百七十六萬二千圓中大正十一年度迄ノ事務費十九萬四千八百九十二年度以降事務費ハ治水事業費、事務費ニ編入セラルルヲ控除シタルモノニ比較スルトキハ約七割ノ竣功ナリトス左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ表中「△」ハ製作品使用額「▲」ハ捨土出願者提供勞力及材料費

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	二、〇七四、一六九 <small>立方米</small>	一、三〇〇、五六六 <small>円</small>	二、六四、七六六 <small>立方米</small>	一、〇九二、一三三 <small>円</small>	二、三三八、九三五 <small>立方米</small>	一、四〇、九七七 <small>円</small>	〇・九三
工事費	四、八七六、六六二	一、五三五、〇四二	六、七五、三九八	二、六、九五〇 <small>円</small>	五、五五二、〇六〇	九、八三、四九五 <small>円</small>	〇・八〇
護岸水制	五、〇八八	一、八、六三八	一、八、段	八、三七七	五、〇八八	一、八、六三八	〇・〇一
用地費	四、一三七 <small>段</small>	二、四九〇、四八九	一、八、段	八、三七七	四、一五五 <small>段</small>	二、四九八、八六六	
船舶及機械費	▲▲	九五一、〇六七	▲▲	一、三〇、〇四二	▲▲	一、〇八二、一〇九	
測量費	▲▲	二、三、七、一六六	▲▲	五、八五三	▲▲	二、九、五、六九九	
營業費	▲▲	一、八三、二六三	▲▲	四三、二四〇	▲▲	二、二六、五〇三	
雜費	▲▲	二八、七九八	▲▲	一、三六九	▲▲	三〇、一六七	
共濟組合給與金	▲▲	五、一、七三八	▲▲	六、一一五	▲▲	五、七、八五三	
總計	▲▲	三、八二、〇〇二	▲▲	七三、〇三四	▲▲	四、五五、〇三六	
總計	▲▲	一、三、二二二	▲▲	五、五三二	▲▲	一、八、七五四	
總計	▲▲	五、〇、二二、五五四 一、七、一八、三〇五 一、七、一八、三〇五	▲▲	二、六二、三、四一 四、七、四、二、三三	▲▲	五、二、八、四、八九五 二、九、二、五、六九九 二、一、九二、五、三三八	〇・七〇

## 第一八 阿賀川及阿武隈川改修工事

(仙臺土木出張所)

### 緒言

本工事ハ大正八年度ヨリ同二十二年年度ニ至ル十五箇年度ノ繼續事業トシテ工事費一千三百七十二萬百五十圓(内阿賀川七百三十三萬九百七十七圓、阿武隈川六百三十八萬九千七百七十三圓)事務費二十萬七千九百六十圓、合計一千三百九十二萬八千百十圓ヲ以テ施行ノ計畫ナリシモ大正十二年帝都ノ大震災ニ依リ財政上年度割額ヲ變更大正二十五年(昭和十一年)度迄三箇年度ノ繰延ベトナレリ而シテ阿賀川改修區域ハ幹川福島縣北會津郡大戸村大字雨屋以下河沼郡川西村大字長井ニ至ル二十九糎五、支川宮川ハ同縣北會津郡荒井村以下阿賀川新合流點ニ至ル二糎八、支川湯川ハ若松市以下阿賀川新合流點ニ至ル二糎三、計三十四糎六ニシテ阿武隈川改修區域ハ幹川福島縣安積郡永盛村以下田村郡小泉村ニ至ル間、同縣安積郡本宮町附近及福島市ヨリ下流同縣伊達郡五十澤村ニ至ル區間三十七糎支川荒川筋ハ同縣信夫郡荒井村地藏原以下合流點ニ至ル十三糎一、計五十糎一ニ達シ郡山平野、本宮市街地竝ニ信達平野ノ主要部ヲ包含ス即チ兩川ヲ通ジタル改修區域距離ハ八十四糎七ナリトス

### 河狀並計畫大要

阿賀川ハ阿賀野川ノ上流福島縣ニ屬スル部分ノ稱呼ニシテ阿賀野川全部ノ流域面積八千三百四十四平方糎(内福島縣管內六千四百十六平方糎)流路延長ハ五百八十五糎(内福島縣管內百二十三糎六分)ヲ有ス而

シテ支川只見川及同川合流點以下ハ概ネ山間部ニ屬シ灌溉ノ利ニ乏シク水害モ亦少シト雖モ只見川合流點ヨリ上流ハ會津平野ヲ貫流シ灌溉ノ利多キニ伴ヒ水害モ亦甚シク明治四十三年ヨリ大正八年ニ至ル十箇年ノ損害價額平均一箇年八十六萬三千百十六圓ニ達ス加之河道亂レ堤防薄弱若クハ無堤部ノ所多キニ依リ之ヲ現狀ニ放置センカ其被害ヲシテ益々甚大ナラシムルヤ明カナリ

本改修計畫ノ主眼ハ洪水防禦ニシテ即チ浸水部ヲ除害シ河道ヲ矯正シ在來堤防薄弱ナルモノハ之ヲ補強シ低キモノハ之ヲ高メ無堤地ニハ堤防ヲ築キ河積不足ノ箇所ハ掘鑿竝ニ浚深等必要ノ工事ヲ施シ以テ洪水量ヲ快通セシムルニ在リ

高水流量ハ阿賀川最大毎秒時四千二百五十七立方米五分、宮川三百八十九立方米、湯川百八十立方米ト定メ河幅ハ大體阿賀川平地部三百六十四米乃至五百四十五米、山間部百四十九米、宮川九十一米、湯川七十三米ニ整理セントス

阿武隈川ハ福島、宮城ノ兩縣ニ互リ流域面積四千九百三十五平方糎五分(內福島縣管內四千二十五平方糎五分)流路延長二百五十九糎二分(內福島縣管內百九十六糎四分)ニ及ビ灌溉ノ利ヲ享クルコト多シト雖モ水害ヲ被ムルコト亦甚シク殊ニ福島附近、信達平野及郡山附近安積平野ニ於テ甚大ナリトス又信達平野左岸ニ存在スル各支川ハ急流ニシテ其水源地ヨリ土砂ノ搬出甚シク從テ亂流ノ狀態ニ陥リ且洪水流量比較的多キヲ以テ一朝洪水ニ際會センカ其慘狀激甚ヲ極メ以テ本流ノ河狀ヲ害シ之ヲ現狀ニ放置センカ其被害ヲシテ益々甚大ナラシムルヤ明ナリ

本改修計畫ノ主眼ハ洪水防禦ニシテ即チ浸水部ヲ除害シ河道ヲ矯正シテ在來ノ無堤地ニ堤防ヲ築キ其薄弱ナルモノハ之ヲ補強シ低キモノハ之ヲ高メ河積不足ノ箇所ハ掘鑿竝ニ浚深等必要ノ工事ヲ施シ以テ



洪水量ヲ快通セシムルニ在リ高水流量ハ本流ノ下流終端ニ於テ最大每秒時五千二百七十八立方米、支川荒川ハ一千二百五十立方米ト定メ河幅ハ大體本流百八十二米乃至四百米、支川荒川ハ百四十五米乃至二百十八米ニ整理セントス

## 施工狀況

阿賀川改修工事ハ大正十年二月ノ創業ニ係リ諸般ノ設備ハ稍整ヒタレドモ尙測量調査中ニ屬スルモノアリ從テ用地ノ買收ハ其一部分ニ過ギズ而シテ本年度施行工事ハ前年度同様幹川下流山間部ニ於テハ慶徳村大字山科字大畑、川原子間、同泡ノ卷地内、同土堀地内及川西村大字長井字袋原地内ノ新川掘鑿ヲ續行シ更ニ青津山科間新川掘鑿竝ニ赤星大澤間右岸切擴ヲ起工セリ而シテ本年度ノ功程ハ土量四十八萬六千九百五十三立方米、工費十五萬六千九百二十八圓ナリ

阿武隈川改修工事ハ阿賀川ニ先ツコト二年即チ大正八年ノ創業ニ係リ諸般ノ準備殆ド完了セリト雖モ豫算ノ關係上緊縮方針ヲ採リ著シク工事ノ進捗ヲ見ザルハ頗ル遺憾トスル處ナリ其施行區域ハ前年度ト同様幹川筋福島下流信達平野、本宮市街地、郡山平野及支川荒川筋トシ其工事モ大部分前年ニ引續キ施行シ本工事トシテハ掘鑿、築堤、護岸及樋門工事等ニシテ内阿武隈川筋福島下流桑折町地内、産澤川樋門工事ハ前年度ヨリ引續キ施工ノ處大正十五年八月竣功セリ亦附帶工事ハ福島下流伊達崎村地内惡水吐工事ニシテ大正十五年十一月著手施行中ナリ

阿賀川及阿武隈川改修工事竣功額ノ本年度支出額ハ五十四萬一千四百三十二圓ニシテ當初ヨリノ累計五百九十一萬八千七百九十二圓ナリ而シテ總工費一千三百九十二萬八千百十圓ニ對シ約四割三分ノ竣

功ナリトス其竣功表ハ左ノ如シ但シ大正十二年度迄ニ千住機械工場ニ委託シ製作シタル機械場ノ竣功額七十一萬七千九百十五圓(阿賀川四十三萬二千六百八十五圓、阿武隈川二十八萬五千二百三十圓)ハ船舶機械費ノ前年度迄竣功高ニ之ヲ合算セリ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘	八一六、四三九 <small>立方米</small>	四六一、六七七 <small>円</small>	—	—	八一六、四三九 <small>立方米</small>	四六一、六七七 <small>円</small>	〇・三三
工事築堤	二、〇八四、九六八	六四三、四九七	九九五、四三一	二七八、二六四	三、〇八〇、三九九	九二一、七六一	
事護岸水	—	—	—	—	—	—	〇・三三
費堰堤	—	—	—	—	—	—	
費桶	—	—	—	—	—	—	〇・三三
用地	—	—	—	—	—	—	
附帶工事費補助	—	—	—	—	—	—	〇・三三
船舶及機械費	—	—	—	—	—	—	
測量	—	—	—	—	—	—	〇・三三
營業繕費	—	—	—	—	—	—	
雜費	—	—	—	—	—	—	〇・三三
共濟組合給與金	—	—	—	—	—	—	
總計	—	五、三七七、三六〇	—	五、四一、四三二	—	五、九一八、七九二	〇・四三

本表ヲ更ニ流域ニ依リ區分スレバ次ノ如シ

阿賀川改修

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘	二二五、八五〇	一〇八、九六七	四八六、九五三	一五六、九二八	二二五、八五〇	一〇八、九六七	〇・二五
浚	六三二、四七〇	二九九、〇七七	—	—	一、二一九、四二三	四五六、〇〇五	—
工事	—	—	—	—	—	—	—
護岸	—	—	—	—	—	—	—
費用	—	—	—	—	—	—	—
用地	八三九段	一三〇、六四〇	二九六段	七、七三九	一、一三五段	一、七二四	—
船舶及機械	—	八九三、六六八	—	五、五〇二	—	二〇二、三七九	—
測量	—	—	—	—	—	九四五、一七〇	—
營業	—	—	—	—	—	二、七二七	—
繕	—	—	—	—	—	二四、八〇〇	—
雜費	—	—	—	—	—	二二、三七七	—
共濟組合給與金	—	—	—	—	—	二〇〇、八九二	—
總計	—	一、六六二、一三五	—	三二四、九一九	—	一、九八七、〇五四	〇・二七

阿武隈川改修

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘	—	—	—	—	—	—	—
浚	—	—	—	—	—	—	—
工事	—	—	—	—	—	—	—
護岸	—	—	—	—	—	—	—
費用	—	—	—	—	—	—	—
用地	—	—	—	—	—	—	—
船舶及機械	—	—	—	—	—	—	—
測量	—	—	—	—	—	—	—
營業	—	—	—	—	—	—	—
繕	—	—	—	—	—	—	—
雜費	—	—	—	—	—	—	—
共濟組合給與金	—	—	—	—	—	—	—
總計	—	—	—	—	—	—	—

總計	工事費						
	築堤	護岸	堰堤	樋門	用地費	附帶工事費	船舶及機械費
	一、二九七、三三二				四、七六一 <small>段</small>		
三、七一五、二二五	四〇四、九〇八	九四、二四一	一四三、七一〇	三六、七八〇	八〇〇、四六五	一〇、六八三	一、二二三、七二四
							四、三四二
							五、九五八
							二四三、四七〇
							三、八一四
	一二九、七三七				一七 <small>段</small>		
二一六、五二三	一二六、四四	一五、四九七		六、七二三	三九〇四	二、一三一	二二〇〇六
							一五七
							一、四七七
							二八三七七
							一、二七一
	一、四二七、〇五八				四、七七八 <small>段</small>		
三、九三一、七三八	四一七、五五二	一〇九、七三八	一四三、七一〇	四三、五〇三	八〇四、三六九	一、二八〇四	一、二四六、七三〇
							四、四九九
							五三、四三五
							二七一、八四七
							五、〇八五
〇・六二	〇・三二						

## 第一九 太田川改修工事

(名古屋土木出張所)

### 緒言

本工事ハ大正八年度ノ創業ニシテ當初工費三百四十四萬圓、事務費二十一萬圓、合計三百六十五萬圓、内静岡縣負擔百八十二萬五千圓ヲ以テ大正十四年度ニ至ル七箇年度繼續事業トシテ起工セシガ大正十二年度ノ初メニ於テ施行年限ヲ延長シテ昭和四年度ニ至ル十一箇年度繼續事業トシ同時ニ時局ノ影響ヲ受ケ物價及勞銀ノ騰貴ニ因リ工費百十九萬三千圓ヲ増額シ又河川法ニ依リ工事ヲ國ニ於テ直轄施行スルコト、ナリ地方費負擔額モ十二年度以降ノ分ハ同法ニ依ルコトトナレルヲ以テ結局工費四百六十九萬七千五百八十圓、事務費十四萬五千四百二十圓、合計四百八十四萬三千圓、(内地地方費負擔二百六萬九千圓)ニ變更セラレタルガ同年度九月一日關東地方大震火災ノ影響ニ依ル一般事業繰延ノ爲メ更ニ施行年限ヲ昭和六年度ニ延長セラレタリ其施行區域ハ幹川筋ニ在リテハ静岡縣周智郡森町以下海ニ至ル約二十二糎、支川敷地川ニ在リテハ同縣磐田郡三川村以下幹川合流點ニ至ル約七糎、支川原野谷川ニ在リテハ同縣小笠郡原谷村以下幹川合流點ニ至ル約十九糎、小支川逆川ニ在リテハ同縣小笠郡西山口村以下原野谷川合流點ニ至ル十糎、小々支川倉真川ニ在リテハ同縣小笠郡西郷村以下逆川合流點ニ至ル二糎餘、其他是等諸川ニ相關聯セル支川ノ一部ヲ合セ總計約六十糎ナリトス

### 河狀並計畫大要

本川ハ大井及天龍ノ二大河ノ間ニ介在シ中遠ノ南部ヲ貫流スル一小河ニシテ流域面積五百八平方糎降雨饒多ナレドモ急流ニシテ平時水量乏シク殆ンド水運ノ便ヲ有セズ幹川流路ハ僅ニ四十四糎ニ過ギズト雖モ分合スル支派川二十有餘アリテ其總延長三百糎ニ達ス從テ灌溉面積比較的多ク七千八百餘ヘクタールニ互リ其利益大ナルモノアレドモ水害區域モ亦廣ク七千三百六十餘ヘクタールヲ算シ小河川ノ割合ニ損失ヲ受クルコト甚大ナリ而シテ其原因ハ主トシテ河狀ノ不良及堤防ノ薄弱ニ歸ス明治四十三年乃至大正八年ノ十箇年間ニ於ケル水害損失額ノ如キハ一箇年平均三十二萬百七十五圓ニ當リ就中明治四十四年ノ水害ハ百二十六萬二千六百七十二圓ノ多額ニ達シタリ而シテ本川ノ水害ハ獨リ田畑ヲ荒廢セシムルノミナラズ第一號國道タル東海道ヲ初メ重要道路ヲ數箇所ニテ橫斷スルヲ以テ一朝出水ノ際ハ忽チ交通ヲ杜絶シ從テ鐵道東海道線ノ如キモ不通ノ災厄ニ會フコト稀ナラザルノ狀態ニ在リ本計畫ハ主トシテ洪水ノ疏通ヲ良好ナラシメ之ヲ防禦スルニ在リ改修ノ方法トシテハ在來ノ不規則ナル堤防ヲ改廢整理シ其薄弱ナルモノハ之ヲ擴築シ必要ノ箇所ニハ新ニ堤防ヲ設ケ河積不足ノ箇所ハ引堤或ハ掘鑿ヲ施シ以テ河狀ヲ矯正シ屈曲ヲ緩和シ時ニ新川ヲ開鑿シテ之ニ換ヘ支川ニシテ逆流ノ虞アルモノ及各用惡水路等ニハ必要ニ應ジ水門等ヲ築設シテ洪水ノ浸水ヲ防ガントス本計畫ニ採用セル計畫最大流量及河幅等ハ次ノ如シ

河川名	流量	河幅	高水位	河川名	流量	河幅	高水位
太田川	至自 九七五	四二〇米	二二〇分一	敷野地川	至自 九三五	五五〇米	四〇分一
原野谷川合流點	每秒立方米 一、九五〇	九〇	二四三分一	原野谷川	至自 九七五	九七五	一、二〇〇分一

河川名	逆川	河川名	倉真川
流量	至自 毎秒立方米 五〇五〇	流量	至自 毎秒立方米 一六五
河幅	至自 六三六米	河幅	至自 三六米
勾高水位配位	至自 七五五分一	勾高水位配位	至自 六〇〇分一

堤防ノ標準断面ハ太田川原野谷川合流點以下海ニ至ル間ハ馬踏三米五、表法二割、裏法二割五分トシ太田川原野谷川合流點以上及敷地川、逆川ハ大部分馬踏三米乃至三米五、兩法共ニ二割トシ其他ノ小支川ハ馬路幅二米七、兩法二割、天端高ハ計畫高水位上〇米九乃至一米二トス尙勾配ノ急ナル箇所及水勢ノ激突スル虞アル箇所ニハ相當ノ保護工事ヲ施スモノトス

### 施工狀況

本工事ハ大正八年度創業以來施行準備ニ着手シ八年度及九年度ニ於テ實地測量竝ニ土地買收調査ヲ爲シ同十年度ヨリ同十二年度ニ至ル三箇年間ニ於テ三回ニ互リ全改修區域約百五十三町歩ノ土地買收及地上物件移轉ヲ完了シ更ニ大正十三年度ニ於テ約一町一段餘、大正十四年度ニ於テ約二段余ノ局部買收ヲ行ヒ前年度迄ニ全部終了セルヲ以テ本年度ニ於テハ買收ヲ行ヒタルモノナク單ニ寺院境内地ノ補償三百四十八圓ヲ支拂ヒタルニ過ギズ

工事ニ在リテハ大正十年度中買收區域ノ一部ヨリ着手シ漸次本支川ノ各所ニ及ボシ大正十二年度ニ至リテ區域殆ンド全川ニ互リ專ラ築堤掘鑿工事ノ進捗ニ努メ來タリシガ本年度ニ及ビ爾來特ニ力ヲ致セシ太田川及原野谷川中流新川開鑿部ノ工事モ全ク完成シ其他ニ於テモ支川逆川及敷地川ノ上流部ヲ殘シ築堤掘鑿ノ大半ヲ竣成セシムルニ至レリ尙低水路ノ開鑿及切擴箇所ニハ大正十二年度以來必要ニ應

ジ各所ニ護岸工事ヲ施行シ水勢ヲ緩和シ沿岸ノ浸蝕ヲ防止セシメツ、アリ又附帶工事ニ於テハ本工事ノ施行ニ伴ヒ必要箇所ニ樋管水路等逐次施行シ來リシガ本年度ニハ更ニ逆川支川垂木川ノ下流改良工事ヲ附帶工事トシテ直轄施行スル事トナリ年度内ニ一部工事ヲ開始セリ而シテ本年度中工事ニ着手セルモノ築堤八箇所掘鑿四箇所護岸十五箇所假護岸一箇所附帶工事二箇所ニシテ前年度ヨリ施行ノモノヲ合セ本年度施工中ニ屬スルモノ築堤二十七箇所掘鑿十五箇所護岸二十箇所假護岸一箇所附帶工事五箇所ニシテ内本年度中竣功セルモノ築堤六箇所掘鑿二箇所護岸五箇所假護岸一箇所附帶工事四箇所ナリトス

本年度ノ功程ハ掘鑿土砂約三十九萬一千九百立方米ニシテ内掘鑿費支辨ノモノ一萬六千四百立方米此工費五千九百二十七圓築堤工事土量約四十六萬七千五百立方米内築堤費支辨ノモノ四十六萬七千立方米ニシテ此工費十九萬五千七圓ナリトス而シテ工事ハ爾來主トシテ人力ニ依リ又處ニ依リ土運搬ニ牛馬力ヲ以テシタルガ土取箇所ハ凡テ低水路ノ開鑿或ハ切擴ニシテ土質亦概ネ砂利若クハ粘土ナルニ加ヘ土盛箇所狹長ニシテ而モ多クハ中間ニ民有地ヲ存シ掘鑿運搬共ニ困難ナル爲メ人夫ノ出役者少ナク充分ノ工程ヲ舉グル能ハズ工事區域ノ擴大スルニ從ヒテ其度ヲ増大スルニ至レルヲ以テ大正十三年度ヨリ更ニ小型掘鑿機竝ニ機關車各一臺ヲ使用シ專ラ逆川新水路掘鑿部ニ利用シ來タレル爲メ人力ニ依ル工程ノ不進ヲ相當補フ處アリシモ本川ノ如キ掘鑿箇所ノ狹隘ナルト土捨箇所ノ短少ナル所ニ於テハ機械ノ能率ヲ充分發揮セシムルコト能ハズ工費ノ廉ヲ計ルコト困難ナリ

本年度太田川改修工事ノ竣功額ハ三十三萬六千二百九十二圓ニシテ創業以來本年度迄ノ總竣功額ハ二百七十八萬三百一十一圓トナリ總工費豫算四百八十四萬三千圓内事務費十四萬五千四百二十圓ニ對シ約



五割七分ニ當ル工事竣功表左ノ如シ但シ「」ハ利用土量

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	●	●	●	●			●
工事掘	一、九〇〇、 七、二四四、 四六六	七〇五、 九六四	四六七、 〇八七、 五一八	一九五、 〇〇七	二、三六七、 七、四九三、 七六三	九〇〇、 九七一	〇・八四
費假設	一、四三三、 八、六七七	三三、 六七五	三一六、 三九九、 三七五、 五一	五、 九二七	一、一五一、 六五二、 一、八二四、 一八八	四四、 六〇二	〇・五六
用費	一、五三三、 九	九、 二九〇	一、 七四一	六七、 九二四	一、 五三三、 九	一、 〇三七、 一七〇	
附帶工事費		五〇、 一〇四		二〇〇、 二二五		七〇、 一二九	
船舶及機械費		二六、 九三三		八、 四〇六		二七〇、 三三九	
測量費		一三、 二八六		八、 三七		一四、 一二三	
營業費		一一、 二五一		一、 一七二		一二、 四二三	
雜費		二四、 七二三		三三、 三一六		二七、 六〇三、 九	
共濟組合給與金		四、 五一七		一、 五八九		六、 一〇六	
總計		二、 四四四、 〇一九		三三六、 二九二		二、 七八〇、 三一一	〇・ 五七

## 第二〇 富士川改修工事

(東京土木出張所)

### 緒言

本工事ハ大正九年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十箇年度繼續工事トシテ工費トシテ工費九百三十萬圓(上流部七百萬圓、下流部二百三十萬圓)ナリシガ豫算編成當時ニ比シ一般物價及勞銀ノ昂騰甚シク工費ニ不足ヲ告ゲタルヲ以テ大正十二年度以降増額シテ一千二百萬圓(上流部九百萬圓、下流部三百萬圓)ニ改メ施行年度ヲ延長シテ昭和六年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トセリ然ルニ財政緊縮ニ依リ更ニ同十一年度迄延長施行スルコト、ナレリ其區域ハ上流部ニテハ幹川山梨縣中巨摩郡龍王村ヨリ同縣南巨摩郡五開村ニ至ル二十軒、支川笛吹川同縣東八代郡石和町ヨリ同縣西八代郡市川大門町三川合流點ニ至ル十九軒又下流部ニテハ静岡縣庵原郡富士川町以下海ニ至ル八軒、合計四十七軒ノ間ナリトス

### 河狀竝計畫大要

富士川ハ幹川ヲ上流ニ於テ釜無川ト稱シ源ヲ山梨縣ノ西北隅ニ屹立セル駒ヶ嶽ノ西麓ニ發シ甲信ノ境ヲ北流スルコト十八軒餘ニシテ南折シ同縣北巨摩郡ニ入り一大斷層谷ヲ流レ大武川、小武川、鹽川、御勅使川等ノ支川ヲ合シ龍王村ニ至リ始メテ甲府盆地ニ出ヅ甲府盆地ハ太古一大湖水ナリシガ富士川ノ作用ニヨリ陸化シタル所ニシテ地形平夷、面積一萬三千ヘクタールニ達シ灌漑ノ便全シト雖モ一朝洪水ニ際會セバ水災最モ慘狀ヲ來ス地方ナリ釜無川ハ之ヨリ盆地ヲ貫キ中巨摩郡忍村ニ至リ笛吹川及蘆川ノ東

ヨリ來ルニ會ヒ之ヨリ以下ヲ富士川ト稱シ南巨摩郡鰍澤町地先禹ノ瀨ニ至リテ再ビ山地ニ入り南流シ早川、芝川等ノ支川ヲ合シ静岡縣富士郡岩松村ニ至リ再ビ平原ニ出デ駿河灣ニ注グ此平原モ亦本川砂礫ノ沖積セルモノニシテ其面積五千ヘクタールニ達シ古來水災激甚ノ地方ナリトス而シテ水源ヨリ笛吹川合流點迄ノ流程五十八軒、合流點ヨリ河口迄ノ流程七十一軒、合計百二十九軒ナリ又支川笛吹川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡ノ北隅甲武信ヶ嶽、國師ヶ嶽及奥千丈嶽ニ發シ山嶽ノ間ヲ西南ニ流レ同郡日部下村ニ於テ甲府盆地ニ出デ重川、日川、金川、荒川等ノ支川ヲ集メ忍村ニ至リ釜無川ニ合流ス其流程五十軒ナリ本川流域ハ長野、山梨、静岡ノ三縣ニ跨リ流域面積四千五百三十平方軒ナレドモ其大部ハ山嶽部ニシテ平地ハ六百十平方軒ニ過ギズ支川ヲ合セ流路延長一千七百八十軒、航路延長九十軒、灌溉區域一萬八千二百ヘクタール又水害區域一萬三千五百ヘクタールヲ算ス而シテ流域ハ山地大部ヲ占ムルニ依リ夏期颯風ノ候ニ於テハ豪雨頻々トシテ來リ山林濫伐ノ爲メ水源荒廢セルモノ尠カラズ又花崗岩、閃綠岩等ヨリ成レル山地ノ風化崩壞スルモノ多ク爲メニ出水量多大ナルノミナラズ時トシテハ土砂流ヲ生ジ而カモ河床勾配急峻流勢急激ナルニ依リ堤塘ヲ破壞シ沿川ノ耕地ヲ變ジテ礫川ト化セシメ大慘害ヲ醸セシコト稀ナラズ殊ニ明治四十年ノ大出水ニ際シテハ笛吹川支川重川、日川、金川等ノ水源大崩壞ヲ來シ土砂ヲ以テ甲府平原ノ一半ヲ埋沒スルニ至レリ即チ同年ニ於ケル水害損失價額ハ一千二百萬圓ノ巨額ニ昇リ近時水害減少シタリト雖モ尙大正五年以降同十四年ニ至ル十箇年間ニ於ケル平均一箇年水害損失價額四十三萬九千圓ニ達ス

本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ニ因ル各種ノ損害ヲ防止シ併セテ沿岸耕地ノ排水ヲ良好ナラシメントスルモノニシテ本計畫ニ採用シタル高水流量ハ左ノ如シ

縣名	河川名	區	間	高水流量
山梨縣	釜無川	龍王村ヨリ笛吹川新合流點ニ至ル 石和町ヨリ荒川合流點ニ至ル		每科立方米 三、一〇〇
山梨縣	笛吹川	荒川合流點ヨリ蘆川合流點ニ至ル 蘆川合流點ヨリ富士川合流點ニ至ル		二、二〇〇
山梨縣	富士川	笛吹川新合流點ヨリ天神瀧ニ至ル 松野村ヨリ海ニ至ル		二、八〇〇
静岡縣	富士川			五、六〇〇
静岡縣	富士川			九、八〇〇

改修方法トシテハ上流部山梨縣下ニ屬スル區域中釜無川筋龍王村以下花輪村地先淺原橋ニ至ル部分ハ現今左右兩岸共堤防堅固且其位置宜シキヲ以テ在來ノ儘トシ唯兩岸堤脚ヨリ水制ヲ出シ流心ノ堤脚ニ接近スルヲ防ガントス又支川笛吹川ニ於テハ河積不足ナル箇所ハ河幅ヲ擴張シ掘鑿ヲ施シ又一部河床ノ隆起著シキ部分ニハ浚渫ヲ行ヒ堤防ノ薄弱ナル箇所ハ嵩置腹付ヲ爲サントス而シテ現今笛吹蘆ノ兩川ハ共ニ忍村ニ於テ釜無川ニ合シ而カモ釜無川及蘆川ハ急流ニシテ河床高ク笛吹川ハ兩川ノ間ニ介在シ勾配緩ナルガ爲メ其合流口閉塞セラレ洪水ノ排疏頗ル困難ナルヲ以テ本改修ニ於テハ笛吹川ハ蘆川ト共ニ新河道ニ依リテ三籽ノ下流ニ導キ西八代郡高田村地内ニ於テ幹川ニ合セシメ笛吹川ノ疏通ヲ助ケントス

富士川(釜無、笛吹、蘆ノ三川合流點以下ヲ富士川ト稱ス)ハ鰍澤町地先禹ノ瀨ニ於テ狹塞セラレ水面勾配緩トナリ從テ三川合流點以下ノ現川敷ハ計畫流量ヲ排疏スルニ足ラザルヲ以テ前述ノ如ク笛吹川ヲ分流シ河幅ヲ擴張シ堤塘ヲ嵩置シ加フルニ掘鑿ヲ施シ充分ナル流積ヲ與ヘントス又禹ノ瀨以下ニ在リテハ

大柳川殆ンド直角ニ本川ニ流入シテ其洪水ノ疏通ヲ阻ム虞アルニ依リ床固ヲ築造シテ河床ヲ整正セン  
トス尙蘆川戸川及小柳川等ニモ床固ヲ設クルモノトス

下流部静岡縣下ニ屬スル區域中岩松村以下東海道線鐵道橋以上ハ流勢ノ激衝スル所略一定スルヲ以テ  
現存工作物ノ機能ヲ増進セシムルニ努メ鐵道橋以下ニ於テハ水勢ノ激衝スル堤脚ニハ水制ヲ出シ左岸  
下流無堤ノ箇所ニハ新ニ堤塘ヲ設ク尙上下流部改修區域ヲ通ジ堤塘護岸等ハ必要ニ應ジテ擴築或ハ増  
築ヲ爲スモノトス

山梨縣南巨摩郡五開村ヨリ静岡縣庵原郡富士川町ニ至ル約五十軒ノ間ハ殆ンド山間部ニシテ平地少ク  
洪水ニ因ル被害比較的重大ナラザルヲ以テ本改修計畫ニ計上セズ

堤防ハ上流部釜無川及富士川ニテハ馬踏六米兩法二割五分、笛吹川ニテハ馬踏六米、兩法二割トシ天端ヲ  
計畫高水位以上、鰍澤町附近ニテ一米八ト爲シ上流ニ至ルニ從ヒ漸次此餘裕ヲ減ジ釜無川筋淺原橋ニテ  
一米五、笛吹川筋鶴飼橋ニテ一米二タラシム又下流部ニテハ左岸堤ハ馬踏八米ニシテ岩松村地先ニ於ケ  
ルモノハ表法三十割、裏法二割、加島村及田子浦村地先ニ於テハ表法二割、裏法六割トシ右岸堤ハ馬踏六米  
表法二割、裏法二割、五分ヲ標準トシ天端ヲ計畫高水位以上一米八トシ河口ニ至ルニ從ヒ此餘裕ヲ減ジ一  
米タラシム

河幅ハ上流部釜無川及富士川ニテハ多クハ在來堤ヲ擴築セシニ止リ釜無川ニテ三百米乃至四百米、富士  
川ニテ三百六十米乃至五百米ナリ、笛吹川ハ河積不足ノ爲メ引堤セシ部分尠カラズ故ニ二百米乃至二百  
九十米ナリ又下流部ニ於テハ多クハ在來堤ヲ擴築シ左岸無堤ノ箇所ニ新堤ヲ築設セシ爲メ河幅著シク  
不同ナリ即チ改修上流端一番出ニテハ三百六十米ナレドモ雁堤附近ニテハ九百米以上ニ増大シ國道橋

ニテハ再ビ四百米ニ縮小シ鐵道橋ニテハ五百七十米トナリ以下更ニ漸次擴大シ宮下突出部ニテ一千米、築堤末端ニテ一千七百米ニ達ス

## 施工狀況

本工事ハ大正九年度ノ創業ニシテ同年ニ於テハ上流及下流ニ各土地收用事務所ヲ開設シテ土地買收調査ニ着手シ翌十年度ヨリ買收協議ヲ開始シ買收事務ノ進捗ニ伴ヒ同十年八月下流土地收用事務所ヲ又同十三年六月上流土地收用事務所ヲ閉鎖シ殘務等ハ上流及下流兩改修事務所ニテ處理スルコト、シ昨年度迄ニ殆ンド全部ノ買收ヲ終リ本年度ハ只小區域ノ占用禁止ノ補償ヲ爲セシニ止マレリ其買收總段別百八十八町三段二十六步之レニ地上物件移轉料及補償費、河川敷認定地ノ占用ヲ禁止シ補償料ヲ支拂ヒタル段別二十一町一段三畝十八步ナリヲ合セ用地費九十三萬四百五十六圓ヲ支拂ヘリ工事ノ施行ニ關シテハ下流部ハ大正十年四月又上流部ハ翌十一年一月改修事務所ヲ開設シ築堤、掘鑿及護岸水制工事等ニ着手シ前年度迄ニ築堤二百三十二萬八千七百七十二立方米、浚深百七十八萬四百七十六立方米、護岸及水制延長三千六百七十三米ヲ施工シ附帶工事管理者施工ニ對シ一萬一千五百七十六圓ノ國庫補助ヲ爲セリ

本年度施工ノ概況ヲ述ブレバ上流部ニテハ前年度ヨリ繼續ノ市川、鰍澤、増穂、南湖、豐和、上野、大捫、富笛、上會根、大塚、藤田、印川左岸ノ十二築堤、市川、南湖、豐和、向新田、上會根、大塚、藤田ノ七人力掘鑿新地護岸根固、北畑護岸根固、藤田水制、鐵筋混凝土柱製作ノ二十三工事竝ニ本年度着手ノ印川右岸、朝井ノ二築堤、蘆川床固、戶川第二床固、新地水制、第三玉石採集運搬、若宮護岸及附帶工事タル高田樋門ノ八工事、合計三十一工事ヲ施工

シ毛戸尻、鰍澤、増穂、風早ノ四人力掘鑿ハ工事ノ都合上休工シタリシガ以上ノ内戸川第二床固工事ノミハ本年度ニ竣功ヲ告ゲタリ

工事着手區域ハ釜無川筋淺原橋ヨリ下流鰍澤町地先ニ至ル部分及笛吹川筋白井河原橋ヨリ下流三川落合ニ至ル部分ニシテ人力掘鑿工事ニテハ釜無川、富士川ノ高水敷及寄洲竝ニ笛吹川高水敷及低水路ヲ掘鑿シ本年度三十八萬一千三百三十三立方米ヲ成工シタリシガ全部築堤工事ニテ掘鑿シタリ又築堤工事ニテハ富士川、釜無川及笛吹川ノ新堤築設竝ニ舊堤擴築ノ爲メ前記三十八萬一千三百三十三立方米ノ外笛吹川廢河川敷ヨリ三萬一千五百四十三立方米、笛吹川左岸境川村地内民地土取場ヨリ四萬二千七百七十六立方米、合計四十五萬五千六百五十二立方米ノ土砂ヲ築堤敷ニ搬入シ三十四萬七千九百七立方米ヲ築立テ法面芝付六萬五千五百六十七平方米ヲ施工ス此外豐和築堤ノ一部ニ流心堤脚ニ偏倚シ屢水除法固ヲ施工セシモ猶決潰ノ虞アルニ依リ更ニ鐵筋混凝土柱大聖牛參組、鐵線蛇籠土砂留延長五十五米、面積三百三十平方米ヲ施工シ築堤工費二十三萬七百十二圓ヲ支出セリ

護岸水制工事ニテハ釜無川右岸淺原橋下流藤田村地先ニ於ケル混凝土杭出四箇所百四米、新戸川筋ニ於ケル第二戸川床固一箇所長五十米、新地水制二箇所長十二米及新蘆川筋ニ於ケル蘆川床固二箇所百六十米ヲ竣ヘ此外鐵筋混凝土柱製作、新地護岸根固、北畑護岸根固、第三玉石採集運搬及新蘆川左岸ニ於ケル若宮護岸等ヲ施工シ本年度功程床掘一萬一千八百四立方米、石張一千九十平方米、床固二百十米、混凝土杭出百四米、鐵筋混凝土柱製作二百本、玉石採集運搬一千九百立方米等ニシテ竣功延長三百二十六米之レニ要セシ工費七萬二千五百六十五圓ナリ

附帶工事ノ内西八代郡高田村ノ起業ニ係ル當所直轄施工ノ高田樋門ハ大正十五年十月六日ニ着手シ爾

來順調ニ進捗シ本年度末迄ニ本體上床版ノ混凝土ヲ打チ終リ工費二萬六千六百六十三圓ヲ支出シ七割ノ竣功ヲ示セリ

下流部ニテ本年施工シタルハ前年度ヨリ繼續ノ松岡、田子浦、岩本、加島ノ四築堤石材斫出、第二石材運搬、第二鐵筋混凝土柱製作、山下護岸、中ノ郷水制、蒲原水制ノ十工事並ニ本年度著手ノ松岡水制、田子浦護岸、第四及第五鐵筋混凝土柱製作ノ四工事、合計十四工事ニシテ蒲原築堤ノミハ工事ノ都合上休止シタリシガ以上ノ内第二及第四鐵筋混凝土柱製作、山下護岸、蒲原水制、中ノ郷水制ノ五工事ハ竣功ヲ告ゲタリ

築堤工事ハ前年度ニテ殆ンド築堤用土砂ノ搬入ヲ終リシヲ以テ本年度ハ僅ニ築立土量四千四百九十一立方米ヲ施工セル外堤防ノ手入ヲ行フニ止マレリ而シテ田子浦築堤著手當時ニ施設セル木材聖牛ハ腐朽ニ近キモノアルニ依リ補修トシテ混凝土大聖牛二十五組、同中聖牛一組ヲ増設シ又末端ノ洗掘ヲ防止センガ爲ニ木材大聖牛三組及鐵線蛇籠七十米ヲ施設シ築堤ニ要セシ工費五千八百九十三圓ナリ護岸及水制工事ハ右岸蒲原水制長二十米ノ全部、山下護岸ノ殘部ヲ竣へ中之郷水制ノ補修ヲ終リ左岸田子浦村地先ニ於ケル舊富士川本流締切箇所ノ安固ヲ圖ル爲メ田子浦護岸長二百五十米ヲ起工シテ九割ヲ竣へ岩松村雁堤中央ヨリ河身ニ向ヒテ突出セル松岡水制長三百米ヲ創メテ約八割ヲ竣へタリ此外石材斫出、石材運搬、混凝土方格枠及聖牛用混凝土柱製作等ヲ施工シ本年度功程床掘二萬三千六百九十二立方米、混凝土方格枠五千四百四十四平方米、石張八千八百七十九平方米、石材斫出三千五百二十二立方米、石材運搬三千五百二十八立方米、鐵筋混凝土柱製作二萬三千二百六十三本等ニシテ竣功延長三百二十二米之レニ要セシ工費十八萬七千八百四十九圓ナリ

本年度工事功程ハ上流及下流ヲ合セ人力掘鑿三十八萬一千三百三十三立方米(全部築堤工事ニテ掘鑿ス)



築堤四十五萬五千六百五十二立方米工費二十三萬六千六百五圓護岸水制工費二十六萬四千四百十四圓合計四十九萬七千九百圓ナリ而シテ本年度ノ竣功額ハ六十一萬二千八百五十一圓ニシテ創業以來本年度迄ノ竣功額ハ四百十九萬四千六百二十九圓ナリ之レヲ總豫算一千二百萬圓ニ比スレバ三割五分ノ竣功ナリトス其工事竣功表左ノ如シ但シ「\*」ハ利用土々量「△」ハ製作品使用價額「□」ハ管理者負擔額

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	2,328,772 立方米	1,585,941 円	455,652 立方米	236,605 円	2,784,424 立方米	1,822,546 円	0.58
工事護岸	* 1,699,315 米	56,769	* 381,333 米	260,414	2,080,648 米	56,769	0.37
費用水制	3,673 米	328,002	648 米	848	4,321 米	848	0.14
用地費	1,883 段	930,355	1,883 段	101	1,883 段	930,456	
附工直轄施工	竣功		未竣功		未竣功		
帶事(管理者施工)	簡所 八	11,576	簡所 一	18,050	簡所 一	18,050	0.08
船舶及機械費	△ 362,106		□ 7,280		△ 362,106		
測量費	14,750		1,601		16,351		
營業繕費	22,258		490		22,748		
雜費	264,734		51,791		316,525		
共濟組合給與金	5,287		2,052		7,339		
總計		3,581,778 24		612,851 8,134		4,194,629 8,113	0.35

## 第二一 圓山川改修工事

(大阪土木出張所)

### 緒言

本川ハ第二期川ニ屬シタルモ關係地方ニ於テ急施ヲ請願シ第一期川ニ準ジ大正九年七月ニ於ケル臨時議會ノ協賛ヲ經テ國庫ヨリ工費ノ半額ヲ補助シ且明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ内務大臣ニ於テ事業ヲ直接施行スルコトトナレルモノニシテ當初大正九年度ヨリ同十八年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費豫算五百萬圓(事業費四百六十五萬圓、事務費三十五萬圓)ナリシガ其後歐洲戰亂ニ起因スル物價及勞銀ノ昂騰ニ依リ豫算額ノ約二割五分ヲ増額シタルガ爲メ總工費豫算六百二十萬圓(工事費五百九十一萬一千圓、事務費二十九萬八千圓)トシ施行年度又延長セラレ昭和九年度ニ至ル十五箇年度ノ繼續事業トナレリ

其工事施行區域ハ幹川左岸兵庫縣城崎郡國府村、右岸同郡中筋村以下海ニ至ル二十三軒三支川出石川左岸同縣出石郡室埴村、右岸同郡出石町以下圓山川合流點ニ至ル九軒三ナリトス

### 河狀並計畫大要

本川ハ其源ヲ兵庫縣朝來郡生野町大字圓山宇内尾谷ニ發スルヲ以テ圓山川ノ稱アリ兵庫縣下ニ於テハ加古川ニ亞グ大河ニシテ其流域但馬ノ大部分ヲ占メ沿川ニハ豐岡町ヲ初メトシ城崎、出石、八鹿、和田山ノ諸名邑アリ河口ニハ津居山ノ要津ヲ有シ但馬唯一ノ平野ヲ南北ニ貫流シ日本海ニ入ル水運ノ便灌漑ノ

利アルモ比年洪水頻リニ臻リ維新以後ニ於テハ明治十八年及二十六年ヲ其最ナルモノトシ近年ニ於テハ明治四十年八月以來大正元年同七年同八年及大正十二年九月ノ洪水ノ如キ其被害甚大ニシテ沃野家屋殆下水底ニ葬ラレ一望大湖ノ觀アリ加フルニ其減水遅々トシテ數日ニ互リ慘狀言語ニ絶ス然カモ豊岡盆地ハ地盤低濕ニシテ中位ノ出水ニ際シテモ其汎濫區域廣ク被害又大ナリトス

流域總面積一千三百二十平方糎餘、幹川流路延長六十七糎餘ニシテ支川ヲ合シ六百四十糎ニ達ス其平地面積凡百九十平方糎ニシテ全流域ノ一割四分強ヲ占ム支川ノ主ナルモノヲ大屋、八木及出石ノ各川トス本流域ハ降水日數極メテ多ク大正七年以來同十五年ニ至ル九箇年ノ平均ニ依ルニ豊岡ニ於ケル一箇年ノ降水日數二百十六日ニ及ビ其降水總量二千四十四糎ニシテ流域内ニ於ケル最大日量二百五十糎明治四十年八月西氣、城崎ニ達ス水害ハ殆ド毎年之ヲ見ザルハ無ク時ニ一箇年數回ニ及ブトアリ明治四十年、大正六年、同七年、同十年、同十二年ハ近年ニ於ケル顯著ナルモノニシテ大正七年ノ洪水ニ於テハ湛水段別約四十平方糎、浸水家屋三千餘戸ニ及ビ其損失見積價額二百十三萬圓ニ達シ同十年ニハ百十六萬圓ヲ算セリ

本改修計畫ノ要旨ハ高水防禦ニアルヲ以テ高水量ニ對スル相當ノ河積ヲ與ヘテ高水時間ノ短縮ヲ圖リ屈曲甚シキ箇所ニハ新川ヲ開鑿匡正シ以テ疏通ヲ速カナラシメ堤防ハ新設又ハ増築シテ汎濫ヲ防ギ各小支川ハ逆水樋門ニ依リ逆水ヲ防禦セントス

計畫高水流量ハ出石川合流點以上幹川ニ於テハ每秒二千五百立方糎、同下流二千八百立方糎、出石川ニ於テハ五百立方糎トシ計畫高水位ハ大體ニ於テ大正元年ノ高水位ニ準據シ一千五十分ノ一ヨリ三千六百分ノ一ノ間ニ變化シ中流部豊岡町附近新川開鑿區域ヲ二千六百分ノ一トス

幹川城崎郡日高町ヨリ同郡國府村八代川合流點附近ニ至ル間ハ大體現狀ニ依リ河狀ヲ整理シ堤防ノ補強ニ止メ以下同郡豐崎町ニ至ル間ハ河幅ノ擴張ヲ爲スト同時ニ同郡中筋村伏新田村鹽津間及新田村立野其他ニ新川ヲ開鑿シ之レニ依リ高水ヲ快疏セシム豐岡町以北玄武洞ニ至ル間ハ又河積ヲ擴張スルノ要アリ之レヨリ下流ハ所謂山間部ニシテ處々河積狹隘ノ箇所アルモ比較的不急ノ工事ナルヲ以テ其特ニ著シキ障礙トナル箇所ニ除却工事ヲ施シ城崎町ハ一部之ニ築堤ス河幅ハ出石川合流點附近ニテ三百米トシ漸次擴大シテ同郡田鶴野村赤石ニ於テ約三百六十米ニ達セシム幹川堤防ハ馬踏幅五米五表法勾配二割裏法ハ二割ヲ以テ堤防頂天ヨリ二米ヲ下リテ幅三米ノ小段ヲ置キ以下二割五分勾配ヲ以テ下ル計畫堤防ハ計畫高水位ニ對シ一米二ノ餘裕アラシム支川出石川ハ兩岸堤防ノ位置甚不規則ナルモ河幅概シテ廣濶ナルヲ以テ概ネ現狀ニ則ルコト、シ只其中流部及下流部ニ於テ特ニ狹隘ナル箇所介在スルヲ以テ最小幅員ヲ百米トシテ擴大ス其堤防ハ馬踏幅五米五法勾配ハ表裏共二割トシ馬踏高ハ計畫高水位ヨリ零米九乃至一米二ノ餘裕アラシム

堤防總延長四十料餘ニシテ築堤所要土量約三百萬立方米其掘鑿竝ニ浚渫土砂三百八十五萬立方米トス岸工ハ河道ノ灣曲セル部分又ハ流勢ノ激衝スル部分ニ施工シ現在定著セル河岸ハ成ルベク之ヲ利用セントス

樋門ノ主ナルモノヲ舉グレバ六方川八代川及奈佐川ノ逆水樋門ニシテ其他城崎町ニ於テハ大溪川吐口ニ亦豐岡町ニテハ北端舊川締切箇所ニ逆水樋門ヲ設置シ逆水ヲ防禦スルト共ニ惡水排除及舟運ヲ司ラシム

附帶工事ハ用惡水路ノ新堤ヲ貫流スル箇所ニ施工スベキ樋門類ヲ始メトシ橋梁水路等三十箇所ニ及ブ

## 施工状況

本改修工事ハ大正九年度ニ著手セリト雖モ同年度ハ測量準備ニ止マリ同十年度及十一年度共ニ實施測量ト共ニ下流部ノ幅杭ヲ設置シ大正十一年五月一日城崎郡新田村同田鶴野村ニ於テ着工セリ本年度施工區域ハ前年度ニ引續キ城崎郡新田村今森園山川幹川町杭三里二十八町以下同郡田鶴野村赤石町杭一里三十一町間及河口城崎郡港村津居村ニ於ケル河口浚渫トス

使用土工器械ノ主ナルモノハ二百噸掘鑿機一臺、二十噸機關車一臺、五噸機關車二臺、三噸瓦斯倫機關車一臺、三立方米積土運車百臺、〇・六立方米積土運車五百五十臺竝ニ零立方米三積鐵製土運車（デツケル型）七十臺トス

浚渫用トシテ二百噸掘浚渫船竝ニ曳船足羽丸各一隻及四十八立方米積木製土運船二隻、六十立方米積鋼製土運船一隻ヲ有ス

右岸城崎郡田鶴野村船町以北町杭二里二十九町以下ハ掘鑿及築堤竣成シ高水防禦ノ目的ヲ達シタルモ大正十四年五月竝ニ昭和二年三月ニ於ケル北但及奥丹震災ニ依リ堤防ノ龜裂沈下崩壞セルハ遺憾トスル處ナリ而シテ左岸豊岡町以北ノ築堤前年度以降進捗少キハ土採場タル豊岡町小田井ノ移轉完了ヲ見ザルニ依ル

町杭三里五町半ヨリ同十五町ニ至ル延長約四百五十米ノ新川開鑿地タル立野機械掘鑿ハ本年度迄ニ九割五分弱ヲ了ヘ人馬力運搬ニ依ル兩端切部ヲ殘スノミナルヲ以テ前記小田井町ノ移轉セル曉ハ所謂大磯曲ノ大半ヲ匡正スル事トナリ高水ノ低下著シカルベシ

河口浚渫ハ從來本川吐口城崎郡港村津居山地先ニ於テ土砂堆積シ流水ノ疏通ヲ缺キタルヲ以テ町杭零里零町沖へ四百十米ニ互リ約五萬六十立方米ノ土砂ヲ浚渫シ之ヲ二籽沖日本海ニ投棄スル目的ヲ以テ大正十四年九月以來着工シ大正十四年度ニ於テ一萬二千二百七十立方米、本年度ニ於テ三萬六千二百五十八立方米、合計四萬八千五百二十八立方米ヲ浚渫セシニ大凡所期ノ目的ヲ達セルヲ以テ一先ヅ打切竣功ト爲シ後日ノ變化ヲ見ントス

斯ノ如クシテ本年度迄ニ築堤ハ全部ノ約二割八分、掘鑿浚渫ハ同ク約四割弱ヲ竣功セシメタリ山陰特ニ圓山川流域タル天候ノ惠少ク又本年度ニ於テ未曾有ノ降雪アリテ冬季中殆ンド休業狀態ニシテ工事ノ進捗意ノ如クナラザルハ遺憾トスル處ナリ

收用事務ハ大正十二年二月以來前年度迄ニ第一及第二及第三次ニ互リ城崎郡田鶴野村以上同郡新田村今森町杭三里二十八町以下ノ全部及同町杭以上出石町合流點迄ノ右岸堤外地ヲ發表シ本年度ニ於テハ全區間ノ堤内地ヲ第四次トシテ買收發表セリ

附帶工事ハ豐岡町外十四箇町村治水事務組合ノ申請ニ係ル田鶴野地内下鶴井惡水路宮島樋門及一日市吸水管ニシテ殆ド竣功ニ近シ

本川改修工事ノ本年度竣功高ハ二十五萬八千五百九十五圓ニシテ起工以來本年度迄累計二百七十萬二百四十九圓ナリ之ヲ豫算額五百九十一萬一千圓(内事務費十萬五千圓)ニ比スルニ四割六分ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如シ但シ「\*」ハ利用土々量「x」ハ直營出石材及採集砂利價額「□」ハ管理者負擔額「○」ハ無償品見積額「△」ハ民間負擔額「◎」ハ保管轉換品ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		步竣合功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	* 一、〇三一、四三六 立方米	二八、三七七 五九三 七三〇 三七七	* 一五五、〇五四 立方米	一六、四二四 四八八 四二四	一、一八六、四九〇 立方米	四四、〇八〇 一四〇 七三〇 一一一	〇・〇七 別分
掘鑿	一、二〇九、九二二	四一三、〇六六 二四、三〇一 一五九七	二〇六、六九八	六五、〇五三 三一三 一〇四	一、四一六、六二一	四七八、一一一 三三一 一五四 四四五	〇・三四
濬深	二二、二七〇	一一、七五九	三六、二五八	一〇、一八一	四八、五二八	二一、九四〇	〇・一六
護岸	一、五四七	七三、八七〇		一三、一四七	一、五四七	七六、四四七	〇・一一
用地	一、三八三、九〇三	一、四四四、一五九	九八、四二〇 段	七三、九六三	一、四八二、三三三 段	一、五一八、一二二	
附帶工事費		九、一一三 三三〇 二一六		一三、二二三 二二三 四〇七		二二、三四一 一一〇 三六〇	〇・〇八
船舶及機械費		二九〇、五五五 一八一 三二二 三六九		三七、〇一五 三九、五七八 三六二		三二七、五七二 一九七 四九〇 二五八 〇三七	
雜費		一七一		三九		二一〇	
總計		二、四四一、六五五 二五、七九四 四、八四七 三三、八七三 四一、二七九 三六、七八三		二五八、五九五 三、〇三〇 一七〇 二二四 二二九 五〇八 六〇五		二、七〇〇、二四一 二八、一一四 一四三 四〇、八八一 四六、三七一 八六、五四三	〇・四六

## 第二二一 木曾川上流改修工事

(名古屋土木出張所)

### 緒言

木曾川上流改修ト稱スルハ單ニ木曾川本流ノミヲ改修スルノ謂ニ非ス所謂木曾川系統ニ屬スル河川ノ主要ナル長良、揖斐、叡ノ諸川ヲモ併セテ改修セントスルモノナリ

本川ノ流域ハ長野、岐阜、滋賀、三重、愛知ノ五縣下ニ跨リ其流末ノ貫流スル處ハ即チ尾濃勢ノ平野ニシテ最モ重大ナル部分タリ此區域ハ人口稠密田野遠ク開ケ農桑ノ業盛ニシテ交通ノ便開ケ産業大ニ發達セリ灌漑ノ利舟楫ノ便等古來河川ノ惠澤ニ浴スルコト多大ナルモ一方ニ於テ洪水ノ害ヲ被ムルコトモ亦莫大ニシテ一朝堤防ノ決潰ヲ見ンカ廣袤幾萬町歩ノ平野ハ忽チ水底ニ沒シ人畜ノ死傷財産ノ損耗擧ゲテ數フベカラズ就中明治二十九年ノ洪水ノ如キハ其慘害言語ニ絶シ尙世人ノ記憶ニ新ナル所ナリ而シテ尾ノ一部濃勢大部ノ平地ハ地勢低濕ナルヲ以テ假令破堤ノ難ヲ免ルト雖モ少シク霖雨ニ際會セバ惡水停滯シテ容易ニ排疏セス稻田爲メニ水腐ニ歸シ三年一穫ノ如キハ寧ロ竊カニ僥倖トスル所ナリキ事情此ノ如キヲ以テ古來屢々改修ノ擧アリシト雖モ其施工多クハ局部ニ止マリシガ爲メ未ダ充分ノ效果ヲ奏スルニ至ラザリキ然ルニ明治ノ昭代ニ至リ上段述べルガ如キ慘狀一日モ看過スベカラザルヲ以テ内務省ハ夙ニ木曾、長良、揖斐三川ノ改修ヲ企テ明治二十年度ヨリ改修工事ニ着手セリ其目的ハ洪水ノ被害ヲ避ケ惡水ノ疏通ヲ圖リ兼テ舟楫ノ便ヲ改良セントスルニ在リ而シテ其方法ノ主眼トスル所ハ三川ヲ分流シテ伊勢灣ニ注ガシムルモノニシテ所謂三川分流是レナリ爲ニ彼此連絡ノ諸派流ヲ閉塞シ各河路



ヲ矯正シ水量ニ應ジテ河幅ヲ規程シ堤防ノ改築ヲ行ヘリ如此ニシテ右分流ノ工事ヲ終結シタルハ同三十三年ニ在リテ全部ノ完成ヲ告ゲシハ大正元年ナリキ其結果ハ豫期ノ効益ヲ舉グルコトヲ得テ關係區域ハ全ク在來ノ面目ヲ一新セルノ觀アリ然ルニ右改修區域ノ上流ニ屬スル部分ハ河幅狹隘、屈曲當ヲ得ザルノ箇所アリ且河底埋堆シ堤防亦薄弱ナルノミナラズ無堤ノ箇所スラアリテ洪水ノ脅威ヲ感ズルコト痛切ニシテ出水毎ニ地方民ハ必死ノ努力ヲ費シテ水防ニ努メ以テ僅カニ破堤ヲ免ル、ノ現狀ナリ若シ夫レ一朝破堤ノ厄ニ會センカ當ニ上流廣漠タル平野ヲ水底ニ沒スルノミナラズ濁流更ニ下流ヲ襲ヒ下流改修ノ效果ヲ沒却スルノ虞レアリ是レ上流改修ノ必要ナル所以ナリ

本工事ハ當初大正十年度ヨリ向フ十箇年度繼續事業ノ豫定ナリシガ同十一年度ニ至リ十二箇年度繼續事業トナリ更ニ同十二年九月一日關東大震災ノ影響ニ依リ施工年度ヲ五箇年度延長シ結局十七箇年度繼續事業トシ總工費二千萬圓(内愛知縣負擔六十八萬四千圓、岐阜縣負擔四百七十四萬五千圓)ヲ以テ木曾川ニ在リテハ愛知縣丹羽郡犬山町以下既成部分ニ至ル間約三十一軒、長良川ニ在テハ岐阜市以下約二十七軒、揖斐川ハ岐阜縣揖斐郡北方村以下約十八軒、藪川ハ岐阜縣本巢郡山添村根尾川分派口以下揖斐川合流點ニ至ル間約十二軒、牧田川ハ流末約四軒ヲ改修セントスルモノナリ

## 河狀竝計畫大要

木曾川ハ源ヲ長野縣西筑摩郡木祖村ナル鉢伏山ニ發シ高山峻岳重疊タル木曾溪谷ヲ奔流シ大小數多ノ溪流ヲ併セ藪原、福島、上松等ノ山村ヲ過ギ岐阜縣下ニ入リ丘陵ノ間ヲ經過シ迂餘曲折數次八百津町ヲ過ギ大支飛彈川ヲ右方ヨリ合セ太田ニ至リ少許ニシテ尾濃ノ國界ヲ流レ愛知縣丹羽郡犬山町ニ至ル此ヨ

リ地勢俄然展開シ所謂尾濃勢ノ平野ニ出デ以下始メテ堤防ノ設ケアリ犬山町以下少許ニシテ亂流數條ニ岐レ岐阜縣羽島郡川島村ヲ擁シ更ニ流スルコト約三十一籽、同郡八神村ニ至ル夫レヨリ下流ハ即チ既改修部分ニシテ流下スルコト約三十一籽、三重縣桑名郡伊曾島村、木曾岬村ノ間ニ於テ伊勢灣ニ朝宗ス流路長約二百二十籽ニシテ灌溉面積約二萬四千五百九十ヘクタール、流域面積約五千二百七十五平方籽ニシテ内山地面積四千百十八平方籽、平地面積一千百五十七平方籽ナリ

長良川ハ岐阜縣郡上郡高鷲村與本谷ニ發源シ南流シテ八幡町、美濃町等ヲ過ギテ吉田、板取、武儀、津保ノ諸川ヲ容レ方向ヲ西ニ轉ジ金華山ノ北麓ヲ經テ岐阜市ニ至リ平地ニ出ヅ次デ右方長良古川ヲ分派シ本流ハ市ノ北境ヲ流レテ本巢郡河渡村一日市場ニ至リ再ビ古川ヲ容レ西南ニ折レ東海道鐵道橋ノ上ニ至リ右支系貫川ヲ合ス夫レヨリ墨俣町ヲ經テ海津郡吉里村大字成戸ニ達ス之ヨリ以下ハ即チ既改修部分ニシテ南流スルコト約二十四籽、三重縣桑名郡伊曾島村地先ニ至リ揖斐川ト合シ伊勢灣ニ注グ下流改修前ニ在リテハ前記成戸ニ於テ木曾川ニ合流セシモ改修ノ結果分流スルニ至リシモノナリ流路ノ長ハ約百四十九籽ニシテ灌溉面積約一萬二千七百三十ヘクタールニ及ビ流域面積約二千三百十三平方籽ニシテ内山地面積約一千八百九十七平方籽、平地面積四百十六平方籽ナリ

揖斐川ハ源ヲ岐阜縣揖斐郡徳山村ナル奥山ニ發シ始メハ東南ニ流レ後南折シテ同郡北方村ニ至リ平坦部ニ出テ始メテ堤塘ノ設ケアリ夫ヨリ揖斐町ヲ經テ養基村大字脛永ニ至リ右支粕川ヲ容レ更ニ本巢郡川崎村大字宮田ニ於テ根尾川ノ分派藪川ヲ容ル夫レヨリ南流呂久ヲ過ギ東海道鐵道橋ニ達ス以下ハ既改修部分ニシテ養老郡池邊村ニ至リ右支牧田川ヲ合シテ今尾ヲ經更ニ津屋川ヲ合シ濃勢ノ國界千本松ニ至リ以下長良川ト瀨割堤ヲ距テ、相竝ビ遂ニ同川ト合シ三重縣桑名町ヲ經テ同郡城南村ニ至リ海ニ

注グ流路ノ長約九十八軒ニシテ灌漑面積約一萬四千七百二十ヘクタール、流域面積約一千五百十一方軒ニシテ内山地面積一千二平方軒、平地面積五百九平方軒ナリ

支川根尾川ハ源ヲ岐阜縣本巢郡根尾村ノ山中ニ發シ南流シテ山添村大字山口ニ至リ始メテ平坦部ニ出デ二派ニ岐ル右派ハ藪川ト稱シ西南ニ流ル、コト約十軒、本巢郡川崎村ニ於テ揖斐川ニ入ル左派ハ絲貫川ト稱シ東南ニ流ル、コト約十六軒ニシテ同郡生津村ニ至リテ長良川ニ注グ流域面積ハ約四百十六平方軒ニシテ流路長ハ約五十九軒ナリ

木曾川ノ水害ハ古來激甚ニシテ其度數モ亦頻繁ナリ特ニ西濃地方ハ我邦ニ於ケル稀有ノ水害地ニシテ是地勢低窪ナルノ致ス所ナリト雖モ一ハ河川ノ狀況不良ナルニ起因セズンバアラズ而シテ各川有堤部ニシテ一朝破堤センカ水害ヲ被ルベキ虞アル部分ハ岐阜縣管内四萬七千四百三十四ヘクタール、愛知縣管内四萬四千七十二ヘクタール、三重縣管内四千七百ヘクタール、合計九萬六千二百六ヘクタールナリ上流改修計畫ハ主トシテ下流改修工事既成部分ノ上流ヲ改修セントスルモノニシテ其方法ヲ舉グレバ左ノ如シ

木曾川ハ局部ヲ除キ河狀概ニシテ良好ニシテ相當ノ河幅ヲ保チ不良ノ屈曲無ク河底甚シク埋堆セルモノ無キヲ以テ大體現状ニ依リテ著シキ變更ヲ加ヘズ唯近年出水ノ趨勢ニ鑑ミ兩岸舊堤ヲ擴築シテ馬踏幅七米、兩法二割トシ小段ヲ附シ天端ノ高サヲシテ高水面上二米五ノ餘裕ヲ保タシメントス唯川島村地先ニ於テハ河身數派ニ分レ出水ノ都度其趨勢ヲ異ニシ爲メニ堤防ニ惡影響ヲ及ボシ其危險ヲ惹起スルノ虞アルヲ以テ數多ノ支派流ヲ遮斷シテ河身ヲ固定シ以テ洪水ノ際其快流ヲ圖リ併セテ堤防ニ向ヒ奔流スルノ危險ヲ防止セントス

本水路ハ相當ノ河積ヲ保タシムル爲メ多少ノ掘鑿ヲ施シ兩岸ハ前後ノ護岸高ニ準ジ適宜之ヲ施工シ以テ該附近ノ耕地ヲ保護セントス

長良川ハ岐阜市附近ニ於テ古川、古々川ノ兩川ヲ分派シ洪水ノ際ハ其幾分ヲ兩派ニ依リテ疏通スルノ現狀ナルモ此ノ如キハ河狀荒廢ノ原因トナリ得策ニ非ザルヲ以テ今回兩派川ヲ締切リ本流ハ河幅狹隘ノ部分ヲ擴大シ三百米乃至四百米ト爲サントス而シテ現在河幅ノ之ヨリ廣キ部分ハ其儘トシ舊堤ニハ増築ヲ施シ堤防ノ大サハ馬踏幅七米、兩法二割トシ尙小段ヲ附シ天端ノ高サハ大體ニ於テ高水位以上二米五ノ餘地ヲ保タシメントス而シテ必要ナル河積ヲ與フル爲メ堤防間ニ於テ適當ノ幅ヲ定メ掘鑿ヲ施シ且河渡以下ハ低水敷ヲ規定シ浚渫ヲ施シ以テ既成部分ニ連絡セシメントス

揖斐川ハ藪川合流點以上ハ局部ヲ除キ現在河幅可ナリ廣キヲ以テ増大スルヲ要セズ大體ニ於テ舊堤ニ擴築ヲ施シ同川合流點以下ハ從來無堤ニシテ洪水ノ際兩岸廣濶ナル區域ニ汎溢セルヲ以テ今回之ヲ防止スル爲メ適當ノ河幅ヲ定メ兩岸ニ築堤ヲ爲サントス堤防ノ大サハ藪川合流點以上ハ馬踏幅五米五、兩法二割、同合流點以下ハ馬踏幅七米、兩法二割トシ高サ大ナル箇所ニハ小段ヲ附シ天端ノ高サハ高水位上二米五トス尙必要ナル河積ヲ與フルガ爲メ相當ノ掘鑿ヲ爲シ又藪川合流點以下ノ低水路ヲ定メ少許ノ浚渫ヲ施シ以テ既成部分ノ低水路ニ接續セシメントス

根尾川ノ一派タル系貫川ハ其分派口附近ニ於テ締切リヲ施シ尙樋門ヲ設ケ灌溉等ニ必要ナル水量ヲ流過セシム從ツテ根尾川ノ洪水ハ總テ藪川ニ流下セシム

藪川ハ大體ニ於テ現在ノ河幅廣大ナルヲ以テ局部ノ外ハ別ニ擴大セズ舊堤ノ増築ヲ施スニ止ム堤防ノ大サハ馬踏幅五米五、兩法二割ニシテ可成小段ヲ附シ天端ハ高水位上二米ノ高サヲ保タシメ尙河中ニ於

テ必要ナル掘鑿ヲ施スモノトス  
牧田川ハ高淵ノ狹窄部以下ニ改修ヲ加フルモノトス木曾、長良、揖斐、敷、牧田ノ五河川共必要ナル箇所ニ相  
當ノ護岸竝ニ水制ヲ施工シ尙締切箇所等必要ナル處ニハ樋門ノ設備ヲ爲サントス而シテ既成改修工事  
ニ屬スル區域ト雖モ近時出水ノ趨勢ニ鑑ミ前回改修ノ際工事費等ノ都合ニ依リ十分改良ヲ加フルコト  
能ハズシテ現時尙堤防薄弱、惡水排除ニ障害アル箇所等差シ措クベカラザルモノニ對シテハ精査ノ上相  
當ノ施設ヲ加フルモノトス

## 施工狀況

本工事ハ大正十年度ニ創業スルヤ直チニ施工準備トシテ幅杭測量ニ着手シ翌十一年一月土地收用事務  
所ヲ岐阜縣羽島郡竹ヶ鼻町ニ開設シ次ニ之ヲ稻葉郡加納町ニ移シ專ラ收用事務ヲ執行セシガ同十三年  
十一月收用事務所ヲ廢止スルニ及ビ其業務ハ改修事務所ニ於テ取扱フコト、セリ

本年度中ニ於ケル土地收用ハ長良川筋羽島郡小熊村及福壽村ニ跨ル築堤敷ノ買收ト同郡堀津村及八神  
村地先ニ於ケル少許ノ河川敷占用禁止等ニシテ其總面積ハ五町五段二畝二十步五合一勺此價額二萬九  
千五百六十四圓、地上物件移轉料竝ニ河川敷占用禁止補償金八千二百三十圓ナリ而シテ創業以來ノ累計  
收用面積二百五十六町四段四畝九步三合ニシテ此價額百四十八萬四千四百三十六圓、地上物件移轉料竝  
ニ河川敷占用禁止補償金四十六萬九千二圓ナリトス

工事施行ニ關シテハ大正十二年一月岐阜市忠節町ニ木曾川上流改修事務所ヲ設置シ以來年ヲ閱スル事  
四箇年ニ及ビ本年度迄ノ竣功高ハ掘鑿二百九十四萬二千三百四十八立方米、内民費支辨二十三萬八千百

七十九立方米、築堤三百五十三萬六千七百八十三立方米、護岸四千九百三十一米、水制一千三百六十四米六及假工事三箇所之ニ要セシ總工費百四十七萬六千十二圓及民費支辨二萬一千六百五十三圓ナリ而シテ使用セシ主要器械ハ掘鑿機三臺、二十噸機關車三臺、五噸機關車三臺、三立方米積土運車二百四十七臺、〇六立方米積土運車一千二百二十臺ニシテ工事用機械ノ修理製作ハ總テ岐阜機械工場ニ於テ之ヲ掌ラシム本年度工事施工區域ハ揖斐川筋ニ在テハ岐阜縣本巢郡鷺田村、川崎村、安八郡和合村、下宮村、神戸町、北平野村竝ニ揖斐郡川合村、池田村ノ八箇所、達シ長良川筋ニ在テハ同縣羽島郡小藪村、八神村、堀津村、福壽村、小藪村竝ニ海津郡吉里村、海西村、安八郡大藪町、名森村ニ跨ル九箇所、及ビ本會川筋ニ在テハ同縣羽島郡川島村ニシテ各川筋ニ呂久、堀津、川島ノ三工場ヲ置キ其下ニ若干ノ派出所ヲ設ケ機械掘鑿工三箇所、人力掘鑿工二箇所、築堤工十一箇所、護岸工四箇所、附帶工事二箇所ヲ施工シ此竣功額ハ三十七萬五千四百三十五圓(此外民費支辨二萬一千六百五十三圓)ナリ其施工概況ヲ述ブレバ左ノ如シ

揖斐川筋呂久附近ノ新水路開鑿ハ昨年度通水以來其成績頗ル良好ニシテ尙本年度ニ於テ其上流ニ位スル落合ノ狹窄部ヲ掘鑿シ舊川ヲ締切リタル結果ハ全ク河狀ノ面目ヲ一新セリ呂久右岸築堤工ハ豊後川竝ニ平野井川ノ吐口ヲ殘シテ他ハ全部完成シ北平野築堤工モ亦神戸惡水路ノ處分未解決ノ爲メ其部分ヲ殘シ七割四分ノ竣功ヲ見、呂久左岸築堤工ハ藪川筋ノ改修計畫ト聯絡ヲ取ル關係上本年度ニ於テハ一時休止セシモ尙殘工事ヲ施スニハ相當日子ヲ要スル事情アリシ爲メ一ト先ヅ打切竣功ト爲シタリ而シテ川合第二築堤工ハ前年度ヨリ引續キ施工中ナリシガ大正十五年十月竣功セリ

長良川筋小藪村方面ニ於ケル新水路ノ締切堤タル小藪第二築堤工ハ本年ニ入り全部竣功ヲ告ゲ海西機械掘鑿工僅ニ一割三分ノ殘工ヲ以テ年度ヲ越セリ其上流大藪築堤工ハ四割八分、八神築堤工、堀津築堤工

ハ何レモ本年度中ニ竣功ヲ告ゲ漸次上流ニ向ツテ進工スル方針ニ據ラントセシモ福壽村大字平地先ニ未買收箇所ヲ存シ直チニ着工シ難キ事情アリ此地點ヲ暫ク留保シ其上流ニ當ル左記三工事ヲ起シ小熊築堤工ハ二割七分、境川小熊第二築堤工ハ二割七分及ビ小熊人力掘鑿工ハ三割七分ノ工程ヲ舉ゲテ年度ヲ越セリ

木曾川筋川島村方面ニ於ケル木曾川本流ノ掘鑿タル松原島機械掘鑿工ハ僅ニ二割一分ノ殘工ヲ以テ殆ンド完成シ主力ヲ護岸水制工ニ注ギ年度中ニ笠田、松原島ノ二護岸工ヲ竣功セシメ松原島第二護岸工ハ一割二分、笠田第二護岸工ハ八割三分ノ工程ヲ以テ年度ヲ越セリ

附帶工事トシテハ昨年度來引續キ施工中ノ羽島郡小藪村地先西小藪樋管工ヲ本年度ニ竣功セシメ岐阜縣知事申請ニ係ル逆川惡水樋門工ハ昭和二年二月廿五日着手シタルモノニシテ着工ノ日尙淺ク床掘ノ一部ヲ開始シタルニ過ギズ

本工事本年度竣功額ハ六十五萬四百四十四圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ四百七十五萬六千八百七十六圓ナリ之ヲ總豫算額二千萬圓ニ比較スレバ二割四分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「\*」ハ利用土量、「▲」ハ民間負擔額、「△」ハ製作品代價ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤	一、七八三、九六六 立方尺	三一八、一六四 圓	四七〇、六四三 立方尺	二〇四、八三九 圓	一、二五四、五八九 立方尺	五二二、〇〇三 圓	〇・三一
掘鑿	二、二〇三、五三一 米	五三一、七五三 圓	五〇〇、六三八 米	一一六、一六三 圓	二、七〇四、一六九 米	六六七、九二二 圓	〇・一五
護岸	五、三六九 米	二四六、一四三 圓	九二六 米	二九、九二〇 圓	六、二九五 米	二七六、〇六三 圓	〇・一七
工事假設		九、〇二四 圓				九、〇二四 圓	

總計	共濟組合給與金	雜費	營繕費	測量費	船舶及機械費	附帶工事費	用地費
							二、五〇九
▲▲	四、一〇六、四三二 六四、八五一	三一五、九〇八	六二、九七五	二二、二九八 一〇六	六五八、三一八 六四、七四五	一四、九五二	一九一五、六四四
							五五
▲▲	六五〇、四四四 三三、三九五 二一、六五三	四、三三二	七五、二八三 二八	三、八二五 一一	一五二、二九九 三〇、五八八 一、九四二	四〇五 四五七	三七、七九四
							二、五六四
▲▲	四、七五六、八七六 二一、六五三	一四、五七六	三九、一九一 二八	六六、八〇〇 三一	八〇、六一七 九五、三三三 二五、二四〇 一一、一七〇	一九、〇〇二 四五七	一九、五三、四三八
〇、二四							



## 第二三 斐伊川改修工事

(大阪土木出張所)

### 緒言

本工事ハ大正十一年度ヨリ同二十二年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシテ總工費六百二十萬圓ヲ以テ起工セシガ大正二十二年度末ニ至リ施行至限ヲ延長シテ昭和十一年度ニ至ル十五箇年度繼續事業ト改メラレ島根縣簸川郡出西村岩樋以下宍道湖(定川吐口)ニ至ル一五籽六及下流大橋川即チ松江市白瀉魚町ヨリ中海ニ至ル七籽七ノ改修工事ヲ施行スルモノナリ

### 河狀竝計畫大要

斐伊川ハ山陰屈指ノ大河ニシテ源ヲ鳥取、島根兩縣界ニ聳ユル船通山ノ鳥上瀧ニ發シ島根縣下ヲ貫流ス上流ヲ横田川ト稱シ西流シテ仁多郡横田村ニ至リ左支下横田川ヲ容レ尙西流シテ同郡三成村ニ於テ左方ニ大馬木川ヲ合セ同郡溫泉村ニ至リ左支阿井川ヲ入レ飯石郡田井村ニ於テ左支深野川ヲ納レ方向ヲ變ジ北流シテ大原郡木次町ニ於テ久野川ヲ右方ヨリ容レ三刀屋村ニ至リ更ニ大支三刀屋川ヲ左方ヨリ併セ稍々西ニ轉ジ簸川郡出西村ニ至リ左支赤川ヲ入レ西流スルコト七籽八、急ニ方向ヲ變ジテ北ニ向ヒ始メテ簸川平野ニ出デ直ニ新川ト稱スル派川ヲ右方ニ分派シ同郡伊波野村ヲ經テ東北ニ轉ジ同郡出東村ニ至リ定川ヲ左方ニ派シ東ニ向ヒ更ニ二十間川、北二十間川等ヲ分派シ次デ宍道湖ニ注グ支派川ノ數七十五、流路延長五百七十五籽八ナリ

宍道湖ハ面積八十三平方糎ヲ有スル淡水湖ニシテ略長方形ヲ爲シ東西ニ長ク其長約十六糎三、幅約六糎、周圍約四十七糎ニシテ湖岸ハ出入極メテ少シ斐伊川ハ西端ヨリ注ギ其他數多ノ少流ヲ併ス湖脚ハ東端ニ在リテ三川ニ依リ海ニ排疏ス一ハ佐陀川ニシテ濱佐陀ヨリ分派シ宍道山脈ノ低部ヲ橫斷シ西北ニ流レ惠曇村ニ至リ直ニ日本海ニ注グ流路八糎三、往昔人工ヲ加ヘ開鑿セシモノナリト云フ二ハ大橋川ニシテ松江市ヨリ分派シ市中ヲ貫キ東流スルコト七糎七、馬瀉ニ至リ中海ニ注グ三八天神川ニシテ人工河川タリ同ク松江市ヨリ分レ東流四糎一、津田村ニ至リ大橋川ニ合流ス湖ノ東端ニハ松江市アリ其他沿湖ニハ小都邑乏シカラズ又多少ノ田園ヲ存ス

斐伊川ノ流域ハ島根縣下仁多、飯石、大原、簸川ノ四郡ニ跨リ面積一千六十六平方糎餘ニ達ス域内ハ流未簸川平野ヲ除ケバ一般ニ山岳ニ富ミ幾多ノ巒嶽起伏セリ簸川平野ハ東方ノ宍道湖、松江平野竝ニ中海ト共ニ日本海ノ一部タリシニ主トシテ斐伊川ノ流送セシ土砂堆積シテ水面上ニ顯ハレタルモノニシテ面積約百五十四平方糎、現今ニ於テモ尙増大シツ、アリ土地肥沃ニシテ山陰ニ於ケル最大農產地タリ

宍道湖及大橋川等ノ流域ハ松江市竝ニ簸川、八束兩郡ニ跨リ南ハ斐伊流域ヲ劃スル山地、北ハ宍道山脈ニ境シ西ハ簸川平野ニ東ハ中海ニ依リ限ラル面積ハ斐伊川流域ヲ除キ約四百五十六平方糎、湖ノ面積ヲ含ムアリ松江市附近ハ小平野ヲ爲シ土地豐沃產業亦發達セリ

流域内山地ノ狀況ハ概シテ良好ニシテ山林濫伐ノ爲メ著シク荒廢ニ歸セル處ナキガ如シト雖モ唯到ル處砂鐵ヲ産スルヲ以テ古來山地ヲ崩壞シ其採取ノ事業ヲ經營スルモノ多數ニシテ主トシテ土砂流出ノ原因ヲ爲セリ

灌溉面積ハ斐伊川ニ在リテハ約八十六平方糎、宍道湖及大橋川等ニテハ約二十五平方糎、合計百一十一平方

料ニ達セリ

斐伊川ハ古來屢次水害アリ往古流末ハ現今ノ川跡村附近ヨリ西流シテ日本海ニ注ギシガ寛永年間ノ洪水ニテ東流宍道湖ニ注流スルニ至レリト云フ爾來出水毎ニ屢其位置ヲ變ジ或ハ人爲ニ依リ派川ヲ改鑿スル等幾多ノ變遷ヲ經テ以テ現今ノ河道ヲ形成スルニ至レリ即チ右派新川ハ水害ヲ免レンガ爲メニ天保年間ニ於テ新鑿セシモノニ係リ左派定川モ其後更ニ開鑿セシモノニシテ佐陀、天神二川ノ如キモ亦湖ノ水害ヲ輕減セシガ爲メ人工ニ依リ開鑿セシモノニ係ル維新以後ニ至リテハ被害特ニ著大ニシテ人畜ノ溺死、家屋ノ流失、破壞、耕地ノ荒廢、生産ノ損耗等舉ゲテ算フベカラズ之ガ復舊ニ要スル經費モ亦莫大ナリトス明治二十六年ノ洪水ノ如キハ特ニ其最モ甚シキモノナリ今水害ヲ受クベキ區域ヲ舉グレバ斐伊川本川ニ在リテハ其面積百十五平方料、宍道湖以下ニ於テ約六平方料、合計百二十一平方料ニ達ス内出西村以下改修區域ニ屬スルモノハ凡テ百二平方料ナリ斐伊川ハ上流ニ於テ多少ノ水害ナキニ非ズト雖モ其被害甚大ナルハ下流地方ナルヲ以テ改修ハ出西村以下即チ簸川平野ニ屬スル部分ニ止メ計畫流量ハ三千六百立方米トシ定川分派口ニ至ルマデハ單ニ舊堤ニ嵩置ヲ施スニ止ム然レドモ兩堤間ノ狀況甚ダ不規則ニシテ且河積不足ナルヲ以テ若干ノ掘鑿ヲ施シ之ヲ整正シ以テ前記流量ヲ安全ニ疏通スルニ足ラシム定川分派口以下ハ本川ヲ捨テ定川ヲ擴築シ必要ナル河積ヲ與フルモノトス

堤防ハ舊堤擴築竝ニ新堤共凡テ天端ヲ計畫洪水位以上一米五ノ高ニ在ラシメ馬踏幅七米五、兩法二割ノ勾配ヲ與ヘ凡テ芝ヲ附シ必要ナル箇所ニ石張其他護岸ヲ設クルモノトス

新川ヲ締切リ廢川ト爲シ締切點ニハ新ニ樋門ヲ設ケ用水ヲ分派セシム更ニ宍道湖ニ貯溜スル水ヲ迅速ニ排疏セシメンガ爲メ大橋川ヲ擴張シ兼テ舟運ノ便ヲ計ラントス即チ現在河幅ノ狹隘ナル處ハ之ヲ擴

張シテ七十二米トシ夫ヨリ廣キ處ハ河中ニ於テ幅七十二米ノ部分ヲ浚深シ兩法ニハ適當ノ勾配ヲ附シ尙崩壞ノ虞アル箇所ニハ護岸ヲ施スモノトス

## 施工狀況

本改修工事ハ大正十一年度ノ創業ニシテ同年度及十二年度ハ實施測量ニ著手シ十三年度ハ專ラ計算製圖等ノ整理ヲ爲シタルト共ニ船舶機械ノ整備ヲ爲シ大正十三年十一月ヨリ大橋川筋ノ浚深ヲ開始シ前年度迄ニ十五萬五千三十四立方米ヲ浚深シ此工費四萬四千四百三十三圓ヲ要シタリ

本年度施行ノ浚深工事ハ大橋川筋松江市及八束郡津田村竹矢村地先ニシテ一千二百立方米掘鋤鏈式浚深船二隻同電動唧筒式浚深船一隻曳船三隻六十立方米積土運船五隻三十六立方米積土運船五隻二十噸積工業船十隻ヲ使用シ年度内ニ二十七萬三千八百七十八立方米ヲ浚深シ工費四萬七千七百四十五圓ヲ支出セリ

前年度ニ於テ當改修事務所構内ニ德島機械工場ノ鍛冶、仕上、機關場及倉庫ノ四棟ヲ移築セルヲ以テ大正十五年四月一日松江機械工場ヲ開設シ斐伊川改修工事及境港修築工事ニ使用スル機械器具ノ製作及修理ヲ爲セリ

大正十五年六月一日土地收用事務所ヲ松江市新材木町ニ置キ大橋川筋用地買收調査ニ著手シ八束郡川津村朝酌村及津田村地内十九町步餘ノ買收ヲ了シ昭和二年一月十日更ニ事務所ヲ簸川郡平田町ニ移轉シ斐伊川筋ノ調査ヲ開始セリ

斐伊川改修工事ノ本年度内ニ於ケル竣功高ハ三十九萬四千五百十五圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計

七十五萬六千二百三十三圓ナリ之ヲ總工費豫算六百二十萬圓ニ比スレバ一割二分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「〇」ハ無代價品見積價額ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費	立方米 一五五、〇三四	四四、四三三 円	立方米 二七三、八七八	四七、七四五 円	立方米 四二八、九一二	九三、一七八 円	〇・〇三
用地費			段 一九二	八五、九一五	段 一九二	八五、九一五	〇・〇六
船舶及機械費		二二三、一六七		二〇九、九四七		四三三、一一四	
雜費		九四、一一八		五〇、九〇八		一四五、〇二六	
總計		三六一、七二八 二二一		三九四、五一五 一一五		七五六、二三三 二二三	〇・一一

## 第二四 信濃川上流改修工事

(新潟土木出張所)

### 緒言

本川ハ昔時航路改善洪水防禦ノ目的ヲ以テ新潟縣長岡市以下ノ河身ノ改修ヲ實施セラレ明治三十八年度ニ其工ヲ終了シタルモ尙治水ノ必要ヲ認メ同市下流約十六村ノ地點タル大河津村ヨリ新水路ヲ開鑿スルコト、ナリ又上流長野縣下ニ於テハ千曲川及犀川ノ水患ヲ除却セシムル目的ヲ以テ是亦其方策ヲ定メタリ即チ前者ハ明治四十年年度ニ起工シ今後一箇年ニシテ將ニ工ヲ竣ヘントシ後者ハ大正七年度ヨリ着手シ目下施工中ナリ此ノ如ク本川上下兩流ノ治水策茲ニ完キヲ得首尾ハ既ニ決セリ然ルニ中流タル中越平野ノミ之ヲ等閑ニ附センカ本地區一帶ニ互ル年々多大ノ水災ハ元ヨリ之ヲ救フニ由ナキノミナラズ其右岸ノ汎濫ハ下流改修ノ區域ニ波及シ因テ大河津分水工事ノ效果ヲ減殺スルノ虞尠シトセズ茲ニ於テカ本改修工事ノ急施ヲ促進シ大正十二年度ヨリ昭和六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算額六百六十萬圓(内新潟縣負擔額二百三十四萬九千圓ヲ含ム)ヲ以テ起工セシガ大正十二年九月一日關東震災突發ノ爲メ四箇年度ノ繰延トナリ昭和十年年度ニ竣功セシムル豫定トナレリ即チ左岸三島郡片貝村右岸古志郡六日市村ヨリ下流南蒲原郡中ノ島村地内信濃川締切堤防ニ至ル約三十一村ノ間ニ對シ河身ノ改善ヲ施シ洪水ノ被害ヲ一掃スルモノナリ

### 河狀並計畫大要

本川ハ源ヲ甲武信ヶ嶽ニ發シ流域ハ長野、群馬、新潟ノ三縣五市二十四郡ニ跨リ總面積一萬二千二百六十二平方糎、流路延長三百六十九糎、航路延長六百九十九糎、灌漑面積七萬六千二百二十一ヘクタールヲ有シ越後平野ヲ貫流ス其灌漑ノ利大ナリト雖モ水害モ亦劇甚ナリトス

今本改修區域内ニ於ケル河狀竝ニ被害ヲ述ブレバ本川ノ洪水ハ春季融雪ト夏秋ノ候颱風ニ伴フ暴雨トニ起因スルモノニシテ上流長野縣下ニ於テ一日ノ降雨量七十糎以上ニ達セバ警戒スベキ洪水ヲ醸生スルコト多シ其水災ノ最甚シキ部分ハ山間部ヲ出デタル古志郡六日市村妙見以下約三十一糎ノ間ニシテ地勢平坦東ハ遠ク下越平野ニ連リ産業ノ發展地タリ然ルニ兩岸ハ構造薄弱ナル堤防ニ抱擁セラレ、ノミナラズ斷續屈曲シ河狀亦著シク惡化シ其幅員一定セズ廣キハ一千六百三十六米、狹キハ五百四十五米ヲ示シ恰モ瓢ノ連結セルガ如ク所々ニ砂礫又ハ芝生ノ附洲介在シ甚シキニ至リテハ長約二千二百米、幅五百五十米ニ互ル一大島地ヲ現出シ中ニ數多ノ人家及田畑ヲ有スル等流水ハ常ニ阻害セラレ亂流ス故ニ一旦出水ノ際ハ兩岸ヲ破壞シ中越平野ヲ泥海ト變ジ交通ヲ杜絶シ人畜ヲ害スルコト甚シク其水害區域一萬八千五百九ヘクタールニ及ベリ今其水害損失價額ヲ見ルニ明治四十一年ヨリ大正六年ニ至ル十箇年間ノ平均年額ハ四十三萬六千二百六圓ニシテ内最大ハ大正三年ノ百五十四萬七千圓ナリトス本計畫ハ妙見以下大河津締切堤防ニ至ル間ノ水災ヲ絶ツヲ目的トシ最大流量ヲ每秒五千五百六十五立方米ト定メ之ヲ疏通セシムルニ足ル流積ヲ有セシム而シテ現在ノ河幅ハ前陳ノ通り廣狹不規則亂雜ナルヲ以テ全川ヲ通ジ八百十八米トシ地形ニ應ジ最少六百十八米、最大一千二百十八米ニ整理シ無堤部ニハ堤防ヲ新設シ有堤部ハ成ルベク舊堤ヲ利用シ其構造薄弱ナル箇所ハ増築シ堤内ノ安全ヲ計ルト共ニ流積不足ノ部分ニハ掘鑿浚渫ヲ施シ以テ洪水ノ疏通ヲ謀リ逆流ノ甚シキ支川及惡水路ニハ水門ヲ設ケ

逆水ヲ防止スル等水害ノ因ヲ一掃セシムルニ在リ  
築堤工事ハ全川ニ互リ馬踏七米二、表裏共二割法トシ其高ハ計畫高水位以上一米五ノ餘裕ヲ與ヘ成ルベ  
ク舊堤ヲ利用シ河幅或ハ屈曲ノ關係上舊堤ニ依ルヲ得ザル箇所ハ河狀ニ應ジ適當ノ位置ニ新設ス長岡  
市附近ニ合流スル大田、澁海兩川ノ落口ハ新堤ヲ瀨割堤ト爲シ新落口ヨリ上流舊落口ニ至ル間各一千九  
十一米ノ舊堤ハ嵩置工事ヲ施行スルコトトセリ築堤ニ要スル總土量ハ三百四十二萬五千九百九十五立  
方米ニシテ内八十四萬一千四百七十三立方米ハ掘鑿土ヲ利用シ其他ハ附近ヨリ採土スルモノトス  
掘鑿工事ハ左岸脇川新田ヨリ金ヶ崎間、右岸長呂ヨリ中條間ニ於テ平均低水位上零米九ノ面迄施工ス此  
外全川ヲ通ジ新堤外部ノ舊堤取拂ヲ爲スモノニシテ總土量二百二十二萬三千八百九十二立方米ニ達ス  
浚渫工事ハ下流大河津分水路ニ接續セル區域ニシテ底幅百八十二米乃至八十二米、深平均低水面下一米  
八ニ施工ス其土量百四十四萬二千五百二十四立方米ナリ  
護岸及水制工事中護岸ハ主トシテ長岡ヨリ上流兩岸堤防及下流沿岸ニシテ流衝ニ面セル箇所竝ニ堤脚  
ノ平水ニ落ツル部分ニ對シ表法高水面以下ヲ石張トシ低水ニ接スル箇所ハ沈床工ヲ又水制工ニ在リテ  
ハ流心ノ匡正ヲ要スル部分ニ石張沈床工ヲ何レモ施行スルモノトス  
水門工事ハ新川外二三ノ惡水路ニ設置シ何レモ逆水止門扉トセリ  
附帶工事ハ長生橋、與板橋ノ改築竝ニ延長、黒川外二箇川ノ改修用惡水路ノ樋管伏替又ハ水路付替等ニシ  
テ樋管伏替八十五箇所ノ多キニ及ブヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス

## 施工狀況



本工事ハ大正十二年度ノ創業ニシテ土地買收ノ進捗ニ從ヒ右岸與板橋詰中之島村ニ工場ヲ建テ前年度ヨリ掘鑿ニ從事セシガ本年度ハ更ニ左岸與板橋詰與板町ニ工場ヲ設置シ左岸古志郡下川西村ニ短梯掘鑿機二十噸機關車各一臺ヲ使用シ銳意工事ノ進展ヲ圖レリ然ルニ同地方ハ夏季恙蟲ノ發生地ナルヲ以テ之レガ豫防ニ努メタルト近年稀ナル水害ニ因リ失業者多キ爲メ前年度ヨリ出役者ノ數ヲ増シ豫期ノ功程ヲ舉ゲ得タリ其施工ノ概要ヲ左ニ述ベン

掘鑿工事ハ右岸ニ在テハ前年度ト同様人力ニ依リ切取リヲ爲シ土砂運搬ニハ「ガンリン」機關車二臺ト人力トヲ用ヒ又左岸ニ在テハ短梯掘鑿機及二十噸機關車各一臺ヲ使用シ何レモ新堤敷或ハ附近ノ低地ニ投棄ス其土量二十四萬三千九百五十五立方米ナリ

築堤工事ハ大正十五年四月ヨリ右岸中之島村地内ニ着手ス其築立ニハ掘鑿土ヲ利用スルモノト堤内堤外ノ兩地ヨリ採土スルモノトノ二種ニシテ運搬ニハ人力ニ依リ輕運車ヲ用ヒ土量二萬三千百立方米餘ノ築立ヲ了セリ

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ本年度モ亦古志郡下川西及三島郡與板、大河津各町村地内ニ於テ段別六十二町二段餘ノ買收ト外ニ物件移轉料一萬七千三百三十三圓餘ノ支出ヲ了セリ

機械工場ハ工事着手後日淺キ爲メ專屬工場ヲ設ケズ本川使用ノ諸機械ノ修理製作ハ信濃川所屬ナル渡部、河口ノ兩機械工場ニ依囑ス

附帶工事ハ黒川外二箇川改修工事ハ前年度ヨリ引續キ右岸中之島村地内猿橋川流末ノ新水路掘鑿工事ヲ實施セシ外大正十五年五月ヨリ左岸與板橋詰ニ一工場ヲ設置シ與板町及大河津村兩地内ニ新設ノ黒川流末竝ニ黒川本川各水路ノ掘鑿ニ着手ス前者ハ人力、後者ハ「ドラグライン」掘鑿機一臺ヲ使用シ銳意工

事ノ進捗ニ努メシ結果本年度内ニ三者ヲ通ジ土量十一萬二千七百七十九立方米餘ヲ掘鑿シ何レモ新堤敷又ハ附近ノ低地ニ運搬投棄セリ  
 本年度ニ於ケル竣功額ハ五十六萬四千二百八十三圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計七十四萬二千四百二十三圓ナリ之レヲ總工費六百六十萬圓ニ比スレバ一割一分ノ竣功ナリトス其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「○」ハ縣負擔額ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工(掘鑿)	11,001	5,031	243,955	90,732	254,956	95,763	0.21
工事(築堤)				12,529		12,529	
用地費		56,476		312,315		368,791	
附帶工事費		97,367		1,795		1,835	
船舶及機械費		59,832		276,797		374,164	
雜費		56,761		95,039		151,801	
總計		178,240		564,283		742,423	
		97,367		276,797		374,164	

## 第二五 筑後川改修工事

(下關土木出張所)

### 緒言

本工事ハ工費一千百三十二萬圓(内福岡縣及佐賀縣負擔三百九十六萬圓)ヲ以テ最初大正十二年度以降十二箇年度ノ繼續事業トシテ施行ノ計畫ナリシモ其後事業線延ノ爲メ竣功期ヲ昭和十二年度迄延長施行スルコト、ナレリ其區域ハ幹川福岡縣浮羽郡千年村以下河口ニ至ル六十一籽九其他支川小石原川佐田川派川早津江川諸富川等ヲ加ヘ合計七十六籽餘トス

### 河狀並計畫大要

筑後川ハ九州第一ノ大河ニシテ源ヲ熊本縣ノ東北部ニ發シ大分、福岡、佐賀ノ三縣内ヲ貫流シテ有明海ニ注グ流路延長百三十八籽其流域ハ前記四縣ニ跨リ全面積二千八百六十平方籽ヲ有ス本川下流福岡縣及佐賀縣ニ屬スル部分ハ沿岸肥沃ナル田園相連リ所謂筑紫平野ノ米產地ニシテ其灌溉ハ一ニ本川ニ依リ總面積實ニ四萬五千ヘクタールト稱ス加フルニ舟楫ノ便亦宜シク古來其惠澤ニ浴スルコト多大ナルモノアルモ一方ニ於テ洪水ノ害ヲ被ルコトモ亦甚シク全流域水害面積ハ三萬二千ヘクタール餘ニシテ年々出水毎ニ受クル損害莫大ナルモノアリ本年ハ曩ニ明治十六年度ニ政府ニ於テ河口ヨリ大分縣隈町ニ至ル間ノ改修工事ヲ企圖シ工費約百二十萬圓ヲ投ジ三十一年度其工ヲ竣ヘタリ然レドモ該工事ノ目的ハ主トシテ低水路改良ニ在リ高水防禦工事ノ如キハ全然地方ノ經濟ニ委シ其負擔ニ耐フル範圍内ニテ

施行セルニ過ギザルヲ以テ金島、小森野、天建寺、坂口ノ四放水路開鑿セラレタリト雖モ未ダ充分ナル效果ヲ擧グルニ足ラズ而モ工事中途ニシテ明治二十二年ノ大洪水ニ際會シ激甚ナル損害ヲ蒙ルニ及ビ第一次高水工事ノ機運ヲ齎シ遂ニ同二十九年年度其工ヲ起シ八箇年度ノ歲月ト百四十餘萬圓ノ財ヲ費シ三十六年度其工成ルニ及ンデ稍々被害ノ程度ヲ輕減スルヲ得タリ然ルニ本工事モ財政上其他ノ理由ニ依リ局部的ノ工事ニ止マリシヲ以テ再ビ大正十年ノ非常洪水ヲ來シ其慘害ノ程度ハ明治二十二年ニ讓ラズ茲ニ第二次改修トシテ本工事ノ計畫ヲ見ルニ至レリ

本計畫ハ主トシテ高水防禦ヲ目的トスルモノニシテ第一次改修ヲ補足シ全川ヲ通ジ一貫シタル工事ヲ爲スニ在リ改修ノ方法トシテハ河狀ヲ正シ或ハ掘鑿ヲ施シ現在ノ不規則ナル堤防ヲ改築若クハ増築シ必要ノ箇所ニハ堤防ヲ新設シテ汎濫ヲ防ギ河積ヲ擴張シテ洪水ノ疏通ヲ計リ細支流ニシテ逆流ノ害アルモノハ水門ヲ設ケテ其浸入ヲ防止ス又金島以下放水路ハ之ヲ本流ニ開鑿シ洪水ノ疏通ヲ圖リ下流感潮區域ニシテ出水ノ影響少キ部分ニ於テモ必要ニ應ジ堤防ヲ一層強固ニシ其安全ヲ期シ兼ネテ高潮ノ脅威ニ備ヘシム尙諸富港及若津港ヨリ下流河底ニ沈積セル土砂ハ適宜之ヲ浚渫シ河積ノ増大竝ニ航路ノ改良ニ資セムトス

計畫高水量ハ幹川筋每秒五千立方米トシ派川早津江川ハ其内一千七百立方米、同諸富川ハ同二千五百立方米ヲ分流スルモノトス又計畫河幅ハ幹川筋二百五十米乃至九百五十米、早津江川二百米乃至七百五十米、諸富川ハ二百米乃至二百三十米トス堤防ノ標準斷面ハ馬踏七米、兩法二割、高ハ計畫洪水位上一米五トシ支川、派川等ハ之レニ準ジ尙實地ノ狀況ニ應ジ其大キサヲ定ム

## 施工狀況

本工事ハ大正十二度創業ト共ニ直ニ準備及測量ニ從事シ翌年度ニ入り工事ニ着手シ又土地買收ヲモ始メ以後漸次區域ヲ擴張シ工事ノ進捗ヲ計レリ本年度施行區域ハ前年度ニ引續キ中流久留米市小森野放水路以下坂口放水路ニ至ル約十料ノ間ニシテ前年度ヨリ繼續セル八箇所及本年度新ニ着手セシ四箇所、計十二箇所ノ兩岸高水敷掘鑿及築堤工事ヲ實施シ内築堤二箇所、掘鑿一箇所ヲ竣功セリ又特種工事トシテハ水門一箇所ヲ起工シ外ニ直接施行ノ附帶用水樋管繼足工事ハ前年度着手ノモノト本年度着手ノモノト計二箇所ヲ竣功セリ掘鑿ハ武島機械掘鑿ニ於テ二百瓩掘梯形掘鑿機及二十瓩機關車ヲ用ヒ其他人力ニ依リ運搬ニハ馬力ヲ主トシ長距離ニ三臺ノガソリン機關車ヲ利用セリ土砂ハ一部分ヲ築堤土ニ充用シ大部分ハ附近民地等ニ捨土シ土量七十六萬七千二百八十二立米ヲ竣功セリ又築堤ハ總テ掘鑿土ヲ利用シ土量二十萬七千九百六十九立米ノ築立ヲ爲セリ

土地買收ハ本年度十一月第三次トシテ更ニ左岸天建寺、右岸下田以下徳富間及大中島ノ用地買收協議ヲ爲シ本年度中買收段別二十六町五段二畝此價額二十萬一千二百二十六圓、地上物件移轉料七萬四千八百五十一圓其他六千九百二十九圓ヲ支出セリ

本年度竣功高ハ六十三萬三千三百六十三圓(事務費及現在物品代價ヲ除ク)起工以來本年度迄ノ累計ハ百四十六萬五千九百一圓(事務費及現在物品代價ヲ除ク)ヲ算シ工費總豫算一千百三十二萬圓ニ對シ一割三分弱ノ竣功ナリ其工事竣功ハ左表ノ如シ但シ表中、ハ提供材料勞力及評價品價額ナリトス

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿	八五一、一四〇 <small>立方米</small>	一六六、二七五 <small>円</small>	七六七、二八二 <small>立方米</small>	一三〇、六五〇 <small>円</small>	一、六一八、四二二 <small>立方米</small>	二八六、九二四 <small>円</small>	〇・一四
築堤	一八七、九三〇	一七、〇七七	二〇七、九六九	一六、三一八	三九五、八九九	三三、三九五	〇・〇五
工事費							
水門新設							
用地費		三〇四、六一四		二八二、九〇七		五八七、五二一	
附帶工事費		六六〇		三、八二八		四、四八八	
船舶及機械費		二六二、二九九		一、五九四		二、二四六	
測量費		一九、二五二		一三七、七四六		四〇〇、〇四五	
營業費		五、九四八		一、八〇六		二一、〇五八	
雜費		五四、九七三		一、七五二		七七、七〇七	
共濟組合給與金		一、四四〇		三三、四七八		八八、四五二	
總計		八三二、五三八 五五、九〇七		六三三、三六三 六一、七九二		一、四六五、九〇一 一一七、六九九	〇・一三

## 第二一六 天龍川改修工事

(名古屋土木出張所)

### 緒言

本川ハ曩ニ主トシテ水害除去ノ目的ヲ以テ政府ニ於テ明治十五年測量調査ヲ創メ次デ改修ノ計畫ヲ立テ静岡縣磐田郡二俣町以下ノ河幅ヲ整理シテ新堤ヲ築キ舊堤ヲ増築シ其他護岸水制床固等ノ施設ヲ爲ス爲メ同十八年度ヨリ地方ト協同シテ工費六十六萬圓ヲ以テ工事ニ着手シ兼テ二俣町上流時又ニ至ル迄山間狹窄部ニ於ケル危岩暗礁ヲ破碎シテ幾分舟航ニ便シタリシガ明治三十三年度ニ至リテ一先ヅ竣功シ河狀ハ矯正セラレテ流路稍安定シ地方廳ハ爾來其維持ヲ爲スト共ニ漸次新工事ヲ施シツ、現今ニ至レリ然ルニ東海道鐵道橋下流ハ依然トシテ荒廢憂懼ノ狀態ニ在リ其上流ト雖モ堤防ノ鞏固ヲ誇ルニ足ラズ尙治水ノ要アルヲ以テ大正十二年度ヨリ昭和七年度迄十箇年度繼續事業トシテ工費六百六十萬圓(内静岡縣負擔額二百二十九萬九千圓)ヲ以テ更ニ改修セントスルモノニシテ關東大震火災ノ影響ニ依リ事業年度ヲ四箇年度即チ昭和十一年度迄繰延ラレ次デ行財政整理ノ爲メ大正十四年度以降年度割額變更セラル、ニ至レリ而シテ上流長野縣管内ニ於テモ相當ノ水害ナキニ非ラザレバ早晚改修ノ必要ナルハ之ヲ認ムル處ナルモ先ヅ以テ急務トスル下流静岡縣ニ屬スル部分二俣町以下海ニ至ル二十八軒間ヲ施工スルモノトス

### 河狀並計畫大要

天龍川ハ源ヲ諏訪湖ニ發シ長野縣ヲ經テ愛知、靜岡兩縣ノ界ヲ流レ遂ニ靜岡縣ニ入り遠州灘ニ注グ幹川  
流路長二百十六軒ニシテ其流域面積ハ四千八百八十平方軒ナリ灌溉面積ハ全流域ニ在リテハ一萬七千  
八百二十ヘクタールニシテ改修區域ニ屬スルモノ三千二百十六ヘクタールナリ  
上流部ニ在リテハ沿川ニ廣大ナル平地アレドモ中流ハ全ク山間部ニシテ耕地田園ノ開クルモノナク靜  
岡縣二俣町ニ至リテ更ニ廣濶ナル平野ニ出ヅ此平野ハ田園開ケ農桑ノ業盛ナリ加之濱松市ヲ始メ數多  
ノ名邑アリ東海道鐵道竝ニ國道此附近ヲ通過シ交通ノ便備ハリ商工業亦發達セリ  
本川ハ古來屢々水害アリ最近ニ於テハ明治四十四年ノ洪水ヲ以テ最モ甚シトス當時河水暴漲シ堤防ノ  
缺壞セルモノ數箇所ニ達シ家屋ノ流失若クハ損壞セルモノ又田園ノ荒廢ニ歸セルモノ多ク浸水區域數  
千ヘクタールニ及ビタリ而シテ水害ヲ受クベキ區域ハ靜岡縣下ノミニテ總計一萬一千八百四十二ヘク  
タールニシテ其殆ンド全部ハ改修區域ニ屬ス以テ利害關係區域ノ廣大ナルヲ見ルベキナリ  
計畫流量ハ萬延元年以來ノ洪水ト稱セラル、明治四十四年ノモノヲ目標トシ其後流量實測ノ結果ニ依  
リ雨量等ヲ參酌シテ當時ノ最大流量ヲ推定スルニ每秒一萬一千百三十立方米ヲ得タリ依テ改修計畫ニ  
於テハ此流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ以テ目途トシ計畫高水位モ亦局部ヲ除キテハ大體ニ於テ當時ノ  
最大高水位ヲ超過セシメザルヲ程度トセリ東海道鐵道橋ヨリ上流ハ前年度改修工事ノ際河幅ヲ整理セ  
ルヲ以テ大體ニ於テ相當ノ幅員ヲ有スルガ故ニ河幅ノ擴張ヲ要セズ單ニ多少ノ掘鑿ニ依リ河積ヲ充足  
シ舊堤ヲ増築スルニ止メ從來ノ霞堤トナレル箇所ハ大體其儘ニ存置シ鐵道橋ヨリ下流ハ現在三派ニ岐  
レ河狀不整河積亦不足ナルヲ以テ改修ニ當リテハ中流ヲ擴張シテ適當ナル河幅ヲ與ヘ舊堤ノ利用シ得  
ルモノハ之ヲ増築シ然ラザル箇所ニハ新堤ヲ築設シ又掘鑿竝ニ浚深ニ依リ洪水疏通ニ必要ナル河積ヲ



有セシメ東西ノ兩派ハ之ヲ締切ルモノトス  
堤防ハ新堤竝ニ舊堤増築共ニ凡テ其天端ヲ計畫高水位以上一米八ノ高ニ在ラシメ馬踏幅九米兩法ニハ  
二割五分ノ勾配ヲ與ヘ堤高ノ大ナル箇所ニハ小段ヲ設ケ尙必要ナル部分ニハ石張其他ノ適當ナル護岸  
ヲ施スモノトス  
従前施工セル水制ハ成ルベク之ヲ利用シ尙必要ナル地點ニハ之ヲ新設セントス

## 施工狀況

本工事ハ大正十二年ノ創業ニシテ同十四年度中ニ實施測量ニ着手シ同年度ニ下流部ノ大體ヲ終了シ目  
下諸種ノ準備中ニテ未ダ工事施行ノ運ビニ至ラズ

用地買収ニ關シテハ前年度中ニ於テ諸般ノ準備其他稅務署ノ土地臺帳及地籍圖ノ騰寫竝ニ戶籍調査ヲ  
爲シ尙地上物件豫備調査竝ニ物價調査等ヲ爲シツ、年度ヲ經過セルガ本年度ニ入ルヤ先ヅ土地實地調  
査ヲ行ヒ分筆竝ニ地押調査ヲ爲シ續テ地上物件調査ニ着手シ大正十五年六月大體ノ外業ヲ了シタリ此  
間登記簿竝ニ土地賣買登記調査ヲ行ヒ次デ收益調査ヲ爲スト同時ニ地上物件ニ在リテハ數量ノ確定ヲ  
俟チテ物件調書ノ作製ニ續テ標準物件ノ査定ヲ爲シタリ土地物件共ニ事務進捗萬般ノ準備整頓シタリ  
シカバ十二月一日ヲ期シ協議發表ヲ爲セシガ直チニ關係村民等ハ集會ヲ爲シ協議額ニ就キ鳩首協議ヲ  
凝シ價額低廉ニシテ到底承諾シ難シトテ種々陳情セルモ遂ニ十二月八日ヲ期シ一人ノ異議ヲ唱フルモ  
ノモ無ク一齊ニ契約ヲ爲スニ至レリ

本年度天龍川改修工事ノ竣功額ハ四十一萬四千百六圓ニシテ起工以來本年度迄累計竣功額ハ四十四萬

七千二百九十五圓ナリ之ヲ總工費六百六十萬圓ニ對比スレバ約零割七分弱トナル其竣功表左ノ如シ

種別	前年度迄竣功額		本年度竣功額		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
用地費							
船舶及機械費		一九、八〇二		二八、六三六		四八、四三八	
測量費		一、〇六八		二四一		一、三〇九	
營繕費		一、四九六				一、四九六	
雜費		一〇、六八二		一四、七七九		二五、四六一	
共濟組合給與金		一四一		三〇七		四四八	
總計		三三、一八九		四一四、一〇六		四四七、二九五	〇・〇七

## 第二七 千代川改修工事

(大阪土木出張所)

### 緒言

本改修工事ハ大正十二年度ヨリ昭和十一年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ總工費豫算五百六十六萬圓ヲ以テ施工スルモノナリ而シテ其區域ハ幹川筋鳥取縣八頭郡河原村以下海ニ至ル約十七糎支川袋川筋岩美郡宇倍野村下流本川合流點ニ至ル約七糎二及野坂川筋約一糎五、砂見川筋零糎九、合計二十六糎六ノ間ニ施工スルモノトス

### 河狀並計畫大要

千代川ハ源ヲ鳥取縣八頭郡山郷村大字駒歸宿字沖ノ山ニ發シ大體北流シ左支新見、佐治、曳田、砂見、野坂、湖山ノ六川及右支智頭、八東、袋ノ三川ヲ合シ氣高郡賀露村ニ於テ日本海ニ注グ其流域ハ鳥取、岩美、氣高、八頭ノ一市三郡ニ跨リ其水面積一千八十平方糎餘、幹川流路延長五十三糎、灌漑七十平方糎、水害區域八十平方糎餘ヲ算シ沿川ニハ縣ノ首都タル鳥取市ヲ有シ其河口ニ當ル賀露港ハ漁港トシテ又避難港トシテ將又支川袋川ヲ經テ鳥取市ニ物資ヲ供給スル關門トシテ重要視セララル流域内ニ於ケル都區ハ古來本川ニ依リ水運ノ便、灌漑ノ利等惠澤ニ浴スルコト尠カラズト雖モ一面比年生ズル洪水ノ慘害ニ苦シメラル、コト亦莫大ナリ乏シキ舊記ヲ搜リ僅ニ知り得タル所ノミヲ以テスルモ天文年間以降約三百八十有餘年間ニ大洪水ト認ムベキモノ實ニ四十六回ヲ數フ就中大正七年九月ノ洪水ノ如キハ沿川ノ平野ハ悉ク水底

没シ鳥取全市ヲ舉テ一米五乃至四米餘ノ冠水數日ニ互リ一望大海ノ觀ヲ呈シ其汎濫面積約八十平方軒ノ多キニ及ベリ

今現況ヲ見ルニ該川ノ堤防ハ薄弱不規則ニシテ河幅廣狹常ナク河積ノ不足ナル部分隨所ニ介在シ一朝洪水ニ際會セバ破堤ノ厄ヲ蒙ルト同時ニ汎濫度ナク田畑ノ荒廢、財物ノ流失、人畜ノ死傷等其慘害目ヲ掩ハシムルモノ多數ノミナラズ其支流ナル袋川ハ鳥取市内ヲ貫流シ其河積ハ既往洪水ヲ流下スルニ必要ナル河積ノ半ニモ足ラザル部分多キヲ以テ未ダ大洪水ト稱シ得ザル程度ノ出水ニテモ市内ニ溢流シ産業交通ニ累スルコト鮮少ナリトセズ

本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ノ汎濫ヲ防止シ其疏通ヲ良好ナラシメ高水時間ノ短縮ヲ圖リ併テ沿岸一帯惡水ノ排除ヲ容易ナラシメ尙河口ニ於ケル舟揖ノ便ヲ圖ラントスルモノニシテ本川筋河原村(終點)以下八千代橋ニ至ル間ハ大體現狀ニ準據シ在來堤ヲ利用擴築補強シ其甚シク突出シテ河幅狹ク洪水ノ排除ニ支障アル箇所ハ之ヲ退ケ無堤部ニハ相當河幅ヲ定メ新堤ヲ築造シ河積ノ足ラザルハ掘鑿ニ依リ之ヲ補フモノナリ八千代橋以下現在河道ハ稍々北東ニ向ヒ濱坂地先ニ於テ更ニ西北ニ大屈折ヲ爲シ且沿岸ニハ秋里、江津ノ二部落アリ現狀ニ依リ改修セントスル時ハ江津ノ部落ヲ移轉セシメザルヘカラザルノミナラズ現在袋川合流點ニ於ケル高水位ハ之ヲ低下セシムル事能ハズシテ鳥取市ノ排水ニ不利ヲ來スベキヲ以テ八千代橋附近ヨリ北北西ニ向ヒ大體直流スル新河ヲ開鑿シ江津ノ下ニ於テ現在ノ河道ニ合シ河口ニ至ラシム

支川袋川ハ鳥取市内ヲ貫流シ河積足ラザルノミナラズ曲折甚シク現在ニ依リ改修セントセバ工費巨額ニ上ルベキヲ以テ若櫻街道ノ東方ヨリ新河ヲ開鑿シ八千代橋下流ニ於テ現在ノ本流ニ注ギ現在ノ本流

ノ河道ハ單ニ袋川ノ平水流路ニ供セラル、コト、ナルヲ以テ全ク市内ノ汎濫ヲ防止スルヲ得ベシ野坂川ハ本川ト殆ド直角ニ交加シ爲ニ排水ヲ且害セラル、コト甚シキヲ以テ其合流點ヲ八千代橋近迄引下ゲ水位ノ低下、洪水ノ排除ニ便ナラシム砂見川モ亦同一ノ理由ニ依リ其合流點ヲ稍々下流ニ導キ湖山川ニハ本川合流點ニ樋門ヲ設ケ本川逆流ヲ防止セントス

本川ノ計畫高水位ハ大體既往ノ最大洪水タル大正元年九月及同七年九月ノ洪水位ニ準據シタルモノニシテ河狀不正ノ爲メ特ニ水位ノ昇騰ヲ來シタルト認メタル區間ニ對シテハ之ヲ整正シ水位ノ低下ヲ計レリ而シテ計畫高水流量ハ大正九年以降普通洪水ニ對スル實測ヲ重ネ之ニ因リテ得タル結果ト流域内ノ降雨量及附近類似河川ノ高水流量ヲ資料トシテ既往ノ最高水位ニ對スル高水流量ヲ推算スルニ袋川合流點以上ニ於テ每秒三千立方メートル以下ニ於ケルモノ每秒三千三百立方メートル定メ此流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ期セリ而シテ支川袋川ノ流量ハ每秒五百五十立方メートル妥當ナルヲ認メタリ

河幅ハ幹川筋上流河原村附近ニ於テ約二百十メートル以下順次擴大シ八千代橋附近ハ約三百十八米賀露村附近ニ於テ約三百七十メートル保タシム袋川筋ニ在リテハ上流ハ大體現狀ノ儘トシ其新川ニ屬スル部六十四米、下流部若櫻街道附近以下ハ八十五メートルス

堤防ハ幹川筋ヲ馬踏下流部七米五、上流部六米、法ハ表裏共二割五分トシ高距ノ大ナル箇所ハ小段ヲ設ケ其天端ハ計畫高水位以上一米二ヲ保タシム之ニ要スル土砂ハ直接掘鑿セルモノヲ利用セントス法ハ土羽付ヲ爲シ必要ニ應ジ石張ヲ施工シ其他適當ニ護岸ヲ設クルモノナリ支川袋川ノ堤防ハ馬踏五米五、法ハ表裏共二割トシ天端ハ計畫高水位以上零米九トス又之ニ要スル土砂及土羽付ハ前同斷トス

# 施工狀況

本改修工事ハ大正十二年度創業以來專ラ實施測量及諸般ノ調査ヲ爲シ測量トシテハ幹川及支川袋川筋ノ法線杭又ハ敷幅杭ノ變更竝ニ縱橫斷及平面測量ノ一部ヲ施工セリ一方土地收用ハ前年度ヨリ引續キ鳥取縣氣高郡賀露村ヨリ同千代水村ニ互ル新川開鑿區域内ノ買收ヲ行ヒ殆ンド全部ヲ了スルト共ニ銳意土工器具機械ノ内手入ヲ要スルモノハ夫々修理ヲ施シ傍ラ機關車及掘鑿機等ノ組立ヲ爲シ大正十五年七月十六日鳥取縣氣高郡千代水村大字江津及晚稻地内ニ第一機械掘鑿工事ニ着手シ運搬ハ三立方米積土運車ヲ使用次デ十二月十六日同郡同村地内ニ第二機械掘鑿工事ヲ開始シ此土運搬ハ米國製三立方米八碼積ダンブカーヲ使用シ一意工事ノ進捗ヲ計レリ本年度内ノ工程ハ掘鑿運搬土量十萬五千九百八十二立方米餘ニシテ工事費ハ三萬六千七百四圓餘ヲ費セリ而シテ本年度ノ竣功高ハ四十七萬八千二百九十九圓起工以來ノ累計ハ七十七萬五千二百八十二圓ニシテ之ヲ總工費豫算五百六十六萬圓ニ比スレバ一割四分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費(掘鑿)			立方米 一〇五、九八二	三六、七〇四	立方米 一〇五、九八二	三六、七〇四	〇・〇三
用地費	段 三〇四・八一八	二〇三、三三三	段 四〇四・九〇七	二六三、八九三	段 七〇九・七二五	四六七、二二五	〇・三六
船舶及機械費		二七、三七七		一三一、三五六		一五八、七三三	
雜費		六六、二七四		四六、三四六		一一二、六二〇	
總計		二九六、九八三		四七八、二九九		七七五、二八二	〇・二二

## 第二八 蘆田川改修工事

(下關土木出張所)

### 緒言

本工事ハ工費五百六十六萬圓(内廣島縣負擔百九十八萬九千圓)ヲ以テ大正十二年度以降十箇年度ノ繼續事業トシテ施工ノ計畫ナリシモ大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ竣功期ヲ昭和十一年度迄延長施行スルコト、ナレリ其區域ハ幹川筋廣島縣蘆品郡府中町以下海ニ至ル二十七軒五、左支高屋川筋深安郡湯田村以下幹川合流口ニ至ル六軒五及右支瀬戸川筋ノ幹線合流口附近ナリトス

### 河狀並計畫大要

蘆田川ハ廣島、岡山ノ兩縣下一市八郡ニ互リ(主トシテ廣島縣源ヲ廣島縣世羅郡神田村甲山ニ發シ漸次溪流ヲ收メ蘆品郡川邊村ニ至ル右支御調川ノ合流スルヤ流量頓ニ倍加ス流路ハ之ヨリ漸ク峽谷ヲ脱シ府中町ヲ過グルヤ地勢全ク展開シテ廣濶ナル備後平野ニ出デ神谷川、有地川、其他ノ小支流ヲ合セ東流シテ深安郡中津原村ニ至リ急ニ百三十餘度回轉シテ西南ニ方向ヲ轉ジ左支高屋川ヲ合セ福山市ノ西ヲ繞リ更ニ右小支瀬戸川ヲ入レ沼隈郡水呑村竹ノ端ニ至リ燧灘ニ注グ而シテ府中町ヨリ上流ハ山間ノ急流ニシテ奔湍岩ヲ衝キテ流レ府中町ヨリ蘆品郡新市町落合ニ至ル間モ亦勾配急ニシテ河底ハ礫又ハ小砂利ノミナレドモ神谷川合流點以下ハ河狀一變シテ細砂緩勾配トナリ高屋川合流點以下ニ至レバ所々ニ寄洲ヲ生ジ河口ニ至リテハ殆ンド河底ヲ遊塞セルノ觀アリ

本川ハ流域面積八百七十平方軒、流路延長七百三十四軒、幹川七十八軒、灌溉面積七千七百七ヘクタールヲ有スル中國有數ノ河川ニシテ沿川都邑ノ受クル産業上ノ利益頗ル大ナルモノアリ然レドモ比年洪水汎濫シテ慘害ヲ逞ウシ彼ノ大正八年七月及九月兩度ノ出水ノ如キハ上流府中町ヨリ下流川口村ニ互ル五千八百六十三ヘクタールノ沃野ヲ變ジテ一大沼湖ト化シ福山市ヲ初メ沿川ノ都邑浸水ヲ見ザルナク人畜ノ死傷家屋ノ倒壞堤防及道路橋梁ノ破壞流失等直接ノ損害額實ニ四百三十餘萬圓ノ多キニ上レリ若シ夫レ之ニ加フルニ産業、交通、衛生等諸方面ニ互ル被害ヲモ具ニ考量スル時ハ其慘害ノ巨大ナルヲ知ルベク明治四十三年以降十箇年間ノ平均水害損失年額四十七萬八千餘圓ヲ算セリ

本改修計畫ノ主眼トスルトコロハ洪水量排疏ニ充分ナル河積ヲ與ヘテ汎濫ヲ防止シ併セテ高水時間ノ短縮ヲ圖リ支川ニ對シテハ逆水ノ被害ヲ輕減シ以テ沿川一帶ノ平野ノ水害ヲ除却シ且惡水ノ排除ヲ容易ナラシメムトスルモノナリ

計畫高水流量ハ上流府中町附近ニ於テハ每秒一千百立方メートル以下順次増加シ高屋川合流點以下ノ一千九百五十立方メートル、瀬戸川合流點以下二千百立方メートルシ支川高屋川ハ上流川北村附近ニ於テ二百立方メートル、千田村字横尾以下四百二十立方メートル定ム河幅ハ府中町附近ニテ百二十米ニ始マリ最下流部ニ於テ四百米トシ高屋川ニ在リテハ上流ニ於テ四十七米、本川合流口附近ニ於テ九十米ヲ保タシム

堤防ハ幹川筋ニ在リテハ馬踏五米乃至七米、兩法二割五分トシ高キモノニ在リテハ小段ヲ設ケ天端ハ計畫高水位以上一米二乃至一米五ノ餘裕ヲ存セシム支川高屋川ハ馬踏幅三米七、兩法二割、天端ハ高水位以上一米ヲ保タシム支川高屋川及瀬戸川ノ下流部ハ幹川ノ汎濫ヲ被リ湛水時間長期ニ渉ル低濕地ナルヲ以テ背割堤ヲ築キテ合流點ヲ引下ゲ惡水ノ排除ト逆水ノ低下トヲ圖ルコト、セリ



計畫高水勾配ハ府中町附近ニ於テ三百二十分ノ一、最下流部ニ於テ二千四百分ノ一トス

### 施工狀況

本工事ハ大正十二年度ノ創業ニシテ爾來實施測量其他諸種ノ調査ニ從事シ大正十五年九月一日ヲ以テ沼隈郡草戸村地内ニ一工事場ヲ設ケ掘鑿築堤工事ニ着手セリ掘鑿ハ凡テ人力ニ運搬ハ人力及馬力ニ依レリ

土地買收ニ關シテハ大正十五年十一月十五日及昭和二年二月十五日ノ兩度ニ下流草戸、水吞兩村地内ノ用地約五十九町歩ニ對シ協議ヲ開始シ年度内殆ンド全部ノ承諾ヲ得タリ  
本年度竣功高ハ四十八萬七千五百九十九圓(事務費及現在物品代價ヲ除ク)ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ七十四萬五千七百七十八圓(事務費及現在物品代價ヲ除ク)ヲ算シ工費總豫算五百六十六萬圓ニ對シ一割三分強ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事掘鑿			五九、〇九七 <small>立方米</small>	一六、〇一八 <small>圓</small>	五九、〇九七 <small>立方米</small>	一六、〇一八 <small>圓</small>	〇〇二
築堤			五四、一〇〇	一、一四二 <small>圓</small>	五四、一〇〇	一、一四二	〇〇二
費用				四四五、八六四		六四五、〇六六	
用地				七、二八九		三四七、一四	
船舶及機械				二、二八五		一三、七五三	
測量				二、〇四四		六、四七三	
營業繕費							

總計	雜費 共濟組合給與金
二五八、七一九	一五、七五七 四三八
四八七、〇五九	一二、〇六〇 三五七
七四五、七七八	二七、八一七 七九五
〇・一三	

## 第二九 紀ノ川改修工事

(大阪土木出張所)

### 緒言

本工事ハ大正十二年度ヨリ昭和十一年度ニ至ル十四箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費豫算四百七十二萬圓内和歌山縣負擔百六十二萬五千圓ヲ以テ施行スルモノトシ其區域ハ左岸和歌山那賀郡小倉村、右岸同縣同郡岩出町即チ貴志川合流點以下海ニ至ル幹川筋約二千籽ノ間ナリ

### 河狀並計畫大要

本川ハ源ヲ大和伊勢ノ國境ナル大臺原山附近ニ發シ西北流シテ山間ヲ迂餘曲流スルコト數回奈良縣吉野郡國樸村ニ至リテ高見山ヨリ發スル右支小川ヲ納レ同郡上市町ニ至リテ方向ヲ西微南ニ轉ジ吉野山ノ北麓ヲ流レテ吉野川ト稱シ五條町ニ於テ左支黒龍川ヲ併セテ和歌山縣下ニ入り茲ニ始メテ紀ノ川ト稱セラル夫ヨリ橋本町ヲ過ギ九度山町ニ至リテ左支丹生川ヲ入レ尙モ同方向ニ流レ妙寺、名手、粉河等ノ小都邑ヲ經其間左右ヨリ數多ノ小支ヲ併セ更ニ岩出町ノ東端ニ至リテ最大支貴志川ヲ左方ヨリ納レ同町ノ狹窄部ヲ經テ初メテ和歌山平野ニ出デ更ニ流ル、コト約十八籽、和歌山市ノ北端ヲ擁流シ左方ニ和歌川、水軒川ヲ分派シ右方ヨリ土入川ヲ入レ尙二三ノ中洲ヲ擁シ數派ニ離合シ末端ハ一川トナリテ海ニ注グ

幹川流路ノ延長約百三十籽ノ内奈良縣下ヲ流ル、コト約七十五籽、和歌山縣下ヲ流ル、コト五十五籽ナ

リ又水面勾配ハ高水時岩出町ニ於テ凡ソ四百分ノ一、最下流部ニ於テ凡ソ一千五百分ノ一トス流域面積ハ奈良縣下ニ屬スルモノ約九百五十六平方糎、和歌山縣下ニ屬スルモノ九百六十平方糎、合計一千九百十六平方糎トシ此内八十二パーセントハ山地ニシテ平地ハ僅ニ十八パーセントニ過ギズ然カモ該平地中ノ約八十パーセントハ和歌山縣ニ屬ス

夫レ斯クノ如ク全流域ノ約八割ハ山地ニ屬シ然カモ水源地方ハ主トシテ古生層ヨリ成レル峯巒重疊セラルヲ以テ水清ク豊ニシテ平時舟揖灌溉上ノ利益相當ニ大ナルモノアリト雖モ一朝非常洪水ノ場合ニハ和歌山市街ノ一部ヲ始メ沿岸ノ低地部ニ汎濫シテ耕地ノ荒廢、家屋ノ倒破、堤塘、橋梁等ノ損壞甚シク之ニ加フルニ一般産業、交通、衛生上等ノ諸方面ニ被ムル損害ヲ具ニ計上スル時ハ其額尠カラズ就中近年ニ在テハ明治三十二年及大正六年ノ洪水ヲ其最タルモノトス

本改修計畫ハ高水防禦ヲ主眼トシ其流量竝ニ水位ハ從來ノ最大洪水タル大正六年十月ノモノヲ基準トス即チ同年ノ最高水位ヲ超過セザル水位ヲ以テ最大高水量毎秒五千六百立方米ヲ安全ニ疏通セシメ得ベキ工事ヲ施設スルニ在リ然ルニ紀ノ川ハ現在河幅ハ概シテ廣濶ニシテ岩出狹窄部ノ百七十米ヲ除ケバ他ハ三百二十七米乃至七百六十三米ヲ有スルニ依リ岩出狹窄部ヲ二百七十二米ニ切り擴グ其他二、三ノ狹隘箇所ハ四百三十米乃至四百九十米ニ擴張ス然レドモ河中ハ現在ノ儘ニテハ河積不十分ナルヲ以テ必要ノ掘鑿及浚渫ヲ行ヒテ前記ノ計畫流量ヲ快疏スルニ充分ナラシメ上流ノ洪水位ヲ低下シテ冠水ノ區域ト時間トヲ縮少セシメントス

堤防ハ舊堤擴築部竝ニ新堤共總テ其天端ヲ計畫高水位以上一米五ニ在ラシメ其標準断面ハ馬踏幅七米、表法ハ二割トシ尙高サノ大ナル堤防ニ在リテハ天端以下四米ヲ下リテ十割法ノ幅五米ノ表小段ヲ附シ

小段以下ハ三割法トシ必要ナル箇所ニハ石張其他適當ナル護岸ヲ施設スルモノトス次ニ裏法ハ通ジテ二割トシ天端ヨリ二米ヲ下リテ幅三米ノ裏小段ヲ附スル豫定ナリ  
其他必要ニ應ジテ支派川入口ニ樋門ヲ設置シ尙河口ニハ突堤ヲ設ケントス

## 施工狀況

前年度ニ引續キ未了ノ實施測量ヲ繼續シ其終了シタル部分ニ對シテ計畫ヲ立テ堤防及掘鑿幅杭ノ設置ヲ了セリ尙河口ノ突堤計畫ニ當リ之レガ方向、長サ等ヲ決定スル爲メ豫メ左岸河口ニ假突堤及風力臺ヲ施設シ漂砂ノ有無及其方向、風向、風力等觀測調査中ナリ

然シテ大正十五年十二月十日改修本工事起工ト目サルベキ本川右岸海草郡楠見村、野崎村、堤外寄洲ノ掘鑿ニ着手シ本年度ニ於テ三萬八十四立方米此工費一萬一千五百三十圓外ニ二百五十一圓ノ提供材料ノ評價ヲ竣功セリ又築堤ニ在テハ之レガ掘鑿土ノ一部ヲ利用シ右岸斷面三十六號ヨリ鳴瀧川右岸改修終點ニ至ル舊堤擴築工事ニ着手セリ即チ大正十二年八月十八日實施測量ニ着手以來三箇年ニシテ愈々起工ノ緒ニ就クニ至レリ

尙土地買收ニ關シテハ大正十五年八月十日右岸ニ於テハ紀ノ川右支千手川合流點ヨリ下流海草郡野崎村大字北島北島橋ニ至ル及左岸同郡四箇鄉村大字松島ヨリ和歌山市宇治北島橋ニ至ル堤防敷及洪水敷ノ一部第一次土地買收ヲ發表シ三十二町四段六畝步餘ノ内二十八町四段二畝步餘ノ承諾ヲ得其支拂ヲ爲セリ

然シテ本年度竣功高ノ主ナルモノハ築堤二千六百四十七立方米、工費三百四十二圓、假突堤工費四千七百

九十八圓、掘鑿三萬八千四百四十四立方米、工費一萬一千五百三十圓、提供價額二百五十一圓等ナリトス  
 紀ノ川改修工事ノ本年度竣功額ハ三十六萬三千四百四十二圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ四十三萬六千五百五十四圓ナルヲ以テ總工費豫算額四百七十二萬圓ニ對シ九分二厘ノ成工ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ、▲ハ民間負擔額

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩分
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤			三〇、〇八四	一、一五三〇	三〇、〇八四	一、一五三〇	〇・〇〇八
工事費			二、六四七	二五、一	二、六四七	二五、一	〇・〇〇六
護岸水制			二八四	四、七九八	二八四	四、七九八	〇・〇〇六
用地費				二六九、八九二		二六九、八九二	〇・四八二
船舶及機械費				三九、〇三三		三九、〇三三	
雜費				三四、七四七		三四、七四七	
總計		七五、八一三		三六〇、三四二		四三六、一五四	〇・〇九二

### 第三〇 緑川改修工事

(下關土木出張所)

#### 緒言

本工事ハ工費四百萬圓(内熊本縣負擔百十七萬四千圓)ヲ以テ大正十四年度以降十二箇年度ノ繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ幹川筋熊本縣下益城郡杉上村以下河口ニ至ル約十六軒支川加勢川筋飽託郡日吉村以下幹川合流口ニ至ル約三軒及派川嘉永新川ナリトス

#### 河狀並計畫大要

緑川ハ源ヲ熊本縣阿蘇郡小峯村三方嶽ニ發シ西北ニ向ヒ深山幽谷ノ間ヲ奔流シテ上益城郡白絲村ニ至リ高サ五米ノ瀑布トナリ同郡宮内村上揚ニ達シ初メテ平地ヲ見更ニ甲佐町ニ下レバ鵜瀬堰アリテ全川ヲ横斷ス之ヨリ流路北折シ乙女村ヨリ再ビ西北流シ大島村ニ於テ支川御船川ヲ合シ水勢漸ク大トナリ勾配稍緩トナル尙下リテ下益城郡杉合村釋迦堂ニ至リ加勢川ノ合流スルヤ河幅却テ狹小トナリ流路亦迂回曲折ス爲メニ洪水疏通ノ障礙ヲ爲スコト甚シク上流ニ多大ノ災害ヲ來スヲ以テ既往ニ於テ別ニ堀川放水路ヲ設ケ杉合村小岩瀬ニテ本川ニ合セシメタルニ依リ今日ニテハ平水ハ主トシテ放水路ヲ流下シ本流ハ加勢川ノ流路タルノ状態ヲ爲セリ夫ヨリ更ニ西流スルコト須臾ニシテ流路急ニ南折シ大彎曲シテ走瀉村ヲ抱擁ス因テ此處ニ嘉永新川ヲ設ケ川口村方丈ニテ本川ニ落合セシメ洪水時ノ放水路ト爲ス同所ヨリ下流ハ河幅頓ニ増大シ西流シテ筑紫海ニ注ギ其流路延長約九十八軒ニ達ス

本川ハ流域面積一千八十平方軒ニシテ大河ナリト謂フベカラザルモ沿岸一帯ノ耕地低濕ニシテ一朝非常洪水ニ會セバ殆ンド平地部全區域ニ汎濫シ其災害甚大ナルモノアリ由來本川ノ水害ハ比較的勾配急ナル幹川上流ヨリ急奔シ來リタル洪水忽チ杉合村地内ノ狹窄部ニ扼セラレテ漸次水位ヲ昇騰シ其極終ニ堤防ノ決潰等ヲ誘起シ又支川ニ逆流スルニ因リテ生ズルモノニシテ非常洪水ナラザルモ洪水數日ニ互ルコト多ク年々ノ損害少ナカラズ之ヲ以テ古來本川ノ治水ニ關シ或ハ各所ニ放水路ヲ開鑿シ或ハ堅固ナル堤防ヲ築設スル等高水防禦ニ苦心ヲ拂ヒタル跡歴然タルモノアリト雖モ此等ノ多クハ局部ノ施設ニ止マリ未ダ根本的ニ水害ヲ一掃スルニ至ラズ大正元年ノ大洪水ノ如キ其損害額實ニ百五十萬圓ノ多キニ達シタリト云フ本川ノ夙ニ第一期河川トシテ改修ノ必要ヲ認メタル亦宜ナリト謂フベシ

本川ノ水害ハ前記ノ如ク杉合村附近ニ於ケル河積不足ノ爲ニ洪水ヲ疏通シ能ハザルニ起因スルヲ以テ本改修ニ於テハ堀川ヲ擴幅開鑿シテ本流ト爲スト同時ニ同所以下ノ本流モ亦河幅ヲ増大シ河狀ヲ矯正シ又走瀉村附近現在ノ迂回水路ハ甚シク洪水ノ疏通ヲ阻碍スルヲ以テ嘉永新川ヲ擴張シテ之ヲ本流ト爲シ其他河口ヨリ上流御船川合流口附近ニ至ル區間ニ於テ數箇所河幅ヲ擴大スル外多クハ舊堤ノ増築ニ止メントス

計畫高水量ハ幹川筋每秒三千三百四十立方米、支川加勢川同四百二十立方米ト定ム又計畫河幅ハ幹川筋杉合村鐵道橋附近ノ二百二十米ヲ最小トシ之ヨリ上流ハ二百八十米乃至三百二十米、下流ハ三百二十米ヨリ漸次増加シ嘉永新川附近ニ至リ三百五十米トシ以下河口ニ至リ四百五十米乃至六百六十米ヲ有セシメ加勢川ニテハ九十米ヲ保タシムルコト、セリ

堤防ハ馬踏五米五、兩法二割、天端高計畫高水位以上一米乃至一米五トス



施工狀況

本年度ハ前年度ニ引繼ギ實施測量ヲ繼續シ大正十五年五月一日飽託郡川尻町ニ改修事務所ヲ設置シ諸般ノ調査ヲ爲セリ本年度施行シタル測量區域ハ本川筋杉合村釋迦堂附近ヨリ上流約八軒及支川加勢川筋中綠村中無田附近ヨリ日吉村元三附近ニ至ル三軒ニシテ法線杭ノ設定及縱橫斷測量ヲ了セリ昭和二年三月ニ至リ事務所敷地ノ埋立工事ニ着手シ年度中ニ其大半ヲ了セリ  
 本年度ニ於ケル本改修工事ノ竣功高ハ八千四百十圓累計一萬四千三百八十八圓ニシテ工費總額四百萬圓ニ比スレバ僅ニ零割零分四厘ニ過ギズ其竣功表次ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費		一、五二二		四八八		二、〇一〇	
測量費		二、五六八		三、二六六		五、八三四	
雜費		一、八五二		四、五二七		六、三七九	
共濟組合給與金		三六		一二九		一六五	
總計		五、九七八		八、四一〇		一四、三八八	〇・〇〇四

### 第三一 鬼怒川改修工事

(東京土木出張所)

#### 緒言

本工事ハ大正十五<sup>(昭和元年)</sup>年度ヨリ昭和十四年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ總工費豫算一千四百五十萬圓ヲ以テ栃木縣鹽谷郡三依、栗山、藤原ノ三箇村及同縣同郡大宮村以下茨城縣北相馬郡大野村地先利根川合流點ニ至ル延長約十軒及同郡取手町竝千葉縣東葛飾郡田中村地先約十軒ノ改修工事ヲ施行スルモノトス

#### 河狀竝計畫大要

鬼怒川ハ其源ヲ栃木縣鹽谷郡ノ西邊鬼怒沼ニ發シ日光山塊ノ北麓ヲ繞リテ一路東流シ同郡藤原村ニ至リテ左ニ大支男鹿川ノ南下スルヲ併セ之ヨリ山谷ノ間ヲ東南ニ奔リテ漸ク平原ニ出デ右ニ大支大谷川ノ東流スルニ會シ河内鹽谷兩郡ノ界ヲ流レ羽黒村地内ニ於テ西鬼怒川ヲ分派シ阿久津村ニ至リテ再ビ之ヲ併合ス之ヨリ南流スルコト四十二軒ニシテ水戸線鐵道橋ノ上流ニ於テ茨城縣管内ニ入り幾クモナクシテ右ニ大支田川ヲ容レ田圃臺地ノ間ヲ迂餘曲折シテ南流スルコト四十五軒餘、北相馬郡大野村地先ニ於テ利根川ニ注グ其幹川延長百七十軒内栃木縣管内百二十軒、茨城縣管内五十軒ニシテ平地部ニ於ケル流路ハ兩縣ヲ通ジテ百二十軒ニ達ス

大谷川合流點以上ハ河路概ネ峡谷ヲ成シ堤防護岸等稀ニシテ其下流水戸線鐵道橋ニ至ル延長七十軒ノ

間ハ水勢急ニシテ川敷廣ク河水礫洲ノ間ヲ亂流シ兩岸ノ低坦地ハ概ネ堤防ヲ以テ保護セラル派川西鬼怒川ハ往時一用水路タリシガ明和年間ニ於ケル大洪水ノ際河水溢流シテ一大河道ヲ成スニ至リシモノナリ同鐵道橋以下即チ茨城縣管内ニ屬スル部分ハ河狀一變シ緩流トナリ兩岸ハ大體堤防ヲ以テ保護セラル、モ河幅過狹ニシテ所々ニ急曲アリ爲メニ洪水ノ疏通ヲ阻ミ水位ノ嵩上甚シ水海道町以下ニ於テハ往時東流シテ小貝川ニ合シタリシモ徳川時代ニ於テ洪水排疏ヲ速カナラシメンガ爲メ丘陵ノ谷間ヲ開鑿シテ新ニ河道ヲ通ジ直チニ利根川ニ注ガシメタルモノニシテ内守谷村大字大木迄ハ河道特ニ狹隘ナリ而シテ流末大木以下延長二籽餘ノ部分ハ利根川ト同時ニ國ニ於テ既ニ改修ヲ施行シタルモノナリ本川ノ流域ハ栃木縣宇都宮、鹽谷、河内、上都賀、下都賀、芳賀、茨城縣眞壁、結城、猿島、北相馬ノ一市九郡ニ互リ總面積一千八百八十平方籽ニシテ其内譯栃木縣<sup>山地</sup>一千百六十平方籽<sup>平地</sup>五百平方籽、茨城縣平地二百二十平方籽ナリトス流域ハ大體南北ニ長ク東西ニ狹クシテ水源山地ハ栃木縣ノ西北部ヲ占メ北ハ帝釋山脈ヲ以テ福島縣阿賀川流域ト隣シ東ハ那須火山系ヲ介シテ那珂川流域ニ接シ西及南ハ足尾山系ヲ以テ片品、渡良瀬兩川共ニ利根川ノ大支ナリト流域ヲ分ツ日光火山塊ハ其南部ニ盤踞シテ支川大谷川ノ水源ヲ成シ湯湖、西湖、中禪寺湖等其間ニ横タハル水源ノ地質ハ大體東北部ハ花崗岩屬ノ堅岩ニシテ南部ハ安山岩、凝灰岩等ノ大山岩ヨリ成ル支川男鹿川ハ約二百六十平方籽ノ流域ヲ有シ岩代國境ヨリ發スル<sup>イカリ</sup>五十里湯西ノ二小支ノ合シタルモノニシテ其合流點附近ハ川道廣濶ナル湖盆狀ヲ形成シ二百年以前ニ於テ數十年間一大湖ヲ成セルモノニシテ今尙海跡ノ名アリ幹川ノ最上流部及男鹿川流域ハ針濶混生ノ樹木多ク山相一般ニ良好ナルモ幹川ノ南大谷川ノ北部ヲ占ムル日光山塊ノ兩斜面ハ其岩質ノ關係ヨリ荒廢甚シク崩潰度ナキ狀態ニシテ大谷川ニ合スル諸溪流ハ現ニ國及縣ニ於テ砂防工事ヲ實施シツ、アリ大谷川合流點以下水

戸線鐵道橋ニ至ル間ハ河道概ネ河水ノ流送堆積セル砂礫層上ニ横ハルモ東岸ニ於テ所々第三紀ノ臺地アリ河水ノ衝突ニ因リテ缺潰甚シク赤壁數籽ニ連ナルモノ尠ナカラズ同鐵道橋以下ハ大體豐饒ナル冲積壤埴土ナルモ所々第三紀ノ丘陵臺地ヲ見ル流末利根川トノ間ニ介在スル菅生低濕地ハ富饒ナル腐埴土ヨリ成リ現在ハ利根川洪水ノ游水地タリ

本川改修區域ハ水害最モ甚シキ栃木縣鹽谷郡大宮村以下茨城縣北相馬郡大野村地先利根川合流點ニ至ル部分ニシテ其延長百十籽、内栃木縣管内六十籽、茨城縣管内五十籽ナリ

本川改修區域ニ於ケル洪水ノ狀況ヲ見ルニ水源山地ヨリ改修上流端ニ流下シ來ル洪水ハ其流量大ニ其勢極メテ激烈ナルモ栃木縣下延長六十籽ノ間ハ河幅廣大ニシテ所々無埴地アリ加フルニ大洪水ノ際ハ所々破堤溢流等ヲ生ジ游水面積極メテ大ナルヲ以テ洪水ハ其流量ニ於テモ其流勢ニ於テモ大ニ緩和サレタル後ニ茨城縣ニ入ルノ狀況ナリ然リト雖モ水戸線鐵道橋以下ニ於テハ河道狹少ニシテ堤防亦矮少薄弱ナルヲ以テ破堤溢流等尙頻繁ナルモノアリ而シテ流末既改修部ニ在リテハ每秒二千五百立方米ノ高水流量ヲ安全ニ疏通シ得ルモ合流點以下ニ在リテハ兩川最大流量ノ遲速ヲ考慮シ利根川ノ河積ハ其最高水位時ニ於テ鬼怒川ヨリ流下スル高水流量ヲ約每秒一千立方米ト見積リテ決定セルモノナリ

鬼怒川ノ現狀竝ニ利根川トノ關係上記ノ如クナルヲ以テ本川ノ水害ヲ救ハンガ爲メ單ニ無埴地ノ汎濫堤防ノ缺潰溢流等ヲ防止シ他ニ何等ノ方法ヲ講ゼザルニ於テハ必然游水面積ヲ縮少シ洪水ノ流量ヲ増加シ其流下ヲ速カナラシムル結果ヲ招致シ茨城縣管内ニ於テハ河幅ノ大擴張ヲ要シ惹テハ利根川ニ流出スル高水流量ヲ愈々大ナラシメ合流點以下ノ河道ニ對シ少ナカラザル脅威ヲ及ボス事トナル即チ本川ノ改修ニ當リテハ下流ニ排疏スル高水流量ヲ現狀以上絶對ニ増大セシメザルヲ以テ根本方針ト爲サ

ザルベカラズ依テ先ツ改修區域ノ河道外汎濫地ニ代ツテ洪水ノ調節ヲ爲シ其流量ヲ低減センガ爲メ男鹿川海跡ノ河袋ニ一大貯水池(容量約五千五百萬立方米)ヲ設ケ大雨ノ際水源ヨリ流下シ來ル洪水ヲ池中ニ停滯セシメ排水門ヲ設ケテ徐々ニ之ヲ排疏シ依テ以テ改修上流端ニ於ケル最大流量毎秒五千立方米ヲ四千立方米ニ低減シ之レヨリ以下ハ現在ノ河道ノ調節作用ニ依リ高水流量ヲ次第ニ低減セシメ流末既改修部ニ互リテ毎秒二千五百立方米ニ止ムルノ方法ヲ採用セリ即チ本川ノ計畫高水流量ハ改修區域上流端ニ於テ毎秒四千立方米ト定メ之ヨリ次第ニ減ジテ水戸線鐵道橋ニ於テ毎秒三千立方米、改修末端ニ於テ毎秒二千五百立方米ト定メタリ

而シテ改修工事ハ大體現在ノ河幅ヲ保持シ其過狹ナル部分ヲ擴張シ栃木縣管内ニ於テ四百五十米乃至一公里、茨城縣管内ニ於テ百七十米乃至五百米ノ河幅ヲ有セシメ堤防ノ薄弱ナル部分ハ之ヲ増築シ無堤地ニシテ汎濫ノ害著シキモノハ新ニ堤防ヲ繞ラシ以テ沿川ノ水害ヲ根絶セントス改修堤防ハ大體馬踏三米五乃至七米、兩法二割乃至三割ト爲シ天端ハ計畫高水位以上一米二ノ高サヲ有セシムルモ現在河幅廣大ナル部分ハ之ヲ一米ニ止メタリ而シテ水流ノ衝ニ當ル河岸ニ對シテハ護岸水制等ノ補足又ハ改修ヲ行ヒ以テ岸地ノ缺潰ヲ防ギ堤防ノ安固ヲ圖ラントス

水源ニ於ケル洪水調節ノ結果西鬼怒分派點ニ於ケル計畫流量ハ毎秒四千立方米ニ低下スルヲ以テ現在ノ幹川タル東鬼怒ニ於テ多少ノ堤防増築ヲ行ヘバ一川ノ河幅ニ依リ能ク全流量ヲ疏通シ得ベキヲ以テ西鬼怒川ヲ其分派口ニ於テ締切リ其川敷及游水地約百五十ヘクタールノ開墾ヲ可能ナラシム水戸線鐵道橋附近ハ河幅過狹ニシテ高水ノ疏通堤防護岸ノ維持共ニ困難ナルノミナラズ屢々鐵道ヲ不通ナラシムルヲ以テ橋ヲ増大シ河積ノ擴張ヲ行ヒ茨城縣管内宗道村附近ハ河道ノ屈曲特ニ甚シク水位ノ嵩上

工作物ノ被害共ニ著シキモノアルヲ以テ新タニ直路ヲ開鑿シテ高水ノ疏通ヲ助ケントス  
前述ノ如ク利根川改修ニ於テハ其最高水位時ニ於テ鬼怒川ヨリ流下スル高水流量ヲ毎秒一千立方メートル見積リタレドモ近年ノ洪水狀況ヲ調査スルニ一千四百立方メートル以上ニ達スル場合アルヲ以テ鬼怒川改修後ニ於ケル該流量ヲ一千六百立方メートル定メ利根河積ニ對シテ過大ナル部分毎秒六百立方メートルハ合流點附近ニ於テ一時滯溜セシムルノ策ヲ採レリ即チ茨城縣北相馬郡菅生沼沿岸及千葉縣東葛飾郡田中村ヨリ我孫子ニ互ル利根川游水池ニ新堤ヲ繞ラシテ二大調節池ヲ設ケ數箇所ニ溢流部ヲ置キ下流端ニ排水門ヲ設ケ以テ水位過嵩ノ際河水ヲ流入滯溜セシメ河道ノ減水ヲ待テ池内ノ滯水ヲ排出セシメントス而シテ此等調節池地域ノ荒蕪地ハ從來堤外游水池ニシテ出水毎ニ水底ニ沒スルノ状態ナリシガ改修後ニ於テハ大洪水ノ場合ニ於テノミ溢流ノ爲メニ冠水スル事トナリ從テ約一千二百ヘクタールノ低坦地ハ大ニ其利用率ヲ高ムルニ至ルベシ

## 施工狀況

本工事ハ先ヅ施工準備トシテ大正十五年九月栃木縣鹽谷郡藤原村ニ同十二月茨城縣結城郡宗道村及栃木縣河内郡本郷村ニ各測量員詰所ヲ置キ實地測量調査ヲ進メ翌昭和二年一月宗道村ニ宗道土地收用事務所ヲ設ケ結城郡大形村新河道開鑿用地ノ買收調査ヲ開始シ翌二月鬼怒川改修事務所ヲ茨城縣眞壁郡伊讚村ニ置キ右岸栃木縣河内郡平石村以下茨城縣北相馬郡内守谷村ニ至ル間及左岸栃木縣芳賀郡清原村以下茨城縣北相馬郡小絹村ニ至ル間ヲ施工區域ト定メ年度内測量調査ヲ爲シタル外事務所及倉庫敷地ノ地均等ヲ施行シ工費二萬三千九百九十九圓ヲ支出セリ左ニ其竣功表ヲ掲グ

種別	前年度竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費				六、三四七 <small>円</small>		六、三四七 <small>円</small>	
測量費				六、七五三		六、七五三	
營繕費				二、五四九		二、五四九	
雜費				八、一三三		八、一三三	
共濟組合給與金				二、三七		二、三七	
總計				二三、九九九		二三、九九九	〇・〇〇二

### 第三二 北川改修工事

(名古屋土木出張所)

#### 緒言

本工事ハ總工費二百三十六萬圓(内福井縣負擔八十三萬一千圓)ヲ以テ大正十五年度ヨリ昭和九年度ニ至ル九箇年度繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ幹川北川ニ在リテハ福井縣遠敷郡三宅村以下海ニ至ル約十四籽支川南川ニ在リテハ同縣同郡口名田村以下海ニ至ル六籽及支川遠敷川ニ在リテハ約二籽合計二十二籽ナリ

#### 河狀並計畫大要

北川ハ源ヲ滋賀縣高島郡三谷村ノ山地ニ發シ溪谷ヲ流レ二、三ノ細流ヲ併セ南流スルコト數里ニシテ急ニ方向ヲ轉ジ北西ニ向ヒ福井縣ニ入ル遠敷郡熊川村ヲ經テ兩岸漸ク開ケ三宅村以下兩岸堤塘ノ設ケアリ川ハ一路直流數個ノ小支ヲ容レ遠敷村ニ至リ左支遠敷川ヲ併セ雲濱村ニ至リ多田川ヲ吞ミ次デ南川ト合シ少許ニシテ海ニ注グ流路延長約三十五籽トス河口ハ左岸ニ突堤ノ設ケアリテ小濱港ヲ成ス又河口ニ近ク右方ニ江湖川アリ其北川ニ接近セル處北川右岸堤上ニ古來三箇所ノ溢流堰ヲ設ケ以テ洪水ノ際其一部ヲ江湖川ニ放流スルノ用ニ充ツ

南川ハ源ヲ遠敷郡奥名田村ヨリ發シ溪間ヲ略東流シ細流ヲ集メ知三村ニ至リ方向ヲ轉ジテ東北ニ向ヒ口名田村ニ至リ兩岸漸ク開ケ今富村ニ至リテ始メテ堤塘ノ設ケアリ次デ大灣ヲ畫キ小濱町ヲ經テ北川



ニ合ス流路延長約四十軒ナリトス流域ハ滋賀縣高島郡福井縣遠敷郡ニ跨リ全面積四百四十二平方軒ニシテ一般ニ山岳ニ富メリト雖モ著シキ峻峯ナシ山地ハ殆ンド古生層ニ屬スル粘板岩、珪岩等ヨリ成リ平地ハ第四紀新層ニ屬スル沖積地ナリ山地ノ森林狀態ハ必シモ良好ナルニアラズト雖モ又甚シキ荒廢ノ跡ナシ

沿岸ノ平地ハ凡テ北川本支流ヨリ灌漑ノ惠ヲ受クルモノニシテ其面積二千四百十ヘクタールヲ算シ其殆ンド全部ハ福井縣下ニ屬シ而カモ改修區域内ニ在リ

舟運ハ唯河口附近ヲ小舟ノ通ズルニ止マル河口ハ即チ小濱港ニシテ風光明媚ナル小濱灣ノ奥底ニ横リ古來著名ナル港津ナリト雖モ惜ラクハ水深小ニシテ大船巨舶ヲ容ルベカラズ

北川ハ從來河幅狹隘堤防薄弱ナルヲ以テ出水ニ會セバ堤防決潰シテ浸水ノ害ヲ被リ甚ダシキハ毎年數回ニ及ブコトアリ特ニ流末地方ニ在リテハ南北兩川ノ洪水合シ然カモ河口狹隘ナルヲ以テ疏通ノ快速ナルヲ得ズ爲メニ小濱町ノ一部及雲濱村ノ如キハ濁水人家ヲ沒シ慘害ヲ逞フス舊藩時代ニ於テ北川堤防ニ溢流部ヲ設ケ洪水ノ一部ヲ江湖川ニ放流スルノ施設ヲ爲シタルモ尙不充分タルヲ免レズシテ災害ヲ被ルコト頻繁タルヲ見ル明治二十九、三十二、四十、大正六、十年ノ洪水ノ如キハ其被害特ニ著シキモノアリ今水害ヲ受クベキ面積ヲ掲グレバ全流域内ニテハ一千五百十九ヘクタールニシテ内一千四百四十ヘクタールハ改修ニ依リテ被害ヲ免ル、區域ニ在リ大正四年ヨリ同十三年ニ至ル最近十箇年間ニ於ケル水害ニ由ル平均損失年額ハ十五萬四千八百八十圓ニシテ内十四萬七千圓ハ改修ニ依リ全ク之ヲ免ル、ヲ得ルナリ

計畫高水流量ハ從來ノ最高洪水ヲ基準トシ尙實測等ヲ參酌シ次ノ如ク決定セリ

北川	
上流改修起點ヨリ鳥羽川合流點ニ至ル	三〇〇〇 <small>毎秒立方米</small>
鳥羽川合流點ヨリ杉山川合流點ニ至ル	四六〇
杉山川合流點ヨリ日笠川合流點ニ至ル	五〇〇
日笠川合流點ヨリ宮川合流點ニ至ル	六〇〇
宮川合流點ヨリ遠敷川合流點ニ至ル	七〇〇
遠敷川合流點ヨリ海ニ至ル	九五〇
南川	
遠敷川	一〇〇〇
	三〇〇

計畫高水位モ亦從來ノ最高洪水水位ヲ基準トシテ之ヲ定メ前記流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ以テ改修計畫ノ主眼トセリ

幹川北川筋ニ在リテハ上流改修起點ヨリ遠敷川合流點ニ至ル迄ハ河幅大體充分ナルヲ以テ單ニ舊堤ヲ擴築スルニ止ム同上以下ハ河幅概シテ不足ナルヲ以テ多少之レヲ擴張シ或ハ新堤ヲ設ケ或ハ舊堤ノ利用スベキハ之ヲ擴築ス又國富村大字丸山以下ハ現川ヲ右方ニ導キ現在ノ江湖川ヲ擴張シテ之ニ充ツルモノトシ江湖川ハ之ニ平行ニ新水路ヲ設ケ西津村ニ至リ新北川ニ合流セシメントス

支川南川ハ上流改修起點ヨリ今富村大字湯岡ニ至ル間ハ在來ノ堤防ヲ擴築スルニ止メ同上以下ハ多少河幅ヲ擴張シ尙現在ノ水路ハ著シク迂回セルヲ以テ雲濱村地内ニ一條ノ直路ヲ開鑿シ同村大字竹原ニ至リ北川ノ現水路ニ合セシメ以下ハ北川ノ現水路ヲ以テ南川ノ新水路ニ充ツ斯クシテ南北兩川ヲ全ク分流セシメントス

支川遠敷川ハ小支松永川合流點以下本川トノ合流點ニ至ル間河幅ハ充分ナリト雖モ堤防薄弱ナルヲ以テ之ヲ擴築スルモノトス  
 堤防ハ馬踏幅四米五兩法二割乃至三割トシ天端ハ計畫高水位以上一米五トシ尙直高ノ大ナル堤防ニハ小段ヲ附ス  
 堤防及河岸ノ必要ナル箇所ニハ適當ナル護岸工ヲ施シ又河積ノ不足ナル部分ニ掘鑿若クハ浚渫ヲ行ヒテ洪水ノ快疏ヲ圖リ下流ニ於テハ兼テ舟運ニ便ナラシメントス

### 施工狀況

本工事ハ本年度ノ創業ニシテ大正十五年九月廿七日ヨリ北川筋左右兩岸自福井縣遠敷郡雲濱村至同郡國富村及南川右岸自福井縣遠敷郡雲濱村至同郡今富村左岸自同縣同郡小濱町至同郡今富村平面竝ニ幅杭設置測量ニ着手セシガ終了ヲ見ズシテ年度ヲ終レリ  
 本年度北川改修工事竣功額ハ一千四百四十四圓ニシテ總工費二百三十六萬圓ニ比スレバ僅カニ零割零分六厘ニ過ギズ而シテ其竣功表左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功割合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費				九五		九五	割分厘
測量費				六〇九		六〇九	
雜費				七三八		七三八	



### 第三三 旭川改修工事

(大阪土木出張所)

#### 緒言

本工事ハ工費八百萬圓(内岡山縣負擔二百七十五萬九千圓)ヲ以テ昭和元年度ヨリ同十三年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ岡山縣御津郡牧石村以下海ニ至ル約十七軒ノ間ナリトス

#### 河狀並計畫大要

旭川ハ流域面積一千七百二十三平方軒ニシテ内山地面積一千四百八平方軒、平地面積三百十五平方軒、幹川流路延長約百五十軒ナリ、灌溉面積百九平方軒ヲ有スル河川ニシテ其大部分ハ岡山市附近ノ平野ニ屬スルモノナリ而シテ本川ハ其源ヲ岡山縣眞庭郡ノ北境ナル鷲ヶ峰ヨリ發シ始ハ略東流シテ同郡茅部村ヲ過ギ方向ヲ南ニ轉ジ山間ノ諸溪流ヲ併セテ勝山町ニ至リ右支新庄川ヲ納レ東南ニ轉向シ久世町ヲ過ギ左支目木川ヲ併セ落合町ニ至リ更ニ右支備中川ヲ收メ山間ヲ迂餘曲流シテ久米郡福渡村ニ至リ左支誕生川ヲ合セ更ニ下リテ御津郡金川町ヲ經テ右支宇甘川ヲ容レ次デ方向ヲ略南ニ變ジ同郡牧石村ニ至リ山間ヲ離レテ平野ニ出ヅ次ニ左方ニ百間川ヲ分派シ岡山市内ヲ貫流シテ再ビ方向ヲ稍東南ニ轉ジ上道郡三幡村ニ至リ兒島灣ニ注グ由來本川ハ大河ト云フニアラザルモ下流部ハ岡山ノ沃野ヲ橫斷シ古來灌溉ノ利ト運輸ノ便トニ因リテ流域内文化ノ開發ニ貢獻スル處多ク實ニ中國重要河川ノ一ナリ

然レドモ本川ハ地勢上勾配急ニシテ流域ハ一般ニ山岳ニ富ミ幾多ノ岳巒群起セリ而シテ此等山嶽ハ主トシテ古生層ニ屬スル粘板岩及凝灰岩若クハ花崗岩ヨリ成ル後者ハ其性質上風化甚シキヲ以テ是レヨリ構成セラル、山岳ニハ秃裸ノ地多ク土砂流出ノ因ヲ爲シ漸次河床ヲ高メ一朝洪水ニ際會セバ河水忽チ漲溢シ沿岸ノ被害甚シク古來屢々水害ニ惱マサレタリ舊藩時代ニ入ルニ及ビ洪水ノ被害ヲ受クル事頻繁タリシヲ以テ貞享三年遂ニ百間川ナル放水路ヲ開鑿スルニ至レリ然レドモ爾來尙洪水ノ害ヲ絶タズシテ屢々市街ノ浸水堤防ノ決潰橋梁及家屋ノ流亡田畑ノ荒廢人畜ノ死傷等慘害ヲ被ムレルノ事實ハ記録ニ依リ之ヲ窺フニ足ルモノアリ近年幸ニシテ大洪水ニ遭遇セザルモ彼ノ明治二十六年ノ水害ノ如キハ浸水田畑百一十平方畝ニシテ損失價額四百九十七萬餘圓ニ上レリト云フ

今水害ヲ受クベキ面積ヲ掲グレバ全流域内ニテハ約百十五平方畝ニシテ特ニ岡山市ノ發達ニ伴ヒ市街ヲ浸水スルガ如キハ戰慄ニ堪ヘザルモノナルガ改修ニ因リ是レヲ除キ且水害ヲ免レシムル面積ハ約九十一平方畝ナリ

而シテ計畫高水流量ハ既往ニ於ケル最高水位ヲ基準トシ每秒五千立方米トシ尙高水位ハ既往洪水ニ於ケル最高水位ヲ超過セシメザル程度ニ之ヲ定メタリ

上流改修起點ヨリ岡山市上流ニ至ル約七畝間ハ大體現在河幅廣濶ナルヲ以テ局部ヲ除ク外ハ現在堤防ヲ補強スルニ止ム以下岡山城ト後樂園トノ間ニ横ハル部分ハ河幅狹隘河積又不充分ニシテ之ヲ擴張スル必要有ルモ其餘地ナキヲ以テ新ニ後樂園ノ上流ヨリ其後方ヲ經過スル新川ヲ開鑿シ岡山市内相生橋附近ニテ現河川ニ合セシメ以下河口ニ至ル迄ハ現在河幅概シテ狹小ナルヲ以テ多少之ヲ擴張ス而シテ河口ヨリ上流岡山市内京橋ニ至ル約八畝間ハ低水路ヲ規正シ之ニ浚渫ヲ施シ舟運ノ便ヲ計リ尙堤外地

ニハ掘鑿ヲ行ヒ以テ所要ノ河積ヲ與フルモノトス  
 又必要ナル箇所ニハ護岸若クハ水制ヲ施シ流路ノ亂流ヲ防ギ河岸ノ崩壞ヲ止メ又堤防ノ安全ヲ計ラントス堤防ハ馬踏七米五兩法二割乃至三割天端高ハ計畫高水位一米五トシ尙適當ナル小段ヲ前後ニ附スルモノトス

### 施工狀況

本年度ハ準備トシテ實地橫斷測量ヲ爲シ改修事務所ヲ左岸岡山市京橋上手小橋町ニ設クルコト、シ元高粱川改修事務所建物ニ一部模様變ヲ爲シ移設ニ着手シ殆ド竣功セリ本年度ニ於テ竣功セシ工費ハ六千七十四圓ニシテ之ヲ總工費豫算八百萬圓ニ比スレバ約一厘ノ竣功トナル其竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費				一、五七六 圓		一、五七六 圓	
雜費				四、四九八		四、四九八	
總計				六、〇七四		六、〇七四	〇・〇〇一

## 第二章 河川附屬物及水路維持工事

### 第一 木曾川附屬物及水路維持工事

#### 緒言

木曾川附屬物及水路維持工事ハ明治三十五年度ヨリ毎年工費三萬圓ヲ以テ維持修繕ヲ爲ス事トシ明治四十年年度ヨリハ向フ二十三箇年度繼續事業トシテ年々工費三萬圓、總工費六十九萬圓ヲ以テ更ニ維持スル事トナリシガ爾後諸物價暴騰ノ爲メ當初豫算ニテハ維持困難トナリシヲ以テ大正九年度以降年額五萬四千圓、總工費九十三萬圓トナシ更ニ同十一年度ハ年額九萬六千圓、總工費九十七萬二千圓ニ増額セラレ同十二年度以降ハ年額九萬六千圓、總工費百七十四萬六千圓トナリ同十三年度以降年度割額更正ノ爲メ四萬八千圓ノ減額トナリ年額八萬四千圓、總工費百六十九萬八千圓トナリ繼續年度ヲ昭和十年迄延長セラレタルヲ更ニ年度割額更正ノ爲メ大正十四年度ヨリ年額八萬圓、總工費百六十九萬八千圓トナリ繼續年度ヲ昭和十一年度迄延長セラレタリ而シテ其維持ノ目的物ハ左ノ如シ

- 一 成戸、船頭平間、木曾、長良、兩川瀬割堤
- 一 油島締切堤ヨリ桑名町地先迄ノ長良、揖斐、兩川瀬割堤
- 一 以上瀬割堤防ニ直接關聯セル護岸及水制
- 一 船頭平間門及前後附屬物



- 一 木曾川河口導水土堤及石堤
- 一 揖斐川河口導水土堤及石堤
- 一 揖斐川流末低水敷

## 施工狀況

本年度施行ノ工事ハ前年度ヨリ繰越シタル立田地内護岸水制新設工事、下立田地内護岸水制修繕工事、大成地内堤防補修工事ノ三箇所ハ之レヲ竣成セシメ本年度新ニ着手シタル日原地内堤防補修工事、大成地内水制新設工事、日原地内新設護岸工事ノ三箇所ハ竣功セシメ本年度新ニ着手シタル楠村地内堤防補修工事、上立田地内水制新設工事ノ二箇所ハ未竣功ノ儘次年度ニ之ヲ繰越セリ

船頭平閘門ノ狀況ハ本年度ニ於ケル通航數ヲ示セバ大船(積以上)四千九百八十隻中船(積以上)一千四百二十隻、小船(積以下)四千九百九十六隻、合計一萬一千四百一隻外ニ木竹筏(一組長九米一乃至十二米七、幅一米八乃至四米二)三千八百四十二組通過セリ

本年度維持工事竣功額ハ六萬八百八十九圓ニシテ起工以來ノ累計九十萬九千四百四十五圓トナリ總工費豫算百六十九萬八千圓ニ對比スレバ五割四分トナル其工事竣功表左表ノ如シ但シ表中「」ハ保管轉換品價額ナリ

第二章 河川附屬物及水路維持工事 (木曾川附屬物及水路維持工事)

種別	本工事費										總計	
	水制岸防堤	導堤	濶門	假間	船舶及機械	測量	營繕	雜費	共濟組合給與金	總計		
前年度迄竣工高												
數量												
金額	一九五、二二六	六二、一二七	一七三、六三七	六五、五〇〇	五五、八四九	四九、五六二	六、一〇六	六一、二八〇	二二、六四九	一八	一、一七九	八四八、二五六
本年竣工高												
數量												
金額	一七、三一一	五〇九	二四、九三五					二、四九七	六一七		一、四六五	六〇、八八九
合計	二一、二、五三九	六二、六三六	一九八、五七二	六五、五〇〇	五五、八四九	四九、五六二	六、一〇六	六三、七七七	二二、二六六	一八	一、五八六	九〇九、一四五
竣工歩合												
數量												
金額												
合計												
歩合												

## 第一 淀川附屬物及水路維持工事

## 緒言

淀川改良工事ハ明治四十三年度ニ於テ竣功ヲ告グ堤防其他ノ工事ハ夫々所屬府縣ニ引繼ヲ了セルモ同川筋一部ノ築造物即チ瀬田川洗堰、毛馬洗堰、毛馬第一閘門、六軒屋閘門、傳法閘門、西島閘門、正蓮寺川締切堰堤ニ對シテハ本省ニ於テ直接管理ノ任ニ當リ明治四十四年度以降大正十七年度ニ至ル十八箇年度ニ互リ年額一萬一千圓、總豫算十九萬八千圓ヲ以テ之ガ維持修繕ヲ行フコト、ナリシガ大正五年四月工費一萬一千圓ノ増額ト共ニ年限一箇年度ヲ延長セラレ尙大正七年度ニ至リ淀川下流改修工事ニテ竣功セル毛馬第二閘門、長柄起伏堰ト毛馬第一第二兩閘門前後ノ水路維持ヲモ行フコト、ナリタルニ依リ年額ヲ二萬五千圓ニ改定シ豫算總額ヲ三十七萬七千圓トシ翌八年度ニ於テ長柄運河頭部開閉扉ヲ淀川附屬物維持ニ加ヘラレ又大正十年度ニ於テ物價騰貴ノ爲メ年額ヲ四萬圓ニ改メ豫算總額五十一萬二千圓ヲ以テ維持ヲ行フコト、ナリシガ大正十一年度ヨリハ淀川下流改修工事ニテ竣功セル傳法第二閘門及六軒屋洗堰竝ニ「サイホン」ヲ更ニ管理スル事トナリタルト堰桁ノ取替其他ノ修繕ト毛馬閘門前後航路ノ浚渫ヲ爲ス爲メ二萬圓ヲ要スルト大正九年度ニ高梁川ヨリ流用セシ一萬三千五百圓ヲ返還スル爲メ大正十一年度ニ三萬三千五百圓ヲ増額セラレタリ又大正十二年度ハ淀川下流改修工事ニテ竣功セル六軒屋第二閘門ヲ追加セラレタルト閘門及洗堰ノ大修理ヲ要スル爲メ年度割額四萬圓ノ外四萬二千六百圓ヲ増額セラレ尙同十三年度ハ六萬圓、同十四年度以降昭和十年度迄ハ各七萬六千圓、最終年度昭和十一年度ハ

四萬四千圓ニ改メ豫算總額百二十八萬八千百圓(大正十四年度以降八十萬四千圓)トナリ年限モ亦昭和十一年度迄延長セラレタリ而シテ本費ハ元全部國費ヲ以テ支辨シ來リシカ大正十二年以降ハ關係地方ニ其費用ヲ負擔セシメラル、事トナレリ國費六十二萬二千二百圓、地方費六十六萬五千九百圓ノ割合トナレリ

是等附屬物維持ノ目的ヲ達スル爲メ滋賀縣栗太郡下田上村大字黒津ニ瀨田川看守場、大阪市東淀川區北長柄町ニ淀川看守場ヲ設置シ各擔當技術者ヲ配置シ專用電話ヲ備ヘテ通信ヲ敬活ナラシメ又各所ニ量水標ヲ設ケテ水位ノ觀測ヲ行ヒ尙降雨ノ際ニハ水源地方ニ於ケル雨量觀測所及森林測候所ヨリ電報ヲ以テ雨量ノ報告ヲ受ケ洪水ニ際シテ起ルベキ水位ヲ豫知シ以テ被害ノ輕減ニ努メ又渴水時ニ際シテモ常ニ灌溉ト航運トニ支障ナキ流量ヲ持續スル様調節ヲ行ヒツ、アリ

正蓮寺川堰堤ハ大阪府ニテ施行セシ中津川改修ノ結果大正十二年九月公用ヲ廢止セラレタリ

## 施工狀況

施工ノ主ナルモノハ前述ノ如ク閘門、洗堰、起伏堰、其他ノ開閉修繕及航路維持浚渫ニシテ本年度ニ在リテハ前年度着手ノ長柄起伏堰水叩、下流床固外七工事ヲ施工竣成セリ

本年度竣功額七萬二千六十四圓ニシテ明治四十四年度創業以來ノ累計支出高ハ五十四萬六千四百四十四圓ナリ而シテ其工事竣功高左ノ如シ但シ〇ハ無代價品見積價額ナリ

種別	前年度迄		本年度		合計		歩合
	開閉費	修繕費	開閉費	修繕費	開閉費	修繕費	
瀬田川洗堰	二、七九八	一、一四五〇	一〇九	八、二二九	二、九〇七	一、一四五〇	開分
毛馬洗堰	一〇、九二七	二二、二〇二	七八	八、二二九	一一、〇〇五	三〇、四三一	
毛馬第一閘門	一三、二〇六	一一、〇九五	六七	一五〇	一三、二七三	一一、二四五	
毛馬第二閘門	二四、七二七	一、六二六	三、四四四	九一二	二八、一七一	二、五三八	
六軒屋第一閘門	三三、六四四	二六、八一八	三、四四五	六四七	三七、〇八九	二七、四六五	
六軒屋第二閘門	一〇、三三三	二一一	三、四〇三	二五四	一三、七二六	四六五	
傳法第一閘門	三三、〇〇一	一〇、六七五	三、四五六	一三七七	三五、四五七	一一、四五二	
傳法第二閘門	一三、一一〇	八七〇	二、五八一	一四三	一五、六九一	一、〇一三	
西島閘門	三二、二六六	五、四五七	三、四五二	四〇二	三四、七一七	五、八五九	
長柄起伏堰	五、九八三	一五、五九七	六六三	八、〇五一	六、六四六	二二、六四八	
六軒屋洗堰及 サイヤフオシ	一三六	三、四五三	一七	一二三	一五三	三、五七六	
正蓮寺川堰堤		三、二八七				三、二八七	
長柄運河頭部扉	一、一八二	一、〇七〇	四七	二八	一、二二九	一、〇九八	
浚渫	一五、七四六				一五、七四六		
雜工事	一四、四二一	一八、九七四			一四、四二一	一八、九七四	
船舶及機械費	四、七七七		六、〇九四		一〇、八七一		
雜費	一、二七、〇四八		二五、四九三		一五二、五四一		
總計	三四一、二九五	一三二、七八五	五二、三四八	一九、七一六	三九三、六四三	一五二、五〇一	〇四三

### 第三 利根、渡良瀬兩川維持工事

#### 緒言

本工事ハ大正十二年度ヨリ昭和十一年度ニ至ル十四箇年度繼續事業ニシテ利根川筋群馬縣佐波郡芝根村以下右岸千葉縣海上郡椎柴村ニ至ル約百八十一軒及派川江戸川竝渡良瀬川ノ維持工事ヲ施工スルモ左岸茨城縣鹿島郡矢田部村ノトス本工事ハ當初工費四百一萬四百圓ヲ以テ利根川筋竝ニ渡良瀬川筋下流部栃木縣下都賀郡三鴨村都賀以下利根川合流口ニ至ル間ニ於ケル維持工事ヲ大正十二年度ヨリ昭和九年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシテ創業セシガ同十三年度ニ於テ工費二萬三千圓ヲ増額シ施行年限ヲ二箇年度延長シ更ニ本年度ヨリ派川江戸川竝ニ渡良瀬川上流部ヲ併セ施行スルコト、ナリ工費百八十四萬一千四百圓ヲ増額シ總工費五百八十七萬四千八百圓ヲ以テ施行スルコト、ナレリ

兩川改修工事ハ大正十一年度末迄ニ八、九步通り竣成(渡良瀬川改修工事ハ十五年度末竣功セリ)シ堤塘ノ連續ト相俟テ河狀整齊シ往年ノ慘害ヲ見ザルニ至レリト雖モ既成部ニ於ケル工作物ハ其竣功古ク堤塘ノ沈下、護岸及水制ノ破損等相當多ク之等ハ年ト共ニ加ハリ此儘放置スルトキハ遂ニハ昔日ノ險惡ナル狀態ニ戻リ所謂九匁ノ功ヲ一簣ニ缺クノ虞ナシトセズ其利害ノ及ブトコロ數縣ニ跨リ重大ナル關係アルヲ以テ之レガ維持上常時修補ノ緊切ナルヲ認メ帝國議會ノ協賛ヲ經前記ノ如ク施工スルコト、ナレリ

#### 施工狀況

本工事ハ利根川第二期、同第三期、江戸川竝ニ渡良瀬川各改修事務所ニ於テ分擔施行スルコト、ナリ派出所及所要機械器具ハ各改修用ノ一部ヲ其儘使用シ得ルノ便宜ヲ有シタルヲ以テ大正十二年八月（江戸川及渡良瀬川上流部ハ昭和二年一月）ヨリ工事ニ著手シ本年度末迄ニ築堤土量四十五萬五千二百三十四立方米、浚渫土量五萬七千七百十二立方米護岸水制延長三萬九千七百二十二米ヲ施工シ工費合計百一萬五千四百九十七圓ヲ支出セリ

今各工區別ニ本年度施工ノ狀況ヲ述ベン

利根川第二期部内ニ於テハ既成堤防ノ沈下或ハ崩壞等ノ小修補十二箇所ヲ施工シ土量二萬四千六百四十立方米ヲ築立テ佐原町向洲地先外五箇所ニ於テ護岸修補延長五百五十八米ヲ施工シ内向洲ハ六分通りヲ了ヘ其他ハ全部竣功セシメ前年度起工ニ係ル布川地先ノ外新ニ六箇所ノ水制小修補延長一千七十九米ヲ施工シ工費合計六萬一千五十三圓ヲ支出シタル外横利根閘門ノ管理ヲ併セ施行シ之レガ管理費四千八百十三圓ヲ支出セリ

利根川第三期部内ニ於テハ護岸水制ヲ主トシ堤防修補浚渫工ヲ併セ施工シ年度内堤防修補十三箇所、浚渫一箇所、護岸水制二十四箇所延長八千二百十八米ヲ施工シ工費合計二十八萬二千四百三十圓ヲ支出セリ以下少シク施工ノ狀況ヲ述ベン

沼ノ上赤岩間ニ於テハ名和、島、仁手、男沼ノ各村地先堤防小修補延長六千九百二十五米ヲ施工シタル外秦村地先堤防修補ヲ前年度ニ續工竣成セシメタリ此區間ノ内沼ノ上以下妻沼ニ至ル間ハ利根川ノ急流部ナルヲ以テ護岸水制ニハ最モ力ヲ注ギ旭村山王堂地先舊水制頭部破損箇所ヲ鐵筋材方格枠ニテ修補シ一部竣成セシメ島村大字前河原地先護岸流失箇所ヲ法面ヲ石張ニ基礎ヲ鐵筋材沈枠ニテ修補シ尾島町

南前小屋地先堤外崩壞箇所ヲ鐵筋材合掌枠及沈枠床固水制ニ依リ修補シ前者ハ七分通、後者ハ四分通ヲ竣功セシメタリ

此他芝根、名和、旭、仁手、島、妻沼、大川、長井、永樂ノ各町村地先ハ何レモ水衝リ強キヲ以テ鐵筋材杭打上置鐵線籠又ハ鐵筋材合掌枠ヲ沈設シテ護岸水制ノ根固ヲ鞏固ニセリ

赤石境間ニ於テハ右岸大越村地先及左岸新郷村以下境町ニ至ル間ノ堤防ハ零米五乃至一米沈下セルヲ以テ嵩置ヲ施工シタル外佐貫村君、原道、栗橋ノ各町村地先ニ於テ馬踏ノ嵩置ヲ施工スルト共ニ堤防法線ノ不陸ヲ一部匡正セリ

其他千江田、大個野、西村地先舊石張護岸ヲ修補セル外佐貫村地先ニ於テ石張柳籠護岸ヲ新設シ前年度起工ニ係ル江口及村君地先水制ヲ續工セル外堤脚保護ノ爲メ新ニ富永、川俣、梅島、大個野、利島ノ各村地先及水路匡正ノ爲メ村君、大越、大個野、及川邊ノ各村地先ニ各水制修補ヲ施工シ五霞村地先ハ掘鑿工事ノ進捗ニ伴ヒ既設水制ノ根固ヲ施工セリ低水路維持ニ關シテハ五霞、香取、靜及境各町村地先ニ於テ鐵筋材杭打上置等ニ依リ五箇所ヲ修補セリ

境、取手間ニ於テハ境、森戸、長須、旭ノ各村地先堤防滲透湧水セルヲ以テ川裏堤脚附近ニ杭打及土盛ヲ施工シタル外木間ヶ瀬、福田、森戸ノ各村地先堤防ノ嵩置ヲ施工セリ

此區間ニ於テハ努メテ低水路ノ維持匡正ヲ計リ猿島以下森戸、大野、高野、稻戸井、關宿、田中、富勢、我孫子ノ各町村地先ニ於テ鐵筋材杭打上置等ニ依ル水制修補ヲ施工シ鬼怒川合流口ニ於ケル杭柵一部流失箇所ヲ鐵筋材杭打上置ニテ修補セリ其他二川村地先ハ護岸前面ノ深掘防止ノ爲メ福田村、木野崎地先ハ堤脚保護ノ爲メ何レモ合掌枠ヲ沈設シ川間村地先低水護岸ハ其一部破損セルニ依リ單床ヲ設置シ石張ノ張替



ヲ施工セリ

江戸川部内ニ於テハ著手後日淺ク僅ニ材料購入及關宿閘門管理ヲ施工セシニ過ギズ  
 渡良瀬川部内ニ於テハ藤岡新川上流部ヨリ本年度ヨリ併セ施工スルコト、ナリシモ著手後日尙淺カリシ  
 爲メ僅ニ西岡地先護岸修補ヲ施工セルノミ

下流部ニ於テハ藤岡町篠山地先游水地周圍溪間締切堤著シク沈下セルヲ以テ相當嵩置ヲ施工シ竣功セ  
 シメ藤岡新川低水路落口護岸ハ激流ノ爲メ既設床止及兩岸法石張根固捨石流失セルヲ以テ之ヲ修補シ  
 殆ンド竣功セシメ又前年度起工セル游水地内低水路護岸修補工事ヲ續工竣功セシメ古河町地先改修事  
 務所構内堤塘ニ存置セル木造通路閘門ハ相當歲月ヲ經テ腐朽セルヲ以テ鐵筋混凝土構造ニ改造スルコ  
 ト、シ基礎工事及本體鐵筋組立ノ一部ヲ施工シ未竣功ニ終レリ而シテ上下流ニ於ケル本年度ノ工程ハ  
 築堤土量二千八百四十七立方米、護岸水制延長三百五十米ニシテ工費七千九百三十二圓ヲ支出セリ  
 利根、渡良瀬兩川維持工事ノ本年度竣功額四十四萬二千九百九十九圓ニシテ起工以來ノ累計ハ百三十萬八  
 千三百三十二圓トナリ既定豫算五百八十七萬四千八百圓ニ比較スルトキハ二割二分ノ竣功ニ當レリ左  
 ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ表中「▲」ハ工事關係町村提供勞力「△」ハ製作品價額

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
	立方米 一四四、七九九	一〇四、四五一 四、五〇〇	立方米 三一〇、四三五	一、一三、六八三 五、一五〇	立方米 四五五、二三四	二一八、三〇四 九、六五〇	
築堤	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
	立方米 五七、七一二	二一、九五四	立方米 八五八	八五八	立方米 五七、七一二	二一、八一二	
護岸	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
	米 二九、四〇四	五三七、六六七	米 一〇、三二八	二二六、八八四	米 三九、七二二	七七四、五五一	

更ニ前表竣功額ヲ各改修別ニスレバ左表ノ如シ

第二期改修

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費		三一、二七一		一一、一〇八		四三、三五七	
測量費		九、四一八		三、六九六		一三、一一四	
營業繕費		一一、八一三		八、三八七		二〇、二〇〇	
雜費		一四四、〇九七		六三、七四一		二〇七、八三八	
共濟組合給與金		五、五六二		二、七六四		八、三二六	
總計		八六六、一三三 四、五〇〇		四四二、一九九 五、一〇一 〇五〇		一、三〇八、三三二 九、六五〇 一〇一	〇・三二

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	立 方 米	一六、三三九	立 方 米	一〇、七八九	立 方 米	二七、一二八	
工事浚		九二、六〇六		五〇、二六四		一四二、八七〇	
費護岸水制	米	九、七六一	米	八、〇二五		一七、七八六	
船舶及機械費		三、二一四		一、六九五		四、九〇九	
測量費		四、二九八		五八三		四、八八一	
營業繕費		五、六八四		二、三三三		七、〇一三	
雜費		一、七七八		九一八		二、六九六	
共濟組合給與金		一七九、六八〇		九五、六〇三		二七五、二八三	
總計		二八二、八二九		一〇七、六四〇		三九〇、四六九	

第三期改修

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	104,684 <small>立方</small>	74,540 <small>円</small>	282,948 <small>立方</small>	101,686 <small>円</small>	387,632 <small>立方</small>	176,228 <small>円</small>	176,228 <small>円</small>
工事深	40,912	15,494	8,218	858	49,130	16,352	
費護岸水制	24,349 <small>米</small>	383,045	8,218 <small>米</small>	179,886	32,567 <small>米</small>	562,931	562,931
船舶及機械費		21,388		3,557		24,945	
測量		3,258		1,562		4,820	4,820
營業繕		7,005		4,792		11,797	
雜費		78,943		35,282		114,225	114,225
共濟組合給與金		3,204		1,668		4,872	
總計		586,879 <small>円</small>		329,291 <small>円</small>		916,170 <small>円</small>	

江戸川改修

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
雜費				2,533 <small>円</small>		2,533 <small>円</small>	2,533 <small>円</small>
共濟組合給與金				61		61	
總計				2,594		2,594	

# 渡良瀬川改修

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤	20,826 <small>立方米</small>	13,570 <small>円</small>	2,847 <small>立方米</small>	1,208 <small>円</small>	23,673 <small>立方米</small>	14,778 <small>円</small>	
工事深	16,800	6,460			16,800	6,460	
費護岸水	2,338	62,016	350 <small>米</small>	6,734	2,588 <small>米</small>	68,750	
船機		22		604		626	
測機		2,946		439		3,385	
營繕		510		3,012		3,522	
雜費		13,470		2,597		16,067	
共濟組合給與金		580		117		697	
總計		99,574		14,711		114,285	

# 第三章 砂防工事

## 第一 淀川流域砂防工事

(大阪土木出張所)

### 緒言

本工事ハ明治十一年度ヨリ引續キ施行シ來リシガ同四十年年度ヨリ十箇年度繼續事業トシ毎年工費三萬圓ヲ以テ施行スルコト、ナリ其後兩度ニ之ヲ追加延長シテ昭和四年度ニ至ル二十三箇年度ノ繼續事業トシ總工費六十九萬圓ヲ以テ施行ノコトニ改マレリ其區域ハ京都、滋賀、三重及奈良ノ一府三縣ニ互レリ

### 施工狀況

本年度工費ハ既定年割額三萬圓ヲ以テ從來ト同様豊原(奈良縣)下田上及雲井(滋賀縣)伊賀(三重縣)ノ四工場ニテ施行シ年度内竣功セル兀崩面積新設十四ヘクタール七八七ニシテ之レニ對スル本工事費二萬二千九百二十五圓(一アール平均約十五圓五十錢)修繕三百三十三圓、合計二萬三千二百五十八圓ニシテ其縣別ハ左表ノ如シ

種別	滋賀	三重	奈良	合 計
新設工事	一三二二三 <small>円</small>	五六四三 <small>円</small>	四〇六九 <small>円</small>	二二、九二五 <small>円</small>

種別	滋賀		三重		京都		奈良		良		合計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
修繕工事		二六〇 円									三三三三 円
總計		一三、四七二			五、六四三				四、一四二		二三、二五八

今明治四十年度以降直接工事ニ支出シタル金額ヲ掲グレバ五十三萬二千四百三十圓ニシテ之レヲ關係府縣ニ區別スレバ左表ノ如シ

種別	滋賀		三重		京都		奈良		合計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
新設工事	二八七、五六九 円		八八、五九九 円		七〇、五七八 円		四五、二三五 円		四九一、九八一 円
修繕工事	三七、〇七四		二、〇六〇		九五三		三六二		四〇、四四九
總計	三二四、六四三		九〇、六五九		七一、五三一		四五、五九七		五三二、四三〇

起工以來本年度迄ニ竣功シタル總金額ハ六十萬六千四百十三圓ニシテ總工費六十九萬圓ニ比シ八割八分ニ當ル其内譯ヲ示セバ左表ノ如シ但シ筋工、藁工ニハ手入費ヲ含ミ苗木植付ニハ補植費ヲ含ムハ寄附ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
積苗	二、〇一七、六四三 米	二六〇、七七三 円	三、八、四九三 米	一〇、七五一 円	二、〇五六、一三六 米	二七一、五二四 円	割分
積石	一五六、三七四 立方米	二五、三六五	三、八〇二 立方米	二、四〇二	一六〇、一七六 立方米	二七、七六七	
崖切	二六四、四四二	二八、七七四	四、七〇九	八七三	二六九、一五一	二九、六四七	

總計	本工事費													
	堰堤	護岸	床固	石垣	筋工	藻工	苗木	柴石	堰堤	積苗	積石	崖法	護岸	床固
	一四、三七八	二、三七七	二、二七七	九、六二五	七五、四一四	二六〇、〇二一	一四、九三二	六、〇五六	一、三一七	六二、一二二	二、八一七	二四、九五五	一、九九九	一、〇六一
	一、二五〇〇	四、九二六	八、二五四	八、八四六	八、四〇二	七、〇〇六	一一六、二七〇	四七六	二、五七九	八、九二六	一、二五三	九〇六	五二	四七四
	一、九〇	一、一五					一九二、三〇〇	三、〇〇〇						
	三四四	三三二					二、七三二	四八七						
	一四、五六八	二、三九二	二、二七七	九、六二五	八四、五三〇	二六〇、〇二一	一五、二二四	九、〇五六	一、三一七	六二、一二二	二、八一七	二四、九五五	一、九九九	一、〇六一
	一、二、八四四	四、九五八	八、二五四	八、八四六	一〇、〇三四	七、〇〇六	一一九、〇〇二	九六三	二、五七九	八、九二六	一、二五三	九〇六	五二	四七四
	一、〇八八						一四六	六五						
總計	五七六、二四六	三〇、一六七	一〇、九一四				二、七三二	四八七						
	六〇六、四一三													
	〇・八八													

## 第二 富士川流域砂防工事

(東京土木出張所)

### 緒言

本工事ハ明治四十四年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十九箇年度繼續事業トシ毎年度工費七萬五千圓總工費百四十二萬五千圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ其後既定工費ヲ百四十萬一千圓ニ改メ同時ニ年割額ヲ變更シ且施行年限ヲ二箇年度延長シ昭和六年度迄ニ施行スルコト、ナレリ其區域ハ富士川支流笛吹川小支日川筋及釜無川支流御勅使川筋ニ施行スルモノトス

### 河狀竝計畫大要

日川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡ト北都留郡トノ境界ナル大菩薩嶺標高二千五十九米ニ發シ流域面積百八平方料、流路延長二十八料ニシテ勝沼町ノ下流約四料ノ箇所ニテ笛吹川ニ合流スル急勾配ノ河川ナリ水源ヨリ勝沼町地先祝橋迄二十一料ノ間ハ山間部ニ屬シ兩岸概ネ岩盤ヲ露出シ河幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ尙約三十分ノ一ナリトス祝橋以下笛吹川合流點ニ至ル六料ノ間ハ平地部ニ屬シ河幅廣ク水面勾配四十分ノ一以下ナルヲ以テ上流ヨリ流下セル土砂石礫ハ此部内ニ堆積シ水流ハ亂流シテ輕鬆ナル兩岸ヲ衝キ漸次河幅ヲ擴大セントスル傾向アリ明治四十年八月ニ於ケル大水害ノ際ハ本川流域山地ニ數百箇所ノ崩壞ヲ生ジ多量ノ土砂ヲ流下シ強大ナル土石流ヲ起シ勝沼町地先ニ於テハ重量十噸以上ノ大轉石ヲモ移動シ亂流ハ兩岸ノ高地ヲ崩壞シ沿川各地ニ甚大ナル損害ヲ與ヘタリ



依テ先ヅ祝橋上流一籽一、下流一籽九、計三籽間ノ左右兩岸ニ多數ノ水制ヲ施設スル外法線内ノ浚渫ヲ行ヒ水路ヲ一定シ河岸ノ崩壞ヲ防止シ尙上流十數箇所ニ堰堤ヲ築造シ土石ノ流下ヲ防止スルモノトス御勅使川ハ駒ヶ嶽ヨリ南ニ連亘スル山脈中辻山(標高二千五百八十五米)大崖頭山(標高二千八百八十六米)等ノ連峯ヲ分水界トシトノコヤ峠附近ヨリ其主流ヲ發シ流域面積八十五平方籽、流路延長十九籽ニシテ釜無川ニ合流スル急勾配ノ河川ナリ

水源ヨリ中巨摩郡源村大字駒場地先迄約十二籽間ハ山間部ニ屬シ兩岸概ネ岩盤ヲ露出シ河幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ尙約三十分ノ一ナリトス之レヨリ以下釜無川合流點ニ至ル七籽ノ間ハ平地部ニ屬シ河幅急激ニ擴ガリ甚ダシキハ七百米ニ及ビ上流ヨリ流下スル多量ノ土石ハ此部分ニ堆積シ河床ハ沿岸ノ田畑ニ比シ遙ニ高ク亂流ハ屢々堤防ヲ破壞シ沿川各地ニ多大ノ損害ヲ與ヘ縣下ニ於ケル難治第一ノ荒廢河川ナリトス

河狀如斯ナルヲ以テ山間部幹支川ノ適當ナル位置ニ數箇所ノ堰堤ヲ築設シ土石ノ流下ヲ扞止スルト共ニ河床ノ低下、岸腹ノ決壊ヲ防止セントス

## 施工狀況

本工事ハ明治四十四年度ヨリ著手シ大正五年度迄ハ主トシテ日川筋勝沼町以下ヲ施工シ此期間ニ水制七十四箇所、護岸一箇所、堰堤一箇所及低水路掘鑿約二十四萬立方米ヲ完成セリ其結果水流ハ一定ノ法線内ニ集リ河床ハ漸次低下シ約三十二ヘクタールノ石河原ハ豐饒ナル田畑ト化スルニ至リ極メテ良好ナル結果ヲ收ムルヲ得タリ依テ同川ノ工事ハ一時之ヲ打切り其後ハ修補工事ニ止メシガ同九年度ニ至リ

曩ニ施工セル區域ノ上流ニ於テ鶴瀬、駒飼、横吹、長垣、矢方平ノ各堰堤ヲ起工シ前年度迄ニ各其本堰堤ヲ完成スルコトヲ得タリ

御勅使川筋ハ同五年度ヨリ中巨摩郡蘆安村及源村地先ニ於テ起工シ前年度迄ニ蘆安、源、御庵澤、桃木、桃木上流、藤尾、沓澤、沓澤上流ノ各堰堤及源床固、源堰堤増設工事ヲ竣功セシメタリ

左ニ本年度施工ノ概況ヲ述ベシ

日川筋ニテハ大正十三年度ノ起工ニ係ル矢方平堰堤ヲ前庭保護ノ爲メ捨石ノ追加ヲ行ヒ築立立積二千五百四立方米ヲ竣功セシメ前年度起工ニ係ル水野田堰堤ハ之ヲ續工シテ九百九十四立方米ヲ施工シ本副兩堰堤ノ築立ヲ終了セリ又同堰堤ノ下流三百四十九米ノ箇所ニ築造スル丸林堰堤ハ本副兩堰堤ヨリ成リ高十米、築立立積二千三百八十八立方米ニシテ本年度起工シ約七百立方米ノ築立ヲ施工シ三分通竣功セリ又曩ニ勝沼町地先ニ施工シ奏功充分ナリシ水制工モ累年ノ洪水ト不斷ノ洗掘トニ依リ頭部根固、木工沈床ノ腐朽流失セルモノアリシニ依リ本年度冬期ニ於テ左岸第十四號及第三十五號ノ二箇所ニ根固トシテ鐵筋混凝土方格柵ヲ沈設スルコト、シ前者ハ竣功セシモ後者ハ未竣功ニ終レリ

御勅使川筋ニテハ大正十三年度ノ起工ニ係ル蘆安堰堤増設工事ハ大正十五年十一月ニ至リ上部拱形堰堤ノ築立ヲ終了シ直高十一米一、築立立積二千八百二十九立方米ヲ竣成セリ

又同川左支御庵澤ノ左小支唐澤ニ於テ混凝土擁壁ノ法留護岸ヲ起工セシモ未竣功トナレリ

本年度竣功額ハ五萬二千七百七十圓ニシテ起工以來ノ累計八百十萬九千九百五十一圓トナレリ之ヲ總工費豫算百四十萬一千圓ニ比較スル時ハ七割九分ノ竣功ナリトス左ニ工事竣功表ヲ掲グ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
本 工 事 費 用	竣功 二六五、〇四七 未竣功 一六〇	六七、二五八 円	未竣功 一 未竣功 六一	三、五四四 四〇、〇四四	二六五、〇四七 七六 一六	六七、二五八 円
工 事 費	竣功 七六 未竣功 一六〇	二二二、七二一 五八九、〇六九	未竣功 一 未竣功 六一	三、五四四 四〇、〇四四	七六 一六	二二二、七二一 五八九、〇六九
測 量 費		八、〇〇八		一〇〇		八、〇〇八
船 舶 及 器 械 費		三七、五九一		三四四		三七、五九一
營 繕 費		一一、五六三		一四三		一一、七〇六
雜 費		一〇七、七九五		八、二三八		一一六、〇三三
共 濟 組 合 給 與 金		九三四		三五七		一、二九一
退 職 手 當		五九				五九
總 計		一、〇五七、一八一		五二、七七〇		一、二〇九、九五二
						〇・七九



總計	本工事費雜								
	積苗	木植	粗朶	根朶	筋朶	堰固	崖切	積石	
	四三四 米	七五八、六九二 本	八二三 箇所	五二	平方 米	一一、八七六 米	四〇五 平方 米	二六、〇〇一 立方 米	七五、六五九 米
六〇、一七四	二二、〇五二	一一、三九八	一三八	七四	一、七三三	一、〇七一	二、六二五	一九、九八〇	四
	一〇三	三二、四〇〇 本			二、一五八 米		一〇〇	三、九四九 米	
五、八一〇	三、七四三	六九八			二五〇		三七	一、〇八二 四	
	四三四 米	七九一、〇九二 本	八二三 箇所	五二	平方 米	一四、〇三四 米	四〇五 平方 米	二六、〇〇一 立方 米	七九、六〇八 米
六五、九八四	二五、七九五	一三、〇九六	一三八	七四	一、九八三	一、〇七一	二、六二五	二一、〇六二	四
一〇三							三七		
〇、六九									四 分

## 第四 大谷川流域砂防工事(利根川支川 鬼怒川小支)

(東京土木出張所)

### 緒言

本工費ハ大正六年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ總工費三十九萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ其後諸物價騰貴ノ爲メ大正八年度以降三回ニ亙リ二十七萬四千五百圓ヲ増額シ總工費ヲ六十六萬四千五百圓ニ改メ施行年限ヲ二箇年度延長シ昭和六年度迄ニ施行スルコトナレリ其區域ハ栃木縣上都賀郡日光町大谷川流域ニシテ起工以來前年度迄ハ其支流稻荷川筋ニ施工シ來リシガ本年度ヨリ新ニ支流荒澤筋ニ施工ヲ開始セリ

### 河狀並計畫大要

稻荷川ハ其源ヲ日光町ノ北部女峰山及赤薙山ニ發シ幾多ノ溪流ヲ合セ神橋ノ下流約三百米ノ箇所ニ於テ大谷川ニ合流ス流路延長八粁五、流域面積九平方粁アリ平均水面勾配十分ノ一強ニシテ大谷川合流點ニ於テモ尙十三分ノ一ノ急勾配ヲ示セリ流域山地ハ地質極メテ軟弱ナルト地勢急峻ニシテ林相粗ナルニ加ヘ屢々豪雨アルヲ以テ山地ハ歲ト共ニ崩壞ノ度ヲ増シ出水ノ際ハ多量ノ土石ヲ流下シ時ニ土石流ヲ起シテ一個ノ大サ數十立方米ノ大轉石ヲ押流ス事アリ是等ハ下流川幅廣キ箇所ニ堆積スルヲ以テ河床ニハ轉石累々横タハリ流身變動シ亂流ハ兩岸ヲ侵蝕崩壞シ治水上多大ノ障害ヲ來シ本邦稀ニ見ル荒廢河川ナリトス依テ中流部ニ十數箇所ノ堰堤ヲ築設シ直接流下土石ヲ扞止スルト共ニ河床ノ低下ヲ防

止シ尙合流點附近ニ數箇所ノ床固付水制ヲ設ケ流身ノ矯正ヲ計ラントス  
荒澤ハ源ヲ小眞名子山(標高二千二米)ニ發シ女峰山、男體山等ヨリ發スル數多ノ溪流ヲ合セ大谷川ニ合流  
ス流路延長十一軒、流域面積二十四平方軒アリ水面勾配ハ稻荷川ニ比シ緩ニシテ大谷川合流點附近ニ於  
テ二十五分ノ一ナリ而シテ本川地質ハ稻荷川ノ如ク不良ナラズ裏見瀧(川口ヨリ二千七百米)以上ニハ瀑  
布多ク川床ハ殆ンド岩盤ヲ露出シ侵蝕作用甚シカラズト雖モ男體山ヨリ發スル溪流ハ其厚キ火山層ノ  
山腹ヲ侵蝕スルヲ以テ土石ノ流下ハ激甚ナリトス依テ適當ノ地點ニ數箇所ノ堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ  
扞止スルモノトス

## 施工狀況

本工事ハ大正七年度ニ於テ支川稻荷川筋ニ起工以來前年度迄ニ堰堤十五箇所(內未竣功)、床固四箇所(內未竣功)ヲ施工シ本年度ニ於テハ第十三日向兩堰堤竝ニ第三第四床固ヲ前年度ヨリ續工シ內十三堰堤及第  
三床固ハ竣功セリ  
之等施工ニ依リ荒廢稀ナル本河川モ河狀大ニ革マリ水害ハ殆ンド其跡ヲ絶ツニ至リシヲ以テ年度內新  
ニ第二ノ荒廢河川タル荒澤筋ニ施工ヲ開始シ大谷川合流點ヨリ上流四百八十米ノ箇所ニ高十一米、長六  
十米ヨリ成ル大久保堰堤ヲ起工シ年度內二分通リヲ竣功セシメタリ  
本年度竣功額ハ三萬五千九百六十六圓ニシテ起工以來ノ累計ハ四十二萬九千五十八圓トナリ之ヲ總工  
費豫算六十六萬四千五百圓ニ比スレバ六割五分ノ竣功ナリトス左ニ工事竣功表ヲ掲グ

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工	未竣功 未竣功	二七五、四六八 三九、四〇〇	未竣功 未竣功	二四、四七五 四、四五一	未竣功 未竣功	二九九、九四三 四三、八五一	割分
事費	三	二、五二七	一三	三〇二	一三	二、八二九	
測器		二二、四七六		七五六		二四、二三二	
營繕		八、八〇七		三七一		九、一七八	
雜費		四二、六〇二		五、三九一		四七、九九三	
共濟組合給與金		八一三		二二〇		一、〇三三	
總計		三九三、〇九二		三五、九六六		四二九、〇五八	〇、六五



## 第五 千曲川流域砂防工事 (信濃川上流)

(新潟土木出張所)

### 緒言

本工事ハ大正七年度ノ創業ニ係リ五箇年度繼續事業トシ工費豫算三十一萬四千百圓ニテ長野縣下千曲川及左支犀川兩流域ニ於テ急施ヲ要スル溪流ニ砂防工ヲ施スモノニシテ着手以來工事ノ進捗ニ努メ大正九、十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ工程ヲ舉ゲ得タリシニ因リ追加工事ヲ企テ工費三萬四千五百圓ヲ増額シ工費豫算三十四萬八千六百圓(内長野縣負擔額十一萬六千二百圓)ヲ以テ同十一年度ニ結了セシモ尙引續キ急施ノ箇所多キガ爲メ工費四十萬八千圓ヲ以テ同十二年度ヨリ昭和六年度迄九箇年度繼續事業トシテ續行スル事トナレリ總工費豫算七十五萬六千六百圓(内長野縣負擔額二十五萬二千二百圓)ナリ

### 施工狀況

横湯川ハ前年度ヨリ引續キ山腹石積、斷崖法切、積苗、筋工等ノ五工事ト新ニ着手ノ山腹石積三、石堰堤二箇所ヲ實施シ年度内ニ於テ山腹石積四、斷崖法切一箇所、積苗工七百五十三米、筋工四百五十五米、石堰堤二箇所ノ内一箇所ハ二分、他ハ八分通リ竣功セシメタリ

木澤ハ前年度ヨリ引續キ堰堤二箇所ト新ニ着手ノ堰堤一箇所、計三箇所ノ補修工事ヲ實施シ年度内ニ全部竣功セリ

八代澤モ亦前年度ヨリノ床止工ト新ニ着手ノ堰堤二箇所ノ補修ヲ爲シ何レモ年度内ニ竣功セシメタリ

岡田川、女鳥羽川及薄川ハ本年度モ亦専ラ山地ノ動静ヲ監視セリ本年度ニ於ケル竣功額ハ四萬四千八百十七圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ五十二萬七千六百九十四圓ナリ之レヲ總工費豫算額七十五萬六千六百圓ニ比スレバ七割ノ竣功ナリ其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩竣功合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
横湯川		一四九、五一三		二〇、九七六		一七〇、四八九	〇・九五
木澤川		四九、〇三〇		六、四四五		五五、四七五	〇・九〇
八代澤川		二〇、〇四〇		六、五五〇		二六、五九〇	〇・九〇
岡田川		九、〇一八				九、〇一八	一・〇〇
女鳥羽川		九〇、三九八				九〇、三九八	一・〇〇
薄川		八九、七三八				八九、七三八	一・〇〇
費用		二、六五三		一、二三〇		三、八八三	
用材運搬				四六		四六	
船舶及機械費		八九〇六		一、五一七		一〇、四二三	
雜費		六三、五一一		八、一二三		七一、六三四	
退職手当當		四七				四七	
總計		四八二、八五四		四四、八八七		五二七、七四一	〇・七〇

## 第六 神通川流域砂防工事

(新潟土木出張所)

### 緒言

本工事ハ大正八年度ノ創業ニ係リ九箇年度繼續事業トシ工費二十萬九千三十八圓ニシテ神通川上流岐阜縣下宮川及高原川流域ニ於テ急施ヲ要スル溪流ニ砂防工ヲ施行スルモノニシテ着手以來工事ノ進捗ニ努メ大正九十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ功程ヲ舉ゲ得タリシニ依リ追加工事ヲ企テ工費一萬八千九百圓ノ増額ヲ仰ギ總工費豫算二十二萬七千九百三十八圓(内岐阜、富山兩縣負擔額七萬五千九百八十圓)ヲ以テ昭和二年度迄ニ竣功セシムル豫定ナリ

### 施工狀況

本年度モ亦高原川筋六郎谷ノ一箇所ヲ施工セシノミナリ當地ハ山間ノ僻地ナレドモ他ノ砂防地ニ比シ氣候稍溫和且人口稠密材料ノ供給ニ便ナリ本年ハ冬期ヲ除キ天候順調ナリシヲ以テ意外ニ工程進ミタリ

六郎谷ハ前年度ニ引續キ上流本谷筋ニ石堰堤四個及床固石積工三個、谷止石積工六個ヲ築設シテ溪床ヲ固メ山腹ノ崩壞箇所ニハ石積ヲ爲シ凹凸著シキ箇所ハ切均シ之ニ芝萱筋植工、土羽積立、積芝工、苗木植付等ヲ施行シテ山腹ノ整正ニ努メ土羽積立工及木苗植付工ノ一部ヲ殘シ他ハ全部竣功セリ

桑谷及小豆澤ハ本年度モ亦山地ノ動靜ヲ監視セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ一萬八千六百十八圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ十九萬六千九百六十九圓ナリ之ヲ總工費豫算二十二萬七千九百三十八圓ニ比スレバ八割六分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工		四九、七七八		一五、二二六		四九、七七八	一〇〇分
桑谷、小豆澤		九九、二一二		一五四		一一四、四三八	
事費		四、一五四		三、二三八		四、三〇八	一〇〇分
六郎谷		二五、二〇七		一八六、一八		二八、四四五	
船舶及器械費							一〇〇分
雜費							
總計		一七八、三五一		一八六、一八		一九六、九六九	〇・八六

六 神通川流域砂防工事

表十七 竣功表

## 第七 常願寺川流域砂防工事

(新潟土木出張所)

### 緒言

常願寺川ハ富山縣屈指ノ大河ニシテ水利ノ恩惠ヲ受クルコト甚大ナリ然ルニ其水源地タル立山々脈ハ安政年間ヨリ荒廢シ逐年砂礫ノ流出夥シク下流沿岸ノ被害亦甚ダシキニ依リ同縣ニテハ國庫ノ補助ヲ仰ギ工費百十三萬一千餘圓ヲ投ジ明治三十九年度ヨリ大正十一年度迄繼續事業トシテ銳意砂防工事ニ努メ殆ンド完成ノ域ニ達セシニ偶々大正十一年七月ノ豪雨ニ際會スルヤ十七箇年度間ニ施行セシ前記工事ハ根底ヨリ破壞セラレ益工事ノ至難トナリシニ依リ大正十五年度ヨリ昭和九年度ニ至ル九箇年度繼續事業トシ總工費二百七十三萬六千圓(内富山縣負擔九十一萬二千圓)ヲ以テ直接施行スルコト、ナレリ

### 河狀並計畫大要

常願寺川ハ源ヲ富山縣藥師ヶ嶽標高二千九百二十六米及立山標高二千九百九十二米ニ發シ上瀧町附近ニ至リ平野ニ出デ上新川、中新川兩郡界ヲ貫流シテ日本海ニ注グ其流路延長五十六軒餘平坦部ヲ流ル、コト漸ク十九軒餘ニ過ギザルモ此間灌溉ノ利潤夥シク灌溉面積一萬二千五百ヘクタールニ及ブ而シテ本川ノ平坦部ハ往古河幅漸ク二百米内外ニシテ堤防ハ僅カニ點在スルニ止マリ流身深ク自然ノ護岸ニ依リテ容易ニ沿岸ヲ保護シ得タリ然ルニ安政五年二月二十六日午前二時頃越前、越中兩國ノ大地震ニ因リ本川水源地タル大鷲山(標高二千三百米)小鷲山ニ崩壞ヲ生ジ之ガ爲メ河狀著シク變化シ逐年砂礫ヲ押流シ下流川幅廣キ箇所ニ堆積シテ流身ノ變動ヲ招ク亂流ハ沿岸ヲ缺損シ治水上種々ノ障害ヲ惹起シツ

ツアリ故ニ本川ニ對シ徹底的ニ工事ヲ施工センニハ極メテ多額ノ工費ヲ要スルニ依リ差當リ本川上流部ニ於テ堰堤ヲ設ケ川床ノ低下ヲ防グト同時ニ流下土石ヲ扞止スルモノトス而シテ其計畫ハ湯川本流中唯一ノ岩盤露石セル箇所ニ一大堰堤ヲ施設シ以テ兩岸山腹ノ崩壊ヲ防止スルト共ニ多量ノ土石ヲ堆積セシメ河床ノ一定勾配形成ヲ待チテ其上流ニ順次十數個ノ堰堤ヲ設置シ白岩ヨリ立山温泉下流部ニ至ル湯川本流筋ノ崩壊ヲ治メ又最モ荒廢セル出シ原ニ對シテハ同溪流ト湯川本流トノ合流點ニ設クル堰堤ヲ基礎トシテ之レ亦數箇所ノ堰堤ヲ設置セントスルモノナリ

### 施工狀況

本工事ハ大正十五年五月ヨリ諸般ノ準備ヲ整ヘ同年六月十八日立山温泉場ニ事務所ヲ設置シ專ラ施工地ノ測量ニ着手スルト共ニ藤橋ヨリ上流水谷ニ至ル約十二軒ノ區間ニ最大勾配二十分ノ一路幅約二米ノ工事材料運搬道路工事ヲ實施シタリ  
本年度ニ於ケル竣功額ハ十三萬六千三百七十二圓ニシテ之レヲ總工費二百七十三萬六千圓ニ比スレバ五分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
用地費							
船舶及機械費				四四、三三〇		四四、三三〇	
雜費				九二、〇四四		九二、〇四四	
總計				一三六、三七二		一三六、三七二	〇・〇五

## 第四章 港灣改良工事

### 第一 關門海峽改良工事

(下關土木出張所)

#### 緒言

本工事ハ關門海峽整理ノ第一期工事トシテ當初一千二百萬圓ノ工費ヲ以テ明治四十三年度ニ起工シ十箇年度間ニ竣功セシムル豫定ナリシモ財政ノ都合ニ依リ繼續費トセズ同年度以降大正四年度ニ至ル迄八年々所要豫算額ヲ要求シ工事ヲ施行シ來リ其額合計三百七十四萬圓ニ達セシガ大正五年度ニ至リ四百三十六萬圓ノ豫算ヲ以テ同年度以降十二年度ニ至ル八箇年度ノ繼續事業ト定メ次デ大正八年度ニ於テ海底電線移設費及同年度以降十一年度迄ニ於テ物價騰貴ニ依ル不足額ヲ追加シ合計一千三十六萬圓トナリ大正十二年度ニ至リ更ニ豫算總額ヲ一千三百七十六萬圓ニ増額シ工期ヲ大正十五年度迄延長シ超エテ大正十四年度ニ至リ事業繰延ノ爲メ更ニ工期二箇年度ヲ延長シ竣功期限ヲ昭和三年度トスルコト、ナレリ

#### 港狀並計畫大要

關門海峽ハ本邦ニ於テ最モ須要ナル航路ノ一ナレドモ幅員狹隘不規則ニシテ且潮流強ク然モ岩礁諸所ニ散在スルヲ以テ航海者ノ常ニ最モ困難ヲ感ズル所ナリ加之輓近通航船舶ノ増加及船型ノ増大ハ益々

困難ノ度ヲ高メ且一面關門兩港ニ於ケル泊地モ亦狹隘ヲ感ズルコト切ナルノミナラズ尙内外貿易ノ發展ニ伴ヒ益々之ガ改良ノ急ヲ促スニ至レリ本海峽ハ將來ヲ慮リ充分ナル計畫ヲ樹テ之ガ改善ヲ圖ラムニハ海峽内ノ航路ヲ水深十一米以上ニ浚深シ其幅員ヲ少クトモ六十米乃至百米トシ關門兩港内モ九米乃至十一米ノ水深ヲ保タシメ又岸壁其他港灣トシテノ設備ヲ完フスル要アルベキモ其工費ハ頗ル多額ニ上ルベク且一舉是等ノ工事ヲ遂行スルノ必要ナルベキニ依リ先以テ第一期工事トシテ本工事ヲ起シ他ハ漸ヲ追テ施行スルコト、セリ

本工事ハ周防灘ヨリ六連島ニ通ズル航路ノ改良及海峽内泊地ノ擴張ヲ施行セントスルモノニシテ航路ノ改良ニ在リテハ海峽東口部埼沖ヨリ西口塵寄洲ニ至ル十一湮間ヲ幅員五十米乃至百米平均八十米ニ規定シ水深十米ヲ保タシムル爲メ浚深及除礁工事ヲ施行シ又周防灘ヨリ部埼沖ニ至ル通路約二湮間ハ幅員六十米水深九米ニ浚深セントス又泊地ニ關シテハ門司前面ニ於テ水深十米以上ノ水面積百三十二萬平方米ヲ得下關側ニ在リテハ停車場前面ニ於テ若干ノ浚深ヲ施シ三十三萬平方米ノ水面ヲ得ンガ爲メ浚深工事ヲ施行スルモノトス

## 施工狀況

本工事ハ起工以來既ニ十七箇年ノ星霜ヲ經工事ノ大體ハ既ニ竣工シ全然未着手箇所トシテハ點々殘存セル小區域ノミナリトス本年度ノ功程ハ

土砂浚深

員數 三十一萬四千四十立方米

施行箇所 部埼沖、小横瀨、門司港、下關沖、彦島沿岸



碎岩

員數	五萬四千八百五十二立方
施行箇所	金伏瀬、與次兵衛瀬、尼ヶ瀬、狙瀬、大連出

碎岩浚渫

員數	十九萬一千七百三十立方
施行箇所	金伏瀬、小横瀬、與次兵衛瀬、尼ヶ瀬、大里沿岸、狙瀬、高瀬、六連出

ニシテ各箇所別ニ工事ノ概況ヲ摘記スレバ左ノ如シ

門司港ハ大正八年度ニ大部分ヲ干潮面以下八米五乃至九米一ニ浚了シタルガ本年度迄ニ更ニ之ヲ十米ニ浚功セシメタル外本年度ニ於テハ門司鐵道棧橋沖ヨリ門司稅關沖合ニ至ル狹長ナル未着手區域ノ内面積約一萬九千四百七十平方米ヲ浚了セリ斯テ總面積百三十二萬平方米ノ廣キニ互レル本港ノ浚渫區域ハ殆ンド浚功シ未竣功部トシテハ前記未着手區域ノ殘部面積僅々九百九十平方米アルニ過ギザルニ至レリ

下關沖ハ下關市岬町沖合ニ於テ法線ニ沿ヒ航路内ニ存スル帶狀ノ砂洲ニシテ總面積四萬二千九百餘平方米ノ内九千九百平方米ハ前年度ニ殘部ハ本年度ニ竣功セシメタリ

大里沿岸ハ大里側法線ニ沿ヒ帶狀ヲ爲シテ東西ニ繋ガレル狹長ノ區域ニシテ中央ニ尼ヶ瀬ト稱スル小岩礁アルモ他ハ概シテ砂礫ノ混入多キ土砂ヨリ成ルニシテ中央ニ尼ヶ瀬ハ岩質極メテ硬ク年々極力除礁作業ニ努メ居レドモ今猶ホ僅少ノ未竣功部存スニケ瀬以西ハ前年度迄ノ作業ニ依リ全部竣功セルヲ以テ本年度ハ同瀬以東ノ區域中先年碎岩船ヲ用ヒテ地盤ノ緊縮ヲ緩メ置キタル部分ニ於テ面積約一萬二千二百平方米ノ浚渫ヲ行ヒ内六千六百平方米ヲ計畫深度ニ殘餘ヲ七米六乃至九米一ニ達セシメタリ

彦島沿岸ハ彦島町田ノ首附近ノ法線ニ沿ヒ東方山底ノ鼻沖ヨリ西方大山ノ鼻沖ニ互ル區域ニシテ其中

ニ鳴瀬ト稱スル岩盤及俎瀬ト稱スル岩盤又ハ硬土盤ヨリ成ル部分アリ是等ノ部分ニハ碎岩船ヲ作業セシメテ岩盤ハ之ヲ破碎シ硬土盤ハ其緊縮ヲ緩メタル後浚漑シ前年度迄ニ鳴瀬ハ全部俎瀬ハ大部分竣功シ其他ノ部分ハ概ネ小石交リ貝殻又ハ軟粘土ヨリ成リ浚漑容易ニ行ハレ前年度迄ニ大部分竣功セリ本年度ニ於テハ專ラ俎瀬ノ殘礁除却ニ努メ未竣功面積約三萬三十平方米ヲ殘スノミトナレリ

高瀬ハ大里沿岸ノ西ニ連ナル岩礁ニシテ前年度迄ニ大部分竣功シ本年度ノ作業ニ依リ更ニ竣功面積約五萬九千四百平方米ヲ増シ未竣功部ハ極メテ僅少トナレリ

六連出ハ高瀬ノ西ニ位スル砂洲竝ニ硬土盤ニシテ前者ハ先年全部竣功シ後者ハ年々一部分宛竣功セシメ來リ本年度ニ於テ面積一萬一千八百八十平方米ヲ浚了シ殘部ハ甚ダ狭少トナレリ

小横瀬ハ長府町字前田沖ニ於テ法線ニ沿ヒ帶狀ヲ爲シ長ク東西ニ連ナル區域ナリ土質ハ大部分硬粘土、一部岩盤ヨリ成ルヲ以テ多クハ碎岩船ヲ作業セシメタル後浚漑ヲ行ヒ計畫區域ノ四割面積約二萬六千四百平方米ヲ浚了セリ

金伏群礁ハ長府町字前田沖ノ航路ニ接近シテ孤立點在スルハゲノ瀬、スキアガリ瀬、野山瀬、高芋瀬、細瀬、金伏瀬等ノ總稱ナリ何レモ硬質ノ岩礁ニシテ作業甚ダ困難ナリシガ逐年除去シテ殘存スルハ唯金伏瀬ノミナリ

金伏瀬ハ元金伏桂燈立標ノ設置シアリシ所ニシテ同標移轉後其跡ニ汽船大正丸擱坐シ一時作業中止ノ已ムナキニ至リシガ同船ノ解體除却ノ終ルヲ待チテ再ビ作業ヲ開始シ爾來銳意工事ヲ進メ目下僅ニ貓額ノ小區域ヲ殘スノミトナリ其水深モ最小九米九ヲ算スルニ至レリ

部埼沖ハ本年度初メテ着手シ其一部ヲ水深九米ニ浚漑セリ

本年度竣功高ハ四十七萬五千九百七十二圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ一千百九十二萬八千六百三十二圓ヲ算シ既定工事豫算高一千三百一十一萬二千十一圓ニ對シ九割一分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「△」ハ評價品見積價額ナリトス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
埋立及護岸費	立方米 一三、五一九三六二	△ 三九九、九二五 三九、〇六五	立方米 五六〇、六二二	△ 一、五三六 六〇	立方米 一四、〇七九、九八四	△ 四〇一、四六 三九、一二五	〇・九一
浚渫費	△	四、一九二、七〇二	△	二九一、一八六	△	四、四八三、八八八	〇・九二
船舶及機械費	△	六、四二七、四九四	△	一六一、二八	△	六、五八八、六二二	
測量及檢潮費	△	一二九、五一一	△	四九一	△	一三一、〇〇二	
海底電線移設費	△	一六五、一〇四	△	一一、五三六	△	一七六、六四〇	
營業繕費	△	九、五九八	△		△	九、五九八	
雜費	△	四六、三三七	△	一一、一三	△	五七、四五六	
共濟組合給與金		一四、九〇八				一四、九〇八	
臨時手当		二九、七五二		九、四七三		三九、二二五	
總計		△ 一、四五二、六六〇 五一五、六三二		△ 四七五、九七二 一、七一八		△ 一、九二八、六三二 五一七、三五〇	〇・九一

## 第二 鹽釜港修築工事

(仙臺土木出張所)

### 緒言

本工事ハ大正元年十一月宮城縣ニ於テ修築工事施行ノ認可ヲ得テ起業シタルモノニシテ總工費三百四十五萬圓ヲ以テ大正三年度ヨリ工事實施中ナリシガ同六年度ヨリ本省ニ於テ直接施行スル事トナリ即チ同年度ヨリ豫算額二百九十三萬三千圓ヲ以テ同十一年度迄ノ繼續事業トシテ施行中同十一年度ニ道路費ノ内ヘ三萬圓ヲ増額シ又歐洲大戰亂以來物價騰貴ノ影響ヲ受ケ工費ニ不足ヲ來セルニ依リ同十二年度ニ二百五十萬圓ノ増額ヲ行ヒ竣功年度ヲ同十八年度ニ延長セシガ同十二年九月帝都及其附近ニ未曾有ノ大震災起レルガ爲メ國庫財政ノ都合上更ニ一箇年度ヲ繰延ベ竣功期限ヲ同十九年度(昭和五年度)ト決定セリ

### 港狀並計畫大要

本港ハ仙臺市ノ東方約十六軒松島灣ノ西南隅ニ位シ西北南ノ三面ハ殆ド丘陵ヲ以テ圍繞セラレ僅カニ東方松島灣ニ面ス港内水面狹ク市街地小ナリト雖モ本港ハ古來水陸交通ノ衝ニ方リ鐵路運河ノ便ヲ有シ水陸ノ聯絡稍良好ナリトス港内四時平穩ナルモ水深頗ル淺ク又松島灣ハ背後ニ山脈ヲ負ヒ島嶼前面ニ連リ常ニ風波ノ虞ナキモ灣内淺クシテ大船ヲ入ル、ニ至ラズ灣ト外海トヲ連絡スル水道四アリ其主要ナルモノヲ代ケ崎水道トス其東北約二軒ニ石濱錨地アリ水深大ニシテ巨船ノ碇泊ニ適ス

今修築工事ノ大體ヲ記述セバ石濱錨地ノ入口ヲ港口ト爲シ其左右ニ南北防波堤ヲ築キ以テ大洋ヨリ來ル風浪ニ對シ代ケ崎以東ノ外港水面ヲ掩護シ同錨地ノ碇泊及航行ヲ安全ナラシムルニ在リシガ外洋ニ於ケル防波堤ノ築造ハ施工容易ナラザルト築港ノ將來トニ鑑ミ寧ロ内港ノ充實ヲ圖ルノ利ナルヲ認メ大正十三年度ニ於テ既定計畫ノ變更實施ト同時ニ之レガ築造ヲ中止セリ航路ハ港口ヨリ殆ド一直線ニ代ケ崎ニ至リ少シク折レテ内港泊地ニ達セシム其延長五千六百米ニシテ幅員(底幅)九十一米水深最大干潮面下六米七トス

内港泊地ハ埋立地ニ面シテ水面積約三十三萬一千平方米ヲ有シ之ヲ最大干潮面下七米六ト四米六ノ水深ニ浚渫ス

埋立地ハ現在鐵道用地ノ東方ニ面積五十二萬九千六百平方米ヲ築造スルモノニシテ其高ハ朔望平均滿潮面上一米七最大干潮面上三米七トス其東方ニ濕渠、解溜及貯木場ヲ設ク

埋立地ノ沿岸四方ハ魚類處理場、上屋倉庫敷地ニ充テ其東方ニハ薪炭、木材等ノ荷揚場ヲ設ケ鐵道ノ連絡ヲ期スルト共ニ埋立地内ニハ一條ノ水路ヲ導キ各工場敷地ヘ水運ノ便ヲ圖ルモノトス其幅十八米乃至五十五米トス而シテ埋立地ノ道路ハ幅九米乃至十八米トシ縱横ニ築設シ以テ交通ノ便ヲ圖ル

要スルニ本計畫ハ新ニ五十二萬九千六百平方米ノ市街地及倉庫地ヲ埋築シ延長約二千米ノ荷揚場ヲ建設シテ一箇年四十萬餘噸ノ貨物ヲ處理シ得ベカラシメ而シテ内港ニ出入シ得ル船舶ハ三千噸迄ニ止メ石濱錨地ハ三千噸級以上ノ碇繫場トシテ使用セントスルニ在リ

## 施工狀況

本工事ハ大正六年度内務省所管ニ移リテヨリ既ニ十箇年度ヲ閱シ爾來工事ノ進行セルモノ多ク港勢頓ニ上リ最近巨舶ノ入港ヲ見ルニ至リ前年度中内港荷役ニ依ル貨物約二十四萬噸ニ達ス今工事ノ概要ヲ列記センニ浚渫工事ハ航路、船溜及代ヶ崎水道狹窄部ノ擴張等ヲ通ジテ最大干潮面下四米六ノ水深ヲ有シ航路ノ一部ニハ六米七ニ達スル箇所アリ而シテ本年度ニ於テ施行セルハ前記代ヶ崎附近ノ航路竝ニ内港船溜ノ一部トス埋立工事ハ計畫ニ對比シ既ニ九割餘ノ竣功ヲ告ゲ本年度ニ於テハ未成ノ局部ヲ整理セルノミ工事ニ支障ナキ既成ノ一部分ハ宮城縣ニ引繼ギ利用ヲ開始ス護岸工事ハ鹽釜町尾島地内ニ施行セル鐵筋混凝土壁、物揚場護岸竣功百五十一米ノ法線ニ倣ヒ本年度ニ於テ其西方ニ混凝土壁ヲ築設シ長百四十五米ヲ竣功セリ物揚場護岸ノ利用シ得ベキ延長二百九十六米ニ達シ若干海岸ノ面目ヲ革タム外ニ前年度迄ニ竣功セル多賀城村地先ニ鐵筋混凝土枠組立ヲ爲セル四米六岸壁長九十一米(下部竣功)アリ道路工事ハ本年度ニ於テハ鹽釜町現市街地ト埋立地トヲ連絡スル道路ニ長二百八十四米五ノ碎石敷均ヲ施行セルノミナルガ現在ノ竣功累計ヲ示セバ一千百九十六米五ニ及ブ又岸壁ニ達スル幹線ノ水路橫斷箇所ニ鐵筋混凝土拱橋(徑間十二米一)ヲ架設セリ防砂堤工事ハ代ヶ崎水道ヨリ内港ニ侵入スル漂砂ノ防遏ニ供フルモノナルガ前年度マデ延長四百二十七米馬放島ト地藏島間ヲ封鎖セル百三十六米ヲ含ムヲ竣功シ本年度ニ於テハ拾石一千四百五十八立方米ヲ投入セルモ豫定ノ幅員ニ達セザル箇所多ク爲メニ竣功長ノ掲グベキモノナク水路掘鑿工事モ亦竣功セル部分多ク殊ニ貞山運河トノ連絡ハ大代方面ト鹽釜間ノ距離ヲ短縮シ頗ル舟楫ノ便ヲ得此他花淵岬ノ防波堤ハ大正十三年度ニ於テ計畫變更ヲ行ヒ築造ヲ中止シ航路標識ハ地藏島ニ燈臺一個、鹽釜町山手ニ竿燈二本ヲ設ケ先年縣ニ引繼ギ利用サレツツアリ

斯ノ如ク鹽釜築港ニ於ケル諸般ノ工事ハ漸次進捗セルト同時ニ三千噸級船舶ノ繫船岸壁築造ノ準備ニ  
 歩ヲ進メツ、アルナリ  
 本港本年度ノ竣功總額ハ二十九萬七千八百二圓起工以來ノ累計三百六十一萬一千五百八十圓ニシテ事  
 業費總豫算額五百十五萬二千八百十四圓ニ對比セバ七割ノ竣功ヲ告グ其工事竣功表ハ次ノ如シ但シ船  
 舶及機械等ノ前年度迄ノ竣功高ニハ大正十二年度迄ニ千住機械工場へ委託製作セル機械類ノ竣功額二  
 萬七千七百九十六圓ヲ包含ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚渫費	二、七六七、八二八 方立米	五三五、九一四	五八二、七四〇	七一〇、四四四	三、三五〇、五六八	六〇六、九五八	〇・六〇
埋立費	二、〇四三、四一八	七七三、五八〇	一六四、一一五	三七、六六六	二、二〇七、五三三	八一、二四六	〇・九八
防波堤費	五四、一七三 個	二一、〇九〇			五四、一七三	二一、〇九〇	一・〇〇
航路標識費	九二二 米	八、二一四			九二二	八、二一四	
道路費	一一一	五九、四〇九	二八四・五	二四、七一一	一、一九六・五	八四、一二〇	
護岸費	四二七	三九、二四二	一四五	一一、二九二	二九六	五一、五三四	
防砂堤費	九二二	二二、二三三	五〇	一〇、九六一	四二七	三三、一九四	
水路費		一四一、一一四		二六、八〇五	九七一	一六七、九一九	
雜工事費		八〇、五八八		一〇、五八六		九一、一七四	
材料製造及採取費		二七五、四〇七				二七五、四〇七	
土地買收費		五一、五〇一				五一、五〇一	
船舶及機械費		八五四、〇五四		六五、二八一		九一九、三三五	
營繕費		四四、九〇九		六一二		四五、五二一	





### 第三 神戸港修築工事

(神戸土木出張所)

#### 緒言

神戸港ハ本邦重要貿易港ノ一ニシテ其發展駿々トシテ止マザルモノアリ曩ニ政府ハ本港修築計畫ヲ定メ對外貿易ノ一部ハ明治三十九年以來神戸税關海陸聯絡設備トシテ大藏省ニ於テ起工シ翌四十年之ヲ擴張シテ小野濱前面ニ繫船突堤四條ヲ築設シテ上屋其他ノ陸上設備ニ及ボシ爾來年ヲ經テ其竣功部分ハ大正二年以來税關ニ於テ其利用ヲ開始シ舊來ノ面目一新シタリト雖モ歐洲大戰ニ於ケル本港對外貿易ノ發展ハ更ニ現計畫ノ擴張ヲ促シ且港内ノ靜穩ヲ期スベキ防波堤ノ築造及對内貿易設備等ニ至リテハ一日モ忽諸ニ附スベカラザルモノアリ茲ニ於テ神戸市ハ切りニ之ガ急施ヲ要望シ政府ニ向テ經費ノ一部ヲ負擔センコトヲ稟請スルニ至レリ即チ政府ハ之ヲ採納シ總工費(當初)二千七百十萬圓ヲ豫算シ大正八年度以降二十二年度ニ至ル(元工期十箇年度ノ處第一次繰延二箇年度同第二次三箇年度前後五箇年度延長サレ昭和八年度迄十五箇年度ノ工期ニ變更)十五箇年度ノ繼續事業トシテ小野濱及海岸通地先ニ於ケル外國貿易設備ヲ初メトシ兵庫地先及國産波止場附近ニ於ケル内國貿易設備並沖合防波堤ノ築造等將來本港ノ發展ニ資スベキ施設ノ完備ヲ期セントス其工費豫算ヲ計上スレバ左記ノ如シ

種別	大藏省施行並同省ヨリ引繼豫算	當初豫算	追加豫算	現豫算	摘要
外國貿易設備費	1,000,000 円	11,000,000 円	1,143,000 円	11,143,000 円	負擔歩合 國庫二分 神戸市一分

種別	大藏省施行並同省ヨリ引繼豫算	當初豫算	追加豫算	現豫算	摘要
内國貿易設備費	△x 一、九二〇、〇〇〇 二、七五〇、〇〇〇 円	九、三〇〇、〇〇〇 円	一、四一三、四七八 円	一〇、七一三、四七八 円	負擔歩合(國庫三分一、 全部國費)神戸市三分二、 行額「△」ハ引繼額
防波堤費		六、八〇〇、〇〇〇	三、二〇一、五〇一	一四、六七一、五〇一	
總計	四、六七〇、〇〇〇	二七、一〇〇、〇〇〇	五、七七八、二八二	三七、五四八、二八二	内俸給及事務費二、三七 九、六八一圓ヲ包含ス

港狀並計畫大要

神戸港ハ北緯三十四度四十一分、東經百三十五度十一分、攝津國ノ西南ニ位シ兵庫神戸ノ南灣ヲ以テ形成セラル其經界ハ從來ノ北東脇ノ濱海岸ニ建設シタル立標ト南西和田岬ニ建設シタル立標トヲ以テ表示シ港内ノ面積約九百九十萬平方米ナリシガ大正十三年三月一日勅令第四十七號ヲ以テ北東新在家町ノ南角ヨリ南十五度西ニ引キタル一線ト南西和田岬ヨリ北八十四度三十四分東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界ト爲シタル區域内ニ擴張セラレタルヲ以テ此水面積ハ約一千九百八十平方米ヲ算スルニ至ル外海岸線ノ延長約八千六百米ナリトス而シテ港内ヲ二區ニ分チ第一區ハ舊湊川尻南端ニ建設シタル頭部三角形ニ基ノ紅色塗立標ヲ見透シタル一直線ノ北方一圓トシ第二區ハ前記ノ南方一圓トス其第一區ノ極東部ト第二區ノ極南部トヲ軍艦ノ碇泊所ニ其他ヲ商船ノ碇繫所ニ充ツ又雜船及小型船等ハ第一區及第二區ノ沿岸一帯ニ繫留セシム

本工事ノ計畫中外國貿易設備ニ對シテハ濱邊通地先ニ於テ面積二十六萬二千六百八十平方米、海岸通地

先ニ於テ面積四萬六千二平方米ヲ低水面上三米三ニ埋立テ而シテ濱邊通地先ニハ水深十米乃至十三米四ノ繫船岸壁延長二千五百七十四米ヲ築造シテ二萬噸級以下ノ汽船繫留ニ適セシメ又濱邊通及海岸通ニ於テハ水深二米七乃至三米、物揚場延長二千六百八十五米七ヲ築造スルモノトス

内國貿易設備ニ對シテハ海岸通地先ニ於テ面積六萬一千三百八十平方米、兵庫地先ニ於テ面積二十六萬九千二百八十平方米ヲ低水面上三米三ニ埋立テ之ニ水深五米四乃至九米繫船岸壁延長三千百三十六米ヲ築造シ以テ八千噸級以下ノ汽船繫留ノ便ニ供スル外水深二米七乃至三米、物揚場延長二千四百三十米ヲ築造シ尙現在ノ鐵道棧橋ヲ改築スルモノトス

上記計畫中改良ヲ施シタルモノハ濱邊通ニ於ケル第五突堤ノ幅員ヲ百四十四米ニ擴大シ南側上屋ノ中間ニ幅員三十六米ノ倉庫敷地ヲ設ケ貨物荷捌上倉庫ト上屋トノ聯絡ヲ近接迅速ナラシメ常時上屋内ノ貨物掃盡ニ利便ヲ考慮シタルト第六突堤ノ幅員ヲ百六十二米トシ其中央ニ幅員五十四米、長四百五米ノ水路ヲ設ケ其南岸ヲ物揚場ニ充テ一面本船荷役ノ傍ラ上屋ノ背後ニ浮船荷役ヲ併行シ得ベキ嶄新ナル設備ヲ施シ以テ水路運送貨物荷捌上多大ナル便ヲ企圖セリ

沖合ニ於ケル防波堤ハ南及東ノ二堤ヨリ成リ之ニ假防波堤ヲ加ヘ總延長六千四百八十米以上ニ達ス南堤ハ半島堤ヲ合シテ延長一千五百四十八米餘、東堤ハ其一、其二及既成堤一千百三十八米大藏省施工ヲ合シテ延長約三千九百六十米ニシテ假防波堤ハ延長一千八十米ナリ今其法線ヲ記スレバ大要左記ノ如シ

南堤ハ港界ヲ表示スル和田岬立標ヨリ東徼北ニ走ル一線上ニ於テ陸岸ヨリ二百七十米隔テタル位置ヲ以テ起點トシ東西ニ延長一千二百六米餘ヲ築造シ其終端十四米以上ノ箇所ニ於テ東堤ノ頭部トノ間ニ二百七十米ノ港門ヲ設置ス又陸地ト起點トノ間ニ副門ヲ存シ仍ホ西方ニ半島堤ヲ合シ延長約三百四十

二米ノ堤ヲ築キ以テ陸岸ニ達セシム  
 東堤ハ一直線ニ北微西ニ延長約一千四百九十四米餘ヲ走リ既成防波堤トノ間ニ幅員九十米ノ東副門ヲ  
 存置ス之ヲ東堤ノ二トス而シテ東堤ノ一ハ既成防波堤ノ東端ヨリ東方ニ曲線ヲ描イテ走ルコト五百二  
 十米餘之ヨリ一直線ヲ以テ磁針方位南八十度東ニ約七百九十六米延長シ尙其終端ヨリ北四十七度東ノ  
 方向ニ於テ二百七十米ノ第二港門ヲ設ケ夫ヨリ北ニ向ツテ延長一千八十米ノ假防波堤ヲ築造スル計畫  
 ナルヲ以テ此堤ヲ以テ抱擁スル水面積ハ約九百九十萬平方米ヲ算ス就中舢舨及小蒸汽船ノ繫碇場ニ適  
 スル船溜水面積ハ濱邊通約四萬七千九百九十九平方米米利堅波止場附近約十九萬三千三百八十平方米國產  
 波止場附近約五萬一千四百八十平方米、兵庫新川沖約十八萬九千四百二十平方米ナルヲ以テ合計約四十  
 八萬一千八百平方米ニ達スルナリ  
 前記諸計畫ヲ更ニ表記スレバ左ノ如シ

種別	位置	干潮水面深以下	面積又ハ延長	摘要
埋築	外國貿易設備 海岸通地先		四六、〇〇〇 二六二、六八〇	西遊園地及第二波止場前面 此土量二十九萬四千七百二十立方 濱邊通前面 此土量四百二萬六千立方
小	內國貿易設備 兵庫地先 海岸通地先		三〇八、六八二 二六九、二八〇 六一、三八〇 三三〇、六六〇	兵庫地先前面 此土量三百三十九萬二千七百三十立方 第二波止場及國產波止場 此土量五十萬三千四百三十三立方
計	計		六三九、三四二	

岸壁		物揚場		假護岸		船溜防波堤	
外國貿易設備		內國貿易設備		小		外國貿易設備	
濱邊通地先	同計	兵庫地先	同計	濱邊通地先	同計	兵庫地先	同計
一三・二	一〇	三・六	二・七	二・七	二・七	二・七	二・七
四一四・〇	二、一六一・二	一九八・〇	一、三三〇・二	二、六八六・五	五、一三〇・〇	二、四三〇・九	五、一一七・四
大小船舶十五隻維繫		米利堅波止場増築延長二百十五米五		國産波止場増築延長六百八十六米七			
二、五七五・二	七二〇・〇	七四九・七	四〇八・六	五、七一一・七	三、一三六・五	五、七四二	一、一七〇・〇
九・二	八・二	三・六	二・七	三・六	二・七	二・七	二・七
二、一七〇・〇	三〇六・〇	二、六八六・五	一、三三〇・二	五、一三〇・〇	二、四三〇・九	五、一一七・四	二、八八八・〇
大小船舶十六隻維繫							
七・三	八・二	二・七	二・七	二・七	二・七	二・七	二・七
五、七四二	三、一三六・五	二、六八六・五	一、三三〇・二	五、七一一・七	三、一三六・五	五、七四二	一、一七〇・〇
大小船舶七隻維繫							
八・二	五・五	二・七	二・七	二・七	二・七	二・七	二・七
二、一七〇・〇	三、一三六・五	二、六八六・五	一、三三〇・二	五、七一一・七	三、一三六・五	五、七四二	一、一七〇・〇

種別	位置	干潮水面以下	面積又ハ延長	摘要
防波堤	東防波堤	既設	一、三三七・六	既成但上部工ヲ除ク堤頭二箇所五十四米ヲ含ム
	東防波堤ノ一		一、三二八・四	
防波堤	東防波堤ノ二		一、四九七・五	堤頭一箇所二十七米ヲ含ム
	南防波堤		一、五四八・八	
防波堤	假防波堤		一、〇八〇・〇	同二箇所八十一米ヲ含ム
	小		六、五八二・三	
鐵道棧橋			三、七二二・五	同二箇所五十四米ヲ含ム
棧橋			二、二七三	
計			長 一、〇八〇・〇 六、五八二・三 三、七二二・五 二、二七三	内一千六百五十平方米改築 二千六百二十平方米五擴張

施工狀況

本年度ノ施工狀況ヲ便宜大別シテ外國貿易設備、內國貿易設備、防波堤築造及材料採取、材料製造ノ各項ニ分類シ仍ホ必要ニ應ジ更ニ之ヲ細別シテ以下順次其概要ヲ記述セントス

(イ) 外國貿易設備

一、岸壁工事

基礎掘鑿ハ濱邊通突堤築造法線ニ於ケル岸壁用鐵筋混凝土函据付位置ニ相當スル基礎ヲ構成スル爲メ現在ノ地盤上層ニ於ケル軟泥ヲ硬質地層ニ達スルマデ掘鑿排除スルモノニシテ主トシテプリストマン式浚渫船大輪田丸、同第一、第二號浚渫船ヲ運用シ之ニ所要ノ土運船及曳船ヲ配屬セシメ前年度ニ繼續シテ第一突堤水深十米部延長二十二米九、第五突堤水深十米部延長八十六米四及第六突堤水深十米部延長

三百七十八米、計四百八十八米三ヲ掘鑿シテ土量七萬八千二百八十八立方米ヲ得内五千五百九十二立方  
米ハ濱邊通第一突堤下埋ニ六萬六千七十二立方米ハ濱邊通第五突堤下埋ニ一萬二千二十四立方米ハ兵  
庫地先第二突堤下埋ニ利用シ直接工費三萬一千二百六十三圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一米當ニ於テ六  
十四圓十一錢一厘一立方米當リニテハ三十九錢八厘ナリ但シ該工費ニハ吸揚式唧筒船敏馬號ヲ運用シ  
テ第五突堤水深十米部ノ軟泥排除ニ要シタル工費七百五十三圓ヲ包含セリ

本年度ニ於ケル岸壁函据付工事ハ濱邊通第一突堤ニ於テ水深十米九部ノ基礎床掘ヲ施工スルニプリ  
トマン式浚渫船第一號ヲ運用シ延長九十米ノ功程ニ對シ工費二千八百二十圓ヲ支出(一米當三十一圓三  
十三錢)シ鐵筋混凝土函二個六分ヲ据付ケ功程延長六十六米ニ及ビ函内及函間ノ填充ノ施工間數五十二  
米ニシテ此填充材料ニハ別設計採取ニ係ル砂礫三千三十立方米及製造混凝土八百八十立方米二九ヲ  
使用ス同水深十二米二部ニ於テ基礎床掘五米四工費百六十二圓(一米當二十九圓四十五錢)函〇米七沈置  
延長一米八ヲ完成シタルヲ以テ本工ノ直接工費ハ計六千九百九十九圓ナリ

濱邊通第五突堤ニ於テハ其水深十米部ニテ基礎床掘二百二十三米二ノ功程ニ對シ工費七千三百二十八  
圓ナルヲ以テ一米當ハ三十二圓七十八錢又函六個七分ヲ沈置シテ功程延長二百二十一米四ニ及ビ函内  
及函間ノ填充ハ延長三百九米六ニシテ其材料ハ砂礫九千七百九十二立方米、混凝土四千八百八十八立方  
米九七、裏詰ノ施工延長二百三米四ニシテ之ニ砂礫一萬二千六百六十二立方米ヲ使用セリ又水深十二米一  
部岸壁ニ在リテハ基礎床掘四十三米、二工費一米當三十二圓二十二錢ニシテ函ノ沈置ハ〇三個出來形五  
米四函内及函間ノ填充延長五米四ニシテ使用材料ハ砂礫四百八十立方米、混凝土八十七立方米六五ニシ  
テ本工直接工費ノ支出額ハ計一萬六千三百九十一圓ナリ

濱邊通第五突堤ニ於テハ接續部ヲ連結スル岸壁工事トシテ延長十二米六ノ方塊積岸壁ヲ築造シテ直接工費三千四百八十六圓ヲ支出シタルヲ以テ此一米當ハ二百七十六圓六十七錢ナリ

濱邊通第六突堤ニ於テハ水深十米部ノ函内填充ヲ施シ混凝土三百六十五立方米六四ヲ使用シテ直接工費三百四十三圓ヲ支出シタル外濱邊通第一突堤接續部整理トシテ在來ノ捨石六千四十八立方米、砂礫六千四百二立方米、方塊六百二十五個及胸壁五十米四竝ニ土留堤五十四米ヲ除却シテ其材料ハ他ノ諸工事ニ利用ス此直接工費二萬二千百九十圓ニ及ベリ

以上諸工事費ノ整理上所要船舶諸器械ノ運用費ハ別設計ニテ處理シタルヲ以テ此直接運轉費一萬六千九百九十九圓ヲ算スル故ニ本年度外國貿易設備ニ屬スル岸壁工事ノ直接工費ハ十萬六千六十圓ナリ

二、物揚場築造

本年度ノ施工ハ何レモ前年度來ノ繼續ニシテ海岸通物揚場ニ於テハ方塊沈積三米六(方塊十二個)使用(石垣九十一米八、階段一箇所五分、同海岸通突堤東側水深三米六物揚場ニテハ方塊沈積十五米三)使用(方塊三十二個)濱邊通地先水深二米七、物揚場上部工ニテハ石垣三十九米六、同濱邊通水深三米六、丙物揚場ニテハ捨石一米八、荷重六米八、方塊沈積三十米二四(使用方塊六十四個)石垣裏詰三十一米七ヲ施工シタル直接工費一萬三千五百三十八圓ヲ支出シタル外船舶諸機械ノ運轉費一千五百十五圓ヲ算スルヲ以テ本年度ノ直接工費ハ一萬五千五十三圓ナリ

三、船溜防波堤築造

本工事ハ豫算ノ都合上休工ノ已ムナキニ至リ計上スベキ施工費ナキモ該工事區域ハ船舶ノ通航頻繁ナルヲ以テ特ニ夜間ニ於テ是等航行ノ安全ヲ期スル爲メ常夜點火シタル直接費用二百二十六圓ヲ支出シ



タルニ過ギズ

#### 四、埋築工事

本年度濱邊通第五突堤ノ下埋ニハ鋤鏈式浚渫船茅渚丸ヲ運用シテ之ニ所要ノ土運船及曳船ヲ配屬シ專ラ港内ヲ浚渫シテ土量五萬三千三百四十立方米ヲ埋築シ直接工費一萬五千七百七十九圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一立方米當ハ二十九錢六厘ニ相當セリ右ノ外同埋築ニハ濱邊通基礎掘鑿ヨリ生ジタル利用土砂六萬六百七十二立方米、第一突堤接續部整理工事ヨリ四千八百五十三立方米、第五突堤根元接續部整理工事ヨリ二百十九立方米、兵庫突堤基礎掘鑿工事ヨリ一萬七千九百四十四立方米ノ利用埋築土砂ヲ算スル外民間ニ於ケル市内建築地基礎工事ヨリ生ジタル無償投棄土砂五千百立方米ニ達シタルガ故ニ本年度ノ埋築功程ハ十四萬二千二百二十四立方米四ナルヲ以テ之ヲ支出シタル直接工費ニ對比スルトキハ一立方米當平均十一錢一厘ナリ

又第一突堤ノ下埋ニハ濱邊通突堤基礎掘鑿ヨリ五千四百七十二立方米、濱邊通第一突堤接續部整理工事ヨリ一千五百四十八立方米、合計七千二十立方米六ヲ利用埋築シタルモ本工ハ掘鑿土砂ノ利用ナルヲ以テ工程ノミニシテ工費ヲ要セザルナリ濱邊通ノ上埋工事ニハ唧筒式浚渫船和泉丸ヲ運用シテ兵庫縣武庫川尻ヨリ採砂輸送ヲ遂ゲタル土量三萬七千四百四十立方米ニ對シ直接工費一萬二千五百五十七圓ヲ支出シタルヲ以テ本年度ノ平均一立方米當ハ三十錢八厘ニ相當セリ

右ノ外海岸通地先ノ埋築ニハ民間上願ニ係ル無償投棄土砂三千立方米ニ達シタリ  
埋築地ノ表面地均ハ濱邊通地先ニ於テ面積七千四百四平方米九ヲ處理シタルニ對シ直接工費二千五百三十七圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一平方米當ハ三十五錢五厘ナリ

前記ノ外附帶工事トシテ施工シタル濱邊通地先ノ下水管敷設費一千一圓ヲ支出シタルガ故ニ本年度埋築工事ノ爲メ支出シタル直接工費ハ合計三萬一千八百七十四圓ナリ  
以上外國貿易設備ニ屬スル本年度施工ニ係ル直接工費ハ十五萬三千二百十三圓ニシテ此竣功累計百六十八萬四千七十三圓ヲ算シ之ニ別設計採取材料ノ使用高累計八萬六千四百三十五圓及同製造品ノ使用高累計九十二萬五千五十二圓ヲ合スルトキハ竣功累計二百六十九萬五千五百六十圓ニ達スルヲ以テ計畫工費ニ對シ約二割二分ノ步通竣功ナリトス

(ロ) 內國貿易設備

一、岸壁工事

基礎掘鑿ハ兵庫突堤築造ニ於ケル岸壁用鐵筋混凝土函据付位置ニ相當スル基礎ヲ構成スル爲メ現在ノ地盤上層ニ於ケル軟泥ヲ硬質地層ニ達スルマデ掘鑿排除スルモノニシテ專ラプリストマン式浚漑船大輪田丸及同第二號、第三號浚漑船ヲ運用シ之ニ所要ノ土運船及曳船ヲ配屬シテ第一突堤水深七米二部ニ於テ延長三百三十八米四施工此直接工費一萬七千九百二十圓、一米當五十二圓九十四錢三厘掘鑿土量九萬五百六十四立方米、平均一立方米十九錢七厘ナリ尙其主砂ノ内四萬五千九百九十六立方米ハ兵庫地先ノ主部下埋ニ三萬七千二百二十八立方米ハ兵庫第二突堤下埋ニ七千四百四十立方米ハ濱邊通第五突堤下埋ニ利用ス又水深九米一部ニ於テハ百九十二米ヲ掘鑿シテ土量一萬七千二百六十八立方米ヲ得直接工費六千百五十一圓ヲ支出シタルヲ以テ一米當ハ四十九圓五十五錢六厘、一立方米當ハ平均三十五錢六厘ナリ右土量ノ内四千九百八立方米ハ兵庫主部下埋ニ一千八百六十立方米ハ兵庫第二突堤下埋ニ一千五百立方米ハ濱邊通第五突堤下埋ニ利用セリ尙第二突堤水深七米二部ニ於テハ掘鑿延長十二米、土量三千

百八十立方米ヲ得タルニ對シ直接工費七百三圓ヲ支出シタルガ故ニ一米當ハ約五十五圓五十五錢平均一立方米當ハ二十二錢一厘ナリ

本年度基礎掘鑿ノ直接工費ハ合計二萬六千七百五十五圓ノ支出ニ對シ掘鑿延長計四百八米六及土量計十萬九千二百十二立方米ナルヲ以テ平均一米當ハ六十五圓四十四錢、一立方米當平均ハ二十四錢三厘ナリ右總工費ノ内ニハ吸揚式唧筒船敏馬號ヲ運用シテ軟泥ヲ排除シタル工費第二突堤水深七米二部ニ於テハ八百十五圓、同八米五部ニ於テハ八百二十三圓、同九米一部ニ於テハ三百四十二圓、計一千九百八十圓ヲ包含セリ

函据付工事中兵庫第一突堤ニ於テハ基礎床拵(軟泥排除荒砂埋戻)延長二百十九米六ニ施工シテ之レガ埋戻材料ニハ別設計採取ニ係ル砂礫五萬一千五百十六立方米ヲ使用シテ直接工費六千九百五圓ヲ支出シタルヲ以テ一米當ハ三十一圓四十四錢四厘、鐵筋混凝土函ハ六個ヲ沈置シテ延長二百十米六ニ及ビ函内及函間ノ填充ニハ混凝土一千八百九十六立方米二四及別設計採取砂礫四千七百十六立方米ヲ使用シテ延長二百三米四ヲ完成セシメタル外裏詰延長八十二米八ヲ施シ之ニ別設計採取砂礫四千五百七十二立方米ヲ使用ス本年度本工ノ直接工費ハ一萬一千百四十三圓ナリ

兵庫第二突堤函据付工事ニ在リテハ水深七米二部ニ於テ前年來据付タル鐵筋混凝土函ニ對シ風波ヨリ蒙ルコトアルベキ移動ヲ防止スル爲メ函ノ前面ニ補強工事延長百九十八米ヲ施工シタル工費四千一百一圓ナルヲ以テ此一米當二十圓七十一錢一厘、同水深八米五部ニ對シテハ延長三百六米ノ補強工事ニ對シ工費六千八百八十三圓ヲ支出シタルヲ以テ此一米當ハ約三十一圓六十六錢七厘、同水深九米一部ニ在リテハ床拵百六十三米八ヲ施工シタル直接工費五千七百三十五圓トナルヲ以テ一米當ハ三十五圓、鐵筋混

凝土函ハ五個ヲ沈置シテ延長百八十米五ニ及ビ其填充ハ二百三十四米ノ功程ニ對シ別設計採取砂礫六千九百七十八立方米及凝土二千二百三十三立方米六三ヲ使用シ此直接工費一千六百六十七圓ナルヲ以テ一米當ハ七圓十一錢一厘ニ相當シ又同裏詰工ニハ砂礫一萬七千五百二十立方米ヲ使用シテ延長二百九十八米八ヲ施工シタル直接工費二百六十一圓ナルヲ以テ一米當ハ八十七錢二厘此外水深九米一部ニ於ケル前面補強延長四百十米四ヲ施工シタル直接工費四千七百三十五圓ナルガ故ニ此一米當ハ六十一圓十一錢ナリ而シテ本年度本工直接工費ハ計二萬五千九百四十七圓ニ達ス

右ノ外兵庫水深七米二部甲岸壁ニ於テ裏詰工百十八米八ヲ施工シタル直接工費百十圓(一米當九圓二十)二錢二厘ヲ支出シタル以外以上諸工事費ノ整理上所要船舶諸機械ノ運用費ハ別設計ニテ整理シタルヲ以テ此直接運轉費一萬三千八百三十五圓ヲ算スルガ故ニ本年度内國貿易設備ニ屬スル岸壁工事ノ直接工費ハ七萬七千七百八十七圓トナルナリ

## 二、物揚場築造

本年度施工シタル物揚場築造中兵庫地先水深二米七丙物揚場ニ於テ方塊沈積二十八米八使用方塊三十(二個)石垣七十五米六、同水深三米六、甲物揚場ニ於テハ石垣五米四、同水深三米六、乙丙物揚場ニ於テハ捨石三十米六、方塊沈積七十米二使用方塊七十七個(石垣四十三米二)ヲ施工シタル直接工費ハ別設計整理ニ屬スル所要船舶諸機械ノ運轉費一千百六十三圓ヲ合シタル合計一萬九千六百五十圓ヲ支出シタリ

## 三、埋築工事

兵庫埋築工事中其主部下埋ニハ主トシテ鋤鏈式唧筒船茅葶丸ヲ兵庫第二突堤下埋ニハ專ラブリストマン式自走浚漂船大輪田丸ヲ運用シ前者ニハ所要ノ土運船及曳船ヲ配屬セシメ神戸港内ヲ浚漂シテ土量

一萬一千百八十四立方米ノ功程ニ對シ直接工費二千七百七十九圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一立方米當  
ハ二十四錢八厘又後者大輪田丸ハ沖合ニ於ケル防波堤ノ築造法線ニ於ケル地盤ヲ掘鑿シテ土量八萬二  
千九百五十立方米ヲ得タルニ對シ直接工費二萬三千三百七十三圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一立方米當  
ハ九十三錢九厘當同所ノ下埋兼土留工ニ別設計採取ニ係ル砂礫三千二百七十五立方米ヲ運搬埋築ニ供  
シタル直接工費三十八圓ナルガ故此平均一立方米當ハ十一錢六厘ナリ此外兵庫主部下埋ニハ兵庫突堤  
基礎掘鑿ヨリ生ジタル利用土砂四萬九千四百四立方米ヲ有シ又兵庫第二突堤下埋ニハ兵庫突堤基礎掘鑿  
ヨリ生ジタル利用土砂四萬二千六百八十八立方米及濱邊通突堤基礎掘鑿ヨリ生ジタル利用土砂一萬二千  
二十四立方米計五萬四千九百九十二立方米ノ工費不要ノ功程アルヲ以テ之ヲ合シテ直接工費ニ對比スル  
トキ主部下埋ニ於ケル一立方米當ハ僅カニ二十四錢六厘第二突堤下埋ニ於ケル一立方米當ハ十六錢七  
厘ニ相當セリ

兵庫上埋工事中主部上埋ニハ鋤鏈式唧筒船和泉丸ヲ運用シテ縣下武庫川ヨリ採砂ノ上輸送埋築ニ供シ  
タル土量六千八百七十六立方米ニ對スル直接工費二千四百六十三圓ヲ支出シタルヲ以テ此一立方米當  
ハ三十五錢七厘又第二突堤上埋土砂ノ採取ニハ唧筒式浚漂船洞海丸ハ縣下加古川尻ヨリ土量八萬七千  
百三十八立方米、鋤鏈式浚漂船和泉丸ハ縣下武庫川尻ヨリ土量十萬四千八百八十八立方米、計十八萬七千六百  
二十六立方米ヲ採砂ノ上海輸送埋築ニ供シタル此直接工費八十萬一千七百五十二圓ヲ支出シタルヲ  
以テ一立方米當平均ハ五十四錢二厘ナリ

右ノ外曩年木曾川丸ガ武庫川尻ヨリ上埋用土砂ヲ採取シテ兵庫地先ニ假置ヲ爲シタルモノ、殘土量ヲ  
吸揚式唧筒船敏馬號ヲ運用シテ一旦之ヲ吸揚シ更ニ兵庫上埋箇所ニ排砂シタル土量一萬六千六百二立

方米ニ對シ直接工費三千六百三十八圓ヲ支出シタルガ故ニ此一立方米當ハ二十一錢八厘ナリ  
 以上本年度兵庫地先ニ於ケル埋築土量ハ計四十一萬一千八百四立方米ニ達シ之ニ對スル直接工費ハ別  
 設計整理ノ曳船費五千六十七圓ヲ合シテ十三萬六千六百六十八圓ヲ算スルヲ以テ本年度ノ平均一立方  
 米當ハ三十三錢二厘ナリ

兵庫地先ニ於ケル埋立地ノ地均面積ハ一萬四百三十一平方米ヲ施工シテ直接工費二千二百十八圓ヲ支  
 出シタルヲ以テ平方米當ハ二十一錢二厘ナリ以上本年度埋築工事施工ノ爲メ支出シタル直接工費ハ十  
 三萬八千八百六十六圓ヲ算スルニ至レリ

以上本年度内國貿易設備施工ノ爲支出シタル直接工費ハ二十三萬六千三百三圓ニシテ竣功累計ハ百五  
 十萬一千六百十五圓ヲ算シ之ニ別設計採取材料ノ使用高三十萬五千九百四十圓同製造品使用高九十四  
 萬八千三百三十五圓ヲ合スルトキハ竣功累計二百七十五萬八千九百九十圓ニ達スルヲ以テ計畫工費ニ對シ  
 約二割六分ノ步通竣功ナリトス

(ハ) 防波堤築造

本年度ハ東防波堤ノ二基礎工事ニ於テ床掘延長二百四十一米餘ニ施工シ土量三萬一千七百十立方米ヲ  
 プリストマン式浚渫船ニテ浚渫シタルモ其土質埋築ニ適セザルヲ以テ之ヲ港外ニ運搬投棄シタリ此直  
 接工費五千七百三十七圓ヲ支出シタルヲ以テ一立方米當ハ十八錢五厘ニ相當ス尙基礎捨石三百二十四  
 米荷重三百四十二米上部床均二百五十二米ヲ施工シ同鐵筋混凝土函据付工事ニ在リテハ函二十個ヲ沈  
 置シテ延長二百七十七米ニ及ビ函内填充ニ於テ混凝土四千七百八十五立方米ヲ使用シテ延長二百九十二  
 米ヲ又函根固ニテハ方塊五百十八個ヲ使用シテ延長二百八十一米ヲ完成セシメタル外本堤ノ頭部函据

付工事ニ於テ函内填充二十七米ヲ施工シテ混凝土九百八十五立方米ヲ使用シ函根固工ニテハ方塊三十  
七個ヲ据付ケ延長五米四ノ殘工事ヲ施シテ頭部ノ竣功ヲ見ルニ至レリ  
本年度防波堤築造工事施工ノ爲メ支出シタル直接工費ハ別設計整理ニ屬スル船舶機械ノ運轉費三萬六  
百六圓ヲ合セタル計二十一萬四千九百二十八圓ニシテ竣功累計ハ四百三十一萬二千八百十九圓ヲ算シ  
更ニ別設計採取材料ノ使用高五十二萬六千九百七十七圓及同製造品使用高百四十二萬四千三百三十一圓ヲ  
合スルトキハ竣功累計六百二十六萬三千二百四十七圓ニ達スルヲ以テ計畫工費ニ對シ約四割八分ノ步  
通竣功ナリトス

## (二) 材料採取

直營採取ニ係ル材料ハ割石、砂礫、砂利、礫及砂ノ五種ニシテ前年度同様割石ハ兵庫縣下淡路國岩屋町宇鶴  
崎海岸ヨリ人力及爆藥ヲ使用シテ採取シ之ヲ運搬船ニ積込ミ神戸港内所要場所ニ海路片道約十二哩ノ  
間ヲ輸送シタルモノニシテ本年度ノ採取量ハ割石五萬一千六百十二立方米工費七萬三千二百三十九圓、  
一立方米當ハ一圓四十一錢七厘、此累計二十一萬九千四百四十四立方米、累計一立方米當二圓十一錢七厘、砂  
礫十九萬四千三百二十二立方米工費九萬九千八百七圓、一立方米當五十一錢三厘、此累計六十一萬三百二  
十立方米ニシテ一立方米當ハ六十五錢二厘ナリ

砂利及礫ハ兵庫縣下加古川筋ヨリ人力採取高砂港口マデ小舟ニテ積出シ更ニ運搬船ニ積込ミ曳船ヲ介  
シテ神戸港マデ海路片約二十八哩ノ間ヲ輸送シテ所定ノ置場ニ陸揚ヲ爲シタルモノニシテ本年度ノ採  
取量ハ砂利三萬二千八百九十八立方米工費五萬八千八百二十圓、一立方米當一圓七十八錢八厘、此累計十  
八萬四千六百六十八立方米、一立方米當二圓七十一錢七厘、礫ハ砂利同様ニシテ本年度採取量二千二百九

十八立方米工費四千二百二圓、一立方米當一圓七十八錢八厘、此累計一萬八千五百五十六立方米ニシテ一立方  
米當ハ砂利ト同一ナリ

砂ハ混凝土用ノ清砂ナルヲ以テ特ニ縣下武庫川尻ヲ選ミ唧筒式浚渫船和泉九ヲ運用シテ採砂ノ上自航  
神戸港ニ輸送ヲ遂ゲ所定ノ置場ニ藏置シタルモノニシテ本年度ノ採取量ハ一萬七千五百立方米工費六千  
八百五十三圓、一立方米當四十錢ニシテ此累計五萬三千百九十六立方米、一立方米當四十八錢五厘ナリ  
右ノ外石材採取設備中ノ石粹ヲ補修シタル費用三千九百七十八圓ヲ算スルヲ以テ本年度直接支出シタ  
ル工費ハ合計二十四萬六千七百九十九圓ニ達シタルナリ

(ホ) 材料製造

製造材料ハ岸壁及防波堤用鐵混凝土函ヲ主トシ各種ノ方塊竝ニ函内填充用混凝土ノ三種ニシテ以下順  
ヲ逐フテ其概要ヲ記述セントス

一、鐵筋混凝土函製造

本年度ノ製造高中岸壁用トシテ水深七米二用函六個工費六萬八千三百二十二圓、一個當一萬一千三百八  
十七圓、同水深九米一用函三個工費二萬九千九百五十圓、一個當九千九百八十三圓、同水深十米一用函七個  
三分工費九萬九千五百二十二圓、一個當一萬三千六百三十三圓、同水深十二米一用函四個工費四萬九千三  
百四十八圓、一個當一萬二千三百三十七圓、特種ノ異型函二個工費二萬六千八百二十四圓、一個當一萬三千  
四百十二圓、東防波堤用函二十個工費五萬四千四百八圓、一個當二千七百二十圓、合計四十二個三分工費三  
十二萬八千三百七十四圓ナルヲ以テ平均一個當ハ七千七百六十三圓ニシテ此混凝土容積一萬三千九百  
二十一立方米七此配合ハ一、二、四、直接工費十七萬七千四十七圓ナルヲ以テ一立方米當ハ十二圓七十一錢



七厘ナリ

## 二、方塊製造

本年度ハ各種方塊ヲ通ジテ製造五百三十三個陸上送出六百十九個ニ及ビ此混凝土容積三千八百八十二立方米五、直接工費三萬四千七百三十七圓ナルヲ以テ平均一個當ハ約六十五圓ニ相當シ配合ハ一、二、五ニシテ石張方塊ハ二、四、一〇ニ相當シ而シテ混凝土一立方米當ハ約八圓九十四錢七厘ナリ

## 三、函内填充用混凝土製造

鐵筋混凝土函内填充用トシテ本年度ハ一萬六千百十七立方米九三ヲ製造シテ直接工費九萬五千七百四十七圓ヲ支出シタルヲ以テ此一立方米當ハ五圓九十四錢ナリ

以上本年度材料製造ニ直接支出シタル工費ハ計四十八萬八千八百五十八圓ヲ算スルモ製造ニハ何レモ多量ノ直營採取ニ係ル砂利及砂ヲ使用スルモノナルヲ以テ之ヲ計上スルニ函製造ニハ二萬五千四百十六圓、各種方塊製造ニハ七千五百八十二圓及混凝土製造ノ三萬二千三百九十圓ハ前記各製造ニ於ケル直接支出シタル工費外ノ費用ナリ

### (一) 雜件一括

#### 一、船舶及機械費

本年度機械工場ニ於ケル直營施工額ハ十一萬二千七百九十五圓ニシテ其外二、三工場ニ於テ輕易ニシテ且便宜ト認ムル機械類ノ手入修繕ヲ爲シタル直接工費一萬一千二百九十圓ヲ算スル外請負施工ニ係ルモノハ十八萬九千四百二十七圓ヲ支出シタルガ故ニ本年度ノ支出高ハ三十一萬三千五百十二圓ナリ

#### 二、營繕費

營繕工事ニシテ本年度直營施工ニ屬スルモノハ濱邊通地先ニ於テ前年度起工シタル修船臺一臺ノ殘工事ヲ完成セシメタル直接工費八百四十圓ヲ支出シタルヲ初メトシ他ハ既設物件ノ移轉改築修理等ニシテ此直接工費計四千百二十一圓ヲ支出シタル外請負工事ニ於テ機械工場一棟、同工作場一棟ヲ新築シ尙同工場所屬建設物ノ移轉改築等數件ヲ施工シタル工費計二萬九千六百三十二圓ヲ算スルガ故ニ本年度ハ合計三萬四千五百九十三圓ノ支出高ナリ

### 三、雜工事

「セメント」火山灰、石炭及油類ノ品質試驗費トシテ七千百七十八圓ヲ、各工場ノ工事外諸費ヲ支辨スル工場雜費ニ二萬七千九百三十九圓ヲ、船舶機械ノ不就役ノ場合之レガ管守費トシテ支出シタルモノ二千六百二十四圓ヲ、武庫川尻採砂場ノ深淺測量ニ二百五十四圓ヲ、機械工場移轉ニ伴フ物品運搬ニ七百七十圓ヲ、現場監督用ニ充ツル工務掛所屬發動機船ノ運轉費ニ三千二百八十二圓ヲ、割石運搬船三隻ガ海難ニ罹リ兵庫縣津名郡野島村大字篠海岸ニ漂着シタルモノ、引卸作業ニ三千七十四圓ヲ支出シタル外諸給與死傷手當等九萬二千六百七十五圓ヲ支出シ本年度ノ支出高計十三萬七千七百九十圓ニ達シタリ

### 四、共濟組合給與金

本年度同組合ニ對シ國庫ヨリ支出シタル給與額ハ九千六十五圓ニシテ其組合員ノ掛金高ハ一萬五千七百七十八圓ナリ

本年度本港修築工事ノ竣功高ハ百八十三萬五千五百五十三圓ニシテ竣功累計高ハ二千八十九萬一千七百七十七圓ニ達ス之ヲ總工費三千五百十六萬八千六百一圓ニ對比スルトキハ約五割九分四厘ノ竣功歩合ナリトス其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「×」ハ材料費ノ項ニ掲ゲタル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル材料



種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
防波堤	1,206.0 米	1,976,314.04 円	2,104,928.00 円	1,206.0 米	1,976,314.04 円	0.43	
南防波堤	△×	2,375,868.00 円	6,009,567.80 円	△×	2,375,868.00 円	0.43	
東防波堤ノ二	△×	638,188.00 円	1,923,116.00 円	△×	638,188.00 円	0.43	
既設東防波堤	△×	377,670.00 円	1,923,116.00 円	△×	377,670.00 円	0.43	
堤費	1,139.40	1,483,389.00 円	731,643.00 円	1,139.40	1,483,389.00 円	1.00	
小計	△×	4,097,891.00 円	2,104,928.00 円	△×	4,097,891.00 円	0.48	
材料費	△×	1,268,973.00 円	6,009,567.80 円	△×	1,268,973.00 円	0.48	
船舶及機械費	△×	3,972,207.00 円	731,643.00 円	△×	3,972,207.00 円	0.48	
用地費	△×	415,421.00 円	86,693.00 円	△×	415,421.00 円	0.48	
營業繕費	△×	6,073,582.00 円	313,516.00 円	△×	6,073,582.00 円	0.48	
雜費	△×	1,283.00 円	218.00 円	△×	1,283.00 円	0.48	
共濟組合給與金	×	985,036.00 円	34,593.00 円	×	985,036.00 円	0.48	
臨時手当	×	1,074,579.00 円	137,798.00 円	×	1,074,579.00 円	0.48	
總計	△×	2,736,640.00 円	1,830,555.00 円	△×	2,736,640.00 円	0.59	

## 第四 橫濱港修築工事

(橫濱土木出張所)

### 緒言

橫濱港ハ元橫濱村ト稱スル一漁村ニ過ギザリシモ安政六年六月開港以來其内外貿易ハ累年長足ノ進歩ヲ爲シ神戸港ト相對峙シテ帝國ノ二大門戸タリ依テ政府ハ本港發展ノ趨勢ニ順應シテ明治二十二年度以來漸次防波堤、馴導堤及鐵棧橋ノ築造、港内ノ浚渫、海面ノ埋立、岸壁、物揚場ノ築造、上屋、倉庫、鐵道、道路、橋梁、起重機、其他ノ陸上設備竝ニ防波堤ノ修繕、棧橋ノ改築等ヲ施行シ大正九年度迄ニ工費總計大約一千八百萬圓(内橫濱市負擔額二百七十萬圓)ヲ支出シテ大ニ本港貿易ノ増進ニ資スル所アリ港灣トシテノ設備稍々見ルベキモノアリト雖モ駸々トシテ止マザル本港ノ發展ハ早クモ是レガ不備狹隘ヲ告グルニ至リシニ依リ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ茲ニ所謂第三期擴張工事ヲ施行スルニ至レリ

本工事ハ大正十年四月着手爾來着々進捗中ナリシガ大正十二年九月一日前古未曾有ノ關東大震災ニ遭遇シ當時掘鑿工事中ノ造船渠ノ崩壞、埋立地ノ陷沒竝ニ建築物ノ破損等アリシモ幸ニ其被害比較的僅少ナリシガ港内從來ノ諸設備ハ全部慘害ヲ蒙リ之レガ復舊工事ノ急施ニ一年有半ヲ要シ爲メニ其間殆ンド中止ノ已ナキ状態ニ在リシガ其完成直後同十四年度當初ヨリ爰ニ再ビ本修築工事ニ着手シタリ今修築費及復舊費ヲ併合シタル現行豫算年割額ヲ示セバ左ノ如シ

年 度	舊第三期		同 上		責任支出		新 計		合 計
	計 畫	施行	第三期分	震災復舊費	第三期分	震災復舊費			
大正十一年度	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	一、〇〇〇、〇〇〇
同 十二年度	一、〇〇〇、〇〇〇	八七八、七七五	七〇、〇〇〇	追加 二、五〇〇、〇〇〇 三、二六、七七一	—	—	—	—	一、〇〇〇、〇〇〇
同十三年度(七月分迄)	三、一〇〇、〇〇〇	二、八七八、七七五	七〇、〇〇〇	四、七七六、七七一	—	—	—	—	三、一〇〇、〇〇〇
小計	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
同十三年度(八月分以降)	一、一〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
同十四年度	一、一五五、七五〇	—	—	—	七七一、二二五	—	—	—	一、一五五、七五〇
大正十五年	一、一五五、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	一、一五五、〇〇〇
昭和元年	一、一五五、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	一、一五五、〇〇〇
昭和二年	一、一五五、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	一、一五五、〇〇〇
同三年度	一、八〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	一、八〇〇、〇〇〇
同四年度	一、八〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	一、八〇〇、〇〇〇
同五年度	二、二四四、二五〇	—	—	—	—	—	—	—	二、二四四、二五〇
小計	一〇、三五〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	一〇、三五〇、〇〇〇
累 計	一三、四五〇、〇〇〇	二、八七八、七七五	七〇、〇〇〇	四、七七六、七七一	一〇、五〇一、二二五	四、四七八、七七五	—	—	一四、九八〇、〇〇〇

更ニ工事費及事務費ヲ分割スルトキハ次ノ如シ

年 度	當 初 年 度 割 額		改 定 年 度 割 額	
	工 事 費	事 務 費	工 事 費	事 務 費
大正十一年度	九四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—
同 十二年度	—	—	—	—
同十三年度	—	—	—	—
同十四年度	—	—	—	—
同十五年度	—	—	—	—
昭和元年	—	—	—	—
昭和二年	—	—	—	—
同三年度	—	—	—	—
同四年度	—	—	—	—
同五年度	—	—	—	—
小計	九四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—
累 計	九四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	—	—

累計	同 十一年度	同 十二年度	同 十三年度	同 十四年度	大正 十五年	昭和 元年	昭和 二年	同 三年度	同 四年度	同 五年度
九四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、一四〇、〇〇〇	一、四三〇、〇〇〇	一、四三〇、〇〇〇	一、四三〇、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇	一、三八〇、〇〇〇
六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇
一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、四五〇、〇〇〇
二、八四七、一五五	二、八四七、一五五	二、八四七、一五五	二、三四五、〇〇〇	二、四六〇、〇〇〇	二、四六〇、〇〇〇	二、四六〇、〇〇〇	一、四六〇、〇〇〇	一、四六〇、〇〇〇	二、一六〇、〇〇〇	二、四六五、〇〇〇
一三二、八四五	一三二、八四五	一三二、八四五	一五五、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一三五、〇〇〇
二、九八〇、〇〇〇	二、九八〇、〇〇〇	二、九八〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	一、五五〇、〇〇〇	一、五五〇、〇〇〇	一、五五〇、〇〇〇	一、五五〇、〇〇〇	一、五五〇、〇〇〇	二、二五〇、〇〇〇	二、六〇〇、〇〇〇
一四、九八〇、〇〇〇	一四、九八〇、〇〇〇	一四、九八〇、〇〇〇	一四、九八〇、〇〇〇	一四、九八〇、〇〇〇	一四、九八〇、〇〇〇	一四、九八〇、〇〇〇	一四、九八〇、〇〇〇	一四、九八〇、〇〇〇	一四、九八〇、〇〇〇	一四、九八〇、〇〇〇

計畫大要

前表示スガ如ク舊第三期修築工事豫算ハ大正十三年七月ヲ以テ之ヲ打切り同年八月以降ノ分ハ震災復舊工事ト併セ新ニ年度割豫算ヲ編製シタルモノトス

一、外國貿易設備

埋立ハ北防波堤内外ニ互リ面積三十三萬四千五百三十三平方米ヲ朔望平均干潮面上三米八ニ埋築スルモノニシテ延長約一千五百二十米、其幅員三百十二米一一、二百五十一米及百五十米ノ三段ヨリ成リ且神奈川寄海岸ニ平行シテ港ノ内側ニ小突堤ヲ築設ス  
岸壁及物揚場トシテハ前記埋立地ノ港内ニ面スル部分ニハ總テ外航船舶ヲ繫留シ得ベキ大岸壁ヲ築造

シ船溜ニ面スル部分ハ水深三米ノ岸壁及斜面物揚場トシ舢船ノ荷役ニ供シ其他ノ沿岸ハ之ヲ護岸トス  
其内譯左ノ如シ

總計	護		揚場物		岸		船		繫		名	稱
	小	計	斜面	岸	小	計	同	同	同	岸		
												朔望平均干潮面下水深
			三〇〇	三〇〇		九〇〇	一〇〇〇	一一〇〇	一一〇〇	一二〇〇	米	
			六六八	一、八三三	六四二	一、一九〇	一、四〇九	三〇九	五二七	二八三	米	有効延長
		三、九〇九										繫留船隻數
								一萬噸級	二萬噸級	三萬噸級	五萬噸級	
								七	二	三	一	一隻

荷役能力ハ繫船岸ニ於テハ一箇年一米當リ五百五十噸トシテ七十七萬五千噸、物揚場ニ於テハ同四百四十噸トシテ八十萬六千噸、合計一箇年百五十八萬一千噸ヲ取扱フコトヲ得ベシ  
舢船溜及舢船水路ハ小突堤ノ内側ト千若町及橋本町沿岸トヲ以テ包圍スル海面竝ニ橋本町ノ一部ヲ水深三米ニ浚深シ舢船溜トス其面積ハ航路ヲ除キ約八萬平方米ナリトス又埋立地背面ト在來防波堤トノ間ニハ平均幅員約七十米、長約八百二十米ノ水面ヲ存置シテ水深三米舢船水路ト爲シ其兩端ニハ在來防



波堤ノ一部ヲ除却シテ出入口ヲ設ケ尙ホ新ニ延長百八十米及二百十米ノ防波堤二條ヲ増築シ以テ舢舨ノ出入ニ便ス

聯絡橋梁ハ埋立地ト千若町トノ間ニハ徑間三十六米一連二十米二連、幅員二十四米ノ人道橋及幅員八米ノ鐵道橋ヲ架設ス而シテ其有効高ヲ朔望平均滿潮面上五米トス

一、内國貿易設備

埋立ハ表高島町地先ニ於テ面積六萬二千二百三十六平方米、山内町地先ニ於テ同四萬九千九百一十一平方米、合計面積十一萬二千四百四十九平方米ヲ朔望平均干潮面上三米四八ニ埋築ス  
岸壁及物揚場トシテハ各埋立地ノ前面ニ何レモ朔望平均干潮面下水深七米三ノ岸壁ヲ築造シ三千噸級汽船ノ接岸荷役ニ供シ其他ノ沿岸ハ水深二米七ノ岸壁及物揚場竝ニ護岸トス其内譯左ノ如シ

名	稱	所	在	朔望平均水深	有 効 延 長	繫 留 船 隻 數
繫船岸	壁	表高島町地先	先	七・三米	六四八	三
同	計	山内町地先	先	七・三	四二三	同
物岸	壁	表高島町地先	先	二・七	一〇七一	八
同	計	山内町地先	先	二・七	三四四	
揚物	揚場	表高島町地先	先	二・七	四六	
同	計	山内町地先	先	二・七	二二九	
揚場	計	山内町地先	先	二・七	九一	
同	計	山内町地先	先	二・七	七二〇	

名	稱	所	在	潮望 水面 平均 水深	有 効 延 長	繫留船隻數
護	岸	山内町地先		米	米	隻
總	計				一九〇九	

荷役能力ハ繫船岸及物揚場一箇年一米當リ夫々五百五十噸及四百四十噸トシテ合計一箇年九十萬六千噸ヲ取扱フコトヲ得ベシ

舢船溜ハ表高島町地先埋立地ノ背面ト在來海岸トノ間ハ其沿岸ヲ舢船ノ荷役ニ供スルト共ニ舢船ノ船溜ニ充テ山内町地先埋立地ト淺野造船所埋立地トノ間ハ幅員七十八米五ノ水面ヲ存置シ以テ埋立地舢船荷役ノ便ヲ計ラントス但シ該水面タル地盤ノ關係上潜函製造工場用地トシテ他ニ求ムルヲ得ザル好適ノ箇所ナルヲ以テ修築工事施行中ハ假ニ其一部ヲ埋築シ存置水面ノ幅員ヲ三十五米ニ止メントス

一、浚 渫

浚渫計畫ハ岸壁ノ水深其他各設備ト相俟テ港内ヲ數區ニ分割シ其水深ヲ七米三乃至十一米トシ且港外ニ於テ幅員二百二十米長九百米ノ航路ヲ水深十一米ニ浚渫ス其他舢船溜等ノ浚渫ハ外國貿易設備地附近ノ部分ヲ水深三米トス而シテ大正十年度以降同十二年八月末日迄ニ於テ面積二百三萬三千三百平方米此浚渫土量九十三萬五千九百三十立方米ノ竣功ヲ見タリシガ同年十二月港内實測ノ結果既成部分ニ變更ヲ來シ面積百萬二千八百平方米此土量六十五萬九千二百立方米トナル即チ十三年度以降浚渫スベキ面積三百二十萬二百平方米ニシテ之ガ浚渫土量四百九十一萬八百立方米トス

舳標トシテハ近時大型船舶ノ出入激増シ大型汽船繫留用ノ浮標増設ノ必要ヲ痛切ニ感ズルヲ以テ一萬噸級七個、三千噸級十個ヲ設置ス

舳船溜ハ本港内大岡川口ニ延長二百米ノ波除堤ヲ新ニ築造シ水面積七萬八千百平方米ヲ抱擁シテ舳船溜場ニ充テ以テ現在舳船ノ混雜ヲ緩和セントス

## 施工狀況

本工事ハ前年度ニ引續キ施行セリ其概況左ノ如シ

### 一、岸壁及護岸工事

(イ) 外部護岸築造工事ハ外國貿易設備地ノ一部北水堤外ニアル延長六百四十六米三七ノ護岸ヲ築造スルモノニシテ大正十四年六月工事ニ着手シ同年度ニ於テ延長五百六十米ヲ完成シ本年度ハ延長七十五米三七ヲ竣功ス而シテ殘部ノ十一米ハ工事上ノ都合ニ依リ之ヲ後年度ニ讓レリ

(ロ) 三米岸壁及三米物揚場工事ハ其總延長前者ハ五百六十三米〇三、後者ハ三百七十五米ニシテ前年度ニ引續キ施行シタルモノニシテ本年度ハ兩者ヲ合シ延長約六百三十二米四五ノ基礎工、扶壁體工及裏込工ヲ竣功ス

(ハ) 十米岸壁工事ハ延長五百二十八米ニシテ大正十五年六月其西北端ヨリ工事ニ着手シ延長二百二十六米二ノ基礎工、潛函工及裏込工ヲ竣功セリ而シテ此工法ハ搔揚式、鋤簾式及プリストマン式浚渫船ヲ使用シテ根掘ヲ爲シ土質柔軟ナル箇所ハ相當ノ地質迄掘下ゲ之ニ割石ヲ埋戻シ然ル後砂利及袋詰混泥土ヲ以テ基礎均ヲ爲シ此上ニ潛函ヲ据付ケ裏詰ニハ浚渫土丹ヲ利用シ又潛函底部前面ニハ割石ヲ用ヒテ根

固ヲ施行セリ然シテ潜函ハ造函船渠ヨリ海上〇三湮ヲ小蒸汽船ニテ現場ニ曳航シ陸上ノ神樂棧及海上ニ碇繫セル百八十立方米積土運船トニ綱取リシテ適當ノ位置トシ函底ニ備ヘタル「バルブ」ヲ開キ或ハ之ニ「サイフオン」ヲ併用シテ函内ニ水ヲ注入シ据付ケヲ爲セリ

(ニ)九米岸壁工事ハ延長三百二十七米ニシテ昭和二年三月其北端ヨリ工事ニ着手シ基礎工及根掘工事施行中ナリ

(ホ)三米扶壁體製造工事ハ前述ノ三米岸壁及三米物揚場ニ使用スル鐵筋混凝土L形壁體ニシテ長四米九、奥行三米五、高五米〇五ニシテ前年度ヨリ引續キ施行中ニシテ本年度ニ於テ百二十二個ヲ製作セリ

(ハ)潜函製造工事ハ本年度着手シ既ニ十米岸壁用潜函十二個ノ製作ヲ了セリ同潜函ハ鐵筋混凝土構造トシ長十八米七五、幅六米二五、高十三米二ニシテ縱隔壁ニ依リテ前後ノ室ニ分チ更ニ六通ノ横隔壁ニ依リテ七分シ十四室ト爲セリ外壁ハ各室毎ニ弧形ト爲シ運搬定置ノ際外部ノ水壓ニ對シ有効ナル形ヲ取ラシメ以テ壁厚ヲ減少スルコトニ努メタリ底部ハ幅九米一五、厚前方一米、後方零米七ニシテ潜函ハ後方ニ扶壁ヲ有ス、潜函製造ハ船渠内ニ函臺四組ヲ設ケ型枠二組分ヲ備ヘ同時ニ二個宛ヲ製造スルコト、セリ而シテ一個ニ要スル混凝土ノ容積ハ約四百立方米ニシテ高十三米二ヲ四段ニ分チ下方ヨリ一段毎ニ順次型枠組立ノ鐵筋配置及混凝土打ヲ爲シ全部打終リタル後數日ヲ經テ型枠ヲ取外シ必要ナル箇所ニセメントガンヲ施工ス斯クシテ出來上リタルモノハ次ノ二個ヲ製造スル期間乾燥セシメ一箇月平均二個ノ割合ニテ進水セシムルモノトス

## 二、浚渫工事

六隻ノ浚渫船、浮島丸(鋤簾式龍神搔揚式)及二號、五號、六號、七號以上プリストマン式ヲ使用シ水深十米、九米、

七米三及三米區域ヲ浚渫セリ本年度浚渫土量ハ六十六萬二千二百七十四立方米ナリ而シテ此浚渫土砂ハ底開土運船側開土運船及傳馬船ニ搭載シ外國貿易用埋立地ノ一部及港外沖合竝ニ唧筒船ノ吸込箇所ニ投棄シ或ハ波除堤基礎ニ利用セリ

碎岩工事ハ浚渫ノ一部トシテ施工シタルモノニシテ「ロプニツ」碎岩船一隻ヲ使用シ水深七米三區域海底ノ土丹岩盤ヲ破碎セルモノニシテ此碎岩土量三萬五百七立方米ナリ

### 三、埋立工事

外國貿易設備地ノ一部北水堤内外ノ總面積二十萬五百平方米ニシテ本年度ハ面積六萬九千八百二平方米、土量四十六萬九千七百四十立方米ノ埋立ヲ施行セリ此工法ハ北東ハ外部護岸、北西ハ三米岸壁及物揚場ニ依リ其他ハ浚渫土丹ヲ利用シテ土留堤ヲ築造シ特ニ南東側ハ波浪ニ耐ユル爲メ上部ハ古方塊ヲ用ヒ根固ニハ古混凝土塊片ヲ使用セリ此埋立ノ中干潮面下ハ概ネ底開及側開土運船竝ニ傳馬船ニ依リ浚渫土砂ヲ捨込ミ干潮面上ハ唧筒船龍王ヲ以テ其前面ニ投棄セル浚渫土砂ヲ吸揚ゲ埋立ヲ施行セリ

### 四、防波堤工事

波除堤築設工事ハ大正十五年八月着手シ昭和二年三月工費四萬九千九百六十四圓餘ヲ以テ全工事ヲ竣功セリ而シテ此工法ハ基礎ニ浚渫土丹ヲ捨込ミ其上ニ約零米六ノ厚サニ割石ヲ置キ上面ヲ干潮面下三米トシ更ニ古方塊ヲ四段積トシテ干潮面上一米七七ニ達セシメ上部ニL形斷面ノ場所詰混凝土ヲ施シ天端ヲ干潮面上二米九七トセリ又堤頭部ハ古方塊ヲ二段積トシ此上ニ中空古方塊ヲ置キ古割石、古混凝土ヲ利用シテ之ヲ填充シ上部ハ本堤ト同ジ高サニ場所詰混凝土ヲ施セリ而シテ堤上ニハ十四米五四米ノ間隔ニテ十個ノ混凝土繫船柱ヲ設ケタリ

五、橋梁工事

本工事ハ昭和二年一月工事ニ着手シ目下橋臺ノ基礎浚渫、締切工事施行中ナリ

六、造函船渠築造工事

本工事ハ前年度ニ於テ其大部分ヲ完成シ本年度ハ扉船及ポンプ室ヲ築設シ大正十五年八月ヲ以テ全工事ノ竣功ヲ告ゲタリ而シテ本船渠ハ長八十三米、底幅二十五米五、頂部幅三十五米、高十二米、入口水深滿潮面下十米、上幅十四米五五、底幅十一米一一ニシテ鋼製ノ浮遊扉船ヲ用ヒタリ船渠築造ニ要セシ總工費ハ諸設備ヲ合シ二十九萬五千三十圓(外ニ評價品見積價額一萬四千六百三十五圓)ナリ

七、營繕工事

本年度ハ鐵筋倉庫十五萬八千平方米四、雜建物四百五平方米四ノ建設及諸修繕ヲ爲シタルモノニシテ合計八千五百四十圓餘ヲ要セリ

八、船舶及機械修理製作

本年度ニ於ケル工事ハ船舶及機械ノ修理、製作竝ニ工業材料ノ製作トス而シテ船舶機械ノ修理製作ハ主トシテ直營ヲ以テ施行シタルモ工事ノ都合上其一部ヲ請負ニ附シタリ

前述ノ如ク本年度ノ諸工事ハ概ネ所期ノ如ク進捗シ其工程ノ約三割五分ノ竣功ヲ見タリ左ニ本年度ノ竣功高ヲ示ス

種 別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合 計
	數	金額	數	金額	
					竣功 歩合

總計	岸壁及護岸費	浚深費	埋立費	防波堤費	橋梁費	繫船浮標費	船舶及機械費	雜費	共濟組合給與金
	五六〇 立方米	一、七九五、〇一六 立方米	五五〇、二六九		七個				
三、五七六、五一八	九四、二二三 円	五二六、五五三	七九、〇八一	四、三七五		一八三、六二八	一、九〇九、八一八	七六九、一一四	九、七二六
	七五、三七 立方米	六六二、二七四	四六九、七四〇	二〇〇 米					
一、三六三、三〇三	四九六、九九四 円	一五八、九一二	五七、〇九四	四九、九六四	七、一六一		三七五、二八八	二〇五、四七七	一一、四一三
	六三五、三七 立方米	二、四五七、二九〇	一、〇二〇、〇〇八	二〇〇 米	七個				
四、九三九、八二一	五九一、二一七 円	六八五、四六五	一三六、二七五	五四、三三九	七、一六一	一八三、六二八	二、二八五、一〇六	九七四、五九一	二二、一三九
〇・三五	〇・一一	〇・六〇	〇・二二	〇・一一	〇・四五				

## 第五 門司港修築工事

(下關土木出張所)

### 緒言

本工事ハ總豫算五百貳拾五萬圓(内門司市負擔八十七萬五千圓)ヲ以テ大正八年度以降八箇年度ノ繼續事業トシテ施行中ノ處豫算ノ關係上大正十二年度ニ於テ工期二箇年度ヲ同十四年度ニ於テ尙一箇年度ヲ延長シ竣功期ヲ昭和四年度トスルコト、ナレリ

### 港狀並計畫大要

門司港ハ夙ニ世界交通ノ要衝ニ當リ船舶出入ノ頻繁ナル實ニ本邦諸港ノ首位ヲ占ム之レヲ以テ同港ノ貿易ハ年々堅實ニ發達シ加フルニ關門海峽整理工事ノ進捗ト北九州工業ノ勃興トハ益本港ノ眞價ヲ發揮セシムルニ至リタリト雖モ繫船及荷役ノ設備ニ至リテハ何等見ルベキモノナク貨物ノ殆ンド全部ハ沖荷役ニ依リ處分セララル、ノ狀況ナルヲ以テ海陸聯絡ノ設備ヲ完成スルハ寔ニ焦眉ノ急ニ屬ス是レ本工事ノ因テ起リシ所以ナリ今計畫ノ大要ヲ記スレバ左ノ如シ

白木崎ヨリ北東ニ向ヒ幅平均九十米、延長一千二百九十六米ヲ平均最大干潮面以上三米八ニ埋築シ其前面ニハ水深十米ノ繫船壁ヲ築造シ以テ外國貿易用ニ充ツルモノトス

現在第一船溜ノ陸舌ヲ撤去シ之レニ代フルニ沖合九十米ノ所ニ岩壁兼用ノ防波堤ヲ築キ其外側ニ水深七米二ノ岸壁ヲ設ケ中國通定期船二隻若クハ三千噸級船一隻ノ繫留ニ便シ内側ハ水深三米六ト爲シ大



型船ノ使用ニ供シ船溜内ハ其一部ヲ埋立テ物揚場トシ既成税關埋立地ト共ニ鐵道ノ聯絡ヲ圖ラント  
 ス其他護岸ノ水深ハ二米四トス

前記防波堤ト外國貿易用埋立地トノ間ニ介在スル延長三百十五米ヲ以テ鐵道省關門聯絡船及公私汽艇  
 用ノ繫留棧橋設置箇所ニ充テ尙其沿岸幅十八米ヲ埋築シ之レヲ道路敷ニ充ツ而シテ護岸ハ總テ水深二  
 米四ヲ保タシム

白木崎以南外國貿易用埋立地ニ接シテ現在海岸ニ竝行シ沖合幅平均九十米、長八百三十七米ヲ埋立テ在  
 來ノ貯炭場ヲ此處ニ移轉シ其前面ニ水深三米六ノ岸壁ヲ築キ石炭ノ荷役ニ供スルモノトス前記新貯炭  
 場西南端鐵道省埋立地ノ前面ニ當リ三米六岸壁見透シ線内ニ長六百六十六米ノ防波堤ヲ築造シ以テ船  
 船ノ碇泊ニ便ナラシメントス

埋築面積總計二十三萬八千九百二十平方米ニシテ内外國貿易部十二萬七千三百八十平方米、内國貿易部  
 三萬三千平方米、石炭取扱所七萬八千五百四十平方米ナリトス

## 施工狀況

本年度ニ於テハ前年度ニ引續キ外國貿易部十米岸壁及其内部埋立ヲ主トシテ施行シ後半期ニ於テ内國  
 貿易部二米四岸壁ノ築造ニ着手セリ其概況左ノ如シ

岸壁用鐵筋混凝土函ノ製作工事ハ石炭取扱所三米六岸壁函ハ己ニ大體完成セシヲ以テ本年度ニ於テハ  
 專ラ十米岸壁用函ヲ製作セリ其數八個ニシテ起工以來ノ累計ハ六十一個ニ達シ總數六十九個ノ約九割  
 ヲ完成セリ

塊製作工事ハ前年度迄ニ二米四岸壁用L型塊六十六個、方塊百七十四個ヲ製作シ一時中止セシガ本年度ニ於テ内國貿易部二米四岸壁用L型塊五十三個、同方塊十八個ヲ製作セリ

岸壁工事狀況ハ左記ノ如シ  
(イ)石炭取扱所三米六岸壁(長八百二十八米)ハ大正八年度ニ着手シ同十三年度迄ニ工事用假船入場出入口約三十六米ヲ除キ他ハ殆ンド竣功シ本年度ニ於テハ頂部混凝土ヲ九米七、笠石十九米六、防舷材百二組ヲ施行シ年度末ノ竣功歩合九割五分餘ナリ

(ロ)外國貿易部十米岸壁(長二千三百十四米)ハ大正十年度ニ着手シ前年度迄ニ岸壁ノ主體タル混凝土函五十一個其延長九百六十三米ノ据付ヲ終リ本年度ニ於テハ混凝土函九個其延長百七十米一ノ据付ケ函内部混凝土填充百七十五米五、頂部混凝土百七十米一ヲ施行セリ本年度末ニ於ケル竣功歩合ハ約八割三分ニ達ス

(ハ)外國貿易部東側面小蒸汽船繫留場二米四岸壁延長百八米ハ大正十、十一兩年度ニ於テ竣功セシメ其以東ニ於ケル内國貿易設備ハ本年度ニ於テ小蒸汽船繫留場ヨリ鐵道關門連絡船用橋ニ至ル二米四岸壁ノ築造ニ着手セシモ地盤軟弱ニシテ工事遅々トシテ進捗セズ僅カニ基礎床拵ヲ施行セシニ止マリ其他ハ未ダ着手スルニ至ラズ

(ニ)石炭取扱所ノ西方ニ築造スベキ防波堤工事ハ大正十年一部捨石工事ヲ施シタルモ豫算ノ都合上一時工事ヲ中止セリ

埋立工事ハ大正八年九月石炭取扱所西端ヨリ着手シ次テ外國貿易部ニ及ボセリ斯クシテ前年度迄ニ前



總計	臨時手当當	共濟組合給與金	雜費	營繕費	船舶及機械費
△	△	△	△	△	△
三、五七九、五二一 三七、二五三	一一、一九三	六、七二三	一八〇、七七八 六、〇八九	一一五、四六六 五〇三	七八八、八九八 一五、五二五
△	△	△	△	△	△
二六七、一二一 四七六	一、八八五	一六、九七七 一三三	一、三二四	四六、九六八 二八九	四六、九六八 二八九
△	△	△	△	△	△
三、八四六、六四二 三七、七二九	一一、二九三	八、五九八	一九七、七五五 六、一〇二	一一六、七九〇 五〇三	八三五、八六六 一五、八一四
〇、七八					

## 第六 長崎港修築工事

(下關土木出張所)

### 緒言

本工事ハ長崎市ノ事業ヲ内務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ當初ハ總工費百五十萬圓(内七十五萬圓ハ國庫補助)ヲ以テ出島埋立竝ニ其前面浚渫工事ヲ施行スルコト、シ大正九年度ヨリ同十一年度ニ至ル三箇年度ノ繼續事業ナリシガ同十一年度ニ於テ元船町岸壁及埋立費九十萬圓(内四十五萬圓ハ國庫補助)ヲ追加シ工期ヲ二箇年度延長シテ大正十三年度迄トシ次デ同十二年度ニ於テ港口大會根ノ除礁費九萬圓(内六萬圓國庫補助)ヲ追加シ其後事業繰延ノ爲メ工期二箇年度延長セシヲ以テ現在ニ於テハ總工費二百四十九萬圓竣功期ハ昭和元年度迄トナリシモ同年度内工事竣功ニ至ラザリシヲ以テ更ニ工期ヲ一箇年度延長スルコト、ナレリ

### 港狀並計畫大要

本港ハ九州西岸ニ位シ地形深ク東北方ニ灣入シ四時風浪穩ニシテ我國ニ於ケル天然無比ノ良港ナリト雖モ内外通商貿易ノ發達ハ次第ニ出入船舶ノ増加ト共ニ船型ノ増大ヲ來シ到底天然ノ形勝ノミニ委スベカラザルニ至リ明治三十年度ヨリ同三十七年度ニ互リ國費ノ補助ヲ得テ港内ヲ浚渫スルト同時ニ沿岸ヲ埋築整理シ港灣トシテ稍々其面目ヲ一新セリト雖モ水陸聯絡ノ設備ニ至リテハ殆ンド之ヲ缺キ泊地亦狹小ニシテ輓近商工業ノ急激ナル發展ノ爲メ出入貨物増加シ殊ニ歐洲大戰ノ結果支那南洋方面ト

ノ航通漸次頻繁ヲ如フルニ至リ到底從來ノ設備ヲ以テ甘ズベカラザルニ至レリ是本計畫ノ因テ起リシ所以ニシテ其計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

出島沿岸長四百十四米、幅平均四十五米ヲ干潮面上四米二四ニ埋立テ其前面ニ水深九米一ノ岸壁ヲ築造シ八千噸級汽船二隻又ハ五千噸級汽船三隻ノ接岸ニ便セシメ兩側面ニハ五十二米五宛ノ斜面荷揚場ヲ設クルモノトス

元船町沿岸長五百四十米、幅平均四十八米六ヲ干潮面上四米二四ニ埋立テ其前面ニ水深二米七、一米八及零米九ノ岸壁ヲ築造シ小型汽艇及帆船ノ接岸荷役ニ便セシメ兩側面ニハ各護岸ヲ設クルモノトス  
港内第一區内ニ於テ面積約三十三萬平方米ヲ水深九米一ニ浚深シ同水深以上ノ水面積九十九萬平方米ヲ約百三十二萬平方米ニ擴大セントス

港内第三區内ニ存在スル大曾根岩礁ヲ水深十米八ニ碎岩浚深シ航行船舶ノ出入ヲ安全ナラシム  
埋立地上ニ施行スベキ鐵道其他ノ諸設備ハ凡テ後日ノ經營ニ俟ツモノトス

## 施工狀況

出島岸壁及埋立工事竝ニ大曾根除礁工事ハ大正十三年度中ニ竣功ヲ告ゲタルヲ以テ爾來專ラ主力ヲ元船町岸壁及埋立竝ニ浚深工事ニ注ギタリ本年度ニ於ケル施工狀況ヲ示セバ左ノ如シ  
元船町岸壁工事ハ二米七岸壁、一米八岸壁、零米九岸壁、護岸及假護岸ニ區分施行スルモノニシテ二米七岸壁ハ前年度迄ニ其大部分ノ竣成ヲ見本年度ニ於テ施行セルハ裏込石、基礎沈定、張石、石垣及繫船柱ノ各小部分ニシテ何レモ年度内ニ竣功ヲ見タリ

一米八岸壁ハ前年度ニ引續キ施行中ニシテ北方折曲箇所零米九岸壁ニ接續スル長約九米ハ零米九岸壁トノ關係上尙未着手ニシテ大波止前面長百八米ノ箇所ハ半バ竣功シ半バ工事中ニ屬シ全體ニ對シ約七割八分ノ功程ニ達セリ

零米九岸壁及其接續部護岸工事ハ工事ノ都合上年度内着手ノ運ニ至ラズ南側面護岸長四十八米六ノ箇所ハ大正十五年八月着手シ目下尙工事中ナリ

浚渫工事ハ前年度ニ引續キ鋤鏈式浚渫船玉浪丸、搔揚式浚渫船錦江號及附屬曳船竝ニ土運船ヲ使用シ尙五月錦江號ヲ鹿兒島へ廻航セシムルト同時ニ關門改良工事用第一號碎岩船ヲ廻航シ同船備付ノ碎岩錐ヲ利用シテ土盤ヲ混攪シ玉浪丸ノ能力ヲ補充スルコトニ努メタリ年度内ノ浚渫十萬二千八十一立方米、累計五十三萬五千四百五十立方米六ニシテ殆ンド竣功ノ域ニ達シタリ

埋立工事ハ前年度ニ引續キ木曾川丸ヲ以テ土砂採取及吸揚ニ就業セシメ補助トシテプリストマン式浚渫船二隻(内一隻ハ長崎市役所ヨリ借入)ヲ使用シ年度内ノ埋立土坪十五萬八千四百二十三立方米累計五十一萬六千四百八十二立方米ニシテ全量ニ對シ九割二分ノ竣功ヲ示セリ  
其他工事用方塊製作、砂、雜石等ノ採取等雜工事ヲ施行セリ

本年度内竣功高ハ十七萬八千五百二十一圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ二百十八萬五百八十七圓ヲ算シ工費總豫算二百三十二萬七千二百圓ニ對シ九割四分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「  
ハ除礁」ハ評價品見積價額ニシテ岸壁及護岸費竣功金額中ニハ函工場設備費、型框費、出島工場設備費、基礎試驗工事費及雜石、砂利、砂等ノ採取費ヲ含ム

種別	前年度迄		本年度		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸費		九八三、〇六六 六、六一一		三〇、八八二 一、四七二	一、〇一三、九四八 八、〇八三	〇・九五	
埋立費	立方米 三五八、〇五九	一一五、六五五	立方米 一五八、四二三	三八、五〇六	一五四、一六一	〇・九七	
浚渫費	x 四三三、三七五 一三三、〇〇〇	一七〇、二六五 二、二八一	x 一〇二、〇八一	四六、七〇五 五一九	二一六、九七〇	一・〇〇	
船舶及機械費		五六一、三五七 一、三五二		三五、九九三 六〇四	五九七、二五〇		
營業繕費		八、五〇四		三九五	八、八九九		
雜費		一五七、五八三 二四二		二四、〇五六 一、二二六	一八一、六三九 三六四		
共濟組合給與金		五、七三九		一、九八一	七、七三〇		
總計		二、〇〇三、〇六九 一、二二〇、〇八八		一七八、五一八 三、九五二	二、一八〇、五八七 一、五五、九五九	〇・九四	



## 第七 清水港修築工事

(横濱土木出張所)

### 緒言

本港ハ近時港勢ノ發展顯著ナルニモ拘ラズ其設備頗ル不完全ニシテ貨物取扱上不利不便尠カラズ之レガ修築ハ急務ニ屬ス是ヲ以テ静岡縣ハ本港修築ノ計畫ヲ樹テ大正十年度ヨリ同十五年度ニ至ル六箇年度繼續事業トシテ總工費五百五十萬圓ヲ計上シ其二分ノ一ヲ國庫補助トシ同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ依ル國ニ於テ事業直接施行ノ件ヲ申請シ來リタルヲ以テ是ガ豫算ヲ第四十四帝國議會ニ提出シ其協賛ヲ得タリ

亞デ大正十一年度ニ於テ静岡縣ハ追加工事トシテ清水港内三保村地先ノ海面約五十一萬一千七十五平方米ニ係ル埋立費六十七萬七千圓ノ縣費支辨ヲ以テ施行ノ義ヲ申請シ來リ是亦第四十五議會ノ協賛ヲ得テ施行スルコト、ナレリ尙同十三年度ニ鐵道省ハ省用炭陸揚設備ノ不備ナル所以ヲ以テ縣ト協議ノ上巴川河口以南ノ埋立地三萬五千六百七十平方米ヲ讓リ受ケ其前面ニ繫船岸ヲ築造シ且其前面六萬六千百十六平方米ヲ浚深スルノ計畫ヲ樹テ此施行方ヲ内務省ニ委託セリ此工費四十八萬二千二百圓ナリ而シテ是等ノ工事ハ大正十五年度ヲ以テ竣工ノ豫定ナリシガ偶々政府ノ財政緊縮ニ方リ昭和四年度迄即チ三箇年度ノ延期トナリタルモノナリ

### 港狀並計畫大要

本港ハ本邦東海岸駿河灣内ニ在リテ太平洋航路ノ樞要地ニ方リ横濱神戸兩港ノ間ニ介在シ東海道鐵道ニ沿ヒ能ク海陸ノ連絡ヲ保ツコトヲ得ベク其地形トシテハ三保半島ニ圍繞セラレ港内廣濶波浪常ニ平穩ニシテ水深ク海底ノ地質ハ泥砂ニシテ船舶ノ錨定極メテ安全ナル天然ノ良港ナリ

元和元年徳川家康豊臣氏ト兵ヲ交ユルニ及ビ艦船ヲ本港ヨリ大阪ニ廻航シ兵器食糧ヲ送レリ當時町民最モ輸送ニ勗ム其功績ニ因リ徳川氏保護政策ノ恩惠ヲ享ケ夙ニ海運ノ隆盛ヲ來シ爾來沿岸貿易港トシテハ有數ノ港灣ナリシガ明治二十九年ニ至リ開港外外國貿易港ニ關スル規定發布セラル、ヤ港ノ有志者此機失フベカラズト爲シ蹶起相協力シテ縣會ト共ニ政府ニ建議スル所アリ遂ニ其望ヲ達シ明治三十年六月開港外外國貿易港ニ指定セラル、ニ至リ踰エテ同三十二年八月更ニ開港場ニ指定セラレタリ既往ニ於ケル本港修築工事ヲ視ルニ本港ニ於ケル從來ノ設備トシテハ觀ルベキモノ無シト雖モ明治十一年度ノ築造ニ係ル清水波止場アリ舊問屋即チ當時回漕業者ノ發意ニ基キ完成セルモノナリ其後明治四十三年度ヨリ大正二年度ニ至ル四箇年度間ニ互リ工費總額三十萬七千八百六十二圓ヲ以テ縣ニ於テ修築工事ヲ實施セリ其大要ヲ舉グレバ清水波止場ノ西北ニ方リ海岸ニ沿ヒ水面積約六萬一千五百七十三平方米ノ船入場ヲ設ケ水深干潮面下二米一ニ浚深シ延長六百三十三米ノ物揚場ヲ築造シ又從來ノ江尻船入場ニモ延長二百三十六米ノ物揚場ヲ増設シ水深二米一トシ而シテ清水船入場ヨリ江尻船入場ニ至ル海岸ニ沿ヒ總面積十六萬八千七百九十六平方米ノ埋立ヲ施工セリ

本港輸出入貨物ハ年ヲ逐フテ増加シ昭和元年ニハ百二十三萬五千噸ニ達シタリ又縣下ノ産業狀況ヲ觀ルニ富士駿東地方ノ製紙紡績靜岡市ノ製茶濱松市ノ木綿織物ヲ主トシ縣下各地方ノ工業ノ製産額大正十一年ニハ一億八千四百萬圓ニ達シ尙漁業港トシテ共ニ本邦屈指ト稱ス(昭和元年度木材輸移入二百七

萬五千餘石(且近時豐富ナル縣下發電力ノ計畫ハ五十餘萬馬力ニ達シ本港附近各種工業ノ勃興ヲ促スノ傾向ヲ有シ加フルニ近ク富士身延ノ中央線連絡ハ甲信二州ノ物資ヲ本港ニ吸收スルニ至ルベク本港ノ將來益々發展スルノ機運ヲ示シ來レリ。繼ツテ本港ニ於ケル設備ヲ視ルニ清水船渠及舊船渠ノ物揚場延長八百九十六米ニ達スト雖モ其設備不完全ニシテ充分ノ利用ヲ爲スコト能ハズ而シテ本港ニ入港スル外國汽船ハ主ニ米國航路ノ大型船ニシテ滯船期間ノ短縮ハ切實ニ其必要ヲ感ズルニモ拘ラズ常ニ遠キ沖合ニ碇泊シ到底荷役ノ敏活ヲ期スル能ハズ貨物取扱上不利不便ナルコト甚大ナリト云フベシ其他ノ入航船舶ニ於テモ同様ノ状態ニ在ルヲ以テ今日ノ儘ニテハ近時内外貿易發展ノ趨勢ニ順應スル能ハズ茲ニ本修築ノ成立ヲ見ルニ至レルナリ

左ニ計畫ノ大要ニ就キ述ヘン

清水波止場ト巴川トノ間其延長六百二十四米ノ沿岸ヲ幅百九米ニ埋立テ港灣設備地ニ供ス其前面ニハ岸壁朔望平均干潮面下水深十米六ノモノ二百米、同八米五ノモノ百八十二米、同七米三ノモノ二百三十六米ヲ築造シ其前面ヲ水深九米一、八米五、七米三ニ浚渫シ二萬噸級ノ汽船一隻、八千噸級ノ汽船一隻及三千噸級ノ汽船二隻同時ニ接岸荷役ニ便セントス巴川以南ノ沿岸其延長一千三十六米、幅平均二百五十五米ヲ埋立テ港灣設備地及工業用地ニ供セントス

三保村地先ノ海面五十一萬一千七十五平方米ヲ埋立テ商工業用地トシテ港灣ノ利用發展ニ資スルモノナリ

浚渫ノ箇所及水深ハ十米六岸壁前面及航路幅三百二十七米乃至四百五十五米ヲ差當リ水深九米一ニ、八米五岸壁前面幅三百二十七米ヲ八米五ニ、七米三岸壁前面幅三百二十七米ヲ水深七米三ニ浚渫ス而シテ

漁船ノ船溜ニ便センガ爲メ巴川下流清水港橋以下河口ニ至ル延長九百九米ヲ幅三十六米水深一米八ニ浚渫ス

以上ハ原計畫ノ大要ナルモ大正十四年十二月其一部ノ計畫及修築費豫算内譯ヲ左ノ如ク變更セリ

一、原設計ニ於ケル巴川以南ノ物揚場延長三百六十四米ノ内鐵道省委托ニ依ル岸壁工事ヲ施行ノ爲メ此延長二百六十八米ヲ減ズ

一、原設計ニ於ケル護岸ハ將來ノ利用ヲ考慮シ大部分ヲ水深二米七ノ物揚場ニ變更セリ

一、原設計ニ於ケル浚渫區域ノ内巴川前面幅員二百三十六米ハ將來航行船舶ノ安全ヲ期スル爲メ幅員三百二十七米ニ變更ス而シテ浚渫幅員變更ノ結果三保辦天地先ノ土地約五千八百二十五平方米ヲ買收スルモノトス

鐵道省委托工事ハ巴川以南ノ埋立地三萬五千六百七十平方米ノ前面ニ水深七米三ノ繫船岸ヲ築造シ其前面約六萬六千平方米ヲ同水深ニ浚渫スルモノトス  
左ニ修築費及鐵道省委托工事内譯ヲ掲グ

種別	修築費		鐵道省委托工事
	舊豫算高	新豫算高	
岸壁及護岸費	一、四四六、一四〇 <small>円</small>	一、二一九、四七五 <small>円</small>	二五三、六二〇 <small>円</small>
浚渫費	一、五七〇、〇〇〇	八一三、三三〇	九八、二八〇
埋立費	六三三、一九五	五〇六、一七九	—
船舶及機械費	一、六二〇、五〇〇	二、四四八、二六七	七二、三〇〇

種別	事 費				總計
	營繕費	用地費	雜費	共濟組合給與金	
修築	100,000 円	304,900	112,265	577,000	617,000
費	153,959 円	383,452	152,562	570,100	617,000
鐵道省委托工事	100,000 円	48,000			482,000

施工狀況

岸壁工事トシテハ大函十八個ヲ製作進水シ内四函(十米六)ハ甲岸壁用四函(八米五)ハ乙岸壁用十函(七米三)ハ鐵道省岸壁用トシ夫々所定位置ニ沈設ス上部工事ハ乙函八個分、鐵道省岸壁用六個分完成ス尙丙岸壁ハ昭和二年三月三十一日工事竣功セリ又護岸工事ハ小函七十三個ヲ製作進水シ五十一個ヲ三保地先具島北護岸用、二十二個ハ同具島西護岸用トシテ夫々所定位置ニ沈設ス此工費二十六萬七千二百六十四圓ナリ(内七萬七千七百七十三圓ハ鐵道省負擔額)

埋立工事ハ三保地先六萬七千九百六立方米、不二見地先三十六萬七千三百六十五立方米ノ埋立ヲ施工セリ此工費八萬四千二百五十二圓ナリ其外浚渫工事ニ依リテ三保地先八千五百五十四立方米、受新田地先二

萬三千四百八十五立方米ノ埋立ヲ爲セリ

浚渫工事ハ椿號、菖蒲號、富士號、バケツト式、草薙、唧筒式、第三號及第四號、ブリストマン式、浚渫船合計六隻ヲ使用シ、航路及巴川河口岸壁豫定位置附近ノ浚渫ヲ行ヒ、土砂運搬ハ曳船、小蒸汽船四隻、石油發動機船二隻及土運船百二十立方米積七隻、六十立方米積一隻、四十二立方米積二隻、二十四立方米積側開四隻、同甲板積三隻ヲ使用ス。此浚渫土量八十二萬八千二百五十九立方米ニシテ、工費十五萬一千九百九十三圓ヲ要セリ。 (内土量二十萬六千五百九十九立方米、工費三萬九百五十八圓)ハ鐵道省負擔額、浚渫土砂ハ其一部ヲ當所ノ諸工事竝ニ横濱港修築工事ニ利用シ、又ハ民間ニ讓渡シ、他ハ受新田及三保地先ノ埋立竝ニ港外沖合ニ投棄セリ

營繕工事ハ諸修繕ヲ成シタルモノニテ、三百五十七圓ヲ要セリ

船舶機械修理製作トシテハ、事務所及機械工場所要諸機械ノ製作及浚渫船六隻、起重機船一隻、汽船五隻、自動艇竝ニ發動機船六隻、土運船十八隻、雜船三十八隻、其他諸機械ノ修理ヲ爲セリ。此工費二十八萬三千四百十圓ナリ (内三萬五千七百十五圓ハ鐵道省負擔額)

其他不二見排水路工事ハ其一部ヲ殘シ、殆ド完成セリ。又三保辨天地先六千四百五十四平方米ヲ買收ス。地上物件移轉費ト共ニ此金額二萬九千七百七十四圓ナリ

前記ノ如ク本年度ノ諸工事ハ概ネ所期ノ如ク進捗シ、總工費八十九萬四千九百五十二圓ヲ要セリ

本年度ニ於ケル本修築工事竣功額ハ七十四萬百三十八圓ニシテ、累計四百四十七萬五千三百三十六圓ニ達セリ。而シテ總工費ニ比スレバ七割九分ノ割合ニ當ル。其工事竣功表ハ左ノ如シ。但シ土地收用ニ係ル金額ハ雜費ニ包ミ、<sup>○</sup>ハ鐵道省委托工事ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸費	●	●	●	●	●	●	●
浚渫費	●	●	●	●	●	●	●
理立費	●	●	●	●	●	●	●
營繕費	●	●	●	●	●	●	●
船舶及機械費	●	●	●	●	●	●	●
雜費	●	●	●	●	●	●	●
共濟組合給與金	●	●	●	●	●	●	●
總計	●	●	●	●	●	●	●

岸壁及護岸費 前年度迄竣功高 數量 四、一六、六四二 金額 二八、〇八七  
 本年 數量 六、二二、七五〇 金額 一、九〇、〇九一  
 合計 數量 一〇、三九、三九二 金額 二九、九八、一七八  
 浚渫費 前年度迄竣功高 數量 二、五〇二、七八七 金額 五五二、四四一  
 本年 數量 二〇六、五〇九 金額 三〇、九五八  
 合計 數量 二、七〇八、二九六 金額 五八三、三九九  
 理立費 前年度迄竣功高 數量 三、四七、九〇二 金額 六六、五二九  
 本年 數量 四、三五、二七一 金額 八四、二五二  
 合計 數量 七、八三、一七三 金額 一五〇、七八一  
 營繕費 前年度迄竣功高 數量 一、四一、三五七 金額 一四、一七一  
 本年 數量 三、五七 金額 三五七  
 合計 數量 一、四一、三五七 金額 一四、一七一  
 船舶及機械費 前年度迄竣功高 數量 二、〇二四、一六四 金額 五二、九七七  
 本年 數量 二、四七、四二五 金額 三、五七二  
 合計 數量 四、五〇一、五八九 金額 五六、五四五  
 雜費 前年度迄竣功高 數量 五、一八、九六八 金額 五、六五九  
 本年 數量 一、〇、九六八 金額 七、九〇八  
 合計 數量 六、一八、九三六 金額 一三、五六七  
 共濟組合給與金 前年度迄竣功高 數量 一、五、〇九七 金額 一、五〇九  
 本年 數量 一、五、〇九七 金額 一、五〇九  
 合計 數量 三、〇、一九四 金額 三、〇一八  
 總計 前年度迄竣功高 數量 一、一〇、六七三 金額 三、七三、一九八  
 本年 數量 一、一〇、六七三 金額 三、七三、一九八  
 合計 數量 二、二一、三四六 金額 七、四六、三九六  
 歩合功 前年度迄竣功高 〇・五〇 四分  
 本年 〇・四三 四分  
 合計 〇・七九 四分

## 第八 下關港修築工事

(下關土木出張所)

### 緒言

本工事ハ總豫算三百六十一萬圓(内百八十萬五千圓下關市負擔)ヲ以テ大正十年度以降七箇年度ノ繼續事業トシテ施行中ノ處豫算ノ關係上大正十二年度及同十四年度ニ於テ工期各一箇年度ヲ延長シ竣功期限ヲ昭和四年度トスルコト、ナレリ

### 港狀並計畫大要

下關港ハ本邦西部ノ要港ニシテ古來殷盛ヲ極ムト雖モ水深淺ク泊地狹隘ニシテ大船巨舶ヲ容ル、ニ足ラズ殊ニ水陸聯絡設備ニ至リテハ一部鐵道構内沿岸ヲ除キ殆ソド之ヲ闕キ輓近内外貿易ノ急激ナル發達ニ伴フ出入船舶ノ増加ト船型ノ増大ハ最早天然ノ形勝ノミニ依ルヲ容サバルニ至レリ然レドモ時運ノ趨勢ト財政ノ狀態ハ未ダ遽ニ大計畫ノ施設ヲ容ル、能ハザルベキヲ以テ暫ク之ヲ他日ニ譲リ先以テ焦眉ノ急ニ應ズル程度ニ於テ修築工事ヲ施サントス其計畫ノ大要左ノ如シ

停車場以東ニ屬スル部分ハ内外貿易用ニ充ツルモノニシテ其東端ハ內務省埋立地ニ接續シ現在海岸ニ沿ヒ幅五十四米内外ヲ干潮面以上三米八ニ埋立テ其前面ニハ東端ヨリ干潮面以下二米七岸壁延長二百六十四米六、五米四岸壁延長二百二十五米、七米二岸壁延長五百九十米四ヲ築造シ七米二岸壁ノ西端延長線ニ沿ヒ長百十七米ノ防波堤ヲ設ケ其内部ヲ船溜ニ充テ現在海岸ニ沿ヒ三米六岸壁延長百九十四米四、



一米八岸壁延長四百五米ヲ築設スルモノトス

停車場以西ニ屬スル部分ハ漁港ニ充ツルモノニシテ下關驛西端貨車航送船發着場ノ北方護岸ニ接續シ中間ニ於テ幅百八米内外ヲ干潮面以上三米八ニ埋築シ其前面ニ五米四岸壁長三百四十米二、東側ニ護岸長百七十五米五、西側ニ二米七岸壁長百三十六米八及護岸長二十九米七ヲ築造スルモノトス埋築面積ハ總計十三萬七千二百八十平方米ニシテ内東部八萬二千五百餘平方米、西部五萬四千四百五十餘平方米ナリ而シテ埋築上ニ施設スベキ倉庫、上屋、鐵道、道路、其他ノ諸設備ハ總テ後日ノ經營ニ俟ツモノトス

岸壁ノ前面ハ總テ岸壁深ト同深ニ浚渫シ尙西部埋立地前面ニ横ハレル淺洲ハ干潮面以下三米ニ、同所ト停車場トノ間ニ介在スル淺瀬ハ同五米四ニ浚渫スルモノトス

## 施工狀況

本年度ハ前年度ニ引續キ岸壁埋立及浚渫工事ヲ施行セリ其概況左ノ如シ

岸壁用鐵筋混凝土函ノ製作工事ハ當初五米四岸壁用函ノミヲ作製シ十三年度ヨリ七米二岸壁用函ヲモ併セ施行セシガ十四年度ニ於テ五米四岸壁函全部(二十九個完成セシヲ以テ爾來七米二岸壁函ノミヲ製作シ本年度ニ於テハ十三個六分ヲ製作シ累計二十六個九分ニ達シ其竣功歩合約八割七分ナリ

岸壁及護岸用L形塊及方塊製作工事ハ西部埋立地用ノモノハ大正十三年度迄ニ全部(二米七岸壁用L形塊八十個岸壁曲折部及護岸用方塊二百二十四個)ヲ製作シ本年度ニ於テハ東部七米二岸壁曲折部用方塊十六個ヲ製作セリ

岸壁及護岸築造工事ハ當初西部五米四岸壁ニ着手シ漸次東部ニ及ボシタルガ本年度ニ於テハ西部ノ僅少ナル殘工事及東部七米二岸壁ニ主力ヲ注ギテ施工セリ其狀況左ノ如シ

(イ) 西部五米四及二米七岸壁ハ前年度迄ニ殆ンド完成シタリシヲ以テ本年度ニ於テハ僅カニ其殘部分ヲ施工シ何レモ之レヲ竣功セシメタリ

(ロ) 西部竹崎及今浦護岸ハ間知石積ニシテ岸壁ニ接續スル部分ハ方塊ヲ使用調節スルモノニシテ前年度迄ニ竹崎護岸ノ大部分、今浦護岸ノ一部ヲ施工シ本年度ニ於テハ何レモ其殘工事ヲ施行シ前者ハ竣功、後者ハ石積ノ一小部分ヲ殘スノミトナレリ

(ハ) 東部五米四岸壁ハ前年度迄ニ岸壁ノ主體部ヲ築造シ本年度ニ於テハ函内部及頂部混凝土其他上部諸工事ヲ施工シ只僅ニ二米七岸壁トノ接續部分ヲ殘スノミトナレリ

(ニ) 東部七米二岸壁ハ前年度迄ニ混凝土函十三個延長二百四十六米六ノ据付ヲ終リ本年度ニ於テハ十二個延長二百二十六米八ヲ据付ケタル外頂部混凝土其他上部諸工事ヲ施行シ本岸壁ノ約七割九分ヲ竣功セシメタリ

(ホ) 東部二米七岸壁ハ十三年度ニ於テ一部基礎床掘ヲ施行セシ儘ニシテ其他三米六岸壁、一米八岸壁及防波堤ハ未ダ着工ノ運ビニ至ラズ

埋立工事ハ當初西部ノ埋立ニ着手シ次デ東部ニ施工シタルガ前年度迄ニ前者ハ殆ンド竣成シ後者ハ七米二及五米四岸壁裏延長約百八十米ヲ施工シ本年度ニ於テハ西部埋立區域ヲ完成セシメタル外東部埋立區域ニ於テ五米四岸壁裏約百四十四米、七米二岸壁裏約百八十米ヲ竣成シ累計約五百四米間ノ竣功高ニ達セリ東部埋立地竣功部分ノ内下關水上警察署前面長二百九十一米六ノ地域ハ大正十五年九月下關

市ニ對シ之ガ利用ヲ承認シ市ニ於テハ假上屋ヲ建築シ翌年二月ヨリ中國航路汽船等ノ接岸繫船ヲ開始シ海運業者ニ於テ盛ニ利用セラレツ、アリ

浚渫工事ハ當初西部埋立地前面ノ浚渫ニ着手シ以テ停車場東端船溜内竝ニ東部七米二及五米四岸壁前面ヲ施工セリ而シテ前年度迄ニ西部各箇所ハ大部分浚了シ只僅ニ彦島埋立地前面ニ横ハレル淺洲ノ一部及同所ト停車場間ニ介在スル小淺瀨「サキノ瀨」ヲ殘スノミトナリ東部ハ前記船溜内及五米四及七米二岸壁ニ沿ヘル部分幅約五十四米ヲ浚了セリ本年度ニ於テハ西部ニ於ケル前記彦島埋立地前面淺洲ノ一部及「サキノ瀨」ノ全部竝ニ東部ニ於ケル岬町沖浚渫區域ノ東南部面積約一萬八千五百平方米ヲ浚了セリ年度末ニ於ケル竣功歩合ハ五割強ニ達セリ

其他下水工事竝ニ工所用諸機械運轉雜石砂利及砂等ノ直營採取ヲ施行セリ

本年度竣功高ハ二十八萬百三十三圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百八十八萬三千八百六十圓ヲ算シ工費總豫算三百三十六萬三千百圓ニ對シ五割六分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「下關市及民間ヨリ搬入投棄シタル土量」ハ評價品見積價額ニシテ岸壁及防波堤竣功金額中ニハ函工場設備費型枠費及雜石砂利砂等ノ採取費竝ニ工所用諸機械ノ運轉費等ヲ含ム

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及防波堤費	四七三、六三二 一六、三五一	七八一、八二二 四、八七〇	一九六、 一九、九三九	一六〇、 一、三六七	六六九、 三九、六三三	九四二、 六、二四八	〇・九〇
埋立費	*	六七、 五、三二一	二九、 一、三三〇	九四、 六、二四八	九七、 五、四三三	〇・五六	〇・五六

港灣改良工事大要

總計	渡漈費	船舶及機械費	營繕費	雜費	共濟組合給與金
	三五六、〇六四				
△	△	△	△	△	△
一、六〇三、七二七 一三、九九一	一三〇、六八〇 一、五五三	五一〇、六三〇 二、二三六	一〇、一二五	九五、七一五 二、一	七、〇八二
	四二、五九五				
△	△	△	△	△	△
二八〇、三三〇 二、一八〇	一一、三六一	五二、三七四 六、五七四	六六〇 一、四〇	二二、一五九 一、〇	二、五二三
	三九八、六五九				
△	△	△	△	△	△
一、八八三、八六〇 一六、一七一	一四三、〇四一 一、五五三	五六三、〇〇四 二、八八三	一〇、七八五 一、四	一一七、八七四 三、一	九、六〇五
〇、五六	〇、五一				

## 第九 敦賀港修築工事

(名古屋土木出張所)

### 緒言

本工事ハ總工費三百四十萬圓(内工事費三百十九萬圓、事務費二十一萬圓)ヲ以テ大正十一年度ヨリ同十八年度ニ至ル八箇年度繼續事業ナリシモ同十二年度ニ至リ關東大震火災ノ影響ニ因リ竣功期ヲ昭和五年度迄繰延ベ施行スル事トナレリ次デ昭和二年二月ニ至リ計畫ノ一部變更セラレ既設棧橋西方岸壁水深八米五ヲ鐵道省委託工事トシテ施行スル事トナレリ此工費四十萬圓ナリ

### 港狀並計畫大要

本港ハ古來北海ノ要衝ニ當リ其地勢東南西ノ三方ハ連山圍繞シ獨リ北方ノ一面ノミ廣ク日本海ニ通ジ港内廣闊ニシテ水深ク良ク大船巨舶ノ碇繋ニ便ナルモ尙此地方ニ多キ偏北風ニ對シ安全ナル能ハザルヲ以テ曩ニ金ヶ崎突堤ヲ延長シ港内ノ浚渫、埋立、棧橋等當面ノ急ニ應ズル施設ヲ爲セシモ歐洲大戰勃發シタル結果軍事上將タ經濟上愈々重要ノ地位ヲ占ムルニ至リタルノミナラズ貨客ノ激增ニ依リ到底從來ノ設備ヲ以テ甘ンズベカラザルニ至レリ是本計畫ノ因テ以テ起レル所以ナリ今其計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

既設防波堤ト同一方向ニ三百九十一米延長セントスル既定計畫ヲ變更シ是ヲ更ニ長百十九米九延長スルト共ニ筈ノ川左岸ニ長三百八十米ノ防砂堤ヲ新設シ筈ノ川ヲ港内ニ抱擁シテ港内ノ水面積ヲ擴大シ

船舶碇繋ノ便ヲ圖ラントス

既設棧橋西方幅平均五十五米、長百六十四米ヲ埋立テ其前面ニ長百六十四米、水深八米五ノ岸壁ヲ築造シ六千噸級汽船一隻ノ接岸荷役ニ供スベキ計畫ヲ其儘鐵道省委託工事トシテ施行スル事トセリ又筈ノ川右岸ノ繫船埠頭ハ之ヲ廢シ三米七岸壁ヲ長十三米減ジ二百二十三米五ト爲シ三千噸級汽船二隻ヲ繫留スルコトヲ得セシメ其西端ヨリ陸地ニ沿ヒ筈ノ川右岸ニ達スル百六十三米ノ物揚場護岸ヲ設ケ舢舨又ハ小型船ノ接岸荷役ノ用ニ充ツ

前記ノ如ク繫船埠頭廢止ニ伴ヒ水深八米五ノ浚渫ヲ廢シ約八萬平方米ノ水面ヲ水深七米三ニ浚渫シ以テ水深七米三以上ノ水面約四十萬平方米ヲ得ルモノトス是等ノ浚渫土砂ハ全部埋立ニ利用スル見込ニシテ埋立總土量約二十一萬立方米ニシテ埋立面積約五萬二千平方米ナリ(内八千平方米ハ鐵道省委託)

## 施工狀況

本年度ニ於テ施行セシ工事ハ採石、函製造、防波堤、岸壁、護岸、埋立等ニシテ左ニ其概要ヲ述ベン  
第三種岸壁工事ハ前年度ニ引續キ捨石、地形均、函据付、函内混凝土填充、上部壁體ノ諸工事ヲ施工シ長百八十米約九割ノ完成ヲ見第二種岸壁トノ取付部分ヲ殘スノミトナレリ本年度竣功額五千三十圓ナリ  
第一種岸壁工事既設棧橋西方八米五岸壁工事ニシテ基礎均及繼手用方塊ノ製造ヲ爲セシニ過ギズ而シテ昭和二年二月鐵道省委託工事トシテ施行スル事トナレルヲ以テ内務省ニ於テ既ニ施工セシ函五個ハ内務省トシテハ全然不用トナリタレバ此ヲ鐵道省工事ニ使用シ其代償トシテ此レニ相當スル材料ヲ鐵道省ヨリ受入ル、事トセリ前記函五個ノ製造工費ハ九萬九千九圓ニシテ本年度還付ヲ受ケシ材料ハ六

萬八千九百四十九圓ナリ殘額ハ昭和二年度ニ於テ還付ヲ受クル豫定ナリ  
 函製造工事ハ岸壁護岸及防波堤用函ヲ製造スル工事ニシテ前年度ヨリ引續キ施行シ本年度内ニ岸壁用  
 九米五函四個防波堤用九米五函四個計八個ヲ製造セリ此工費七萬二千三十六圓ナリ  
 兒屋ノ川取付護岸ハ本年度ニ於テ方塊製作竝ニ据付上部壁體石張護岸等殆下竣功セリ  
 防波堤工事ハ前年度ニ引續キ極力捨石ヲ施スト共ニ保護用方塊百八十一個ノ製造ヲ爲セリ此工費二萬  
 一千四百八十圓ナリ

埋立工事ハ各種岸壁護岸内部ノ埋立全部ヲ施行セントスルモノニシテ本年度ニ於テハ其功程四萬百立  
 方米ニ達シ其工事費一萬二千八百三十四圓ニシテ累計九萬五千二百立方米ノ埋立ヲ了セリ而シテ埋立  
 土砂ハ主トシテ浚深船ニ依リ豫定計畫區域内ヲ浚深セシモノニシテ一部ハ採石場不用土砂及筧ノ川以  
 西濱地ヨリ掘鑿セル土砂ヲ機關車ニテ運搬使用セリ

採石工事割石ハ敦賀港ヨリ海上四軒ヲ距ツル沓採石工場ヨリ採取シ之レヲ運搬船ニ受ケ曳船ヲ介シテ  
 當港ニ曳航シ所要工事ニ配付スルモノニシテ本年度ニ於テ一萬五千三百立方米ヲ採取セリ此工費六萬  
 六百二十圓ナリ

砂及砂利ハ直營採取シ本年度内ニ砂二千二百立方米砂利三千百五十立方米工費八千七百三十八圓ヲ要  
 セリ此外兒屋ノ川口左岸突堤ノ除却函設備除去石材積出用埠頭ノ擴張方塊積出棧橋第一號惡水路敷設  
 等ヲ施行セリ

本年度工事竣功高ハ四十萬五千九百八十三圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計百六萬二千八百四十圓ト  
 ナリ之ヲ總工事費三百十九萬圓ニ比スレバ約三割三分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ岸壁

護岸及防波堤費中ニハ函製作及函設備費、砂、砂利採取費、採石費ノ一部ヲ含ミ、△ハ製作品無代品、所出石材  
 評價品採取品代價等ナリ

尙鐵道省委託工事竣功表左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸費		一五三、八五〇		一一八、四八〇		二七二、三三〇	〇・三〇
防波堤費		三五、七七一		二二、二八〇		五七、〇五二	〇・〇二
理立費	五五、〇六三	一四、七七五	四〇、一四六	六二、二七五	九五、二〇九	四四、六七五	〇・四三
雜工事費		三一、八四一		一二、八三四		四四、六七五	
船舶及機械費		二、四五八		三、六九一		六、三三一	
測量及檢潮費		二、〇五五		一八五、四八三		一八七、五三八	
營繕費		二八四、五七七		一、二〇五		二八五、七八二	
雜費		二七、〇八九		八、四九二		三五、五八四	
共濟組合給與金		三、六〇六		三〇五		三、九一一	
總計		六五六、八五七		四〇五、九八三		一、〇六二、八四〇	〇・三三
		五五、三五二		七六、九〇五		一、三二二、二五七	
岸壁及護岸費			五個	七一、八五〇		七一、八五〇	〇・二八
九米五函製造			五個				〇・五五





# 第一〇 高松港修築工事

(神戸土木出張所)

## 緒言

本港ハ香川縣ノ中央部高松市ノ海岸北緯三十四度二十一分、東經百三十四度二分ニ位シ地勢南ニ肥沃ナル讃岐平野ヲ控ヘ屋島山海中ニ突出シ西方ニ王越半島ヲ望ミ前面ハ女木、男木ノ兩島相連リテ港北ヲ扼ス而シテ北東及北西ハ海路ノ深度大船巨舶ノ航行ニ適シ岡山縣宇野港ヲ距ルコト僅ニ十一哩四國四縣中最モ景勝ノ地位ヲ占ムル内海ノ要港タリ

高松市ハ今ヲ去ル三百年前即チ寛永年間ヨリ松平氏ガ生駒氏ニ代リテ居城ト爲シタル地ニシテ當時之ヲ玉藻城ト稱シ附近一帶ノ海岸ヲ玉藻浦ト呼ベリ船舶出入ノ地ハ地勢上自ラ東濱、堀川及西濱ノ三港ニ分タレ就中東濱港ハ商船ノ出入ニ充テ西濱港ハ漁業者ノ専用ニ供シ堀川港ハ藩船ノ繫留場タリシガ維新後は等ヲ高松港ト稱スルニ至レリ明治三十四年七月縣費ノ補助ヲ得高松市ニ於テ修築工事ヲ起シ工費二萬八千餘圓ヲ投ジテ西濱港ノ東堀川港ニ於テ水面積約二十六萬四千平方米ヲ包擁スル東西二條ノ防波堤ヲ築造シ兼テ港内主要部ノ浚渫堀川港及沿岸ノ埋築、棧橋ノ築設等ヲ企テ同三十七年九月之ヲ完成シ以テ現在ノ本港ヲ形成セリ

爾來時勢ノ推移ニ伴ヒ年ト共ニ貨客船舶ノ出入著シク増加シ殊ニ宇野港トノ間ニ船車聯絡ノ設備成リ貨車航送ノ實施セラレシ以來本港ノ利用上ニ一新紀元ヲ劃シ更ニ擴張ノ必要生ジタルガ故ニ大正八年香川縣ニ於テハ港灣調査會ヲ設置シ之レガ調査ヲ進メ越テ同十年六月ニハ内務省ニ於テ本港ヲ第二種

港灣ニ編入シ尋デ第四十五回帝國議會ノ協賛ヲ經テ本港ノ改修計畫全ク樹立セラル即チ大正十一年度ヨリ同十六年度當初工期ハ十五年度迄五箇年度ニ至ル六箇年度ノ香川縣營繼續事業トシテ工費總額二百二十萬圓(内俸給及事務費十三萬三千九百二十五圓ヲ含ム)ヲ豫算シ國庫ヨリ其半額ノ補助ヲ得且同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ內務大臣ニ於テ本事業ヲ直接施行スルニ至レリ

### 港狀竝計畫大要

現今ニ於ケル高松港ノ狀態ハ東西兩防波堤ヲ以テ限ラレタル區域内ナリト雖モ從來ノ所謂高松港ナルモノハ東濱港及西濱港其他ヲ包含スルモノニシテ其東端ニ位スル袖場川ハ水深極メテ淺ク大潮時干潮ニ於テハ全部川底ヲ露出シ一部ハ貯木場ニ充ツルモ一般船舶ノ出入多カラズ東濱港ハ帆船ノ出入頻繁ニシテ主トシテ農産物及肥料類ノ集散ニ利用セラレ中川港ハ水面積狹ク小船ノ修理及繫留場ニ充ツルニ過ギズ此東西兩防波堤ヲ以テ圍マレタル現在高松港ノ東半部ハ水深淺キ爲メ荷役ノ設備ヲ缺キ剩ヘ陸上ハ舊城趾ニ遮ラレテ運輸交通上ノ不便尠カラズ西半部ニハ縣營棧橋竝鐵道棧橋貨物航送ノ設備共同荷役場坂出地方專賣局高松出張所等アリ港内ハ大小船舶常ニ輻湊ヲ極ムルニ反シ西濱港ハ單ニ漁船溜ニ過ギザルナリ

本港々外東西ノ二方ハ所謂遠淺ニシテ港口ヨリ沖合ハ急ニ水深ヲ加フ而シテ海底ハ概シテ僅少ノ粘土ヲ含ム細砂ニシテ岩盤ナキガ故ニ錨碇浚渫或ハ構造物ノ基礎トシテハ強チ憂フベキ土質ニ非ラザルノミナラズ土砂ノ移動モ亦大ナラザルナリ波浪平靜ニシテ潮流速度ハ毎時二哩ヲ超ヘズ潮位ハ大潮時平均干潮ノ差約二米四、四季降雨少ナク氣候溫暖ニシテ夏季稀レニ暴風ノ襲來スルコトアリト雖モ永年ノ

記録ニ徵スルニ北々東風三十五米ハ其最大風速ニシテ冬季ニ在リテハ西南西ノ強風多シトス本港ノ計畫左記ノ如シ

北防波堤ハ延長八百米ニシテ舊東防波堤頭部ヲ起點トシ東濱地先計畫埋立地前面ニ併行シテ築造シ又新設東防波堤ハ延長七百九米ニシテ柚場川口右岸ヨリ北方ニ向ツテ築造シ前者ノ東端トノ間ニ幅員七十三米ノ副港口ヲ存置シ現在ノ東防波堤ハ全部之ヲ撤去シ又中川港ノ港口北東隅ヨリ突出スル突堤ハ其先端ヨリ三十六米ヲ除却シ尙東濱港内ノ突堤二箇所ハ之ヲ除却スルモノトス

埋立ハ玉藻町地先ニ於テ幅員三十六米面積約一萬五千五百平方米ヲ平均滿潮面上一米五ニ埋立テ(棧橋附近ハ適當ノ幅員ニ埋立ツ)又下横町地先ニ於テ面積約一萬六千五百平方米八重垣新地々先ニ於テ面積約二萬六千四百平方米ヲ埋立テ以テ荷揚場倉庫道路及鐵道敷地ニ供シ埋立ノ前面ハ水深二米七ノ物揚護岸トシ其他ハ一米八ノ護岸トス

浚渫ハ港内ノ主要部分面積十三萬二千平方米ヲ最干潮面以下六米四ニ浚渫シ一千五百噸級汽船ノ碇繫場ニ供シ尙港内ヲ各適當ノ水深ニ浚渫ス此浚渫總面積四十六萬二千平方米土量約百三十八萬立方米ナリ

新設棧橋ハ其根元ヲ現在棧橋ノ位置ヨリ東方百九米ノ地點ニ定メ港口ノ中心ニ向ツテ築設シ其兩側ヲ利用スル事ヲ得セシメ而シテ現在ノ棧橋ハ新設棧橋ノ位置ヨリ更ニ百十八米東方ニ移轉スルモノトス當初計畫前記ノ如クナリシガ大正十五年八月其一部ヲ左記ノ通り變更ス

東濱港口ニ於ケル小突出部ニ接續スル地域約五千九百平方米(内民有ニシテ買收スベキモノ約三千九百平方米ヲ算ス)ヲ干潮面下二米三ヲ掘鑿浚渫シテ之ヲ擴張シ其沿岸竝ニ之ニ接續スル北方ヲ水深一米八

ノ荷揚場護岸ヲ築造シ尙其一部ヲ埋築ス

既定計畫ニ基ク中川港ノ浚渫ヲ廢シ此面積約一萬一千五百平方米ヲ干潮面上三米ニ埋立テ其南西隅ニハ土留護岸ヲ築造シ北方前面ハ水深二米七ノ荷揚場護岸ヲ築造ス

既定計畫ニ屬スル水深六米四部ノ東方ニ接續シタル水深三米六浚渫部分ノ内面積約二萬三千平方米浚渫區域外約八千九百平方米、合計三萬一千九百平方米、水深六米四ニ浚渫シ既定計畫ト共ニ水深六米四ノ泊地面積ヲ合計十六萬五千平方米ニ達セシメントス

副港口附近ハ一米八ニ浚渫スベキ計畫ノ處之ヲ水深三米六ニ浚渫シテ下横町前面泊地ニ於ケル水深ト同一ナラシム

既定計畫ニ於テ取除クベキ下横町地先突堤先端部ハ之ヲ現在ノ儘存置シ其根元東側ニ突出スル部分ヲ除却スルモノトス

## 施工狀況

本工事ハ大正十一年度ノ起工ニ係リ六箇年度ノ繼續事業ニシテ昭和二年度ヲ以テ完成期トスルガ故ニ全計畫ニ對シテハ既ニ前年度マデニ總テ着工ノ運ニ至リタルヲ以テ本年度ハ諸工事ノ繼續施行ニ止マル以下其概要ヲ記述セントス

護岸工事ニ於テハ八重垣町地先二七米護岸ニ於ケル基礎捨石及荷重据置各二十二米、方塊沈積四十三米、石垣百六十九米、階段一箇所、物揚場十三米ヲ施工シテ本護岸ノ約九分通完成シ同一米八護岸ニ於テハ基礎捨石百七十三米、荷重据置百五十七米、方塊沈積百七十三米、石垣二百五十二米、階段三箇所、物揚場五米四

ヲ施工シテ本工ノ約八分通完成ス又玉藻町地先二米七護岸ニ於テハ物揚場及橋臺ノ殘工事ヲ施工シテ本工ヲ竣功セシメ中川港口二米七護岸延長四十一米ハ本年一月ノ起工ニシテ年度内基礎捨石二十九米、方塊沈積十三米ト所要方塊五十三個及同矢板二百二十本ヲ製造シテ本工ノ約七分通ヲ竣功セシメ殘餘ハ翌年度へ繰越スニ至レリ此直接工費ハ三萬九千七十一圓ナリ

埋築工事ハ玉藻町地先ニ於テ一千二百立方米ヲ埋立テ表面ノ地均一萬二千八百平方米ヲ處理シテ本工ヲ完成セシメ八重垣新地々先ニ於テハ浚渫土砂ノ利用六萬一千六百九十二立方米ヲ埋築シテ工費通計七千三百七十一圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一立方米當ハ十一錢七厘ナリ

防波堤築造工事中本年度ノ施工ハ東防波堤ニ於テ捨石四十三米、荷重九米、石垣百九十米ヲ施工シテ本工ノ約八分通完成シ北防堤ニテハ捨石二十七米、荷重五十八米、石垣八十六米ヲ實施シテ本工ノ約八分通完成ス又防波堤補強工事ニ在リテハ下横町及西防波堤各三十六米宛施工シテ本工ノ約四分通ヲ竣功セシメタル直接工費ハ三萬五千八百九十七圓ナリ

浚渫工事ハ計畫土量百三十八萬立方米ニ對シ前年度マデ工程量八十三萬六千九百四十立方米即チ約六割完成(本年度ニ於テ計畫土量百六十三萬三千四百立方米變更增加シタルヲ以テ之ニ對スル工程量歩合ハ約五割一分ナリ)セシメ引續キ本年度ハ水深一米八部、三米六部及六米四部ノ各區域ニ對シ「プリストマン」式浚渫船二隻、唧筒式香東丸及鋤鏈式香西丸ヲ運用シ之ニ所要ノ土運船竝ニ曳船ヲ配屬セシメテ土量三十四萬四千六百五十二立方米ヲ浚渫シ内六萬一千六百九十二立方米ハ八重垣地先ノ埋築ニ利用シ十一萬四千三百四十二立方米縣營理立地ニ十六萬八千六百十八立方米ハ港外ニ運搬捨土ス此工費六萬一千九百六十六圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一立方米當ハ十八錢ナリ

棧橋築造ハ長約百八十二米、幅十一米、一千七百四十二平方米ニ對シ鐵筋混凝土浮函五個ヲ連絡シ其間隔ニハ鐵製渡橋ヲ架スル計畫ニシテ大正十四年十二月一日ヨリ着手シ前年中ハ功程ノ見ルベキモノナカリシガ本年度ハ銳意之ガ進捗ヲ期シタルヲ以テ年度内浮函五個ノ製造ト進水トヲ無事終了セシメ所要方塊十八個ノ製造ト浮函碇繫二十三個ノ計畫ニ對シ十四個ヲ完成シ渡橋五個ノ架設中二個分ヲ施工シテ本工ノ大部分ヲ完了セシメ僅少ナル殘工事ヲ翌年度ヘ繰越スニ至レリ此直接工費七萬九千四百六十八圓ヲ支出シタリ

渡橋五個ノ製作ハ請負施工ニシテ此金額六千八百七十圓ヲ以テ昭和二年一月大阪市北村合資會社ト契約シ同年三月八日完納スル運ビトナレリ

前記鐵筋混凝土浮函ノ形狀ハ長二十九米、幅十一米高二米六、混凝土配合ハ「セメント」一、砂一・五、砂利三ノ割合ヲ以テ斜路ニ依リ進水臺上ニ製造後滑走進水ヲ爲シタルモノトス此浮函一個ノ直接工費ハ約一萬五千四百圓ナリ

在來防波堤ノ除却計畫ハ東防波堤五百二十六米、東濱防波堤四十米、下横町防波堤ハ十四米計五百八十米ノ處前年度中東防波堤三百三十六米、東濱防波堤四十米完了本年度ハ東防波堤百八十九米、下横町防波堤十四米除却シタルヲ以テ悉ク完了シタリ本年度ノ直接工費ハ二千二百九十四圓ナルヲ以テ一米當ハ約十一圓二十五錢ナリ

船舶機械費ハ主トシテ修繕費ニ屬シ直營ニテ小修繕ヲ施シタルモノ四千百八十九圓請負施工額ハ四萬六千六百五十九圓ヲ算スル内主ナルモノハ浚渫船ノ費用ニシテ諸機械ノ購入及修繕ニ屬スルモノ約一萬三千圓ヲ含ムヲ以テ本年度ノ支出額ハ五萬八百四十八圓ナリ

雜工事費ニ屬スル中川港沿岸ノ石垣取除七米三ヲ施工シテ之ヨリ割石二十六立方米、礫二十九立方米、間知石百三十個、切石百九十個ヲ得之ヲ諸工事ニ利用セリ本年度ノ工費ハ八十六圓ナルヲ以テ一米當ハ十一圓七十八錢ナリ

雜費所屬ニ於テハ「セメント」石炭ノ品質試驗費トシテ七百八十三圓、事務所雜費ニ一千五百五十八圓、發動機船運轉費ニ二千五百五十圓、其他ノ雜件取合九百四十五圓、工事外諸給與死傷手當等計一萬二千五百五十三圓尙共濟組合給與金一千三百九十八圓、合計一萬九千三百二十七圓ヲ支出シタリ

材料採取ハ砂利及砂ノ二種ニシテ前年度ニ準ジ香東川尻ヨリ採取海路高松港ニ輸送シタルモノニシテ本年度ノ功程ハ砂利一千五百十八立方米、工費三千七百五十五圓一立方米當二圓四十七錢、砂一千七百八十八立方米、工費二千七百三十四圓一立方米當一圓五十三錢ナリ

以上諸工事ヲ施行シタル本年度ノ竣功高ハ三十萬二千八百十七圓ニシテ竣功累計ハ百五十九萬九千十四圓ニ達ス之ヲ總工費二百六萬六千七十五圓ニ對比スルトキハ約七割七分ノ竣功ナリ則チ左表ノ如シ但シ「 $\times$ 」ハ直營採取材料代ナリ

種別	前年度迄		本年度		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
護岸費	11,003.00 <small>立方米</small>	182,952.00 6,377.00	62,892.00 <small>立方米</small>	39,071.00 2,849.00	182,922.00 <small>立方米</small>	222,023.00 9,226.00	1.00
埋立費	×	17,747.00	×	7,371.00	182,922.00 <small>立方米</small>	25,118.00	0.42
防波堤費	×	130,363.00 6,078.00	×	35,897.00 2,424.00	182,922.00 <small>立方米</small>	166,260.00 8,502.00	0.77
浚渫費	836,940.00 <small>立方米</small>	182,125.00 19,789.00 658.00	344,652.00 <small>立方米</small>	61,966.00 79,468.00 1,778.00	1,181,592.00 <small>立方米</small>	244,091.00 99,257.00 1,836.00	0.50
棧橋費	×	19,789.00 658.00	×	79,468.00 1,778.00	1,181,592.00 <small>立方米</small>	99,257.00 1,836.00	0.48



種別	前年度迄		本年度		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
防波堤取除費	三七六米	二〇、〇二三円	二〇四米	二、二九四円	五八〇米	二二、三二七円	一・〇〇
雜工事費		七、五六九		八六		七、六五五	〇・一七
材料費		一三、七五〇		六、四八九		二〇、二三九	
船舶及機械費		六四三、二八六		五〇、八四八		六九四、〇三四	
營繕費		二五、六六三				二五、六六三	
雜費		四九、九二二		一七九、二二九		六七、八五一	
共濟組合給與金		三、一〇八		一、三九八		四、五〇六	
總計		一、二九六、一九七 一三三、三四六		三〇二、八一七 六、四五一		一、五九九、〇一四 一九、七九七	〇・七七

# 第一一 境港修築工事

(大阪土木出張所)

## 緒言

本工事ハ總豫算百八十萬圓(内工費百六十九萬百圓、事務費十萬九千九百圓)ニシテ其半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十一年度ヨリ昭和二年度ニ至ル六箇年度間ノ繼續事業ナリシガ大正十二年九月關東大震災ノ影響ヲ受ケ工期ヲ二箇年度延長シ昭和四年度ニ竣功セシムルコト、ナレリ工事ハ鳥取縣ノ企業ニ係ルモノナルガ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行スルモノトス

## 港狀並計畫大要

境港ハ日本海ニ於ケル樞要ノ港灣ニシテ山陰唯一ノ天然良港タリ殊ニ朝鮮及西比利亞方面トノ通商貿易上至便ノ位置ニ在リト雖モ港口常ニ砂洲ノ爲メ閉塞セラレ水陸聯絡亦不完全ナルヲ以テ從來之レガ利用ヲ完フスル事能ハズ先キニ明治三十七年度物揚場トシテ市街沿岸一千四百十八米ニ平均幅三米六四ヲ埋築セシモ唯小船ノ繫留ニ適スルニ過ギズ爾後明治四十一年度航路維持ノ爲メ長一千四百五十四米五ノ捨石堤ヲ施シ同時ニ航路ヲ浚渫セシモ其效果完カラズ然ルニ輓近出入船舶ノ増加ト船形ノ增大ハ最早現狀ニ委スルヲ許サルニ至レリ殊ニ近來山陰線全通ノ爲メ本港ハ益々重要ノ地位ヲ占ムルニ至リ之レガ修築ハ一日モ緩フスベカラザルニ至レリ今其計畫ノ大要ヲ記セバ次ノ如シ

埋立停車場先ニ於テ長四百十八米、幅三十六米内外ノ水面ヲ干潮面上一米五ニ埋立ツルモノトス

岸壁埋立地ノ前面ニ干潮位以下六米四岸壁二百七十三米、同五米五岸壁九十一米ヲ設ケ一千噸級乃至二千噸ノ船舶四隻ヲシテ同時ニ繫留ノ用ニ供シ其他ノ沿岸五十四米ニハ物揚場及護岸ヲ設ク  
防波堤御臺場鼻ヨリ南方二百十八米ノ海岸ニ起リ東方ニ向ヒ延長八百三十六米ニ至リ直角ニ北折シテ延長三百八十二米ニシテ舊捨石堤ニ連續セシメ且該堤ヲ利用増築シ更ニ其尖端ヲ延長シテ一千七百米ニ至リ七米三ノ水深ニ達セシム其延長二千九百十八米ナリトス  
浚渫埋立地前面水面約十九萬八千三百四十七平方米ヲ浚渫シ船舶繫留ノ用ニ供シ之ニ通ズル航路トシテ延長四千三百六十四米ノ間幅九十二米乃至百八十二米ヲ干潮面下六米四乃至七米三ニ浚渫スルモノトス此浚渫總面積約三十八萬三千四百七十一平方米、土量百十萬二千百五立方米ナリ

## 施工狀況

本年度ニ於ケル施行工事ハ主トシテ前年度ニ引續キ防波堤ノ基礎捨石竝ニ上面ノ張石及混泥土方塊ノ疊積工事ト浚渫工事トニシテ昭和二年一月ヨリ岸壁工事ニモ着手セリ而シテ前年度迄ハ曳船用トシテ汽艇壽丸及長濱丸竝ニ第三多賀丸ノ三隻ヲ使用セシモ大正十五年八月ヨリ足羽丸ヲモ使用スルコト、セリ其他採石工事、方塊製造工事等モ施工セシガ其狀況左ノ如シ

防波堤工事ハ前年度ニ引續キA、B幹部全部竝ニC幹部起點ヨリ一千五百米ニ互ル箇所ニ捨石ヲ施行シA幹部中延長二百五米ノ部分ハ上面ノ張石ヲ完了シ延長三百二十二米ノ箇所ハ張石施工中ナリ次ニ混泥土方塊ノ疊積ヲ終了セシハB、C接續部分ヲ除キB幹部三百五十二米五竝ニC幹部中起點附近ヨリ七百七十七米ノ部分ナリ本年度ニ於ケル捨石數量ハ二萬二千百五十五立方米ニシテ内三千四百十立方米六

三ハ購入ニ係ル石材ナリ又混凝土方塊ノ使用數量ハ三千三百八十五立方米六(此個數一千五十八個)ナリ  
浚渫工事ハ前年度迄唧筒式浚渫船櫻島丸一隻ヲ使用セシガ大正十五年八月ヨリバケツト式浚渫船一隻  
ヲ併用運轉シ境町地先ヨリ森山村大字玉井地先ニ渉ル航路ヲ水深約五米五乃至六米四ヲ限度トシ浚渫  
ヲ了セリ一方岸壁工事施工部分ノ前面ヲモ六米四岸壁工事ノ床掘ト共ニ浚渫ニ着手シ一部分浚渫ヲ完  
了セリ而シテ本年度浚渫土量ハ十五萬五千三百十二立方米ナリ

採石工事ハ島根縣八東郡森山村大字玉井地内ニ於テ直營ニテ雜石ヲ採取スルモノニシテ去ル十三年度  
以來採石ノ結果漸次良材ノ斫出困難トナリシニ依リ更ニ接續地ノ山林及畑八畝歩ヲ昭和二年一月買收  
シ石材ノ採取ニ努メタリ是等採取石材ハ大部分ハ防波堤基礎捨石ニ使用セシガ一部分ハ岸壁工事基礎  
捨石ニモ使用セリ年度内採石數量ハ二萬三十六立方米一ナリ

方塊製造工事ハ本年度ニ於テハ前年度ニ引續キ既成方塊ノ送出及積込ヲ施行スルト同時ニ一方前年度  
ニ於テ購入契約ニ係リ原料ノ納入ヲ待チ方塊ノ製造ニ着手シ年度内ニ於テ製造セシ數量ハ三千五百九  
十六立方米八(此個數一千百二十四個)ナリ

岸壁工事ハ昭和二年一月ヨリ工事ニ着手セシガ年度内ニ於テハ主トシテ六米四岸壁ノ床掘及基礎捨石  
ヲ爲セシニ止マリ其數量ハ床掘一萬三立方米、捨石五百五十二立方米四ナリ尙本工事施行ノ爲メ二十噸  
吊起重機船一隻回航セシモ年度内ニハ使用スルニ至ラザリシナリ

其他方塊製造ノ爲メ直營ニテ採砂ヲ施行セシト直營採石ノ補足ノ爲メ民間ヨリ割石三百四立方米七、雜  
割石四千二百二十五立方米八ヲ購入使用セリ

本年度境港修築工事竣功高ハ二十九萬二千八百八十四圓ニシテ起工以來ノ累計ハ八十八萬六千三百三

拾八圓ナリ總豫算額(事務費ヲ除ク)百六十九萬百圓ノ約五割二分ニ當レリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ  
 \*ハ直營採石砂見積價額△ハ製作品見積價額○ハ無償品見積價額ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及防波堤費	立方米 二六五、七三五	〇△× 一八二、二五八 一七六、九五一 一九、一七一	立方米 一五五、三一二	〇△× 一五八、三二一 四六、三二一 四〇、二〇七 七、七五八	立方米 四二一、〇四七	〇△× 一三三、〇五七 五九三、一九七 三三、四六六	〇・五六
浚  漑  費		二五三、四一〇		四六、〇五一		二九九、四六一	〇・二三
船舶及機械費		九八、五二四		四八、三四〇		一四六、八六四	
總計		〇△× 五九三、四五四 一七六、九五一 一九、一七一 一五七、一七四		〇△× 二九二、八八四 四六、三二一 四〇、二〇七 七、七五八		〇△× 八八六、三三三 一五九、三九六 二二、四六八	〇・五二

## 第一二 今治港修築工事

(神戸土木出張所)

### 緒言

本工事ハ元今治町ノ企業ニ屬シ大正三年度ニ其起源ヲ發シ爾來幾多ノ曲折ヲ經テ同九年二月今治町ニ於テ隣郷日吉村ヲ併合シ市制施行地ニ指定セラレタルトキヲ以テ本事業ヲ今治市ノ經營ニ移サル當時其工期ヲ同九年度ヨリ同十二年度ニ至ル四箇年度ノ繼續事業トシテ工費八十一萬圓ヲ計上シ港内ノ浚深及埋立ヲ主トシ兼テ棧橋及防波堤ヲ築造スル計畫ナリシガ今治市ニ於テハ該計畫中最モ速成ヲ要スル防波堤ノ築造ヲ起工シ(本堤ハ全部今治市ニ於テ施工濟著々工事ヲ進メタリ然ルニ本港ニ於ケル最近發展ノ趨勢ハ現計畫ノ擴張ヲ促スト共ニ一部計畫ノ變更ヲ要スルモノアリタルヲ以テ之ヲ更正追補シテ更ニ工期ヲ同十二年度以降二十一年度(當初計畫ハ大正十二年度ヨリ同十九年度マデ八箇年度ノ處財政ノ都合上同二十一年度マデ二箇年度延長)ニ至ル十箇年度ノ工期ナリシガ大正十五年九月用地費繰上ゲノ必要ヨリ年度割ノ變更トナリタル結果竣功期ハ昭和六年度ニ改メラレタルヲ以テ九箇年度ノ今治市營繼續事業トシテ工費豫算三百萬圓(内俸給及事務費十八萬三千圓ヲ含ム)ニ改訂シ其半額ハ國庫ヨリ補助ヲ得且同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ直接本事業ヲ施行スルニ至レリ

### 港狀並計畫大要

今治港ハ北緯三十四度三分四十五秒、東經百三十五秒、伊豫國ノ北海岸ニ瀕シ、高繩半島ノ東南ニ方リテ自然ノ灣形ヲ爲シ、前面ニハ來島海峽ヲ擁シテ、瀬戸内海ノ咽喉ヲ扼ス。其位置恰カモ、阪神關門ノ中間ニ在ルヲ以テ、古來ヨリ東西航路ノ要衝ヲ占ム。東ハ燧洋ニ直ニ面シテ、遙カニ四坂島ヲ望ミ、北ハ大島及三大島等比々點綴シ、南ハ總社川ヲ境トシテ、立花村ニ接ス。而シテ境界ハ天保山ノ突堤基點ヲ中心トシテ、一海渕ノ半徑ヲ有スル圓圈ヲ以テ劃シ、此面積約三百三十平方米、防波堤内約二十一萬四千五百平方米ヲ算ス。氣候溫和ニシテ、常ニ波浪少ク、港内ノ水深ハ概ネ最大干潮面下約四十尺トス。此附近ハ干滿潮位ノ差、瀬戸内海中最モ著シキ地方ニシテ、最高最低潮位ノ差二十四米三、大潮時平均潮位ノ差二十米七、小潮位平均潮位ノ差八米一ナルモノ、如シ尙沿岸ハ比較的急勾配ナルヲ以テ、水深裕ニシテ、時々潮流ノ急ナルモノアリト雖モ、大船巨舶ノ碇繫ニ難カラズ、仍ホ其風位ニ關シテハ、西風、西北風及南北風ニ對シテハ、些ノ影響ナシト雖モ、一朝東風ノ襲來スルニ於テハ、港内忽チ激浪奔騰シテ、船舶ノ出入碇繫共ニ危險ナリ。然レドモ最近東防波堤ノ完成ニ依リテ、著シク港内ハ靜穩ニ歸シ、此杞憂ヲ一掃スルコトヲ得ルニ至レリ。

交通ハ本港ヨリ僅カニ二時間餘ニシテ、中國尾ノ道港ニ達スルコトヲ得ルヲ以テ、船舶ノ出入貨客ノ集散比較的繁ク、將來國鐵伊豫線ノ全通スルニ於テハ、四國及南九州ノ旅客ハ必ズヤ今治尾ノ道ニ據リテ、山陽線ニ聯絡スベク、然ルトキハ、彼ノ高松、宇野線ニ據ルニ比シ、阪神地方ニ到達スル時間ヲ節スルコト必然ナルベシ。

當地方ノ發達ハ主トシテ製織業ニ起原シ、今ヨリ約三百年前中御門天皇ノ御宇、柳瀬義達ガ地方産業振興ヲ圖リ、細民婦女子ニ勸奨シテ、白木締ヲ製織セシメタルニ起因ス。爾來斯業ハ一進一退、明治年間ニ至リテハ、全ク不況ニ陥リタリシモ、同十七、八年ノ頃、故矢野七三郎氏奮然意ヲ決シ、當時流行セシ「紀州ネル」ノ製織

ニ著眼シ自ラ產地ニ到リテ其製織法ヲ習得シ歸來之ヲ細民婦女子ニ授ケ其悲境ヲ救濟シタル以來斯業ハ益々堅實ナル發達ヲ遂ゲ現時伊豫ネルノ名稱ハ織物界ニ於テ頗ル重キヲ加ヘ販路モ亦海外ニ發展スルノ盛況ヲ爲スニ至レリ故ニ此地ハ古來商業地ヲ以テ其名ヲ知ラレ夙ニ松山市ヲ凌駕シ最近ニ於ケル發達ハ一轉シテ商工業地ト目サレ人口約三萬五千ヲ有シ市街頗ル殷賑ヲ極ム今ヤ今治市ハ機業地トシテ本邦屈指ノ地ニ數ヘラレ從テ船舶ノ出入貨物ノ吞吐旅客ノ交通頓ニ増加シ此趨勢ヲ以テ進ムトキハ四國四縣中其首位ヲ占ムルノ期強チ速キニアラザルベシ而シテ本港ハ大正十一年二月開港場トナリ次テ第二種港灣ニ指定セラレタルヲ以テ見ルモ港灣設備ノ必要蓋シ目眩ノ間ニ迫レルモノト謂フベシ本工事ハ今治市ニ於テ大正九年度ヨリ同十二年度ニ至ル繼續事業トシテ棧橋防波堤ノ築造及浚渫埋立等ノ工事施行中ノ處該計畫ヲ左記ノ如ク變更及擴張スルモノトス

船入場ハ天保山ニ於ケル防波堤根元ヨリ南東ニ向ツテ百八十米之ヨリ略ボ南西ニ向ツテ一線ヲ畫シ尙之ニ連續シテ内港ノ周圍ニ物揚場又ハ護岸ヲ築キ住吉町附近ヲ掘鑿シテ在來ノ内港入口幅員九十米ヲ百四十四米ニ取擴メ一面中洲ヲ掘鑿除却ノ上現在ノ船溜幅四十五米ヲ平均八十二米八トシ内港水面積現在約一萬六千五百平方米ヲ五萬五千百十平方米ニ擴張シテ干潮面下二米七ノ水深ヲ保タシメ以テ帆船小蒸汽船ノ繫留荷役ノ用ニ供ス

浚渫工事ハ元今治地先前面ニ於テ防波堤トノ間ニ介セル港内水面積十二萬二千九百九十一平方米ノ内水深大ナル沖合部三萬三千餘平方米ヲ干潮面下六米三六ニ浚渫シ三千噸級汽船ノ出入ニ便ナラシメ尙殘餘ノ水面ハ同五米四以上ニ其他ハ同一米五二ニ浚渫シ更ニ内港部ハ同九尺ニ浚渫若クハ掘鑿スルモノニシテ此總土量八十五萬三千九百四十四立方米トス但シ陸地ニシテ掘鑿シテ海面トナル部分ノ面



積ハ二萬八千七百十餘平方米ナリ

埋立ハ港内ノ浚渫掘鑿ヨリ生ズル土砂ノ一部ヲ以テ大字藏敷地先東側沿岸ニ面積七萬五千三百三十九平方米ノ埋立ヲ爲シ以テ倉庫上屋及臨港鐵道ノ敷地ニ充テ又元今治地先ニハ海岸ニ併行シテ護岸ヲ築造シ其内法ノ面積一萬八千六百七十八平方米ヲ埋立テ更ニ内港部ニ於テ大手通惠比須町及新町地先ニ面積一萬三千二百九十九平方米ヲ埋築スルモノトス此總土量ハ三十八萬九千二百九十二立方米ナリ岸壁、物揚場及護岸トシテハ天保山地先ニ三千噸級汽船一隻、一千噸級汽船二隻ヲ同時ニ繫留シ得ベキ長二百十六米、水深干潮面下六米三及五米四ノ岸壁ヲ築造シテ將來敷設セラルベキ臨港鐵道トノ聯絡ニ便センガ爲メ内港周圍ニ水深二米、七ノ斜面物揚場延長九百九十米餘ヲ設ケ其他元今治地先海岸ニ長五百九十四米及藏敷埋立地先海岸ニ長九百米竝ニ内港ノ一部ニ互リ總延長二千七百米餘ノ護岸工事ヲ施スモノトス

浮棧橋ハ元今治地先ニ縦型棧橋ヲ三箇所ニ配置シ其長各七十二米、幅各九米(但浮函長五十四米、幅九米此面積四百九十五平方米)トシ之ヲ約七十二米ヲ隔テ橢形ニ併行突出セシメ小型汽船及一千噸級船舶ノ碇繫荷役竝ニ旅客ノ乗降ニ供スルモノトス

前記既定計畫ニ對シ大正十五年九月左記ノ通其一部ヲ變更セラル

新町地先突出部(沖洲)ニ於ケル中央地帶約四千九百五十平方米ヲ買收シ道路及倉庫等ノ敷地ニ供ス内港惠比須町及大手通地先ニ於ケル荷揚場及護岸ヲ現計畫ヨリ僅カニ前進セシメ重松堀西部ノ護岸ハ其對岸ト約二十一米六ノ間隔ヲ保タシム

天保山ニ於ケル荷揚場ヲ既定計畫ノ荷揚場及岸壁法線ノ交點ヨリ其南方惡水路吐口附近ニ向ツテ現計

畫線ヨリ前進セシム

## 施工狀況

本年度ノ施工ハ港内ノ浚渫、内港沿岸ノ埋立及荷揚場築造竝ニ大手通附近ノ護岸築造等主ナル工事ニシテ兼テ直營ニテ割石及砂利ヲ採取シ尙雜工事ニ屬スル橋梁二箇所、啓己堀及大手町ニ於テ床固堤各一箇所ヲ築造セリ其概要ヲ記述スベシ

浚渫ハブリストマン式浚渫船第一號及第二號ヲ運用シ元今治地先ニ於ケル既定浚渫區域中將來築造サルベキ岸壁法線ヨリ三十四米隔テタル一線ヲ畫シ水深六米三部ノ沖合全部ニ互リテ浚渫シ尙大手通地先ニ於テ西方一帶荷揚場法線ヲ界トシ東方ハ民有地境界マデ水深二米七ニ南方ノ一部ハ護岸工事ノ關係上水深零米九ニ而シテ北方ハ船頭町地先橋梁下竝ニ其附近ヲ作業用船舶ノ出入ニ便ナラシムル爲メ幅四米五深干潮面マデヲ浚渫シテ土量十萬五千三百六立方米ヲ得内二萬四千六百四十二立方米ハ内港沿岸ノ埋築ニ利用他ハ港外ニ投棄シタリ此工費二萬七千八百八十九圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一立方米當ハ二十六錢三厘ナリ

埋立ハ今治港内港沿岸即チ大手通及惠比須町及住吉町ノ一部ニ築造サルベキ荷揚場及護岸等ノ背部ノ海面ニ對シテ干潮面上四米五マデ埋築シタルモノニシテ浚渫土砂ヲ利用シ之レガ下埋ニ四千九百六十八立方米、上埋ニ一萬九千六百七十四立方米ヲ埋築シテ工費四千八百十圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一立方米當ハ十九錢五厘ナリ但シ下埋ニハ工費ヲ要セザルナリ

第二縱棧橋ハ前年度中大部分完成(橋臺二箇所分)セシメタルモ本年度ハ所要方塊ノ未成品四個ヲ製造シ

テ工費百十六圓ヲ支出シタルガ故ニ一個當平均二十九圓ナリ  
 荷揚場ハ内港一帶ニ築造スベキ計畫ノ處先以テ本年度ハ啓己堀護岸吐口ノ兩側ニ於テ其北側九米、南側  
 六十七米九、計七十六米九ニ對シ本年十月ヨリ起工シテ年度内床掘捨石方塊沈積各七十六米八及上部工  
 五十四米ヲ施工シ尙所要方塊百八十一個ヲ製造シテ爾餘ハ翌年度へ繰越シタリ此工費一萬三千九百九  
 十四圓ヲ支出ス

護岸ハ啓己堀ニテ百四十九米四餘、大手町ニ於ケル水深二米七、長五十米四餘、同水深零米九長三十六米、計  
 延長二百三十五米八ト所要方塊百十六個ヲ製造シ年度内之ヲ完成セシメ工費計一萬八千八百八十圓ヲ支  
 出シタルヲ以テ平均間口當ハ約二百圓ナリ但シ直接工費ノ外ニ別設計採取ニ係ル割石及砂利代金八千  
 百二十四圓ヲ包含セリ

雜工事中ニ於テハ啓己堀橋梁長十八米一箇所、同床固堤長六米三、大手通地先ニ於テ同床固長二十三米四  
 一箇所尙同地先ニ於テ橋梁長十八米一箇所ヲ施工シ内橋梁二箇所ノ小部分ヲ除ク外年度内全部完成シ  
 タリ此直接工費ハ合計三千七百十三圓ナリ

石材採取中割石ハ前年ニ準ジ立山採石場ニ於テ人力及爆藥ヲ使用シテ陸上搬出ノ後船積ヲ爲シ港内所  
 要箇所ニ運搬投入シタルモノニシテ本年度ハ七千四百五十二立方米ヲ採取シテ直接工費一萬一千四百  
 八十四圓ヲ支出シタルヲ以テ一立方米當ハ平均一圓五十四錢ナリ

砂利ハ總社川筋ヨリ人力採取ノ上堤防上ニ小運搬ノ後牛馬車及手車ニテ藏敷地内ノ貯藏所マデ運搬セ  
 リ本年度ハ二千五百八十六立方米ノ採取ニ對シ直接工費五千七百七十四圓ヲ支出シタルヲ以テ一立方  
 米當ハ二圓ナリ

砂ハブリ。ストマン式浚渫船ニテ海底適宜ノ箇所ヨリ採取陸上及貯藏シタルモノニシテ本年度ハ一千二百立方メートルヲ採取シテ直接工費二百五十二圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一立方メートル當ハ二十一錢ナリ

營繕ニ屬スル直營工事ハ在來ノ方塊製造場ノ修理(棧橋長二百十六米地均三百九十六立方メートル)ニ二百九十二圓、見張小屋及人夫小屋各二棟ノ移轉竝ニ修繕ニ百五圓、見張小屋一棟新設及同一棟修繕及模様替ニ五百八十圓及火藥類假貯藏所二箇所ノ改築ニ百七十七圓ヲ支出シタル外既設物件ノ請負修理費ニ二百七十七圓ヲ要シタルヲ以テ本年度營繕費ノ支出額ハ一千四百三十一圓ナリ

雜費所屬ノ施工費ハ地質調査(地質調査八箇所、耐荷力試驗十一箇所施工)ニ一千百七圓、船頭町地先ノ假土留工ニ二百二十圓、今治港ノ測量ニ六百四十五圓、事務所雜費ニ二千四百十二圓、發動機船ノ運轉費ニ八百八圓、用地買收諸費ニ十圓及「セメント」火山灰、石炭等ノ品質試驗費ニ五百一十一圓、工事外諸給與死傷手当借地料等ニ九千三十二圓竝ニ共濟組合給與金ニ五百九十五圓、合計一萬五千三百四十圓ヲ支出シタリ

以上諸工事ヲ施工シタル本年度ノ竣工高ハ十一萬九千八百八十六圓ニシテ竣工累計ハ五十三萬九千四百四十四圓ニ達ス之ヲ總工費二百八十一萬七千圓ニ對比スルトキハ一割九分ノ功程ナリ其竣工高則チ左表ノ如シ但シ「 $\times$ 」ハ直營採取材料代ナリ

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣工歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚渫費	立 方 米 三六五・三八八	八八・九〇一 <sup>円</sup>	立 方 米 一〇五・六〇〇	二七・八八九 <sup>円</sup>	立 方 米 四七〇・九八八	一一六・七九〇 <sup>円</sup>	〇・四四 <sup>割分</sup>
埋立費	一五四・九八〇	四・九一九	二四・六四二	四・八一〇	一七九・六二二	九・七二九	〇・一四

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浮棧橋費		102,518.4		11,864	114,382.4	0.48	0.29
荷揚場費		9,044.8		118,640	102,518.4	0.48	
護岸費		224,589		18,184	242,773	0.28	0.25
雜工事費		54,687		8,124	62,811	0.28	
材料費		31,942		23,713	55,655	0.25	0.25
用地費		59,132		16,910	76,042	0.25	
船舶及機械費		31,230		16,703	47,933	0.25	0.25
營繕費		5,998		1,431	7,429	0.25	
雜費		39,207		14,745	53,952	0.25	0.25
共濟組合給與金		1,622		595	2,217	0.25	
總計		420,058		116,586	536,644	0.29	

# 第一三 鹿兒島港修築工事

(下關土木出張所)

## 緒言

本工事ハ鹿兒島縣ノ事業ヲ内務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ總工費三百萬圓内半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十二年度以降七箇年度ノ繼續事業トシテ施行中大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ浚功期限ヲ昭和七年度迄延長スル事トナレリ

## 港狀並計畫大要

本港ハ九州南部ノ重要港灣ニシテ其背面地域ニ鹿兒島、宮崎ノ二縣ヲ控ヘ沖繩、大島其他南海諸島ニ至ル唯一ノ港灣ナリ

本港ハ舊藩政時代ヨリ夙ニ港灣ヲ修築シ三五郎波止、新波止、一丁臺場等ノ防波堤ヲ築設シテ北東及南東ノ激浪ヲ防ギ船舶ノ碇繫ニ利便セシモ爾來歲月ノ經過ニ從ヒ港内漸ク埋没シ船舶ノ出入ニ困難ヲ感ズルニ至リタルヲ以テ更ニ明治三十三年度ヨリ同三十八年度ニ互リ縣費八十五萬圓ヲ投ジ大ニ港内ノ浚深ヲ行ヒ船舶ノ碇繫、貨物ノ集散ニ多大ノ便宜ヲ得稍々面目ヲ新ニセリト雖モ輓近内外通商貿易ノ發達ハ出入船舶ノ増加ト船型ノ増大ヲ來シ殊ニ沖繩、大島諸島ノ開發ト本港背面地域ノ鐵路ノ延長ト相俟チ本港將來ノ貿易額ノ激増ヲ來スベキヲ以テ本港ノ現狀ニテハ到底其使命ヲ完フスル能ハズ是本計畫ノ

因テ起リシ所以ニシテ當所ノ計畫ハ港内ヲ浚深及埋築シ七米二岸壁三百七十八米ヲ築設シ專ラ荷役施設ヲ改善セントスルニ在リシモ最近本港出入船舶ノ增加率頗ル急激ニシテ加之船型ノ増大ヲ來シ既定計畫ニテハ港區ノ狹少ヲ感ズルニ至リシヲ以テ大正十五年六月計畫ヲ變更シ先以テ南北防波堤ヲ築設シ辨天臺場及洲崎町埋立地ノ一部ヲ掘鑿シテ港内水面積ノ擴張ヲ計リ以テ大型汽船ノ碇繫ニ便ゼシメ岸壁埋立等ノ荷役施設ノ改善ハ地方財政ノ回復ヲ待チ工費ノ増額ヲ行ヒ之レガ完成ヲ期スル事トセリ今修築計畫各部ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

防波堤ハ北防波堤長二百六十米ヲ一丁臺場先端ヨリ南東ニ又南防波堤長百十米ヲ洲崎埋立地ヨリ北東ニ向ケ築設シ港口百米ヲ隔テ、兩防波堤ヲ相對峙セシメ以テ波浪ヲ防ギ併セテ甲突川口漂砂ノ浸入ニ備フルモノトス又北港口ハ其幅員廣キニ過ギ北東ノ激浪ニ際シ往々港内船舶及護岸ニ損害ヲ與フルヲ以テ新波止ヲ北ニ三十米延長シ幅員ヲ七十米ニ縮少スルモノトス

掘鑿及浚深トシテハ港内中央部ニ介在スル辨天臺場、同渡道、屋久島岸岐ヲ除却シ洲崎埋立地ノ北半部ヲ掘鑿シ以テ港内水面積ヲ約二十九萬平方米ニ擴張シ生産町ヨリ潮見町ニ至ル海面約九萬平方米ヲ干潮面以下七米五ニ浚深シ三千噸級船舶ノ碇泊ニ便セシメ其南部約三萬平方米ヲ干潮面以下三米ニ浚深シ發動機船及帆船ノ碇繫所トス

棧橋ハ生産町一號棧橋ヲ築町ニ移轉シ固定棧橋及浮函一個ヲ増設シ三千噸級船舶ヲ繫留セシメ又築町棧橋ヲ生産町一號棧橋跡ニ渡道二號棧橋ヲ住吉町ニ移轉シ夫々一千噸級船舶及灣内交通汽船ノ繫留ニ供セシムルモノトス

# 施工狀況

本年度ニ於テ施工セル主ナル工事ハ浚渫及防波堤工事ニシテ其概況左ノ如シ  
 浚渫工事ハ搔揚式浚渫船錦江號及鋼製十坪積土運船二隻ヲ大正十五年七月上旬ニ鋼製曳船出島丸ヲ八  
 月上旬ニ長崎港ヨリ廻航スル事ヲ得タルヲ以テ直チニ本工事ノ要目タル辨天臺場ノ掘鑿ヲ開始セリ  
 搔揚式浚渫船ハ最新式ノモノニシテ従業員何レモ之レガ使用ノ經驗ニ乏シク爲メニ工事開始當初ハ頗  
 ル苦心スル所アリシモ銳意研究努力ノ結果工事成績頗ル良好トナリ本年度内ニ於テ土量九萬五千八百  
 三十八立方米ヲ揚ゲ掘鑿總土量ノ約二割ノ竣功ヲ示セリ而シテ掘鑿土石ノ處分ハ其内雜石一萬一千五  
 百八十立方米ヲ選ビ防波堤基礎捨石ニ利用投入シ其他ハ總テ曳船ニテ所定土捨場ヘ運搬投棄セリ  
 防波堤工事ハ本年度ニ於テハ前記辨天臺場掘鑿土石中土砂ヲ挾雜セザル雜石ヲ北防波堤基礎捨石ノ中  
 心部ニ利用捨込ヲ爲シタルノミナリ  
 本年度竣功高ハ十一萬九千七百五十九圓ニシテ起工以來ノ累計ハ四十四萬六百五十六圓ヲ算シ工費總  
 豫算二百八十萬五千六百圓ニ對シ一割六分ノ竣功ナリ其工費竣功表ハ左ノ如ク表中「△」ヲ附シタルハ評  
 價品見積價額ナリトス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚渫費		円	九五、八三八 立方米	二四、三六二 円	九五、八三八 立方米	二四、三六二 円	〇・二〇 割分



種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
防波堤及護岸費			11,580 <small>立方米</small>	314 <small>円</small>	11,580 <small>立方米</small>	314 <small>円</small>	0.10 <small>割分</small>
用地費				6,000		6,000	
船舶及機械費		299,568 168 <small>円</small>		73,852 311 <small>円</small>		373,420 1,479	
營繕費		13,747		608		14,355	
雜費		7,502		13,956		21,458	
共濟組合給與金		80		667		747	
總計		330,897 168 <small>円</small>		119,759 1,311 <small>円</small>		440,656 1,479 <small>円</small>	0.16

工事費

# 第一四 小松島港修築工事

(神戸土木出張所)

## 緒言

本港ハ明治四十四年度ヨリ徳島縣ニ於テ港灣修築ニ關スル調査ヲ開始シ大正二年度ニ至リテ工費十四萬四千六百餘圓ヲ投ジ四箇年度ニ互ル工期ヲ以テ内港部ノ整理修築ヲ遂行シ次テ同六年度ヨリ同十年度ニ互リテ更ニ工費十九萬九千四百餘圓ヲ以テ港口ヲ扼スル南北兩突堤ヲ増築シタル外海底ノ浚渫ヲ施シタル結果現ニ一千噸級汽船ノ出入ヲ容易ナラシメタリト雖モ最近本港發展ノ趨勢ハ尙進ンデ現設備ノ擴張ヲ促スヤ急ナルモノアリ茲ニ於テ乎徳島縣ハ本港將來ノ發展ニ資スベキ新計畫ヲ樹テ更ニ總工費三百四十四萬九千五百圓(當初豫算三百二十萬二千圓ノ處大正十五年四月港内大字小松島及中田地先海面ノ埋立費トシテ二十四萬七千五百圓追加)ヲ豫算シ其半額ハ國庫ヨリ補助但シ追加豫算ニハ國庫補助ナシ)ヲ得同十二年度ヨリ昭和八年度ニ至ル十箇年度ノ縣營繼續事業(當初大正十二年度ヨリ同十九年度迄八箇年度ノ工期ナリシガ財政ノ都合上二箇年度延長)トシ同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ直接本事業ヲ施行スルニ至レリ

## 港狀並計畫大要

本港ハ四國ノ東部北緯三十四度東經百三十四度二十六分ニ位シ阪神兩港トノ聯絡ヲ初メ夙ニ本邦沿岸各地トノ交通開ケ四國東海岸唯一ノ重要港灣ナリ而シテ本港ノ外港部タル小松島灣ハ北東ニ向ツテ展

開シ北西東山岬ト東方和田鼻トハ相對峙シテ港口ヲ扼シ其幅員約二千七百米ヲ有ス灣内水深クシテ大船巨舶ノ出入碇泊ニ適シ天然ノ良灣ヲ成スト雖モ其内港部ハ僅カニ神代瀬川河口ヲ利用スルニ過ギザルヲ以テ深度不充分ニシテ海陸ノ聯絡設備整ハズ小型船舶ニシテ尙且出入自由ナラザルノ憾アリ然レドモ近時商工業ノ著シキ發展ハ出入船舶及貨客ノ増加ヲ來シ現在ノ内港設備ニテハ既ニ狹隘ヲ告ゲ到底時代ノ趨勢ニ順應スル能ハズ加フルニ近キ將來阿土鐵道完成ノ曉ハ愈々本港ハ四國ノ東門ヲ司リ本州トノ聯絡ハ益重要ナル地位ヲ占ムルニ至ルベキヲ以テ之レガ修築ノ擴張ハ本港ノ最モ急務トスル所ナリ其計畫ノ大要左記ノ如シ

防波堤ハ現在港外北東突堤部ヨリ長九十一米ヲ施設シ又東方ハ長五百八十米ヲ築造シ港内幅員二百七十三米ヲ保タシム此港門ハ將來必要アルトキハ之ヲ百八十米ニ短縮シ此防波堤ヲ更ニ約九十一米ニ増築スルモノトス而シテ此兩防波堤ニ依リ包擁セラル、水面積ハ約六十四萬一千三百平方米トス岸壁ハ現在繫船岸ノ北側ナル池沼及耕地ヲ浚渫シテ四字形ノ船溜ヲ設ケ其周圍ニ岸壁ヲ築造ス船溜ハ東部入口ニ於テ幅員百二十七米、西部ニ於テ九十一米トシ岸壁ハ入口ニ近キ北側百二十七米、南側百二十九米ハ干潮面下六米四ニ其奥北側十一米、南側九十二米ハ五米五ニ築造シ其兩側ニ二千五百噸級汽船一隻、一千五百噸級汽船二隻ヲ繫留シ得ベカラシメ尙四字形ノ前面南方ノ岸壁ハ帆船又ハ小型汽船繫留ノ便ニ供スル爲メ水深三米ニ築造ス

浚渫及掘鑿ハ港内約三十九萬六千七百平方米ヲ干潮面下六米四ニ浚渫シ又現在港内南隅ノ田面約一萬四千九百平方米ヲ水深干潮面下二米五ニ掘鑿シ漁船ノ繫留場ニ充ツルモノトス埋立ハ岸壁左右ノ耕地ヲ埋立テ工場敷地トシテ工事完成後ハ鐵道敷地、上屋及倉庫等ノ敷地ニ充テント

ス  
前記計畫ノ外大正十五年四月中同港内大字小松島及中田地先ノ海面六萬九千五百平方米ノ埋立追加工  
事トシテ工費二十四萬七千五百圓ヲ計上セラレタリ

## 施工狀況

本年度ノ海底浚渫ノ續行ヲ主トシ其土砂利用ノ爲メ一部ノ埋立工事ヲ施シ新タニ東防波堤ノ築造ヲ開  
始シタル外用地買收ノ調査發表ヲ終了シタル一面ニ於テ石材採取事業ノ根本計畫タル本港所要ノ捨石  
ニ對シテハ自給自足ノ方針確立セリ以下其概要ヲ記述スベシ

浚渫ハ前年度ニ引續キ港内浚渫計畫ノ一部ヲ朔望平均干潮面下五米ニ浚渫シ尙前年度施工濟區域ト合  
セテ更ニ水深五米五ニ増浚シテ土量計八萬立方米ヲ海上約五糎ノ地點ニ運搬投棄スル豫定ノ下ニ本年  
度ハ土量七萬三千百三十立方米ヲ處理シタリ而シテ所要船舶ハ鋤鏈式浚渫船第一安治川丸ヲ運用シ土  
運船ニ積込ミ曳船ヲ介シテ運搬投棄シタル工費二萬六千八百二十九圓ヲ要シタルヲ以テ一立方米當リ  
ハ三十六錢六厘ナリ但シ浚渫土砂ノ内七千三百立方米ハ埋立ニ利用シタルモノトス

本費ノ所屬トシテ北突堤除却工事ヲ施シ之ヨリ割石八百六十六立方米ヲ得テ工費一千二百七十六圓ヲ  
要シタルヲ以テ此一立方米當ハ一圓四十七錢二厘ニ相當ス而シテ本年度浚渫費ノ支出額ハ二萬八千  
五圓ニシテ支出累計ハ七萬八千十九圓ナリ

埋立ハ小松島沿岸埋立計畫地域ノ一部ニ對シ方塊製造場及材料置場ニ充ツル目的ニテ浚渫土砂七千三  
百立方米ヲ利用シ主トシテ人力ニテ「ドコーピール」ヲ使用シ朔望平均干潮面上三米ニ埋築シ工費五千七

百十一圓ヲ要シタルヲ以テ此一立方米當ハ七十八錢ナリ而シテ本年度埋立費ノ支出高ハ五千七百十一圓ニシテ支出累計ハ一萬三千三百六圓ナリ

東防波堤築造工事ハ本年度ノ起工ニ屬シ其構造ハ干潮面下三米七五ノ高ニ基礎捨石堤ヲ構成シ其上部ニ鐵筋混凝土函ヲ干潮面上一米五五ニ据付ケ函内ニハ混凝土及割石ヲ填充シ而シテ函ノ兩側ニハ方塊ニテ根固工ヲ施シ函上ニハ干潮面上二米四五ノ高ニ場所詰混凝土ヲ施工スル計畫ナリ本年度ハ之ニ對シ北頭部ヨリ五十米隔テタルヲ起點ニ延長百七十米ノ基礎捨石ニ着手シ年度内百八十九米ヲ完成シタリ而シテ投入捨石ハ別設計採取ノモノ一萬五千七百六十五立方米北突堤ヨリ除却シタルモノ八百六十六立方米計一萬六千六百三十一立方米ナリ

又同時ニ本堤所要ノ方塊形狀高一米五十糎幅二米長三米ヲ百個製造豫定ノ内二十五個ノ型詰ヲ完成セリ此配合ハセメント〇七、火山灰〇三、砂二、砂利五ノ割合ニシテ本年度ノ直接工費ハ七千六百四十五圓ナリ

用地買收ノ當初計畫ハ面積約十三萬一千平方米ノ豫定ナリシガ之ヲ仔細ニ調査ヲ遂ゲ最少限度ニ止メタルニ宅地及耕地ヲ合シ約九萬二千四百平方米餘ニ減少スルコトヲ得ベキ見込ナルヲ以テ之レニ基キ諸般ノ調査ヲ進メ昭和二年三月二十五日附ヲ以テ各關係者ニ協議書ヲ發送ス内土地ノ關係者四十三名、地上物件關係者十三名ニ達ス而シテ年度内承諾シタルモノ五名ニシテ代金支出シタルモノ土地關係者二名此支出額二千九百十四圓ナリ

石材採取ハ主トシテ捨石斫出ノ目的ニテ大阪土木出張所所管中小松島港ノ北方海上約三糎ヲ距ル徳島縣勝浦郡勝占村大字大原字越ヶ濱ニ於テ面積一萬五千五百平方米ノ山林ヲ買收シタリ而シテ當所ニ移

管後前年度迄ハ專ラ採取準備ヲ進メ本年度初期ヨリ斫出ヲ開始セリ同所ハ山脈東西ニ蜿蜒シ東端ハ海面ニ突出シテ大神子、小神子ノ兩灣ニ分チ此東端ニ近キ海拔九十五米北山腹ニ位置シ石質ハ紅麗片岩、綠泥片岩ニ屬シ上部ニ相當ノ被覆土砂ヲ有シ頗ル急勾配ニシテ石量裕ナラザル憾アリ而モ分水嶺ガ民地ノ境界ニ接續スル關係上作業進捗ニ伴ヒ隣地ヲ害スルコト甚シ然ル處小神子灣ニ南面スル民有山林ハ位置地形石質共ニ良好ニシテ被覆土モ亦薄ク石材採取地トシテハ附近稀ニ見ル適地ナルノミナラズ良質ノ石材隨所ニ露出シ採取上ノ經濟ハ前者ノ比ニアラズ故ニ之ニ對シテ採取權ヲ護得スルハ捨石計畫上ニ於ケル最善ナル方策ト認メ直チニ交渉シテ山林四筆二萬四千四百三十平方米ノ全面積ニ對シ自由ニ隨所ヨリ一立方米二十二錢五厘ノ料金ニテ石材採取契約ヲ大正十五年九月締結シタリ之ヲ以テ同港所要ノ捨石ハ自足ニ俟ツコトヲ得ル外當所ノ採取地ヨリ些ノ支障ヲ見ズ充分ナル採取量ヲ得ルニ至ルベシ

以上二個ノ採取場ハ共ニ山裾海ニ迫リ海岸所々ニ暗礁點綴シ運般船ノ繫離竝ニ石材積込ミ上困難ナルヲ以テ石屑ヲ利用シテ簡單ナル積出場三箇所ヲ海面ニ突出設備シ以テ石材運搬ノ便ニ供セリ  
石材斫出方法ハ爆藥及人力ニ依リ適度ニ小割シ輕運車ヲ介シテ陸上小運搬ノ後直ニ運搬船ニ積込ミ帆走船ニテ東防波堤築造所定ノ場所ニ運搬投入セリ此量一萬五千八百九十立方米ニシテ直接工費三萬七千百十三圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一立方米當ハ石材料ヲ合シテ二圓三十三錢五厘ナリ  
本港ニハ專屬ノ機械工場ナキ爲メ常時生ズル船舶機械ノ手入及小修繕ハ總テ直營ニテ施工シタリ此工費三千九百六圓ヲ支出シタル外運搬車十五臺ノ製作費四百五十九圓、運搬船四隻ノ帆走裝置ニ三百十一圓又方塊型枠十五組、同底板三十枚製作費ニ三千百三十六圓、方塊製造用木脚六十四個、木桁三十二個製作

ニ八百四十九圓、計八千六百六十一圓ヲ支出シタル外請負施行費計五萬一千二百六十三圓ナルガ故ニ本年度ノ船舶及機械費ノ支出高ハ合計五萬九千九百二十四圓ニ達シタルナリ

營繕工事ノ主ナルモノハ方塊製造設備工事トシテ小松島港字港口埋立地内ニ於テ面積約二千三百平方

米ノ地均ヲ爲シ材料陸揚用トシテ假機橋一箇所ノ築造竝ニ鬼針金棚延長二百八十米ヲ施工シ更ニ混和機一臺ヲ据付ケ尙一箇所ノ給水裝置ヲ施シタル直接工費一千四百六十五圓ヲ支出シタル外「セメント」倉庫一棟ノ請負建設費四千九百八十三圓ヲ算スルヲ以テ本年度營繕費ノ支出高ハ六千四百四十八圓ナリ

雜費支辨ニ屬スル雜工事費トシテハ「セメント」及火山灰ノ品質試驗費百六十二圓、所屬船舶機械ノ不就役管守費三千二百二十一圓、其他事務所雜費、起重機船ノ廻航費、用地買收諸費等ヲ合シテ二千四百五十四圓ヲ算シ之レニ工事外諸費七千三百三十九圓尙共濟組合給與金七百八十四圓ヲ一括スルトキハ此支出高ハ一萬三千七百六十一圓ニ達スルナリ

以上諸工事ヲ施工シタル竣功高ハ十六萬一千六百二十一圓ニシテ竣功累計三十三萬二百八圓ナルヲ以テ之ヲ總工費三百二十四萬六千圓ニ對比スルトキハ約一割ノ竣功歩合ナリ即チ左表ノ如シ但シ「x」印ヲ付シタル金額ハ直營採取ノ材料代ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
防波堤費	立方米 一四〇、三二一	四九、九一四	立方米 一八九	三七、六四五	立方米 一八九	三七、六四五	〇・四
浚深費	八、七八五	七、五九五	捨石 七三、一三〇	二八、二〇五	二一三、四五一	七八、〇一九	〇・一八
埋立費			七、三〇〇	五、七一一	一六、〇八五	一三、三〇六	〇・一六

總計	共濟組合給與金	雜費	營繕費	測量及檢潮費	船舶及機械費	用地費	材料費
一六八、五八七	一、二三五	二四、三三一	二、二八七	三、九一一	七三、二五四	五、七三五	四二五
×							
一六一、六二一 三七、一三三	七八四	二二、九七七	六、四四八	五九、九二四	三七、一三三	二、九一四	
×							
三三〇、二〇八 三七、一三三	二、〇一九	三七、三〇八	八、六三五	三、九一一	一三三、一七八	八、六四九	三七、五三八
〇・一〇							



## 第一五 伏木港修築工事

(新潟土木出張所)

### 緒言

本港ハ富山縣ノ南西隅庄川河口ニ位シ古ク裏日本ニ於ケル良港ノ一トシテ其名高ク維新後益々發展ノ域ニ至リ舊來ノ設備ニテハ荷役ノ困難ヲ感ジ遂ニ明治三十三年政府ハ同港ニ注入スル庄川ノ改修工事ヲ施行スルト共ニ現今ノ如ク庄川ト分離セシメ一面棧橋、繫船岸、突堤、浚渫等ノ諸工事ヲ施シ以テ港内設備ヲ完備シ三千噸級ノ船舶ハ優ニ出入シ得ラレ昔日ノ倂ヲ一新セリ然ルニ近時港勢大ニ進ミ近港ナル新潟、七尾、敦賀等ノ諸港ヲ凌駕シ既往ノ設備ニテハ將來港灣ノ使命ヲ全フスルヲ得ザルベキニ依リ富山縣ハ更ニ擴張計畫ヲ企テ政府ニ稟請セシ處明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ大正十三年度ヨリ昭和十年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシ工費豫算四百六十六萬九千圓(事務費ヲ除ク)ヲ以テ大正十三年十一月一日ヨリ直接施行スルコト、ナレリ

### 港狀並計畫大要

本港ハ富山灣ノ中樞ヲ占メ小矢部川ノ水運ヲ利用シ舊庄川ノ河口ニ發達セル港市ニシテ海岸ヨリ三百六十三米六ヲ隔テ、水深六米夫ヨリ海底緩ニシテ約一千八百十八米ヲ離レ水深十五米乃至十八米、新湊方面ハ三百六十三米六ノ沖ニテ二十一米以上四十五米五ノ水深ヲ保ツ又庄川河口約二千三百六十三米六ノ所ハ俗稱藍甕ト稱シ水深三百三米以上ニ達スル深所ヲ有ス小矢部川ハ源ヲ加賀國境大門山ノ東麓

ニ發シ北流十數里ノ間東西兩礪波郡ノ平野ヲ貫流シ幾多ノ細流支川ヲ合セ本港ニ注グ其水量豊富且淺流ナルヲ以テ舟楫ノ便良ク本川左右沿岸庄川以西高岡以北ノ貨物ヲ蒐集スル自然ノ良港ヲ爲スヲ以テ寛文年間幕府ハ内國ニ十三港ヲ指定セル時本港モ其一ニ列セラル夫ヨリ後天保弘化年間ニ佐渡ニ次デ大阪ト共ニ開航シ益々港灣ノ眞價ヲ認メラレタリ明治八年三菱會社ノ汽船入港ヲ始メトシ九州新寮ノ汽船亦毎月寄港シ逐年發展ヲ促シ東京大阪下關北海道ノ各港沿海州薩哈噠朝鮮等ト通航シ船舶ノ出入數頻繁トナリシモ本港ハ庄川ノ河口ニ位シ年々同川ヨリ流出スル土砂ノ爲メ河口埋塞セラレ僅ニ百噸内外ノ船舶ヲ繫グノミナリキ然ルニ同三十三年庄川改修工事ヲ施行スルニ方リ本港ノ修築ヲ爲シ庄川ト小矢部川トヲ分離シ土砂ノ流入ヲ防ギ港口ニ防波堤ヲ内港ニ岸壁ヲ築造シ水深維持上浚渫ヲ施ス等港灣ノ設備ニ意ヲ注ゲリ復富山縣ハ橫棧橋上屋ノ建設軌條ノ敷設ヲ爲シ中越線ト連絡ヲ保チ荷役ニ便ナラシメ本港面目ノ一新ニ努力セシヲ以テ船舶及貨物ノ出入激增シ大正元年ニ二十六萬五千噸ニ過ギザリシガ爾來逐年多キヲ加ヘ大正十年ニハ七十萬噸ニ及び其增加率ハ毎年一割二厘ニ相當セリ而シテ今後如何ナル率ヲ以テ増加スベキカハ素ヨリ推定スルコト頗ル困難ナリト雖モ本計畫ニ於テハ飛越鐵道ノ完成縣内諸工業ノ發達及新潟敦賀二港ニ於ケル擴築工事竣功後本港ガ受クベキ影響等ヲ考察シ增加率ヲ八分ニ算定セリ即チ大正十年ニ於ケル輸出入貨物合計七十萬噸ヲ標準トシテ今後八分ノ増加ヲ示スモノトセバ昭和六年ニハ百五十一萬餘噸ニ達スベキヲ以テ本計畫ニ於テハ百五十萬噸ヲ基礎トシ之ニ應ズル設備ヲ爲スモノニシテ伏木河口ヨリ國有鐵道中越線小矢部川鐵橋間ヲ内港區域トシ水深ノ增加ヲ計リ船舶繫留區域ヲ擴大シ繫船岸延長増加ノ目的ヲ以テ船渠ノ新設棧橋及繫船壁ノ増築ヲ爲シ接岸荷役能率ノ増進ヲ計ラントス

防波堤ノ擴築トシテハ左岸ニ於ケル現在ノ防波堤ヲ三十六米延長シ其根元三十六米ヲ改築ス而シテ右岸防波堤ハ之ヲ九十一米擴築シ左岸防波堤トノ間ニ港口幅員百五十四米五ヲ存セシメ以テ港口ニ生ズル土砂ノ堆積ヲ防ギ且右岸新湊海岸ヨリ移動シ來ル土砂ノ侵入ヲ防止スルモノトス

横棧橋ノ増設ハ左岸伏木港地先防波堤根元附近ヨリ現在横棧橋ニ至ル間ニ水深八米五ノ横棧橋長百四十五米五同七米八ノ横棧橋長百九米及右岸新湊町地先渡船場上流ニ於テハ水深八米五ノ横棧橋長百四十五米五ヲ新設シ其後方ニハ上屋倉庫ノ建設軌條ノ敷設及道路築造等ニ必要ナル地積ヲ存セシムルモノトス船渠ノ新設ハ右新湊町六渡寺地内縣有貯木場ヲ利用シ入口ニ於テ幅員百九米後方ニ於テ幅員九十一米奥行二百十八米ノ船渠ヲ新設シ其兩岸ニ水深七米延長各二百十八米ノ繫船壁ヲ築造シ接岸船ノ便ニ供シ其奥ニハ延長百三十六米ノ物揚場ヲ築設シテ舢舨荷役ニ供ヘ且繫船及物揚場ノ後方ニハ上屋倉庫ノ建設軌條ノ敷設及道路ノ築造等ニ必要ナル地積ヲ存セシムルモノトス尙以上ノ外伏木橋上流右岸舊庄川落口附近ヨリ國有鐵道中越線小矢部川鐵橋ニ至ル間ニ於テ各入口幅百九米奥行二百五十四米五及三百二十七米竝ニ入口幅百二十七米奥行二百十八米ノ三船渠ヲ新設シ左岸鐵道橋下流ニ於テモ入口幅九十米奥行百九米ノ船渠ヲ新設スルモノトス而シテ此等船渠ハ總テ假工事ヲ爲スニ止メ專ラ木材置場ニ供シ將來港ノ發展ニ伴ヒ其周圍ヲ繫船壁ニ改造スルモノトス

浚深ハ港口ヨリ上流約六百三十六米四迄ヲ水深八米五ニ夫ヨリ上流九十一米迄ヲ七米八ニ其上流二百七十二米七ヲ七米ニ新湊町地内新設船渠ヲ八米五ニ浚深シ伏木港上流ニ新設ノ四船渠ハ之ヲ水深一米ニ浚深スルモノトス

埋立ハ新湊町六渡寺地先右岸防波堤ヨリ庄川左岸ニ至ル間約六萬六千百十五立方米ヲ浚深ニ依リ生ジ

タル土砂ヲ利用シ埋築スルモノトス

## 施工狀況

本工事ハ大正十三年度ノ創業ニシテ本年モ亦浚渫工事ノミ施行シ一面土地收用事務所ヲシテ専ラ買收並ニ物件移轉等ノ實績ヲ舉グルニ努メタリ今其施工ノ概要ヲ左ニ述ベシ

浚渫工事ハ前年度來自走ポンプ式カツター付浚渫船神通丸ヲ使用セルモ同船ハ神通川改修工事ニ使用セラル、コト、ナリタルヲ以テ大正十五年七月十七日日本工事ヲ打切り機械ノ修理及廻航準備ヲ整ヘテ同月二十一日東岩瀬港ニ廻航セリ因ツテ本工事ニハ信濃川河口工事ニ從事中ナリシ「バケツト式」第五號浚渫船ヲ使用スルコト、シ大正十五年七月一日ヨリ信濃川河口機械工場ニ於テ修繕ノ後六十立方米積土運船二隻ト共ニ曳船角田丸及九頭龍丸ヲ以テ曳航シ八月七日新潟港ヲ發シ同九日當港ニ到着セリ然ルニ神通川改修事務所ヨリノ要求ニ依リ同年八月二十五日ヨリ十月十五日マデ之ヲ貸與シタルヲ以テ本工事ニ從事セシハ十月十六日以後ナリ其後昭和二年一月二十一日ヨリ二月二十二日迄ハ工事ノ都合ニ依リ作業ヲ休止セリ而シテ浚渫箇所ハ目下ノ場合現在ノ水深六米八ヲ維持スル程度ニ於テ淺瀬ヲ除却スルヲ目的トシ神通丸ハ四月一日ヨリ七月十七日迄左岸既設棧橋ニ沿ヘル一帯及河口ニ於ケル淺瀬ヲ浚渫シ第五號船ニ於テハ十月十六日以後前記既設棧橋前面中央部及ビ棧橋ヨリ上流左岸寄りノ箇所(七米半浚渫區域)ヲ浚渫セリ即チ本年度ニ於テ浚渫セシ土量十四萬六千四百七十立方米ニ過ギザリキ土地買收ハ前年度ヨリ引續キ伏木町湊町及新湊町中伏木中伏木新六渡寺地内ニ於テ土地八千八百九十三平方米餘ヲ終了シ又物件移轉トシテ二十二萬七千三百五圓餘ヲ支出セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ五十萬八千六十五圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ六十三萬四千八百四十八圓ナリ之ヲ總工費豫算四百六十六萬九千圓ニ比スレバ一割四分ノ竣功ナリ今其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ

種目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚深費	立方米 二五九、六七〇	三三、二六七 圓	立方米 一四六、四七〇	一八、八七六 圓	立方米 四〇六、一四〇	五二、一四三 圓	〇・二〇
用地費		二九、五六五		四二四、二六七		四五三、八三二	
船舶及機械費		三四、七九九		三七、八三一		七二、六三〇	
雜費		二九、一五二		二七、〇九一		五六、二四三	
總計		一二六、七八三		五〇八、〇六五		六三四、八四八	〇・一四

## 第五章 復舊工事

### 第一 相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事 (東京土木出張所)

#### 緒言

本工事ハ大正十三年度ヨリ昭和八年度ニ至ル十箇年度繼續事業ニシテ總工費四百九十八萬六千八百七十一圓(内事業費四百五十五萬圓、事務費四十三萬六千八百七十一圓)ヲ以テ施行スルモノトス而シテ本工事費ハ震災府縣ニ於テ其負擔ニ耐ヘザルヲ以テ全部之ヲ國庫支辨トセリ

#### 河狀並計畫大要

相模川流域中工事ヲ施行セントスル區域ハ支流道志川、中津川、桂川及笹子川トス、道志川ハ源ヲ甲斐山伏峠ニ發シ、道志、丹澤兩山塊ノ溪間ヲ北東ニ貫流シ、山梨、神奈川ノ縣界ニ於テ丹澤山塊ノ盟主、蛭ヶ嶽(標高一千六百七十三米)ヨリ發スル大支流神ノ川ヲ合セ、以下蛇行シテ津久井郡三澤村地先ニ至リ、相模川ニ合流ス、流域面積百四十四平方粁、流路延長四十三粁アリ、流域山地ハ御坂層及石英閃綠岩ヨリ成リ、地勢急峻ニシテ林相良好ナラズ、震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ右岸ナル丹澤山塊ニ於テ甚シク、殊ニ神ノ川流域山地ノ如キハ其面積ノ約三割ハ崩壞ニ歸シタリ、本川ハ横濱市水道ノ水源地ニ當リ、市ニ對シ極メテ密接ナル關係ニ在リ、然ルニ震災以來河水濁甚シク之ガ沈澄ニ市ハ多大ノ經費ヲ費シツ、アリ、其復舊ハ一日モ猶豫

スベキニ非ラザルナリ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費八十萬圓ヲ以テ本流ニ五箇所、支流神ノ川ニ四箇所、同室久保澤ニ二箇所、同西ノ澤、井口澤、横山澤、此間澤、大群澤、椿澤及三ヶ瀬澤ニ各一箇所、合計十八箇所ノ堰堤竝ニ三ヶ瀬澤ニ二箇所ノ床固ヲ設置スルモノトス、中津川ハ其上流ニ於テ大支流早戸川ヲ分岐ス本流ハ源ヲ丹澤山、塔ヶ嶽、大山等ニ發シ流路延長十五軒、宮ヶ瀬村落合ニ於テ早戸川ト合ス合流以奥ノ流域面積五十三平方軒アリ流域内山地ハ從來森林密茂シ殆ンド崩壞ナク河水常ニ清澄ニシテ各所ニ深淵ヲ形成シツ、アリシガ一朝大震災ニ會スルヤ全山到ル所大崩壞ヲ生ジ土石及倒木ハ河流ヲ堰キ宮ヶ瀬部落附近ニ於テハ一時間以上流水ヲ見ザリシト謂ヘリ而シテ十二年九月十五日ノ出水ハ再ビ多量ノ土石及流木ヲ下流ニ押送シ或ハ家屋ヲ流シ田畑ヲ埋メ河床ノ增高ハ下流ニ於テ二米、中流ニ於テ五米ニ達セリ早戸川ハ源ヲ蛭ヶ嶽、丹澤山等ニ發シ流路延長十二軒流域面積三十七平方軒アリ流域山地ノ大部分ハ鳥屋村々有林ニ屬シ官行造林ニ據リ年々杉及扁柏ヲ植栽シツ、在リシガ大震災ニ因リ崩壞最モ甚シク三平方軒六ノ村有林中約其四割タル一平方軒五ハ崩壞ニ歸シタリ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費六十萬圓ヲ以テ本流ニ七箇所、早戸川ニ八箇所、合計十五箇所ノ堰堤ヲ築設シ土石ノ流下ヲ防止セントスルモノニシテ本流ニ於テハ早戸川合流點上流二軒ヨリ七軒五ニ至ル區間ニ主トシテ施工ヲ爲シ早戸川ニ於テハ川口ヨリ上流二軒六ノ地點ヨリ始マリ其上流七軒ノ區間ニ六箇所ヲ尙支流宮ヶ瀬、金澤及水澤ニ各一箇所ヲ築設スルコトトセリ

桂川流域中崩壞最モ甚シキハ鹿留川及小佐野川トス鹿留川ハ源ヲ道志山塊皆形山ニ發シ流路延長十一軒、東桂村落合ニ於テ桂川ニ注グ急流河川ニシテ流域面積三十八平方軒アリ地質ハ支流倉見澤以奥石英閃綠岩下流ハ凝灰岩トス大震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ激甚ニシテ九月十五日ノ出水ニ際シテハ土石及倒

木ノ流出著シク大野ヨリ門原ニ至ル約二軒ノ區間ハ土石流ノ爲メ沿岸ノ耕地荒廢シ家屋流失シ從來十米ニ過ギザリシ川幅ハ一躍百米乃至五百米トナリ流身一定セズ今尙耕地ヲ脅シツ、アリ本川砂防計畫ノ大要ハ工費二十二萬圓ヲ以テ鹿留川ニ五箇所、小佐野川ニ一箇所ノ堰堤ヲ築設セントスルモノニシテ鹿留川ニ於テハ大野部落ヨリ上流ノ本流ニ四箇所、支流倉見澤ニ一箇所ノ堰堤ヲ築設シ土石ノ流出ヲ防止シ以テ耕地ノ安全ヲ期セントス

笹子川ハ源ヲ笹子峠ニ發シ東南流シ追分ニ至リ狩谷澤ヲ合セテ東流シ笹子、初狩、廣里ノ諸村ヲ經テ大月ノ西部ニ於テ桂川ニ合流ス流域面積九十四平方軒、流路延長十五軒アリ震災ニ因ル崩壞ハ右岸ニ多ク就中右支柳澤、辰巳澤及庭洞澤ヨリ押出セル土石ハ九月十五日ノ出水ニ際シ中央線ノ鐵道ヲ埋メ汽車不通二日間ニ及ベリ本川砂防ノ計畫ハ本工事費五萬圓ヲ以テ辰巳澤及庭洞澤ニ各四箇所ノ小堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止シテ鐵道ノ安全ヲ計ラントス

酒匂川ハ源ヲ丹澤山塊及富士山ニ發シ上流ニ於テ河内川及鮎澤川ノ二大支流ニ分岐ス工事施行區域ハ河内川及鮎澤川支流野澤川流域トス河内川ハ源ヲ中部及西丹澤山塊ニ發シ上流ニ於テ玄倉、中世附ノ三川ニ分岐ス流域面積百七十二平方軒アリ流域山地ハ御坂層及石英閃綠岩ヨリ成リ之ヲ覆フニ火山灰ヲ以テス玄倉川ハ源ヲ蛭ヶ嶽、丹澤山、塔ヶ嶽等ニ發シ流路延長十七軒ニシテ中川ト共ニ河内川ニ合流ス流域面積四十六平方軒アリ河床勾配ハ合流口附近ニ於テ約五十分ノ一トス中川ハ源ヲ大群山加入道其他ニ發シ流路延長十三軒ニシテ河内川ニ合流ス流域面積四十二平方軒アリ世附川ハ源ヲ西丹澤塊ニ發シ流路延長十四軒ニシテ河内川ニ合流ス流域面積六十七平方軒アリ震災ニ因ル河内川流域山地ノ崩壞ハ極メテ甚シク震災地方第一位ニ在リ就中玄倉川水源地ノ如キハ全山殆ンド崩壞シ盡シ慘澹タル光景ヲ



呈セリ而シテ震災直後九月十五日ノ出水ニハ多量ノ崩落土石ト倒木トハ山津浪ト成リテ流下シ沿岸各地ニ甚大ナル損害ヲ被ラシメタリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費七十三萬圓ヲ以テ本支流適當ノ地點ニ大小十五箇所ノ堰堤ヲ築設シ河床ノ侵蝕ヲ防止スルト共ニ流下土石ノ扞止ヲ圖ラントス然レドモ以上ノ工事ハ此大面積ノ流域ト崩壊トニ對シテハ極メテ少量ニ過ギ其目的ヲ達スルコト困難ナリ依テ竣功後ハ更ニ數倍ノ追加工事ヲ必要トスルモノナリ

野澤川ハ源ヲ湯船山(標高一千四十二米)山伏山其他ニ發シ流路延長七粁、小山町ニ於テ鮎澤川ニ合流スル小河川ニシテ流域面積十四平方粁アリ流域内山地ハ御坂層ヨリ成リ其上層ハ厚ク火山灰ヲ以テ被覆セラレ震災ニ因ル崩壊ハ相當激甚ナルモ地勢竝ニ河床勾配緩ナルヲ以テ其被害ハ河内川流域ニ比シ遙ニ輕シ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費十二萬圓ヲ以テ本流及支流湯船澤、小野畑澤竝柵澤ニ合計七箇所ノ堰堤ヲ築設スルモノニシテ之ニ依リ本川ノ荒廢ハ大體ニ於テ防上セラルベシ

早川ハ源ヲ箱根火山ノ火口原湖タル蘆ノ湖ニ發シ仙石原ヲ灌漑シ銚子ノ口ニテ一瀉絶壁ヲ下リ宮城火口原ニ入り底倉ニテ蛇骨川ヲ合セ東部外輪山タル明星、淺間ノ兩山間ヲ過ギ湯本ニ於テ須雲川火口瀨ト合シ小田原町ノ南方ニテ相模灘ニ注グ急流河川ナリ流域面積百六平方粁ヲ有シ流域内最高地點ハ中央火口丘神山ノ絶顛標高一千四百三十八米トス而シテ蘆ノ湖ヨリ海ニ至ル流路延長二十四粁、河床勾配ハ平均三十分ノ一トス流域山地ヲ構成スル基岩ハ安山岩ニシテ外見上熔岩ト集塊岩トアリ地質極メテ脆弱ニシテ容易ニ風化侵蝕ノ作用ヲ受ク地勢ハ一般ニ急峻ニシテ林相ハ粗ニ未立木地多シ震災前流域山地ハ崩壊少ク土石ノ流出亦著シカラザリシガ震災ニ因リ傾斜急ナル山腹ハ到ル處大崩壊ヲ爲シ山容ヲ

一變セシメタリ就中須雲川右岸ノ崩壞ハ最モ甚シク丹澤山塊ノ大崩壞ニ比スベキモノアリ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費六十五萬圓ヲ以テ本流ニ五箇所支流常盤澤ニ三箇所同須雲川及大澤ニ各二箇所同蛇骨川ニ一箇所合計十三箇所ノ堰堤ヲ築造シ多量ノ流下土石ヲ貯溜スルノ外河床ヲ高メテ兩岸崩壞ノ増大ヲ防ギ以テ山腹工事ヲ容易ナラシメ且國道ノ安全ヲ期セントス

堰堤中大平臺上流堰堤ハ五河川流域中最大且最高ノモノニシテ高三十米長四十二米築立々積一萬立方米工費二十四萬圓ニシテ貯砂量六十萬立方米ニ達シ出山堰堤高二十米長四十三米築立々積五千五百立方米貯砂量二十萬立方米及觀音坂堰堤須雲川高十米長五十一米築立々積二千百三十五立方米ト相俟テ早川治水ノ死命ヲ制ス計畫遂行ノ曉ニ於テハ河狀大ニ改マリ塔ノ澤以下ノ沼川ハ甚シキ水害ニ禍セララルコトナカルベク上流ニ於テハ水流緩トナリ侵蝕作用歇ミ昔日ノ狂暴ヲ見ザルニ至ルベシ然リト雖モ工事ノ完全ヲ期セント欲セバ本流ニ對シ追加工事ヲ施行スルハ勿論各支流ニ對シ多數ノ堰堤ヲ築設セザルベカラズ

花水川ハ源ヲ東部及中部丹澤山塊ニ發シ其上流部ニ於テ玉鈴金目葛葉及水無ノ五川ニ分岐シ下流ニ至リ諸川各合流シテ花水川トナリ大磯町ニ於テ海ニ注グ流域面積二百二十平方糎アリ玉川ハ源ヲ大山ニ發シ東流ス流域山地ハ地勢急峻ナルヲ以テ震災ニ因リ山腹ニハ無數ノ崩壞ヲ生ジ震災直後ノ豪雨ニ際シテハ土石流ヲ形成シ下流部落ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ尙今後危險ノ狀態ニ在ル家屋十數戸アリ鈴川ハ源ヲ大山(標高一千二百四十六米)ニ發シ南東流ス震災ニ因リ傾斜急ナル水源山地ニハ大面積ノ崩壞ヲ生ジ九月十五日ノ暴風雨ニハ多量ノ崩落土石ト倒木トハ山津浪トナリテ大山町ヲ襲ヒ其大半ヲ倒潰セリ爾來一年町民ハ復舊ニ努力シツツアリシガ大正十三年九月暴風雨襲來シ山腹ハ益々崩壞ヲ増大シ又々

多量ノ土石ヲ流下シテ前年ノ慘禍ヲ繰返スニ至レリ金目川ハ源ヲ大山ノ支峯タル春嶽ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニハ土石流蓑毛彎曲部ノ堤防ヲ決潰シテ部落ニ侵入シ多大ノ損害ヲ與ヘタリ葛葉川ハ源ヲ三ノ塔山(標高一千二百六米)ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニ因リ土石流ハ入角彎曲部ヲ突破シテ耕地ヲ冒シ廣大ナル耕地ヲ不毛ニ歸セシメ人家ヲ流シ人畜ヲ死傷セシメタリ然ルニ大正十三年九月ノ豪雨ハ又々多量ノ土石ヲ流下シテ其被害前年ニ倍シ將來被害ハ益々増大セントスル狀勢ニ在リ水無川ハ源ヲ塔ヶ嶽(標高一千百十米)ニ發シ南流後南東流シ秦野町ノ南部ヲ過グ花水川ノ最大支流ニシテ宇大倉ニテ山間部ヲ離ル、ヤ流水ハ廣大ナル河原地ニ滲透シ其姿ヲ失ヒ荒廢最モ甚シ然リト雖モ沿岸低地ニ人家無キヲ以テ大被害無カリシハ幸ナリキ花水川ノ水源山地ハ地震ノ方向ニ直角ナリシト其地勢急峻ナルトニ因リ震災ニ際シテハ大崩壞ヲ爲シ崩落土石及倒木ハ豪雨ニ會シ一時ニ溪谷ヲ下リシガ上流部ハ河積極メテ狹隘ナリシヲ以テ之ヲ流過スルヲ得ズ遂ニ沿岸ノ地ヲ其狂暴ノ手ニ委スルニ至リシナリ事態斯如ナルヲ以テ直ニ本川ニ大堰堤ヲ築設シ土石ノ流下ヲ扞止セザルベカラズ依テ本工事費二十八萬圓ヲ以テ玉川、金目川及水無川ニ各二箇所、葛葉川ニ一箇所、鈴川ニ十箇所、合計十七箇所ノ堰堤ヲ築設シ其目的ヲ達セントスルモ右ノ程度ニテハ其效果充分ナラズ更ニ増補工事ヲ施行スルノ要アリトス

多摩川ハ源ヲ秩父連峰標高二千米内外ノ地ニ發シテ東流シ拜島村ニテ、秋川、目野町ニテ、淺川ノ二大支流ヲ合セ下流ハ東京、神奈川兩府縣ノ境界ヲ爲シテ海ニ注グ砂防工事ヲ施行セントスル流域ハ全部秩父古生層ニ屬シ地勢急峻ナレドモ土地豊饒ニシテ森林ノ生長良好ナリ而シテ本川ハ東京市水道ノ水源地ナルヲ以テ市ノ水源涵養ノ目的ニテ山林ヲ買收シ又ハ借入レ其經營ニ努力スレドモ大消費地タル市ニ遠カラザル關係上他ノ森林ハ濫伐セラレ山地ハ極度ニ荒廢シ甚ダ寒心スベキ狀況ヲ呈スルニ至レリ依テ

東京府ニ於テハ大正七年度以來本川流域ノ砂防工事ニ著手シ同十二年度迄繼續施行セリ震災ニ因ル山地ノ崩壊ハ他ノ四箇川流域ニ比シ遙ニ輕キモ山地到ル處ニ龜裂アリ將來益々崩壊面積ヲ増大スルノ虞アリ殊ニ東京市上水道ニ對シ重大ナル關係アルヲ以テ其砂防ハ一日モ忽諸ニ附シ難シ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事五十五萬圓ヲ以テ青梅町以奥多摩川本流々域四百五十七平方糎、五日市以奥秋川流域百四十一平方糎及八王子以奥淺川流域百三平方糎、合計七百一平方糎ノ流域内河川適當ノ箇所ニ五十六箇所ノ堰堤ヲ築設シ川床ノ侵蝕ヲ防グト共ニ土石ノ流下ヲ扞止シ尙崩壊ノ増大ヲ防止シ且將來行ハルベキ山腹工事ノ基礎ヲラシメントス

### 施工狀況

本工事ハ大正十三年度ノ創業ニ係リ同年度ニ於テハ道志川、桂川、河内川、早川、花水川及多摩川ノ六工場ヲ置キ更ニ前年度ニ於テ中津川、笹子川、鮎澤川及小菅川ノ四工場ヲ増置シ各分擔流域工事ヲ施工シ、堰堤二十一個所ヲ竣成セシメ本年度ニ於テハ工事上ノ都合ニ依リ鮎澤川工場ヲ廢止シテ九工場トシ前年度ニ於テ未竣功トナル各堰堤工事ヲ施工セル外新タニ二十五箇所ヲ起工シ内十箇所ヲ竣成セシメタリ其設計大要竝ニ竣功高左表ノ如シ

道	支川	小支	小々支	名稱	高長		豫算		前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合	
					米	米	立方米	円	立方米	円	立方米	円	立方米	円		
神ノ川	小瀬戸堰堤	一六	三五	一五	米	二、〇七七	立方米	四六、五〇〇	円	八六五	三〇〇、六一	立方米	六六七	一〇、一五一	円	〇・八六
大瀬戸堰堤	一六	三七	二、六八一	六三、三〇〇	立方米	五七一	一八〇、七六	立方米	二、一九六	四、五〇八	二、七六七	六三、一六〇	〇・九九			
														二、六八一	六三、三〇〇	一八〇、七六







第五章 復舊工事 (相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事)

總計	雜費 共濟組合給與金
六三八、二三四	八七、一六九 二、六八七
四六八、〇四九	六〇、六六二 二、〇二二
一、一〇六、二七三	一四七、八三一 四、七一一
〇、二四	



## 第一 利根、渡良瀬兩川水害復舊工事

（東京土木出張所）

### 緒言

本工事ハ大正十四年八月中旬ニ於ケル稀有ノ出水ニ因リ利根川本川筋、脈川、江戸川及渡良瀬川ノ被害ヲ復舊スル工事ニシテ同十四、十五兩年度ニ於テ工費豫算五十九萬圓（内利根川改修工復舊二十萬圓、渡良瀬川改修工復舊七萬圓、利根、渡良瀬兩川維持復舊三十二萬圓）ヲ以テ施行スルモノトス。今兩川ニ於ケル出水竝ニ被害ノ狀況ヲ左ニ述ベン

大正十四年八月十二日天候俄ニ險惡トナリ翌十三日北東ノ風勢加ハルト共ニ強雨ヲ齎ラシ同十四日ヨリ風向東南ニ變ズルニ及ビ益々其勢ヲ逞フシ間歇的豪雨トナリ連續シテ十六日ニ至レリ之ガ爲メ各河川ハ急激ニ増水シ十七日ニ至リ一大洪水ヲ起シ渡良瀬川ハ大正十一年八月ノ高水位、古河六米一四（明治四十三年以來ノ大洪水）ヨリ高キコト約十糎ニ及ビ利根川本川筋栗橋以下ニ於テハ計畫高水位ニ垂トシ下流佐原附近ニ於テハ明治四十三年ノ大洪水位ニ比シ尙約一米ノ高位ヲ示シ派川江戸川筋ハ關宿ニ於テ○位以上四米七二トナレリ而シテ其每秒最大高水流量ハ栗橋ニ於テ四千七百九十立方米、目吹ニ於テ三千三百六十立方米ニ達シ濁流ハ滔々トシテ堤外ニ漲リ矢ノ如キ水勢ハ兩岸ニ激衝シ之ガ爲メ護岸ノ破損崩壞、水制ノ沈下流失等頻出シ其危險言フベカラズ加フルニ同月下旬再ビ出水アリシタメ一層其被害ヲ擴大セリ之ヲ各川別ニ舉ゲレバ利根川本川筋第三期部内ハ上流芝根村以下下流稻戸井村ニ至ル十四箇町村地先ニ於テ三十箇所、延長五千五十米、其下流第二期部内ハ布佐、布川ノ狹窄部以下佐原町ニ至ル

間ニ於テ六町村地先十一箇所延長一千六百二十米、派川江戸川ハ五霞村以下下流行徳迄ノ間ニ於テ十六町村地先三十九箇所延長四千三百八十米ニ達シ、渡良瀬川ハ上流部岩井以下及思川上流間中地先竝ニ赤麻周圍堤等ニ於テ二十二箇所延長三千二百八十米竝ニ築堤二箇所ナリトス是等被害箇所ハ直ニ修補スルニ非ラザレバ惹テ堤防ノ崩壞ヲ招キ其慘害ノ程度揣リ知ルベカラザルヲ以テ第五十一議會ノ協賛ヲ經テ前年度ヨリ施行スルコト、ナレリ左ニ本年度各川期別ニ施行ノ狀況ヲ略述スベシ

## 施工狀況

本工事ハ極メテ急施ヲ要スルヲ以テ何レモ可及的速成ニ努メ被害ノ最モ甚ダシキ箇所ハ前年度迄ニ概ネ其復舊ヲ了リ其餘ハ本年度ニ於テ全部竣成セシメタリ即チ二期部内ニ在リテハ木下、安食、滑河、佐原、各町村地先護岸工事ヲ前年度ニ續工シ延長三百八十米ヲ施工シ水制ハ布川、布佐、安食、各町地先ニ於テ延長四百三十米ヲ施工シ工費合計三萬六千二百七圓ヲ支出シ夏季出水期前迄ニ全部竣功セシメタリ第三期部内ニ於テハ芝根、木間ヶ瀬、五霞、北河原、大川各村地先ニ於テ護岸延長一千七百七十米ヲ施工シ内芝根、大川兩地先ハ急流部ニ屬シ沈床又ハ木工沈床ノ如キハ完全ノ根固トナラザルヲ以テ前者ハ鐵筋材方格柁ニ改メ後者ハ短キ鐵筋合掌柁ヲ數箇所ニ設置シテ床固ト爲セリ又稻戸井、五霞及川邊ノ各村地先ハ水制ノ沈下破損等相當多キヲ以テ一面迅速ヲ要スルト共ニ地方耐久力等ニ鑑ミ舊水制ノ上層又ハ上置ニ換フルニ抗打上置又ハ鐵筋材抗打上置ヲ以テシ延長八百八十五米ヲ施工シ工費合計八萬二千四百四十四圓支出シ豫定通り竣功セリ

江戸川部内ハ前年度ニ於テ急施ヲ要スル箇所ハ殆ンド施工ヲ了リ漸ク危險ノ程度ヲ減少スルコトヲ得

タリ

本年度ニ於テハ關宿、豊岡、寶珠花、富多、南櫻井、三輪、野江、馬橋、八木郷、市川各町村地先護岸九箇所延長一千九百五十米ヲ施工シ梅郷、三輪、野江、新川、八木郷、松戸、金町、市川、行徳各町村地先ニ於テ水制十二箇所ヲ施工シ工費合計九萬七千四百九十六圓ヲ支出シ十二月下旬ヲ以テ全部竣功セシメタリ

渡良瀬川上流部ニ於テハ左岸毛野村、岩井、常見、鴈木各地先竝ニ右岸梁田村、福富久野村上野田、西谷田村、西岡大島各地先護岸及水制工ヲ前年度ニ續工セシ外左岸吾妻村、高橋地先護岸修補ヲ施工セリ之等地先ハ何レモ激流ノ爲メ基礎沈床破損或ハ流失セルヲ以テ鐵筋混凝土工中聖牛杵ヲ設置又ハ鐵線蛇籠ヲ配置シ延長一千三百三十三米ヲ竣成セシメ工費三萬五千四圓ヲ支出シ年度内全部竣功セシメタリ

渡良瀬川下流部維持區域ニ於テハ海老瀬村地先舊川締切部三箇所及部屋村石川地先ニ於ケル堤塘被害箇所ハ前年度ニ於テ全部竣成セルヲ以テ本年度ハ赤麻、釜場ノ溪間締切堤ニ於ケル護岸竝ニ藤岡新川低水路下流部護岸ヲ前年度ニ續工シ前者ハ法面ヲ修補シ石張ヲ施工シ後者ハ川床深掘部ニ包柴工ヲ沈設シ兩岸蛇籠工ノ破損箇所ニハ粗朶沈床及鐵線蛇籠工ヲ施行セリ

斯クテ年度内護岸水制延長一千八十一米ヲ施工シ工費二萬七千七十二圓ヲ支出シ全部竣成セリ

上記各水害復舊工費ハ江戸川筋ハ利根川改修工復舊費、利根川第二期、同第三期竝渡良瀬川下流部ハ利根、渡良瀬兩川維持工復舊費、渡良瀬川上流部ハ渡良瀬川改修工復舊費ヨリ各支出スルモノトス而シテ本年度總竣功額ハ三十萬九千五百八十二圓ニシテ前年度トノ累計ハ五十八萬八千七百四圓トナレリ左ニ工事竣切表ヲ掲グ

本表ヲ更ニ各部ニ區分スレバ次ノ如シ

利根川第二期復舊

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工(築堤)	四、五五五 立方米	二、五九八 円	七、八六〇 米	二七八、九二二 円	四、五五五 立方米	二、五九八 円	一〇〇 割分
事費(護岸水制)	六、九五六 米	二五二、八八〇		九〇〇	一四、八一六 米	五三一、八〇二	一〇〇
船舶及機械費		一、六九九		三五三		二、五九九	
測量費		二一、二二四		二八、〇〇六		四九、一三〇	
雜費		八二一		一、四〇一		二、二二二	
共濟組合給與金				三〇九、五八二		五八八、七〇四	一〇〇
總計		二七九、一二二		三〇九、五八二		五八八、七〇四	一〇〇

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工(築堤)	三、八〇 米	三六、三四三 円	三、八〇 米	三六、二〇七 円	七、六〇 米	七二、五五〇 円	一〇〇 割分
事費(護岸水制)		三、三七一		三、五一四		六、八八五	
雜費		一六六		二二二		三八八	
共濟組合給與金							
總計		三九、八八〇		三九、九四三		七九、八二三	一〇〇

利根川第三期復舊

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費	二、八〇五	八二、一九三	二、六五五	八二、四四四	五、四六〇	一六四、六三七	一〇〇
測量費				三五三		三五三	
雜費		七、四二四		六、八〇一		一四、二二五	
共濟組合給與金		二八七		三七三		六六〇	
總計		八九、九〇四		八九、九七一		一七九、八七五	一〇〇

渡良瀬川下流部復舊

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費	四、五五五	二、五九八	一、〇八一	二七、〇七二	四、五五五	二、五九八	一〇〇
築堤	八四五	二四、五二三			一、九二六	五一、五九五	一〇〇
護岸水制							
船舶機械費		四〇〇				四〇〇	
雜費		二、三二二		二、六七六		四、九九八	
共濟組合給與金		七〇		一四二		二一二	
總計		二八、五二〇		二九、八九〇		五八、四一〇	一〇〇

總計		二九、九一三		二九、八九〇		五九、八〇三	一〇〇
----	--	--------	--	--------	--	--------	-----

利根川改修工(江戸川)復舊

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費(護岸水制)	二、〇〇一	八二、〇九四	二、四一一	九七、四九六	四、四一二	一七九、五九〇	一〇〇
船舶及機械費		九〇〇		九〇〇		一、八〇〇	
雜費		六、二七二		一〇、九一三		一七、一八五	
共濟組合給與金		二二五		五二一		七四六	
總計		八九、四九一		一〇九、八三〇		一九九、三二一	一〇〇

渡良瀬川改修工復舊

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費(護岸水制)	九二五	二七、七二七	一、三三三	三五、七〇三	二、二五八	六三、四三〇	一〇〇
船舶及機械費		三九九				三九九	
雜費		一、七三五		四、一〇二		五、八三七	

種別	前年度竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
共濟組合給與金	—	七三 <sup>四</sup>	—	一四三 <sup>四</sup>	—	二一六 <sup>四</sup>	— <sup>四</sup>
總計	—	二九、九三四	—	三九、九四八	—	六九、八八二	一〇〇

大正十五年  
昭和元年  
年度

直轄工事年報 (終)

昭和三年二月十八日印刷

昭和三年二月二十日發行

內務省 土木局

印刷者 島 連 太 郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 三 秀 舍

東京市神田區美土代町二丁目一番地

(電話神田) 二八五九・二八六九・三五三〇番